岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第162集

# 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

## 第　2　分　冊

## （西濃圏域）

2023
岐阜県文化財保護センター

# 岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書

## 第 2 分 冊

## （西濃圏域）

2023

岐阜県文化財保護センター

# 第 2 分 冊 目 次

第３章　西濃圏域の寺院
第１節　西濃圏域の概要……1
第２節　寺院一覧表……3
第３節　寺院地形観察図、遺構図、地籍図……43
　　参考文献
第４節　寺院分布図……167
第５節　西濃圏域のまとめ……222

# 挿図目次


図 1　西濃圏域市町区域図 …… 1
図 2　円興寺旧境内（元円興寺跡）
　地形観察図（1）…… 45
図 3　円興寺旧境内（元円興寺跡）
　地形観察図（2）…… 46
図 4　円興寺旧境内（元円興寺跡）
　地形観察図（3）…… 47
図 5　善性寺旧境内　地形観察図…… 49
図 6　瑞厳山天喜寺　地形観察図…… 51
図 7　観音寺旧境内　地形観察図…… 53
図 8　金生山明星輪寺寶光院　地形観察図…… 55
図 9　祖光寺（祖光寺跡遺跡）　地形観察図…… 57
図 10　美濃国分寺跡　遺構図 …… 59
図 11　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図（1）61
図 12　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図（2）62
図 13　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図（3）63
図 14　大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡）
　地形観察図…… 65
図 15　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）
　地形観察図（1）…… 67
図 16　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）
　地形観察図（2）…… 68
図 17　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）
　地形観察図（3）…… 69
図 18　光明寺（薬師山遺跡）　地形観察図…… 71
図 19　一乗山菩提寺　地形観察図…… 73
図 20　観音寺　地形観察図…… 75
図 21　威徳寺旧境内（石越遺跡）　地形観察図 · 77
図 22　薬師堂跡・薬師堂遺跡　地形観察図…… 79
図 23　観音堂跡・千手堂跡　地形観察図…… 82
図 24　南宮山全体　地形観察図位置図 …… 83
図 25　南宮山頂経塚群　地形観察図…… 85
図 26　南宮大社（南宮神社神宮跡）　地形観察図87
図 27　栗原九十九坊跡　地形観察図（1）…… 89
図 28　栗原九十九坊跡　地形観察図（2）……90
図 29　栗原九十九坊跡　地形観察図（3）……91
図 30　菩提山・南宮山　地形観察図位置図……92
図 31　多芸七坊跡　地形観察図位置図……93
図 32　伊富岐神社奥の院　地形観察図……95
図 33　石仏谷遺跡　地形観察図……97
図 34　宮処寺跡　遺構図……99
図 35　美濃国分尼寺跡　遺跡位置図……101
図 36　美濃国分尼寺跡　遺構図……101
図 37　宮代廃寺跡　遺跡位置図……103
図 38　宮代廃寺跡　塔跡遺構図……103
図 39　鏡智山玉養院瑠璃光寺　地形観察図……105
図 40　密蔵院　地形観察図……107
図 41　長英山宝蔵院照光寺（照光寺跡）
　地形観察図……109
図 42　照宝山蓮浄院祖宝寺　地形観察図……111
図 43　野上廃寺跡　地形観察図……113
図 44　堂前遺跡　地形観察図……115
図 45　本地堂跡・日吉神社八坊跡　地籍図……117
図 46　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）
　地形観察図（1）……119
図 47　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）
　地形観察図（2）……120
図 48　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）
　地形観察図（3）……121
図 49　谷汲山華厳寺　地形観察図（1）……123
図 50　谷汲山華厳寺　地形観察図（2）……124
図 51　谷汲山華厳寺　地形観察図（3）……125
図 52　等光寺旧境内　地形観察図……127
図 53　医王山東光寺　地形観察図……129
図 54　渓徳山洞泉寺・洞泉寺旧境内
　地形観察図……131
図 55　施無畏山観音寺・観音寺旧境内
　地形観察図……133

図 56　補陀山釣月院　地形観察図 …… 135
図 57　（仮）木曽屋廃寺　地形観察図 …… 137
図 58　寺屋敷遺跡　遺跡位置図 …… 139
図 59　寺屋敷遺跡　発掘区全体図 …… 139
図 60　寺平遺跡　遺跡位置図 …… 141
図 61　寺平遺跡　発掘区全体図 …… 141
図 62　上原遺跡　遺跡位置図 …… 143
図 63　上原遺跡　遺構図 …… 143
図 64　宝雲山来振寺（来振寺境内遺跡）
　地形観察図 …… 145
図 65　妙満山東明寺　地形観察図 …… 147
図 66　領家実相院跡・三千仏遺跡　地籍図 …… 149
図 67　善能寺旧境内（寺内遺跡）　地籍図 …… 151
図 68　善南寺旧境内　地形観察図 …… 153
図 69　弓削寺・弓削寺旧境内　地形観察図（1）
　平安寺位置図 …… 155
図 70　弓削寺・弓削寺旧境内　地形観察図（2）156
図 71　弓削寺・弓削寺旧境内　地形観察図（3）157
図 72　洞海山平安寺　地形観察図 …… 159
図 73　高畑遺跡　遺構図 …… 161
図 74　分布図（I1　古木） …… 168・169
図 75　分布図（I2　冠山） …… 170・171
図 76　分布図（I3　能郷白山） …… 172・173
図 77　分布図（J1　広野） …… 174・175
図 78　分布図（J2　美濃徳山） …… 176・177
図 79　分布図（J3　能郷） …… 178・179
図 80　分布図（K1　美濃川上） …… 180・181
図 81　分布図（K2　美濃広瀬） …… 182・183
図 82　分布図（K3　樽見） …… 184・185
図 83　分布図（L1　近江川合） …… 186・187
図 84　分布図（L2　横山） …… 188・189
図 85　分布図（L3　谷汲） …… 190・191
図 86　分布図（L4　美濃神海） …… 192・193
図 87　分布図（M2　美束） …… 194・195
図 88　分布図（M3　池野） …… 196・197
図 89　分布図（M4　北方） …… 198・199
図 90　分布図（N2　関ケ原） …… 200・201
図 91　分布図（N3　大垣） …… 202・203
図 92　分布図（N4　岐阜西部） …… 204・205
図 93　分布図（O2　霊仙山） …… 206・207
図 94　分布図（O3　養老） …… 208・209
図 95　分布図（O4　竹鼻） …… 210・211
図 96　分布図（P2　篠立） …… 212・213
図 97　分布図（P3　駒野） …… 214・215
図 98　分布図（P4　津島） …… 216・217
図 99　分布図（Q3　阿下喜） …… 218・219
図 100　分布図（Q4　弥富） …… 220・221
図 101　西濃圏域地形断面図（1） …… 231
図 102　西濃圏域地形断面図（2） …… 232
図 103　西濃圏域古代寺院分布図（1） …… 233
図 104　西濃圏域古代寺院分布図（2） …… 234
図 105　西濃圏域中世寺院分布図 …… 235
図 106　西濃圏域地形観察図模式図（1） …… 236
図 107　西濃圏域地形観察図模式図（2） …… 237
図 108　栗原九十九坊跡　遺物採集状況 …… 238

# 表目次

表 1　大垣市寺院一覧表（1） …… 5
表 2　大垣市寺院一覧表（2） …… 6
表 3　大垣市寺院一覧表（3） …… 7
表 4　大垣市寺院一覧表（4） …… 8
表 5　大垣市寺院一覧表（5） …… 9
表 6　大垣市寺院一覧表（6） …… 10
表 7　大垣市寺院一覧表（7） …… 11
表 8　大垣市寺院一覧表（8） …… 12
表 9　大垣市寺院一覧表（9） …… 13
表 10　大垣市参考寺院一覧表（1） …… 13

表 11　大垣市参考寺院一覧表（2）…… 14
表 12　大垣市参考寺院一覧表（3）…… 15
表 13　大垣市参考寺院一覧表（4）…… 16
表 14　海津市寺院一覧表（1）…… 16
表 15　海津市寺院一覧表（2）…… 17
表 16　海津市寺院一覧表（3）…… 18
表 17　海津市寺院一覧表（4）…… 19
表 18　海津市参考寺院一覧表（1）…… 19
表 19　海津市参考寺院一覧表（2）…… 20
表 20　海津市参考寺院一覧表（3）…… 21
表 21　養老町寺院一覧表（1）…… 21
表 22　養老町寺院一覧表（2）…… 22
表 23　養老町寺院一覧表（3）…… 23
表 24　養老町参考寺院一覧表（1）…… 24
表 25　垂井町寺院一覧表（1）…… 24
表 26　垂井町寺院一覧表（2）…… 25
表 27　垂井町寺院一覧表（3）…… 26
表 28　垂井町参考寺院一覧表（1）…… 26
表 29　垂井町参考寺院一覧表（2）…… 27
表 30　関ケ原町寺院一覧表（1）…… 27
表 31　関ケ原町寺院一覧表（2）…… 28
表 32　関ケ原町参考寺院一覧表…… 28
表 33　神戸町寺院一覧表（1）…… 28
表 34　神戸町寺院一覧表（2）…… 29
表 35　神戸町参考寺院一覧表…… 29
表 36　輪之内町寺院一覧表……30
表 37　輪之内町参考寺院一覧表（1）……30
表 38　輪之内町参考寺院一覧表（2）……31
表 39　安八町寺院一覧表（1）……31
表 40　安八町寺院一覧表（2）……32
表 41　安八町参考寺院一覧表……32
表 42　揖斐川町寺院一覧表（1）……32
表 43　揖斐川町寺院一覧表（2）……33
表 44　揖斐川町寺院一覧表（3）……34
表 45　揖斐川町寺院一覧表（4）……35
表 46　揖斐川町寺院一覧表（5）……36
表 47　揖斐川町参考寺院一覧表（1）……36
表 48　揖斐川町参考寺院一覧表（2）……37
表 49　大野町寺院一覧表（1）……37
表 50　大野町寺院一覧表（2）……38
表 51　大野町寺院一覧表（3）……39
表 52　大野町参考寺院一覧表（1）……39
表 53　大野町参考寺院一覧表（2）……40
表 54　池田町寺院一覧表（1）……41
表 55　池田町寺院一覧表（2）……42
表 56　池田町参考寺院一覧表……42
表 57　寺院の成立状況……230
表 58　時期別の成立数等……230
表 59　時期別の立地数……231

# 第３章　西濃圏域の寺院

## 第１節　西濃圏域の概要

西濃圏域は岐阜県の南西部、美濃地方の西部に位置し、愛知県・三重県・滋賀県・福井県に接する。構成する市町は、大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ケ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町の２市９町であり、その面積は 1,433.37k ㎡で、これは岐阜県全体の 13.5%を占める。

西濃圏域には、福井県境の美濃越前山地、滋賀県境の伊吹山地、三重県境の養老山地及び鈴鹿山地があり、福井県境付近が源となる揖斐川は西濃圏域を南流し、伊勢湾に注ぐ。濃越前山地から伊吹山地北部は標高約 1,200mから 1,400mの山地で、能郷白山(標高 1,617m)や伊吹山(標高 1,377m)など、白山信仰に関連の深い山々が連なる。一方、養老山地・鈴鹿山地は標高約 800～600mの山地であり、濃尾平野に面した山麓には複数の扇状地が形成され、多芸七坊など中世を中心に栄えた寺院群が展開している。また、古代以降には東山道や鎌倉街道、中山道などが東西を通過し、特に古代には美濃国府や美濃国分寺・国分尼寺、美濃国一宮である南宮神社などが設置され、美濃国の政治の中心地であった。

今回の調査では、西濃圏域において 1,012 ヶ寺の寺院を調査対象とし、そのうち 602 ヶ寺の古代・中世寺院を確認した。

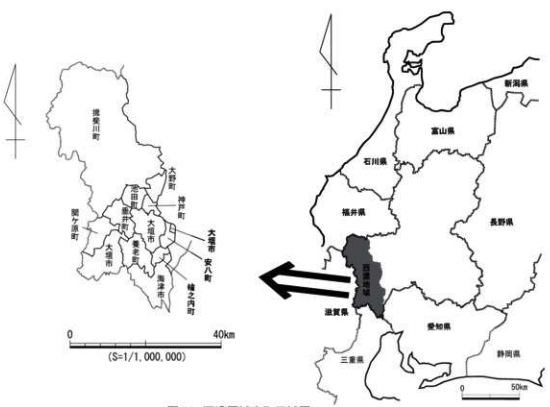



図１　西濃圏域市町区域図

# 第 2 節　寺 院 一 覧 表

表1　大垣市寺院一覧表（1）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 02003 | | 医王山<br>円願寺 | 青墓町<br>(不破郡) | 宝暦2年 | 天台宗 | 嘉禄元(1225)年、円興寺の貞存法印が隠居寺として成立した。円興寺36坊の一坊である。宝暦2(1752)年に字西中道から現在地に移転。円興寺36坊の一坊である。昭和になり焼失し、現在は西町集会所となっている。 | G・H | | |
| 2 | 02003b | | 円願寺旧境内 | 青墓町<br>字西中道<br>(不破郡) | 嘉禄元年 | | | | | N3 |
| 3 | 02004 | | 仏道山<br>寶光院<br>成願寺 | 野口<br>(多芸郡) | 伝延暦年間<br>若しくは<br>弘仁6年 | 天台宗 | **延暦年間(782～806)又は弘仁6(815)年、伝教大師が成立。中世には成菩提院末寺となったが、延享2(1745)年に全海が再興し再び延暦寺末寺となった。** | G、H、I | | N3 |
| 4 | 02005 | | 篠尾山円興寺 | 青墓町<br>(不破郡) | 江戸初期 | 天台宗 | 本文参照 | | | N3 |
| 5 | 02005b | | 円興寺旧境内<br>(元円興寺跡) | 青墓町<br>(不破郡) | 伝延暦9年 | | | 本文参照 | 44 | N3 |
| 6 | 02007 | | 虎渓山<br>龍洞寺 | 上石津町<br>下山湯谷<br>(石津郡) | 応永32年以前 | 天台宗→<br>臨済宗<br>若しくは<br>曹洞宗→<br>真言宗 | **成立時期不明。元は天台宗であったが、応永32(1425)年に禅宗に転宗し再興。七堂伽藍があったとされるが、元亀2(1571)年の信長の兵火にかかり荒廃。文化13(1816)年に再建し、昭和に至りて真言宗に転宗。** | G、H、石仏 | | 02 |
| 7 | 02009 | | 金銀山<br>國分寺 | 青野町<br>(不破郡) | 元和元年 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 58 | N3 |
| 8 | 02009b | 国 | 國分寺旧境内<br>(美濃国分寺跡)<br>(国分寺遺跡) | 青野町<br>(不破郡) | 天平13年～<br>宝亀6年 | | | | 58 | N3 |
| 9 | 02010 | | 白光山<br>文殊寺 | 錦町<br>(安八郡) | 大正12年 | 真言宗 | **成立時期不明。(秀賢が滋賀県膳所寺、弥勒院を成立した。)元和3(1617)年に戸田氏鉄に従い尼ヶ崎に行き、寛永12(1635)年には大垣に移った。17世紀後半頃には文殊院を成立し、明治3(1870)年に文殊寺と改称した。大正12(1923)年に隣接地に、現在の場所に寺地を移す。** | G | | |
| 10 | 02014 | | 希霊山<br>正覚院 | 上石津町<br>宮羽ヶ原<br>(石津郡) | 元禄3年 | 真言宗 | **弘仁6(815)年、空海が郁李山に建立したと伝わる。康和3(1101)年に外谷に、さらに文治4(1188)年に奥に移った。元禄3(1690)年に西高木家より羽ヶ原の隠丈寺境内に移され共存、明治初(1868)年に合併し「正覚院」を称した。津島神社は往昔奥村にあった真言宗の正覚院の鎮守であったという。津島神社南の山麓に平坦面を確認したが、正覚院の旧跡と関係があるか不明。** | G、石仏 | | |
| 11 | 02015 | | 金栄山<br>慈應寺 | 長松町<br>(不破郡) | 伝平安時代 | 真言宗 | 寺伝によると、慈覚大師により成立。天正年間(1573～92)の兵火により焼失した。元禄9(1696)年に大垣寒松寺堯雅法印が中興し、遮那院末寺となる。天正12(1584)年に、大垣遮那院住僧が成立したという説もある。 | G、H、石仏 | | N3 |
| 12 | 02018 | | 旭光山<br>遍照院<br>圓通寺 | 西外側町<br>(安八郡) | 寛永12年 | 浄土宗 | 戸田家の菩提寺。慶長6(1601)年又は慶長3(1598)年江州で成立し、元和3(1617)年に尼崎移転。寛永12(1635)年に大垣に移転し圓通寺と称した。 | G、H、I、<br>石仏 | | |
| 13 | 02019 | | 宝池山<br>清涼院<br>松壽寺 | 中川町<br>(安八郡) | 昭和期 | 天台宗→<br>浄土宗 | 成立時期不明であるが、安八郡高橋村にあり天台宗に属し蓮生寺と称した。その後遮那院とともに大垣町の北東に移転しさらに昭和に現在地に移転。江戸期に転宗。 | H、石仏 | | |
| 14 | 02021 | | 花岡山<br>阿弥陀院<br>如来寺 | 昼飯町<br>(不破郡) | 寛永15年 | 天台宗→<br>浄土宗 | 建久6(1195)年に尾張甚目寺の僧定尊が成立。中世と思われる絵図に三重塔が描かれている。天正年間(1573～93)の織田信長の兵火により焼失。元は天台宗であっが寛永15(1638)年に浄土宗に転宗し、現在地に移転。 | | | |
| 15 | 02026 | | 一道山<br>修善寺 | 赤坂町<br>(不破郡) | 伝文明15年 | 浄土宗 | 文明15(1483)年に僧十蓮社方誉南隣の成立の説もあるが、成立時期は不明確。寛文12(1672)浄土宗に転宗。 | G、H、石仏 | | N3 |
| 16 | 02030 | | 稱念山<br>大運寺 | 新町<br>(安八郡) | 寛永18年<br>若しくは<br>寛永19年 | 伝真言宗→<br>浄土宗 | **寛永18(1641)年又は同19(1642)年に建立、開基は青木庭岸上人。聴取で、成立時は真言宗に属し道故山理清寺と称す。萬治元年(1658)年に大運寺に改称。浄土宗への転宗時期は不明。** | G、H、I | | |
| 17 | 02037 | | 白雲山<br>東光寺 | 赤坂町<br>(不破郡) | 嘉禎年間 | 浄土宗 | 嘉禎年間(1235～1238)に、浄土宗西山派西山弥天鑑智国師善慧上人が、11宇の伽藍を建立したうちの一つ。天文年間(1532～1555)に堂を再興した。 | G、H | | N3 |
| 18 | 02038 | | 紫雲山<br>安楽寺 | 赤坂町<br>(不破郡) | 慶安2年 | 法相宗→<br>浄土宗 | 聖徳太子が開基したという伝承が残る。文治元(1185)年、山の東北に堂宇を移転して浄土宗に転宗し、京都知恩院の末寺となった。慶安2(1649)年に現在地に移転した。 | G、H、I | | |
| 19 | 02038b | | 安楽寺旧境内 | 赤坂町<br>(不破郡) | 文治元年 | | | | | N3 |
| 20 | 02039 | | 星昌寺 | 見取町<br>(安八郡) | 貞享4年 | ？→<br>浄土宗 | 天延年間(973～976)に源信が室村字神宮寺に七堂伽藍を創立。貞享4(1687)年室村から現在地に移転。濃尾大震災で建物が倒壊し明治33(1900)年に現在の仮堂を再建した。 | | | |
| 21 | 02043 | | 清光山<br>密厳院<br>明台寺 | 墨俣町<br>墨俣寺町<br>(安八郡) | 16世紀後半 | 浄土宗 | **伝承では、12世紀前半に興教大師が上宿に成立した。明応年間(1492～1501)に本堂を再建。16世紀後半頃に浄土宗西山派に転宗し墨俣寺町に移転。** | G、H、I、<br>石仏 | | |
| 22 | 02044 | | 晴明山<br>正光寺 | 上石津町<br>下山山上<br>(石津郡) | 嘉永6年 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明。元は天台宗に属し多良村大字奥にあり正光坊と称す。延享年間(1744～48)に真宗に転宗、開994道場。嘉永6(1853)年に現在地に移転し晴明山正光寺と称す。** | | | |
| 23 | 02045 | | 鏡舎那山<br>圓光寺 | 上石津町<br>打上<br>(石津郡) | 天正4年以前 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明。元は天台宗に属し明西寺と称した。天正4(1576)年に真宗に転宗、圓光寺の寺号を得た(江戸中期改称の説もある)。** | | | P2 |

## 表２　大垣市寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24 | 02046 | | 舟岡山<br>専想寺 | 上石津町打上<br>(石津郡) | 明治時代 | 真宗 | **明治中頃に了覚寺の木下法城が、真宗本願寺派に帰依し転派。京都府下より専想寺を移転、引地した。** | | | |
| 25 | 02048 | | 法雲山<br>縁覚寺 | 安井町<br>(安八郡) | 不明 | 真言宗→<br>真宗 | **文安２(1445)年、楠正隆長男栄蓮が大垣本町に成立。天正14(1586)年に真宗に転宗。慶長14(1609)年建立説あり。元和5(1619)年に縁覚寺の寺号を得。現在地への移転時期不明。** | | | |
| 26 | 02049 | | 法雲山<br>教覚寺 | 青野町<br>(不破郡) | 慶長５年以降 | ？→<br>真言宗→<br>真宗 | 天平13(741)年、行基成立。教覚院と号され美濃国分寺の末寺として建立された後、真言宗に転宗。親鸞が当寺に泊し、真宗に転宗。大永の戦や関ケ原合戦で焼失したが再興。 | G、H | | |
| 27 | 02050 | | 国府山<br>延長寺 | 青墓町<br>(不破郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 延長元(923)年に順智坊が成立。元は天台宗であったが、明徳２・元中８(1391)年に真宗に転宗。垂井町府中から現在地に移転と伝わるが、その時期・位置不明。 | G・H | | |
| 28 | 02051 | | 三塚山<br>三重院<br>真徳寺 | 三塚町<br>(安八郡) | 文永11年 | 天台宗→<br>真宗 | **文永11(1274)年に有存により成立。天台宗に属し三重寺と号した。天文2(1533)年、真宗に転宗し真徳寺に改めた。** | G・H | | N4 |
| 29 | 02052 | | 法流山<br>浄圓寺 | 新町<br>(安八郡) | 萬治２年 | 真宗 | **天文９(1540)年に流意が不破郡長松に一棟の堂を創立した。焼失・廃絶後、萬治２(1659)年に現在地に再興。** | | | |
| 30 | 02053 | | 熊谷山<br>光照院<br>林雙寺 | 楽田町<br>(安八郡) | 明応元年以前 | 真言宗→<br>真宗 | 成立時期不明。もとは真言宗の光照院と称した。明応元(1492)年又は明応６(1497)年に真宗に転宗。慶長年間(1596～1615)に真宗大谷派に転じ、墨俣満福寺に属し享保６(1721)年に西本願寺派に転派。 | G、石仏 | | N4 |
| 31 | 02054 | | 福源寺 | 南一色町<br>(安八郡) | 文明３年<br>若しくは<br>文明９年 | 天台宗→<br>真宗 | 文明３(1471)年又は文明９(1477)年に西光が創立。応仁の頃転宗。宝永４(1707)に福源寺の寺号を得る。 | | | N3 |
| 32 | 02055 | | 慈雲山<br>専光寺 | 木戸町<br>(安八郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 永観年間(983～985)に、恵信僧都の門弟宣読法印が開創に係った。元は天台宗であったが、文明年間(1469～1487)に真宗に転宗した。聴き取りでは、もとは本巣にあり水没したため現在地に移転したという(移転時期不明)。 | | | |
| 33 | 02056 | | 世安山<br>浄勝寺 | 東町<br>(安八郡) | 慶長年間 | 天台宗→<br>真宗 | もとは天台宗。長享３(1489)年に浄円が蓮如上人に帰依し、安八郡開発村の出郷北嶋に道場を成立。慶長年間(1596～1615)現在地に移転。鎌倉時代中期頃から世安荘と称し寛永年間(1624～1644)に浄勝寺の寺号を得る。 | | | N4 |
| 34 | 02057 | | 通念寺 | 本今町<br>(安八郡) | 明応元年<br>若しくは<br>永正６年 | 真宗 | **明応元(1492)年了信が蓮如上人に帰依して成立。永正６(1509)年に了西が成立したとする説もある。** | G、H | | N3 |
| 35 | 02058 | | 七寶山<br>圓性寺 | 桧町<br>(安八郡) | 伝大永15年以前 | 伝天台宗→<br>真宗 | 永正15(1518)に寿元が成立。ただし、寺伝によればもとは天台宗で、永正15(1518)年に真宗に転宗したとされる。なお、大永年間(1521～1528)に稲植大炊守が境内を寄付した。 | | | N3 |
| 36 | 02059 | | 興隆山<br>安臨寺 | 横曽根町<br>(多芸郡) | 近代 | 真宗 | **大永３(1523)年に道西により成立。元和４(1618)年に真宗東本願寺に転派し、今尾西願寺に属したが、のち直末となる。元は養老に寺が存在したが、前々住職の頃に現在地に移転。** | | | |
| 37 | 02060 | | 青柳山<br>徳勝寺 | 青柳町<br>(不破郡) | 応永32年以前 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明。もとは天台宗であったが、応永32(1425)年に真宗に転宗。弘安3(1280)年に一宮南宮神社に大鐘を鋳造して奉献し、明治維新後に徳勝寺に納められた。** | G | | N3 |
| 38 | 02061 | | 俯仰山<br>了信寺 | 北切石町<br>(安八郡) | 大永２年<br>若しくは<br>享禄３年 | 真宗 | 大永２(1522)年又は享禄３(1530)年に沼波善徳により成立。延寶２(1674)年に了信寺の寺号を得た。 | | | N3 |
| 39 | 02062 | | 転輪山<br>浄専寺 | 宮町<br>(安八郡) | 享保12年 | 真宗 | 延徳３(1491)年又は大永年間(1521～1528)に祐雲と春意により成立。城主の命令や焼失により移転を繰り返したが、享保12(1727)年に現在地に移る。 | | | |
| 40 | 02063 | | 祐波山<br>善永寺 | 花園町<br>(安八郡) | 伝元和元年 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明であるが元は天台宗であった。元和２(1616)年(聴き取りでは元和元年)に現在地に妙円寺跡を再興。延宝5(1677)年に長福寺に、さらにその後善永寺に改称。** | | | |
| 41 | 02064 | | 金生山<br>楽栄寺 | 馬之瀬町<br>(安八郡) | 明治37年 | 天台宗→<br>真宗 | **もとは天台宗に属し、中島郡大須庄(羽島郡桑原町)に成立。大永３(1523)年に真宗に転宗。室町期に安八郡馬の瀬村に、その後白鬚神社の北東に、さらに明治37(1904)年に河川工事に伴い現在地へ移転。** | G | | |
| 42 | 02065 | | 偏照山<br>長源寺 | 静里町<br>(不破郡) | 安永６年 | 真言宗→<br>真宗 | 弘仁13(822)年弘法大師が創立し、功徳光院と称した。嘉禎元(1235)年に真宗に転宗し、長源寺と改めた。安永６(1777)年に徳光から現在地に移転。 | G、石仏 | | |
| 43 | 02066 | | 宝樹山<br>徳蔵寺 | 枝郷<br>(安八郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 聴き取りでは明応年間(1492～1501)に成立され広隆山信受院と称した。元は天台宗であったが6世の代に真宗に転宗し、徳蔵寺を授与されたという。安八郡名森村森部より三ツ森に移転し、さらに現在地に移転。移転時期は不明。 | | | |
| 44 | 02067 | | 早聖山<br>西性寺 | 荒川町<br>(不破郡) | 不明 | 真宗 | 暦応3・延元5〈興国元〉(1340)年に早野繁右衛門が創立し、寛永15(1638)に西性寺と称する。聴き取りでは、他の地から移転してきたとされる。移転時期は不明。 | | | |
| 45 | 02068 | | 法雲山<br>浄宝寺 | 南若森町<br>(不破郡) | 伝弘仁９年 | 天台宗→<br>真宗 | 弘仁９(818)年に浄順が医王山若森院を成立。その後、浄観が覚如上人に帰依して真宗に転宗。石山本願日記の天文22(1553)年1月の条に「若森教専」の記載あり。 | | | N3 |
| 46 | 02069 | | 大嶋山<br>光正寺 | 大島町<br>(安八郡) | 明徳元年<br>若しくは<br>明応９年 | 真宗 | 康応２〈明徳元〉・元中７(1390)年、又は明応９(1500)年に浄志が成立した。 | G、H | | N4 |
| 47 | 02070 | | 雙六山<br>智教寺 | 青野町<br>(不破郡) | 明治34年 | 真宗 | 文明７(1475)年、滋賀県双六村に成立、双六道場と号す。天正12(1584)年に雙六町に移転、覚玄道場。慶長４年に智敬寺、宝永２(1705)年に智教寺に改称。明治34(1901)年に現在地に移転。 | | | |

表３　大垣市寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 48 | 02071 | | 清白山<br>法泉寺 | 赤坂町<br>（不破郡） | 永禄元年若しくは永禄３年 | 真宗 | 永禄元(1558)年、小林喜兵衛長吉が開基とする説と、永禄3(1560)年岐阜城主齋藤山城守龍興の臣寂玄(小林喜兵衛)とする説とがある。慶長年間(1596～1615)に真宗に転宗。 | G、I、石仏 | | N3 |
| 49 | 02072 | | 月桂山<br>正福寺 | 赤坂町<br>（不破郡） | 明徳４年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明だが、宝祐(応永29(1422)年没)が開基。もとは天台宗に属し威徳院西光坊と称したが、明徳４(1393)年に真宗に転宗。 | G、H | | N3 |
| 50 | 02073 | | 照田山<br>福乗寺 | 長沢町<br>（安八郡） | 不明 | ？→真宗 | 室町時代後期に教善が成立し長光寺と称す。江戸時代初期に真宗に転宗し福乗寺と改称。聴取で成立期は三塚の城跡付近にあり後現在地に移転(移転時期は不明)。 | G | | |
| 51 | 02074 | | 沼波山<br>妙圓寺 | 禾森町<br>（安八郡） | 文明14年 | 真宗 | 文明14(1482)年に政因(沼波次郎太夫定親)により成立。寛永９(1632)年に寺号、元和２(1616)年に山号を得た。 | G・集石 | | N3 |
| 52 | 02075 | | 金光山<br>福勝寺 | 今宿町<br>（安八郡） | 17世紀後半 | 天台宗→真宗 | 寺伝では成立時期は安土桃山時代。元は天台宗であったが、了加が字寺田に成立し真宗に転宗した。寛文２(1662)年に福勝寺の寺号を得た。1650年頃の水害後に現在地に移転。聴き取りによると、成立当時は約200m程南東、白髭神社の東側の字寺田に存在したという。 | | | |
| 53 | 02075b | | 福勝寺旧境内 | 今宿町<br>（安八郡） | 安土桃山時代 | | | | | N4 |
| 54 | 02076 | | 一乗院<br>円頓山<br>専勝寺 | 小野<br>（安八郡） | 大永３年 | 天台宗→真宗 | 保元２(1157)年、了空が本巣郡古橋村に成立。元は天台宗であったが、康永元・興国3(1342)年に真宗に転宗。大永３(1523)年に現在地に移転。元禄期には15ヶ寺の末寺があった。 | G・H | | N4 |
| 55 | 02077 | | 扶桑山<br>浄徳寺 | 綾野<br>（不破郡） | 嘉応２年若しくは観応２年・正平６年 | 天台宗→真宗 | 嘉応２(1170)年又は観応２・正平６(1351)年に成立。開基は開成院道玄院主。もとは天台宗であったが、真宗本願寺に転宗した。転宗の時期は文永７(1270)年、永正11(1514)年、大永元(1521)年の各説がある。 | G | | N3 |
| 56 | 02078 | | 常盤山<br>藤田寺 | 浅西<br>（安八郡） | 延宝６年 | 真宗 | 天文22(1553)年に円慶により不破郡十六村に成立。延宝６(1678)年に現在地に移転。 | | | |
| 57 | 02079 | | 細川山<br>永勝寺 | 上面<br>（安八郡） | 正徳４年 | 真宗 | 文明5(1473)年に不破郡矢道村に成立。安八郡三城村（現大垣市）へ移り、正徳4(1714)年に上面村に移しまもなく寺号を許された。 | | | |
| 58 | 02080 | | 盧舎那山<br>久遠寺 | 桧町<br>（安八郡） | 文明３年 | 天台宗→真宗 | 文明３(1471)年に浄秤が成立。元は天台宗であったが、真宗に転宗した。 | | | N3 |
| 59 | 02081 | | 大悟山<br>廓然寺 | 久徳町<br>（不破郡） | 永正10年 | 真宗 | 永正10(1513)年に玄昌が成立。万治２(1659)年に廓然寺の寺号を得た。 | | | N3 |
| 60 | 02082 | | 樹寶山<br>真浄寺 | 東前<br>（安八郡） | 慶長７年 | 真宗 | 慶長7(1602)年に東高橋村来光寺の通所として創立。元和元(1615)年に真浄寺の寺号を得た。 | G | | N4 |
| 61 | 02084 | | 靈照山<br>長勝寺 | 郭町東<br>（安八郡） | 明治18年 | 天台宗→真宗 | 應永２(1395)年に寂念が成立。安八郡林村石原林村にあり天台宗に属したが、天文年間(1532～55)に真宗に転宗。その後、移転を繰り返し、明治18(1885)年に現在地に移転。 | | | |
| 62 | 02085 | | 白瀧山<br>総福寺 | 中川町<br>（安八郡） | 伝大永４以前 | 天台宗→真宗 | 大永４(1524)年に僧教順が実如上人に帰依し成立。伝教大師成立の伝承もあり元は天台宗で超勝院と号す。 | | | N3 |
| 63 | 02087 | | 紫雲山<br>浄光寺 | 川口<br>（安八郡） | 承応元年 | 真宗 | 永正元(1504)年に亮覚により不破郡福田村に成立。天正14(1586)年に大垣中町に、さらに承応元(1652)年に現在地に移転。 | G、I | | |
| 64 | 02088 | | 聖嶽山<br>浄徳寺 | 上石津町<br>上原海道<br>（石津郡） | 江戸初期 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。天台宗に属し上原猿ヶ井戸にあり清浄福徳寺と称した。式内社多良大神神社の神宮寺でもあることから、平安末期には観音堂があったと考えられている。蓮如の代に真宗に転宗。慶長年間(1596～1615)に領主高木氏の菩提寺として寺号を得た。聴き取りでは、当初は上石津町役場（グランド）付近にあり、役場のあたりから石仏が掘り出されていたという。江戸初期に現在地へ移転したという。 | G、石仏 | | |
| 65 | 02088b | | 浄徳寺旧境内 | 上石津町<br>上原海道<br>（石津郡） | 伝平安時代末期 | | | | | 02 |
| 66 | 02089 | | 光探山<br>徳立寺 | 青柳町<br>（不破郡） | 16世紀後半 | 真宗 | 成立時期不明。修縁が顕如上人に帰依して成立し、尾州光明寺に属した。 | | | N3 |
| 67 | 02090 | | 演嚴山<br>等覚寺 | 墨俣町<br>墨俣寺町<br>（安八郡） | 文明９年以前 | 真宗 | 成立時期不明であるが開基は浄玄。文明９(1477)年に再興。 | G | | N4 |
| 68 | 02091 | | 松島山<br>伝香寺 | 上石津町<br>上鍛冶屋<br>西屋敷<br>（石津郡） | 文禄２年 | 真言宗→真宗 | 成立時期は不明であるが真言宗に属した。文禄２(1593)年、開基宗哲が真宗に帰依し道場を開く。明暦２(1656)に伝香寺の寺号を得た。 | | | 02 |
| 69 | 02093 | | 寶樹山<br>大泉寺 | 久瀬川町<br>（安八郡） | 宝永16年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。もと天台宗で真宗に転宗。明応２(1493)年又は永正８(1511)年成立。元和年間(1615～24)建立。宝永16(1731)年頃現在地に移転説あり。 | G | | |
| 70 | 02094 | | 観応山<br>光泉寺 | 入方<br>（安八郡） | 宝暦元年 | 天台宗→真宗 | 寺伝では平安時代に成立。元は天台宗であったが、徳治２(1307)年に真宗に転宗。大藪(輪之内町)、中曽根と移り、宝暦元(1751)年に現在地に移転。 | | | |
| 71 | 02095 | | 龍谷山<br>善念寺 | 竹島町<br>（安八郡） | 天和２年 | 真言宗→真宗 | 弘仁年間(810～824)に柔連が江州にて成立。元は真言宗であったが文明4(1472)年真宗に転宗し、大垣に移転。室町末に竹島町、天和２(1682)年に現在地に。 | G | | |
| 72 | 02096 | | 花松山<br>正受寺 | 外花<br>（安八郡） | 伝文明年間 | 真宗 | 聴き取りでは、文明年間(1469～87)頃に成立され、移転していないという。 | G | | 03 |
| 73 | 02097 | | 種徳山<br>琳光寺 | 上石津町<br>牧田上野<br>（石津郡） | 不明 | 真言宗若しくは天台宗→真宗 | 応仁元(1467)年に成立。真言宗に属し大日寺と称す(天台宗とする説もある)。大永６(1526)年に真宗に転宗、惣道場。移転繰り返し移転時期不明。 | G、H、I、石仏 | | |
| 74 | 02099 | | 七峰山<br>正円寺 | 静里町<br>（不破郡） | 文治５年 | 天台宗→真宗 | 文治５(1189)年釈儀増栄が成立し、天台宗に属し七峯山宗暁寺と称した。応仁年間(1467～69)に真宗に転宗し、尾州大野光明寺に属する。 | G、I、経塚 | | N3 |
| 75 | 02100 | | 天照山<br>行超寺 | 浅草<br>（安八郡） | 慶長年間 | 真宗 | 慶長年間(1596～1615)に了誓により成立し、寛文2(1662)年に行超寺の寺号を得た。 | | | 03 |

**表４　大垣市寺院一覧表（４）**

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 02101 | | 舟岡山 了覚寺 | 上石津町 打上 (石津郡) | 文明年間以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。開基は了然と伝わる。元は天台宗であるが、文明年間(1469～1487)に真宗に転宗。 | | | P2 |
| 77 | 02102 | | 肥遊山 広栄寺 | 上石津町 時山 東屋敷 (石津郡) | 永正８年若しくは延徳元年 | 天台宗？→真宗 | 永正８(1511)年に開基大乗坊一寿が惣道場を建立、延宝９(1681)年に広栄寺の寺号を得た。ただし、延徳元(1489)年に天台宗寺院を成立、寛文年間(1661～73)に転宗、弘化２(1845)年に広栄寺と称したとする説がある。 | | | P2 |
| 78 | 02103 | | 日光山 遍得寺 | 上石津町 西山屋敷 (石津郡) | 文禄３年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。元は天台宗であったが、文禄３(1594)年に東本願寺第12世教如法子の立山が真宗に転宗し再興。唯願寺末寺。 | | | 02 |
| 79 | 02104 | | 仏光山 念通寺 | 上石津町 下多良 北脇堂角 (石津郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 寺伝では天禄２(971)年、天台宗の化仏光明山天禄寺を建立。開基は恵心僧都。正嘉２(1258)年洪水で堂宇等損壊されたが再建。明応９(1500)年に真宗に転宗し、道場となる。元和７(1621)年に念通寺に改称し、寛文５(1665)年に寺号許可を得た。領主高木家の菩提所。現在地への成立時期は不明。 | | | |
| 80 | 02105 | | 干霄山 唯願寺 | 上石津町 下山下 (石津郡) | 15世紀後半以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。天台宗に属し大橋道場と称した。蓮如の代の頃に浄金が開基、明慶の代に唯願寺と改称した。 | | | 02 |
| 81 | 02107 | | 歓喜山 善性寺 | 上石津町 牧田上野 (石津郡) | 元文元年 | 真言宗→真宗 | 本文参照 | G、H | 48 | |
| 82 | 02107b | | 善性寺旧境内 | 上石津町 牧田 (石津郡) | 大永３年 | | | 本文参照 | | N2 |
| 83 | 02108 | | 一乗山 康安寺 | 西之川町 (安八郡) | 正安３年 | 真宗 | 成立時期不明。僧光厳が成立し超勝院と号した。正安３(1301)年に真宗に転宗。南徳寺・円慶寺は康安寺の末寺。 | | | N3 |
| 84 | 02109 | | 津布良山 了誓寺 | 津村町 (安八郡) | 大永元年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。大永元(1521)年に僧順了が真宗に転宗し、了誓寺の前身の道場が成立したとされる。寛永16(1639)年までに了誓寺の寺号を得た。 | | | N4 |
| 85 | 02110 | | 慈雲山 常法寺 | 上石津町 牧田和田 (石津郡) | 慶長年間 | 真宗 | 寛治２(1088)年又は寛治７年(1093)年に権僧都覚念が一之瀬村川東に結び、獅子吼寺と称す。延文２・正平12(1357)年又は同３年に真宗に転宗し常法寺に改。慶長年間(1596～1615)に現在地に移転。寛永12(1635)年に常法寺の寺号を得る。 | | | 02 |
| 86 | 02111 | | 北野山 源龍寺 | 古宮町 (安八郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。中島郡大須庄比野郷(羽島郡桑原町)にあり天台宗に属した。明応６(1497)年に真宗に転宗。文禄３(1594)年に世保庄西馬の瀬村に移転。現在地への移転時期は不明。 | | | |
| 87 | 02112 | | 金勝山 龍華院 広専寺 | 墨俣町 墨俣寺町 (安八郡) | 慶長年間 | 真宗 | 『濃州徇行記』に「広専寺開基了海、寛正２(1461)年遷化」とあり、それ以前に羽島郡西加賀野井で真宗寺院を成立。慶長年間(1596～1615)年、現在地(西光寺の跡地)に移転。 | G | | N4 |
| 88 | 02113 | | 柊生山 福存寺 | 上石津町 上多良 堂ノ上 (石津郡) | 文禄元年 | 真宗 | 文禄元(1592)年、恵海が小庵を建立し開基。寛永17(1640)年に福存寺の寺号を得た。唯願寺末寺。 | | | 02 |
| 89 | 02114 | | 宝樹山 林正寺 | 上石津町 牧田山村 (石津郡) | 明応元年 | 真宗 | 明応元(1492)年に祐信(伊藤九郎祐親)により成立。大永５(1525)年に本堂を建立しこれを創立とする説もあり。元和９(1623)年に林正寺の寺号を得た。 | | | N3 |
| 90 | 02115 | | 虎府山 正安寺 | 荒川町 (不破郡) | 天正元年 | 天台宗→真宗 | 正安元(1299)年に成立。元は天台宗であったが、文明2(1470)年に真宗に転宗。文明2(1470)に慶春が成立説あり。 | | | N3 |
| 91 | 02116 | | 佛照山 勝光寺 | 荒川町 (不破郡) | 元徳２年 | 天台宗→真宗 | 元徳２(1330)年に浄久が創立。元は天台宗であっが、文明年間(1469～1487)に真宗に転宗。 | G、石仏 | | N3 |
| 92 | 02118 | | 真福山 徳養寺 | 笠木町 (安八郡) | 元和元年若しくは元禄６年 | 真宗 | 天正８(1580)年に僧都賢順が開基。元は坂東報恩寺の末寺。天和元(1681)年又は元禄６(1693)年に河間村から現在地に移転。 | | | |
| 93 | 02119 | | 寶受山 正賢寺 | 加賀野 (安八郡) | 永正年間以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。もと天台宗で光照寺と称す。永正年間(1504～1521)初再興、正賢寺と改称。永正14(1517)年に真宗に転宗。 | G、H | | N4 |
| 94 | 02121 | | 南涼山 立願寺 | 長松町 (不破郡) | 大永５年 | 真宗 | 大永５(1525)年に正玄(富田報負)が真宗に帰依して成立した。はじめは西願寺に属し、後に本山直末となる。 | | | N3 |
| 95 | 02123 | | 松原山 光圓寺 | 池尻町 (安八郡) | 元和年間 | 真宗 | 文亀年間(1501～1504)、赤坂村横蔵街道に庵室を創立(もとは浄願院と称し赤坂正福寺末)。慶長年間(1596～1615)に転宗し、元亀山と称した。関ケ原合戦後に新町に移り、さらに元和年間（1615～24）に現在地に移転。 | | | |
| 96 | 02124 | | 恵日山 西光寺 | 矢道町 (不破郡) | 応永３年 | 天台宗→真宗 | 応永３(1396)年、楠達成が成立。元は天台宗であったが、宝徳２(1450)年に真宗に転宗。 | | | N3 |
| 97 | 02125 | | 良峰山 慶円寺 | 十六町 (不破郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 天文８(1539)年、道玄が成立した。元は天台宗であったが、永禄３(1560)年に真宗に転宗した。聴き取りでは、他の地から移転してきたとされる。移転時期不明。 | G、石仏 | | |
| 98 | 02127 | | 三杉山 明秀寺 | 昼飯町 (不破郡) | 元禄14年若しくは享保７年 | 真宗 | 文明７(1475)年、源義家の子孫の栄伝が矢道で小庵を成立。元禄14(1701)年又は享保７(1722)年に昼飯に寺基を移し、現在に至る。 | G、I | | |
| 99 | 02128 | | 光照山 正安寺 | 赤坂町 (不破郡) | 大永６年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。元は比叡山門流光照山菩提院と称した。大永6(1526)年又は天文10(1541)年に真宗に転宗した。 | G、H、I、石仏 | | N3 |
| 100 | 02129 | | 尊號山 巣宗寺 | 島町 (不破郡) | 暦応年間若しくは応安２年・正平24年 | 真宗 | 暦応年間(1338～1342)に土岐美濃守の家臣継舎人資次が成立したとする説と、応安２・正平24(1369)年に宗覚が成立し真像坊と称したとする説とがある。元は天台宗であっが、永禄11(1568)年又は天正元(1573)年に真宗に転宗した。 | G、H、石仏 | | N3 |
| 101 | 02131 | | 宝池山 蓮成寺 | 波須町 (安八郡) | 伝天文６年 | 真宗 | 成立時期不明(聴取で天文６(1537)年)。開基某が宣如上人に帰依し創立。寛文7(1667)年に蓮成寺の寺号を得る。 | | | |

## 表5　大垣市寺院一覧表（5）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 102 | 02132 | | 延徳山<br>蓮正寺 | 荒川町<br>(不破郡) | 延徳元年 | 真宗 | 延徳元(1489)年に、願了(蓮如上人の法弟)が成立。 | G、I | | N3 |
| 103 | 02133 | 市 | 勅許山<br>聚楽寺<br>(高倉天皇勅願所) | 野口<br>(多芸郡) | 平成11年 | 天台宗→<br>真宗 | **永久2(1114)年又は大治3(1128)年に円覚が養老町蛇持に成立。元は天台宗であったが、宝治2(1248)年に真宗に転宗。天正の末(1591年頃)に野口町に移転(02133b)。平成11(1999)年に杭瀬川河川敷から堤内に移転。** | | | |
| 104 | 02133b | | 聚楽寺旧境内 | 野口<br>(多芸郡) | 宝治2年 | | | | | 03 |
| 105 | 02134 | | 青若寺 | 船町<br>(安八郡) | 慶長12年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。もとは天台宗であったが、慶長12(1607)年に真宗に転宗。 | | | |
| 106 | 02135 | | 熊谷山<br>浄源寺 | 大村<br>(安八郡) | 近代 | 天台宗→<br>真宗 | 文明5(1473)年、墨俣満福寺の隠居所として創立。元は天台宗であったと思われ、建久年間(1190～1199)に真宗に転宗と伝わる。聴き取りでは、大村町の河川敷から100年程前に現在地に移転した。 | | | |
| 107 | 02136 | | 法輪山<br>神崇院<br>浄真寺 | 万石<br>(安八郡) | 昭和期 | 真宗 | 仁寿2(852)年弘法大師が創立し、神崇寺と号し、長友明神の別当であった。文明9(1477)年に真宗に転宗し、天和2(1682)年に浄真寺と改称した。聴き取りによると、昭和初期には約500m程西方に寺は存在していた。 | G、H、I | | |
| 108 | 02137 | | 宝林山<br>顕性寺 | 林町<br>(安八郡) | 文明元年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 景顕が成立したが、時期は不明。もとは天台宗に属し阿弥陀寺と称した。文明元(1469)年に蓮如上人から六字名号と尊像を与えられ、明応3(1494)年に顕性房と称した。 | G、H | | N3 |
| 109 | 02138 | | 実寶山<br>正専寺 | 中曽根町<br>(不破郡) | 天明元年 | 天台宗→<br>真宗 | 慶長4(1599)年に成立したという説と同年に寺号を得たという説とがある。元は天台宗であったが、後に真宗に転宗した。天明元(1781)年に現在地に移転。 | | | |
| 110 | 02139 | | 得生山<br>西圓寺 | 草道島町<br>(安八郡) | 伝弘仁2年 | 天台宗→<br>真宗 | 弘仁2(811)年に最澄によって成立された天台宗寺院。永仁年間(1293～1299)に真宗に転宗。天文年間(1532～1555)以降は触頭として美濃国30余ヶ寺の支配役を務めた。聴き取りでは、かつて伽藍の外側に道三堀(環濠)があったという。 | G、H | | N3 |
| 111 | 02140 | | 泉流山<br>善得寺 | 高渕<br>(多芸郡) | 近現代 | 真宗 | **天正7(1579)年に善義により成立、今尾西願寺に属した。のち本山直末になる。明暦4(1658)年に善得寺の寺号を得た。河川工事や養老鉄道工事に伴い移転を繰り返し、大正～昭和初期に移転。** | | | |
| 112 | 02141 | | 佛號山<br>円休寺 | 木戸町<br>(安八郡) | 江戸時代 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。開基は信誓又は恵空。もとは多芸郡横屋村にあり天台宗であったが、文明年間(1469～1487)年に真宗に転宗。江戸初期に現在地に移転した。 | | | |
| 113 | 02142 | | 戸隠山<br>長明寺 | 割田<br>(安八郡) | 文禄3年 | 天台宗→<br>真宗 | **文禄3(1594)年に成立。天台宗に属し超光院と称した。教如上人に帰依し真宗に転宗した際に、長明寺に改称した。** | | | N3 |
| 114 | 02143 | | 大瀧山<br>雲芳寺 | 内原<br>(安八郡) | 寛永19年 | 真宗 | **建暦2(1212)年に入証により不破郡大滝村に成立。寛永19(1642)年に現在地に移転。** | | | |
| 115 | 02144 | | 登龍山<br>満念寺 | 曽根町<br>(安八郡) | 長享2年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明である。もとは天台宗であったが、長享2(1488)年に真宗に転宗し満念寺と号した。はじめは小野専勝寺の配下。 | 墓碑(天正) | | N3 |
| 116 | 02145 | | 法雲山<br>西重寺 | 北方町<br>(安八郡) | 寛永8年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明である。元は天台宗に属し真福寺と号した。永正5(1508)年真宗に転宗。寛永8(1631)年に村東より西に移り、現在地に移転。 | G、I、石仏 | | |
| 117 | 02146 | | 大井山<br>通誓寺 | 貝曽根町<br>(安八郡) | 明応3年 | 真宗 | 明応3(1494)年に空賢が成立した。 | G | | N4 |
| 118 | 02147 | | 大垣別院<br>開闡寺 | 伝馬町<br>(安八郡) | 寛永元年 | 真宗 | **慶長7(1602)年、中町に垂井真徳寺通所として成立。寛永元(1624)年に現在地に移転。安永2(1773)年に大垣掛所顕証寺に、さらに万延元(1860)年に開闡寺と改称。** | | | |
| 119 | 02149 | | 曾杭山<br>円徳寺 | 曽根町<br>(安八郡) | 延喜10年 | 真宗 | 延喜10(910)年、藤原道隆が建立し、寧恵寺と称した。延暦寺末円徳院と号する。康永元・興国3(1342)年に真宗に転宗。寛永12(1635)年に円徳寺と改めた。 | G、H | | N3 |
| 120 | 02150 | | 嶽高山<br>真光寺 | 福田町<br>(不破郡) | 長禄元年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は熊野神社の社寺で天台宗福成院という。長禄元年(1457)年に真宗に転宗し真光寺に改めた。 | G、H、石仏 | | N3 |
| 121 | 02153 | | 現龍山<br>長圓寺 | 荒尾町<br>(不破郡) | 天文8年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 天文8（1539）年に行弥により成立。成立時は専光坊と号し、天台宗。後、真宗に転宗した。元和2（1616）年に長円寺に改称。 | G、石仏 | | N3 |
| 122 | 02154 | | 聞法山<br>善楽寺 | 荒尾町<br>(不破郡) | 慶長8年 | 真宗 | 慶長8(1603)年に了泉(一説に円心)により成立。元禄5(1692)年に善楽寺と号する。 | | | N3 |
| 123 | 02155 | | 広厳山<br>明円寺 | 上石津町<br>奥牛王<br>(石津郡) | 文亀2年 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明。天台宗に属し奥村字滝の尻にあった。文亀2(1502)年に真宗に転宗し現在地に移転。慶長5(1600)年に大谷派に転宗した。地元での聴き取りによると、当初の位置は字滝の尻の津島神社付近であるという。** | G、石仏 | | 02 |
| 124 | 02155b | | 明円寺旧境内 | 上石津町<br>奥牛王<br>(石津郡) | 文亀2年以前 | | | | | 02 |
| 125 | 02156 | | 常照山<br>西来寺 | 墨俣町<br>上宿北浦<br>(安八郡) | 元和2年以前 | 天台宗→<br>真宗 | **成立時期不明であるが、天台宗に属した。元和2(1616)年に了然が真宗に転宗、道場として発足。元禄14(1701)年に西来寺の寺号を得た。** | | | |
| 126 | 02157 | | 金足山<br>熊谷院<br>満福寺 | 墨俣寺町<br>(安八郡) | 天正年間以降 | 天台宗→<br>真宗 | **寛和年間(985～987)年に成立、天台宗に属した。嘉禎元(1235)年、祐照(熊谷直照)が羽栗郡足近村に真宗に転宗し成立金足山熊谷院満福寺と称した。天正年間(1573～92)に墨俣に移り、葉栗郡福島村に移るが、再び墨俣に戻った。現在地への移転時期は不明。** | G、H、I | | N4 |
| 127 | 02158 | | 本正寺 | 墨俣寺町<br>(安八郡) | 慶長14年以前 | 真宗 | **成立時期不明であるが、二ツ木村八幡神社西隣にあった。文明17(1485)年に円覚が再興。慶長14(1609)年以前には現在地に移転したとされる。** | | | |
| 128 | 02158b | | 本正寺旧境内 | 墨俣寺町<br>(安八郡) | 文明17年以前 | | | | | N4 |

## 表６　大垣市寺院一覧表（６）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 129 | 02159 | | 五乗山<br>誓運寺 | 船町<br>(安八郡) | 江戸時代 | 真宗 | 寛正5(1464)年、多芸郡和田村に寺を創立した。室町期に本尊は永寿寺に預けられ、江戸期に現在地に移転し、再興した。大永3(1523)年が開基とする説もあり。 | | | |
| 130 | 02160 | | 塚越山<br>浄福寺 | 河間町<br>(安八郡) | 江戸時代中期 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、天台宗に属し西音院と称した。成立当初は現境内から600m程北の現在製造工場が建つあたりにあったという。大永２(1522)年に真宗に転宗した。江戸中期に現在地に移転した。 | G | | |
| 131 | 02160b | | 浄福寺旧境内 | 河間町<br>(安八郡) | 大永２年以前 | | | | | N3 |
| 132 | 02161 | | 青柳山<br>因西寺 | 外野<br>(安八郡) | 大正12年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は天台宗、文明９(1477)年に真宗に転宗。割田村にあり大正12(1923)年に現在地へ移転。 | | | |
| 133 | 02162 | | 亀甲山<br>真照寺 | 綾野<br>(不破郡) | 弘長元年 | 天台宗→<br>真宗 | 弘長元(1261)年に智念が成立。天台宗に属し、亀甲院と称した。長享２(1488)年に真宗に転宗。尾州西方寺に属したが、後に近江大通寺に属す。 | | | N3 |
| 134 | 02163 | | 久徳山<br>順行寺 | 平町<br>(安八郡) | 明治35年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は天台宗で明応5(1496)年に転宗、不破郡久徳村に建立。室町期に西馬瀬古宮村に移転、明治35(1902)年揖斐川の大改修で現在地に移転。 | | | |
| 135 | 02164 | | 牛屋山<br>願宗寺 | 俵町<br>(安八郡) | 寛永５年 | 真言宗<br>若しくは<br>臨済宗→<br>真宗 | 大同２(807)年、当所の牛屋川のほとりに弘法大師が建立。寛正元(1460)年又は明応年間(1492～1501)に真宗に転宗。寛永５(1628)年に現在地へ移転。また、成立時期不明で、本巣郡根尾村字大井にあって臨済宗に属したという説もある。 | | | |
| 136 | 02165 | | 若森山<br>浄覚寺 | 新町<br>(安八郡) | 明暦元年 | 天台宗→<br>真宗 | 元は若森村(久瀬川字若森区)にあった天台宗若盛山薬師寺の塔頭六坊の内の枝之坊と支院。文明11(1479)年、真宗に転宗。大永5(1525)年に大垣八幡宮前に移り、浄覚寺に改めた。寛永18(1641)年に高橋町に、さらに明暦元(1655)年に現在地に移転。 | | | |
| 137 | 02166 | | 象背山<br>法泉寺 | 上石津町<br>牧田二又<br>(石津郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗→<br>天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。元は天台宗であったが、永仁３(1295)年真宗に転宗し、藤田寺建立。応仁の乱の際には天台宗長法寺と称し、寛永２(1625)年に再び真宗に転宗。宝永７(1710)年の文献では若松院、安永6(1777)年に法泉寺と称した。現在地への移転の時期は不明。 | | | |
| 138 | 02167 | | 留百山<br>順念寺 | 伝馬町<br>(安八郡) | 萬治元年 | 真宗 | 文明３(1471)年に明尊が成立し、東大寺と号した。萬治元(1658)年に現在地に移転、寛文４(1664)年又は延寶５(1677)年に現在の寺号に。 | G、H | | |
| 139 | 02168 | | 頼光山<br>来光寺 | 南高橋町<br>(安八郡) | 明治33年 | 真言宗→<br>真宗 | 永暦元(1160)年が創立。もとは真言宗であったが、永正17(1520)年に真宗に転宗。高橋村(若園町)にあったが、明治33年(1900)に南高橋町に移転。 | G | | |
| 140 | 02169 | | 佛教山<br>受圓寺 | 笠縫町<br>(安八郡) | 伝弘仁６年 | 天台宗→<br>真宗 | 弘仁６(815)年頃最澄が草創し、護法堂荘厳院と称したと伝わる。永和３・天授３(1377)年に真宗に転宗し、受圓寺と改めた。永和年間(1375～1379)に建立した四足門が残る。 | G、石仏 | | N3 |
| 141 | 02170 | | 放光山<br>養樂寺 | 平町<br>(安八郡) | 明治35年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は森部村にあり天台宗であったが、永正8(1511)年に真宗に転宗。(一説には永正6(1509)年とされる)室町期に南今ヶ淵、中須村、安八郡平村、明治35(1902)年揖斐川の改修により現在地に移転。 | | | |
| 142 | 02171 | | 金光山<br>長徳寺 | 三津屋町<br>(安八郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、興福寺村にあり天台宗に属し真福寺と号した。貞観年間(859～877)に寺号を長徳寺に改めた。貞治2・正平18(1363)年に真宗に転宗。興福寺村から現在地に移転したが、移転時期は不明。 | | | |
| 143 | 02172 | | 暦応山<br>念勝寺 | 中野町<br>(安八郡) | 慶長年間 | 真宗 | 暦応元・延元３(1338)年に幽影が近江愛知郡大門村に成立。慶長年間(1596～1615)現在地に移転、墨俣満福寺の配下。 | G、H | | N3 |
| 144 | 02173 | | 寶寶山<br>等覚坊 | 新町<br>(安八郡) | 承應２年 | 天台宗→<br>真宗 | 仁壽３(853)年に慈覚大師が安八郡中澤村に天台宗の寺を成立し、弥勒寺と称した。應仁元(1467)年に焼失し林町に再建。文明５(1473)に真宗に転宗。天正12(1584)年に高橋村に移転後、さらに承應２(1653)年に現在地に。 | G | | |
| 145 | 02174 | | 蓮泉寺 | 墨俣町<br>下宿屋敷添<br>(安八郡) | 延徳元年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、天台宗に属し冷仙院と号した。延徳元(1489)年に道喜(道基)が真宗に転宗。寛文12(1672)年の文書には礼専寺、明暦元(1655)年の文書には蓮泉寺と記載されており、この間に改称している。 | G | | N4 |
| 146 | 02175 | | 白雲山<br>本善寺 | 上石津町<br>一之瀬<br>川西<br>(石津郡) | 大永３年 | 伝天台宗→<br>真宗 | 大永３(1523)年、西円坊証秀(俊成？)により真宗道場「西円坊」が成立。元禄７(1694)年類焼したため領主が仮堂を寄進。享保12(1727)年に本善寺と改めた。なお、「寺地は元天台宗」とする説がある。 | | | |
| 147 | 02176 | | 福島山<br>永寿寺 | 多芸島<br>(多芸郡) | 嘉禎元年 | 真宗 | 嘉禎元(1235)年に成立され、天保15(1844)年に本堂が再建されている。 | G | | 03 |
| 148 | 02177 | | 村上山<br>南徳寺 | 友江<br>(安八郡) | 伝天正10年 | 天台宗→<br>真宗 | 聴き取りによると、天正10(1582)年に成立され天台宗に属したが、江戸時代後期に真宗に転宗したという。 | | | 03 |
| 149 | 02178 | | 喜光山<br>祐念寺 | 大外羽<br>(多芸郡) | 享保19年 | 真宗 | 大永６(1526)年又は天文９(1540)年に祐西が多芸郡津屋村に成立。草道島西円寺に属す。享保19(1734)年現地に移転。 | | | |
| 150 | 02181 | | 津汲山<br>宗休寺 | 築田町<br>(安八郡) | 宝暦４年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、大野郡東津汲村にあった(東津汲寺か)。元は天台宗であったが、その後真宗に転宗し広福寺に。宝暦４(1754)年に唯願寺隠遁所として現在地に移転した。明治15(1882)年に宗休寺と改称。 | | | |
| 151 | 02182 | | 大井山<br>明寂寺 | 藤江町<br>(安八郡) | 慶長年間<br>若しくは<br>寛文８年 | 真宗 | 文明5(1473)年又は明應3(1494)年に道賢により安八郡下宿に成立。郷津文書の記載から、寛文８(1668)年までには現在地に移転された。なお、墨俣上宿に成立し、慶長年間(1596～1615)に藤江村に移ったとする説もある。 | | | |
| 152 | 02183 | | 梅香山<br>珀宝寺 | 釜笛<br>(安八郡) | 天正10年 | 真宗 | 天正10(1582)年に了願により成立。慶安2(1649)年に珀宝寺の寺号を得た。 | | | 03 |

表7　大垣市寺院一覧表（7）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 153 | 02184 | | 寶樹山<br>恩受寺 | 上笠<br>(多芸郡) | 慶長2年以降 | 真宗 | 慶長2(1597)年に了智が教如上人に帰依して成立した。聴き取りによると、過去に水害被害も多く、河川敷に在った墓地も移転したとのことである。現在地への移転時期不明。 | G、H | | |
| 154 | 02186 | | 養老山<br>専徳寺 | 難波野町<br>(安八郡) | 明治時代 | 真宗 | 天正6(1578)年、安八郡南波村(輪之内町南波)成立。明治の揖斐川改修により現在地に移転。 | | | |
| 155 | 02187 | | 大井山<br>発願寺 | 開発町<br>(安八郡) | 文暦元年 | 天台宗→<br>真宗 | 文暦元(1234)年に成立。天台宗に属し清光院と称した。明応2(1493)年に真宗に転宗、発願寺に。草創は根尾村大井の臨済宗寺院の説もある。 | G | | N4 |
| 156 | 02188 | | 遠照山<br>乗蓮寺 | 中町<br>(安八郡) | 承應2年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。南新町にあり天台宗に属したが、文明11(1479)年真宗に転宗。承應2(1656)年に現在地に移転。 | | | |
| 157 | 02189 | | 郡境山<br>徳円寺 | 久瀬川町<br>(安八郡) | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 天文4(1535)年に若森城主宮川吉左衛門尉安定が開基。寺域は安八郡と不破郡にまたがっていた。初めは天台宗であったが、その後、真宗に転宗。永禄13(1570)年に久瀬川村に移転したが、現在地への移転時期は不明。 | | | N3 |
| 158 | 02190 | | 竹林山<br>日月光院<br>勝楽寺 | 三本木町<br>(安八郡) | 応安4年・<br>建徳2年 | 天台宗→<br>真宗 | 応安4・建徳2(1371)年に西覚坊が創立。元は天台宗であったが応永4(1397)年に真宗に転宗し、墨俣満福寺に属した。 | | | N4 |
| 159 | 02192 | | 寶照山<br>唯願寺 | 深池町<br>(安八郡) | 延宝2年 | 真宗 | 長享元(1487)年、釈了西により成立、宝照山唯願寺と称した。その後、本巣郡横屋村(巣南町)、安八郡古宮村に移り、延宝2(1674)年に安八郡深池村に移転し現在に至る。 | | | |
| 160 | 02193 | | 平正山<br>速入寺 | 今福町<br>(安八郡) | 元禄2年以前 | 真宗 | 天文3(1534)年に平塚顕誠が檜村に成立。その後、不破郡塩田村に移り、元禄2(1689)年以前に今福町に移転。正保2(1645)年に速入寺の寺号を得た。 | | | |
| 161 | 02194 | | 圓光山<br>善教寺 | 開発町<br>(安八郡) | 16世紀後半 | 真宗 | 成立時期不明で、切戸村(現万石町)の「豆寺」(大垣商業高校付近)にあったと伝わる。長享元(1487)年に真宗に転宗し開発村に移転。天正4(1576)年に災いに遭い切戸村に移ったが、数年後、再び開発村に移る。 | G、H | | N4 |
| 162 | 02194b | | 善教寺旧境内 | 開発町<br>(安八郡) | 長享元年以前 | | | | | N4 |
| 163 | 02195 | | 浄光山<br>西生寺 | 和合本町<br>(安八郡) | 永正8年以前 | 真宗 | 成立時期不明。永正8(1511)年に真宗に転宗。大垣聖徳寺に属したが、のち本山直末となる。 | | | N4 |
| 164 | 02196 | | 東谷山<br>蔵林寺 | 上石津町<br>時山<br>西屋敷<br>(石津郡) | 伝元亀2年 | 真言宗→<br>真宗 | 寺伝では元亀2(1571)年の石山合戦から逃れて来た、近江国法蔵寺の僧により真言宗寺院が成立したと伝わる。天保年間(1831～44)に開基覚了が真宗に転宗。嘉永2(1849)年に蔵林寺の寺号を得た。 | | | |
| 165 | 02197 | | 松岡山<br>明覚寺 | 上石津町<br>上中組<br>(石津郡) | 天正19年 | 真宗 | 寛正6(1465)年に字岡山に道場を開く。天正19(1591)年に現在地に移転再建。寛永7(1630)年に明覚寺の寺号を得た。 | G、H、I<br>石仏 | | P2 |
| 166 | 02198 | | 観南山<br>極念寺 | 上石津町<br>三ツ里<br>馬瀬<br>(石津郡) | 明応年間頃 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は天台宗に属したが、文明2(1470)年に真宗に転宗。馬瀬の西南にあり一帯を「十王堂」と称す。明応年間(1492～1501)の火災後、現在地に移転。 | G、H、石仏 | | O2 |
| 167 | 02199 | | 清凉山<br>福正寺 | 上石津町<br>谷畑岡峰<br>(石津郡) | 元和元年 | 真言宗→<br>真宗 | 寛政元(1460)年には真言宗龍門院と称する道場で字大野にあった。天和元(1681)年現在地に移り、翌年、福正寺の寺号を得た。 | | | |
| 168 | 02200 | | 柴間山<br>光受寺 | 墨俣町<br>墨俣寺町<br>(安八郡) | 寛永10年 | 真宗 | 成立時期不明。二ツ木村法蔵寺に住していたとされる。永享3(1431)年に真宗に転宗。文明3(1471)年に美濃脇村に移転し、寛永10(1633)年に現在地に移転。 | G | | |
| 169 | 02201 | | 安養山<br>善教寺 | 寺内町<br>(安八郡) | 明暦元年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。伊勢国安濃津に安養寺を創立天台宗、永正年間(1504～21)に真宗に転宗寛文13(1673)年に善教寺に改。城主命令で移転繰り返し明暦元(1655)年に現在地に移転。 | G、H | | |
| 170 | 02203 | | 済生山<br>正林寺 | 上石津町<br>祢宜上<br>三分一<br>(石津郡) | 享保13年 | 臨済宗 | 正覚院の一坊正林坊。文治4（1188）年頃に建立か。享保13(1728)年に高木西家6代貞輝が祢宜上「常楽庵跡」に移り、再建。高木西家の菩提所。 | | | |
| 171 | 02205 | | 瑞巖山<br>天喜寺 | 上石津町<br>一之瀬<br>川東<br>(石津郡) | 伝天喜5年 | 天台宗→<br>臨済宗 | 本文参照 | 本文参照 | 50 | O2 |
| 172 | 02206 | | 久昌山<br>法雲寺 | 上石津町<br>牧田上野<br>(石津郡) | 13世紀初頭頃 | 臨済宗 | 後鳥羽院の時代(1198～1221)に、勤翁天臨和尚が小宇を建立。寛保3(1743)年に伊勢国渡会郡山田村正法寺の第2世広山が成立。 | G、H、I、<br>石仏 | | N2 |
| 173 | 02207 | | 松貞山<br>本堂寺 | 上石津町<br>三ツ里<br>松之木<br>(石津郡) | 平安時代か | 天台宗→<br>臨済宗 | 成立時期不明。天台宗に属した多羅七堂社のうち最大であったため本堂寺と称された。万治年間(1658～61)に妙心寺派の小宇を構え、延宝9(1681)年に高木東家の菩提所となった。 | G、I、石仏 | | O2 |
| 174 | 02208 | | 慧日山<br>慈眼院 | 上石津町<br>堂之上岡<br>(石津郡) | 正徳元年以前 | 臨済宗 | 成立時期不明。往古は七堂伽藍であったが焼失。正徳元(1711)年に安立禅翁(三輪六右衛門)が堂宇を建立。宝聚院末寺。 | | | |
| 175 | 02209 | | 延命山<br>地蔵寺 | 上石津町<br>下山島谷<br>(石津郡) | 中世末期 | 臨済宗 | 鎌倉時代、勤翁和尚が鎌倉より本尊地蔵菩薩を奉遷したものとも伝わる。中世末期より地蔵堂として存在し、元禄5(1692)年に本堂寺末寺として再建。 | | | O2 |
| 176 | 02210 | | 金剛山<br>観音寺 | 上石津町<br>宮上ノ山<br>(石津郡) | 昭和期 | 天台宗→<br>臨済宗 | 本文参照 | 本文参照 | 52 | O2 |
| 177 | 02210b | 県 | 観音寺旧境内<br>(観音寺経塚) | 上石津町<br>多良<br>三ツ里<br>(石津郡) | 平安時代末期 | | | | | O2 |

## 表８　大垣市寺院一覧表（８）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 178 | 02211 | | 飯高山<br>宝聚院 | 上石津町<br>牧田門前<br>(石津郡) | 伝平治元年 | 真言宗→<br>臨済宗 | 伝承では平治元(1159)年、木曽義仲が成立し、真言宗に属し義仲寺と称した。文安元(1444)年、江州高野永源寺の悦岩が再興し宝聚院に改称。安土桃山～江戸初期に永源寺派から妙心寺派に転派。寺域内の木曽神社は明治に移転し「宝聚院墓」として遺跡登録。 | G、H、I、石仏 | | N2 |
| 179 | 02212 | | 醫王山<br>禅柱寺 | 藤江町<br>(安八郡) | 昭和期 | 臨済宗 | 天正14(1586)年又は同15年に薬師堂(薬師寺)として成立と伝わる。その後現在地にて再興し長福寺と称したが、寛文5(1665)年に禅昌寺、さらに禅柱寺に改めた。国道258号線建設に伴い、昭和時代に移転。 | G、H、I | | |
| 180 | 02217 | | 法輪寺 | 静里町<br>(不破郡) | 享保21年 | 臨済宗 | 応仁元(1467)年に和田義房が成立し、僧秀林が開山。時期不明だが法輪庵と称している。大風雨で堂宇が流失したため、享保21(1736)年に西隣へ移した。 | G、石仏 | | |
| 181 | 02221 | | 長勝寺 | 林町<br>(安八郡) | 明治41年 | 臨済宗 | 建武4・延元2(1337)年に無相大師が開山した。寛保年間(1741～1744)に寂室智が安八郡加納村に成立した説もあり。明治41年に現在地に移転。 | | | |
| 182 | 02223 | | 鳳林山<br>徳秀寺 | 新町<br>(安八郡) | 承應3年 | 臨済宗 | 永禄6(1563)年に惟山丹公首座が大垣八幡曲輪に一棟の堂を成立。寛永10(1633)年に高橋町に移り、徳秀寺と称した。承應3(1654)年に現在地に移転。 | G | | |
| 183 | 02224 | | 曹源山<br>華渓寺 | 曽根町<br>(安八郡) | 享保年間 | 臨済宗 | 寛弘7(1010)年に源信僧都が創立したとされる説と、天正4(1576)年に曽根城主稲葉一鉄による成立で南化和尚が開山したとするの説もある。享保年間(1716～1736)に揖斐川堤防の東側から曽根城の本丸跡に移転。 | G、I、石仏 | | |
| 184 | 02224b | | 華渓寺旧境内 | 曽根町<br>(安八郡) | 寛弘7年<br>若しくは<br>天正4年 | | | | | N3 |
| 185 | 02226 | | 補陀山<br>報恩寺 | 綾野<br>(不破郡) | 永禄元年 | 曹洞宗 | 永禄元(1558)年に昌山により成立。曹洞宗禅堂寺に属し、報恩寺と称した。 | G、H、I | | N3 |
| 186 | 02231 | | 桃源山<br>全昌寺 | 船町<br>(安八郡) | 慶安4年 | 曹洞宗 | 慶長年間(1596～1615)に尼ヶ崎に成立。雪山和尚を開山とし、桃源山全昌寺と称した。慶安4(1651)年に現在地に伽藍を造営。 | G、H | | |
| 187 | 02232 | | 高輪山<br>瑠璃光寺 | 上石津町<br>上多良<br>樫原<br>(石津郡) | 弘仁年間<br>若しくは<br>正治2年 | 真言宗→<br>曹洞宗 | 弘仁年間(810～24)又は正治2(1200)年に成立し真言宗に属した。慶長年間(1596～1615)に正覚山薬師寺と称されていた。その後については、安永7(1778)年に今須妙応寺の第20世現瑞妙覚が中興したとする説と、天明6(1786)年に今須妙応寺の圓宗和尚隠居地として再建したとする説があり、寺号を瑠璃光寺に改めた。 | G、H、I | | O2 |
| 188 | 02235 | | 醫王山<br>法永寺 | 静里町<br>(不破郡) | 寛文年間以前 | 曹洞宗 | 寛文年間(1661～1673)、和田作左衛門・佐々間梅右衛門などが成立し、不破郡綾野報恩寺昌山が開山。なお、弘長2(1262)年成立とする説もある。 | | | |
| 189 | 02236 | | 妙運山<br>妙法寺 | 赤坂町<br>(不破郡) | 天正5年<br>若しくは<br>天正10年 | 日蓮宗 | 正中年間(1324～1326)祖師御弟子中老僧日法上人の開基、もと不破郡府中村にあり、天正年間(1573～1592)織田信長の兵火で焼失。天正5(1577)年又は天正10(1582)年に現在地に移転。 | G | | N3 |
| 190 | 02237 | | 遠照山<br>本顕寺 | 伝馬町<br>(安八郡) | 寛文11年 | 日蓮宗 | 天正19(1591)年4月に経王院日勝により高橋村に成立。元和2(1616)年に歩行町に、寛文11(1671)年に現在地に移転。 | | | |
| 191 | 02238 | | 大塚山<br>實光寺 | 三塚町<br>(安八郡) | 天文16年 | 真言宗→<br>日蓮宗 | 天文16(1547)年に大垣城主織田播磨守が成立。もとは真言宗であったが、元禄4(1691)年に日蓮宗に転宗。 | G、H | | N4 |
| 192 | 02248 | | 實受山<br>清廣寺 | 北方町<br>(安八郡) | 延徳3年以前 | 真言宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は真言宗であったが、延徳2(1491)年に真宗に転宗。 | | | N3 |
| 193 | 02250 | | 正林山<br>敬恩寺 | 長松町<br>(不破郡) | 16世紀初頭頃 | 真宗 | 成立時期は、文亀元(1501)年・永正2(1505)年・大永2(1522)年の説あり。大永3(1523)年に敬恩寺の寺号を得る。 | G、I | | N3 |
| 194 | 02253 | | 大井山<br>妙永寺 | 室本町<br>(安八郡) | 大永3年 | 真宗 | 大永3(1523)年に大井荘室村竹中空西が成立。永禄年間(1558～1570)に兵火で焼失、室村に堂を建て妙永寺と号す。 | G、石仏 | | N3 |
| 195 | 02255 | | 慈眼山<br>蓮華院<br>観音寺 | 西崎町<br>(安八郡) | 享保4年 | 天台宗→<br>浄土宗→<br>単立 | 慶長5(1600)年に覺音が安八郡中川村に成立。初めは天台宗であったが、享保4(1719)に現在地に移転し浄土宗に転宗した。現在は単立。 | | | |
| 196 | 02258 | | 金生山<br>明星輪寺<br>寳光院 | 赤坂町<br>(不破郡) | 伝朱鳥元年 | 単立 | 本文参照 | 本文参照 | 54 | N3 |
| 197 | 02260 | 市 | 牛屋山<br>大日寺<br>遮那院<br>(御朱印地遮那院跡) | 清水町<br>(安八郡) | 永禄年間 | 真言宗 | 白鳳年間に、百済の王子沙門金珠上人が天武天皇の勅願所として大垣城西方の牛屋に成立。天長年間(824～834)に弘法大師が「大日寺遮那院」と名付けたと言われる。永禄年間(1558～1570)に大垣城築城に伴い現在地へ移転。現在は墓地となっており、近年整備が完了したという。 | G | | N3 |
| 198 | 02261 | | 醫王山<br>光明院<br>神宮寺 | 西外側町<br>(安八郡) | 慶長12年 | 天台宗→<br>真言宗 | 成立時期不明。もとは大垣八幡宮近辺（現在の02018円通寺の地）にあり天台宗であったが、天正年間(1573～1593)に真言宗に転宗。慶長12(1607)年に宮村八幡宮西に移転。 | | | |
| 199 | 02261b | | 神宮寺旧境内 | 西外側町<br>(安八郡) | 天正年間以前 | | | | | N3 |
| 200 | 02262 | | 勝軍山<br>密嚴院<br>寒松寺 | 西外側町<br>(安八郡) | 不明 | 真言宗→<br>浄土宗→<br>真言宗 | 天正7(1579)年、大垣八幡宮鳥居の西(02262b)に法藏坊成立。勝軍山密嚴院と称した。02210遮那院の末寺。寛永年間(1624～1644)に浄土宗に転宗するが、寛文2(1662)年に再び真言宗とした。移転後の位置不明。 | | | N3 |
| 201 | 02262b | | 寒松寺旧境内 | 西外側町<br>(安八郡) | | | | | | N3 |
| 202 | 02263 | | 大聖山<br>金剛輪寺<br>南光院 | 西外側町<br>(安八郡) | 不明 | 真言宗 | 成立時期不明だが大津で草創。慶長5(1600)年、戸田一西、戸田氏鐵に従い江州膳所に封ぜられ後に尼崎、岐阜町、鳥見町と移り宝暦7(1757)年に現在地に移転。明治初期に寺号を廃し金刀比羅神社として改称。位置不明。 | | | |
| 203 | 02268 | | 若盛山<br>薬師寺 | 若森町<br>(不破郡) | 不明 | 天台宗 | 弘仁年間(810～824)、伝教大師の成立とされ塔頭六坊を有した。寿永2(1183)年に焼失。位置不明。 | | | |

表９　大垣市寺院一覧表（９）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略原 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 204 | 01201b | | 精泰寺旧境内 | 上石津町牧田山村（石津郡） | 不明 | 臨済宗 | 寺伝では足利尊氏草創とされるが詳細不明。慶長５(1600)の乱に焼失したが元禄４(1691)年に再建。昭和35(1960)年、名神高速道路建設に伴い岐阜市に移転(01201)。林正寺付近にあったというが、旧境内の詳細な位置不明。 | | | |
| 205 | 02275 | | 八幡山正蓮寺 | 上石津町牧田平井（石津郡） | 不明 | 真言宗→真宗 | 弘仁13(822)年に開基三輪秀信により真言宗の無量寿院成立。貞永元(1232)年に真宗に転宗し正蓮寺に改称。成立時は牧田川西にあり天正13(1585)年に川東下平井に移り、天正18(1590)年又は17世紀中頃までに関ケ原に移転。位置不明。 | | | |
| 206 | 02277 | | 高正山法喜院 | 上石津町一之瀬川東（石津郡） | 貞治５年・正平21年 | 臨済宗 | 貞治５・正平21(1366)年、道香が成立。天喜寺五院塔頭の一つで寺の裏手「法喜院平」にあり。応永15(1408)年心省が中興、文化６年又は文政６(1823)年に天喜寺の賞林祖文が寺域を改めて天喜寺末寺として表参道沿いに再建。聴き取りで「法喜院平」は天喜寺裏手の平地を指す。 | | | |
| 207 | 02278 | | 玉鳳院 | 上石津町一之瀬川東（石津郡） | 不明 | 臨済宗 | 貞治5・正平21(1366)年、道香が成立したもので五院塔頭の一つ。法喜院以外の4院の詳細は不明。ただし、玉鳳院のみは「明治初期に廃寺した」という記載が残る。位置不明。 | | | |
| 208 | 02285 | | 祖光寺（祖光寺跡遺跡） | 上石津町細野（石津郡） | 伝飛鳥時代 | ？→天台宗→臨済宗 | 本文参照 | 本文参照 | 56 | P2 |
| 209 | 02286 | | 證願寺 | 上石津町上（石津郡） | 不明 | 不明 | 行基開基、養老寺や行基寺と同時代。元亀2(1571)年、信長の兵火にかかり焼失。『時村史』に同寺跡から仏像、五輪石、土器片が出土と記載あるが位置不明。字正願寺地内を現在地確認したが特定できず。 | 不明 | | |
| 210 | 02287 | | （上野廃寺跡） | 上石津町牧田上野（石津郡） | 不明 | 不明 | 県遺跡地図には「古墳」として搭載されているが、詳細不明。現在は宅地。 | | | |
| 211 | 02288 | | （掛谷廃寺跡） | 上石津町下山（石津郡） | 鎌倉時代 | 不明 | 県遺跡地図では「鎌倉　社寺跡」とされているが、詳細不明。 | | | 02 |
| 212 | 02293 | | 不動山西山寺泉浄院 | 上石津町西山（石津郡） | 文明８年 | 不明 | 文明８(1476)年、近江多賀大社般若院の不動明王を迎え安置。宮寺であったが、明治の神仏分離で別に堂を建て本尊を安置した。 | | | 02 |
| 213 | 02294 | | 西光寺 | 墨俣町上宿（安八郡） | 不明 | 天台宗若しくは真言宗か | 天台宗又は真言宗寺院で沿革不明。慶長15(1610)年及び寛永８(1631)年の「西橋村名寄帳」に西光寺の字名残り明台寺境内で奈良末～平安初の瓦出土。明台寺及び広専寺付近に所在と推測。詳細な位置不明。 | | | |
| 214 | 02295 | | 光明寺 | 墨俣町上宿（安八郡） | 不明 | 天台宗若しくは真言宗か | 天台宗又は真言宗寺院と思われるが沿革不明。慶長15(1610)年の文書には光明寺の字名が記載。昭和21(1946)年に不破神社の境内で建物の礎石が確認たというが、現在不破神社内では確認できない。詳細な位置不明。 | | | |
| 215 | 02296 | | 大仙寺 | 墨俣町下宿三昧（安八郡） | 不明 | 天台宗 | 大垣明寂寺の前の寺号と言い、天台宗に属したという。文明５(1473)年又は明應３(1494)年に道賢が安八郡下宿に成立した。位置不明。 | | | |
| 216 | 02297 | | 法藏寺 | 墨俣町二ツ木（安八郡） | 不明 | 臨済宗 | 成立時期不明。正安３(1301)年頃南山国師が法藏寺に住み三十二院を建立した(法藏寺第1世が南山国師とする説もある)。かつては二ツ木村にあり、江戸時代中期には墨俣村に移転。鎌倉街道に南面していたといい、字名「法藏寺」が残るが、現在は住宅地が広がる。詳細な位置不明。 | | | |
| 217 | 02298 | | 大通寺 | 墨俣町墨俣（安八郡） | 不明 | 天台宗若しくは真言宗か | 「二ツ木村庄地理考」には「大通寺・本覚寺・明光寺の三廃寺は墨俣村にあり」とあるが、沿革や位置など詳細不明。 | | | |
| 218 | 02299 | | 本覚寺 | 墨俣町墨俣（安八郡） | 不明 | 天台宗若しくは真言宗か | 「二ツ木村庄地理考」には「大通寺・本覚寺・明光寺の三廃寺は墨俣村にあり」とあるが、沿革や位置など詳細不明。 | | | |
| 219 | 02300 | | 明光寺 | 墨俣町墨俣（安八郡） | 不明 | 不明 | 「二ツ木村庄地理考」には「大通寺・本覚寺・明光寺の三廃寺は墨俣村にあり」とあるが、沿革や位置など詳細不明。 | | | |
| 220 | 02301 | | 城越廃寺 | 墨俣町墨俣城之越（安八郡） | 不明 | 不明 | 白髭神社の神宮寺として墨俣町史に記載されるが、その沿革や所在置は不明。神社は現存するが、昭和13年に河川敷から移転したもので旧所在地は不明。 | | | |
| 221 | 02302 | | 二ツ木廃寺 | 墨俣町二ツ木（安八郡） | 不明 | 不明 | 02301城越廃寺と同様に神宮寺と鎮守の宮との関係で「二ツ木廃寺と弁才天」があり、神社・廃寺跡の時期・位置不明。「古寺跡で五輪石塔等出土」とあるが特定できず。 | | | |

表10　大垣市参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 02001 | | 蔵泉山長命寺 | 新町（安八郡） | 明治37年 | 天台宗 | 元禄元(1668)年光敬が成立、蔵泉坊と称。明治維新時に廃寺、郡上長瀧寺に移設。明治37(1904)年に現在地に再興。昭和40(1965)年に長命寺と改称。 | |
| 2 | 02008 | | 松島山多良教会 | 上石津町祢宜上（石津郡） | 不明 | 真言宗 | 成立時期不明。昭和以降の寺院名簿には記載される。 | |
| 3 | 02016 | | 明月山向暖寺長光院 | 新町（安八郡） | 寛永年間 | 真言宗 | 寛永年間(1624～44)年に信濟が一棟の堂を建立し、明月庵と称した。寛文５(1665)年又は寛文７(1667)年に向暖寺、さらに延寶７(1679)年には長光院に改名。明治初期に宮社分離し本堂のみとなった。 | |

**表11　大垣市参考寺院一覧表（２）**

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 02017 | | 弘法院 | 神田町 (安八郡) | 不明 | 天台宗 | 昭和32(1957)年の寺院名鑑には記載あるが平成13(2001)年には記載なし。所在不明。 | |
| 5 | 02020 | | 薬師院 | 薬田町 (安八郡) | 明和年間 | 浄土宗 | 明和年間(1764～72)に成立。 | |
| 6 | 02023 | | 宝林山 安養寺 | 荒尾町 (不破郡) | 正徳５年以前 | 浄土宗 | 戸田氏睹が父の菩提のために、赤坂にあった古寺を移転再興して建設。正徳５(1715)年に藩主が制札を下した。 | |
| 7 | 02025 | | 紫雲山 求浄庵 | 久瀬川町 (安八郡) | 享保年間 | 浄土宗 | 享保年間(1716～1736)に勝沼儀左衛門が勝沼家菩提のために創立。文政７(1824)年、西久瀬川字金屋敷に再興し求浄庵と称した。 | |
| 8 | 02027 | | 永福寺 | 青野町 (不破郡) | 昭和期 | 浄土宗 | 京都知恩院末寺。天保年間(1831～1844)に、専意和尚により成立。昭和時代に滋賀県栗東市より現在地に移転。 | |
| 9 | 02028 | | 常業山 清念寺 | 南切石町 (安八郡) | 元禄５年 | 浄土宗 | 元禄５(1692)年に松壽寺直譽上人が成立。 | G、H |
| 10 | 02029 | | 深蓮山 林松院 | 長松町 (不破郡) | 元治元年 | 浄土宗 | 元治元(1864)年に諦誉善亮上人が寺庵を創立して、本岡庵と号した。明治に松坂市樹敬寺末寺の林松院を移転。 | G |
| 11 | 02032 | | 智光庵 | 薬田町 (安八郡) | 伝江戸時代 | 浄土宗 | 聴き取りによると、江戸時代に安楽寺の仏を穴を掘り埋めその100年後に建立した。説教場の尼寺であったという。 | |
| 12 | 02033 | | 宝池院 | 青柳町 (不破郡) | 不明 | 浄土宗 | 成立時期不明、かつては尼寺であった。 | G |
| 13 | 02034 | | 照徳山 常楽寺 | 船町 (安八郡) | 寛文２年 | 浄土宗 | 元和３(1617)年、尼ヶ崎に香華院として伽藍を創立した。寛永15(1638)年に宮町に伽藍を造営。寛文２(1662)年に現在地に移転。 | G、H |
| 14 | 02035 | | 西竜寺 | 西之川町 (安八郡) | 不明 | 浄土宗 | 成立時期不明。位置不明。 | |
| 15 | 02036 | | 青蓮山 天清院 | 赤坂町 (不破郡) | 江戸時代 | 浄土宗 | 成立時期不明、もと安八郡柳瀬村に所在。寛文12(1672)年に氏信3男没しその菩提所を正蓮寺とし、不破郡赤坂村に移転し青蓮寺に改称。 | G、I |
| 16 | 02047 | | 寿量山 本誓寺 | 上石津町 細野 (石津郡) | 文政７年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。字上中組(明覚寺東)に成立。元は天台宗であったが、宝暦２(1752)年に真宗に転宗し、惣道場とされる。文政７(1824)年に現在地に移転。 | |
| 17 | 02086 | | 護摩山 大聖寺 | 米野町 (安八郡) | 寛永17年 | 真宗 | 寛永17(1640)年に祐信が成立。天和２(1682)年に大聖寺の寺号を得た。 | |
| 18 | 02092 | | 耕生山 託念寺 | 上石津町 上多良 堂ノ上 (石津郡) | 元和２年 | 真宗 | 元和２(1616)年了専(井之口新十郎)が一寺を建立。 | |
| 19 | 02098 | | 望龍山 開光寺 | 上石津町 牧田萩原 (石津郡) | 享保２年若しくは享保３年 | 真宗 | 寛保２(1742)年又は同３年に松山法城により成立。文政９(1826)年に開光寺の寺号を得た。 | |
| 20 | 02106 | | 松林山 感生寺 | 上石津町 前ケ瀬 (石津郡) | 寛文９年 | 真宗 | 寛文９(1669)年、本願寺第14世琢如法弟の釈円可(小寺善事)が成立。天和２(1682)年、感生寺の寺号を得た。 | |
| 21 | 02117 | | 白毫山 光福寺 | 古宮町 (安八郡) | 正保元年 | 真言宗→真宗 | 成立時期不明。もとは真言宗であったが、正保元(1644)年に真宗に転宗。正徳3(1713)年に光福寺の寺号を得た。 | G |
| 22 | 02120 | | 三宝山 真楽寺 | 榎戸町 (不破郡) | 天明３年若しくは文化８年 | 真宗 | 天明３(1783)年、信慶が成立した。当初は阿弥陀堂と称したが、第二世が真楽寺に改めた。文化８(1811)成立とする説もあり。 | |
| 23 | 02122 | | 真福寺 | 大井 (安八郡) | 昭和24年以前 | 真宗 | 成立時期不明。古くは道場であったが、昭和24(1949)年に設立が認可され、真福寺の寺号を得た。 | |
| 24 | 02126 | | 寶來山 光照寺 | 十六町 (不破郡) | 慶長９年か慶長10年 | 真宗 | 慶長９(1604)年に祐善が成立したとする説と、慶長10(1605)年に揖斐郡宝来町の下野祐善が成立したとする説とがある。 | |
| 25 | 02148 | | 五辻山 本浄寺 | 築捨町 (安八郡) | 正保４年 | 真宗 | 正保４(1647)年に了西により成立。 | |
| 26 | 02151 | | 五雲山 松林寺 | 浅中 (安八郡) | 延宝４年 | 真宗 | 承応元(1652)年に仏師川村(海津郡平田町)に成立。延宝４(1677)年に現在地に移転。 | G、H、I |
| 27 | 02152 | | 西美濃教会 | 静里町 (不破郡) | 不明 | 真宗 | 大垣市綾野村から文政７(1824)年に現在地に移転し、西美濃説教所と称した。位置不明。 | |
| 28 | 02179 | | 白寶山 覚竜寺 | 西大外羽 (多芸郡) | 明治時代以降 | 真宗 | 寛永16(1639)年に秦観により成立、明治以降に現在地へ移転。 | |
| 29 | 02180 | | 理専寺 | 和合新町 (安八郡) | 万治元年 | 真宗 | 万治元(1658)年に僧了道が成立。 | |
| 30 | 02185 | | 久遠山 本覚寺 | 直江町 (安八郡) | 明治35年 | 真宗 | 慶長19(1614)年、揖斐郡本庄村にて真宗道場を成立。明治35(1902)年に揖斐川の大改修により現在地に移転した。 | G、I |
| 31 | 02191 | | 百寶山 碧還寺 | 外渕 (安八郡) | 慶安元年 | 真宗 | 慶安元(1648)年、外渕村民の共同経営による惣道場として創立。承応２(1653)年に碧還寺の寺号を得た。 | |
| 32 | 02202 | | 子悦山 超誓寺 | 見取町 (安八郡) | 昭和４年 | 真宗 | 文化６(1809)年霊浄が京都市下京区醒井通鍵屋町に成立。昭和４(1929)年に現在地に移転。 | |
| 33 | 02204 | | 大雄山 乾徳寺 | 上石津町 牧田二又 (石津郡) | 昭和35年 | 臨済宗 | 天和２(1682)年、妙心寺塔頭南涌院第２世の蒙山開基。現本堂は、昭和35(1960)年名神高速道路建設に伴い移築。 | G |
| 34 | 02213 | | 松永山 慈王寺 | 東長町 (安八郡) | 明治26年 | 臨済宗 | 成立時期不明。明治26(1893)年に近江国神崎郡石馬寺の中の慈王院を移転し、慈王寺と称す。 | |
| 35 | 02214 | | 大勝寺 | 福田町 (不破郡) | 万治３年 | 臨済宗 | 万治３(1660)年に、大垣徳秀寺雷門和尚の弟子龍山(傍島清左衛門)が創立。 | G、H |
| 36 | 02215 | | 音峯山 乾崇寺 | 上石津町 牧田多尾 (石津郡) | 万治元年 | 臨済宗 | 万治元(1658)年、大雄正智を勧請開山とし、万嶽恵俱が成立。平成21(2009)年に養老町高田の24075即心寺と合併し、養老町に即心山乾崇寺が成立した。現在も堂や墓地が残る。 | G |
| 37 | 02216 | | 霊泉山 慈渓寺 | 北方町 (安八郡) | 万治２年 | 臨済宗 | 万治２(1659)年に大円宝鑑国師が成立。末寺に清徳院・円通庵・横倉薬師庵の３ヶ寺がある。 | G、H、I、石仏 |
| 38 | 02218 | | 大悲山 千手寺 | 青野町 (不破郡) | 寛永７年 | 臨済宗 | 北方町慈渓寺末寺。寛永７(1630)年、愚堂國師により成立。明治に妙心寺末となる。 | G |

表12　大垣市参考寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 02219 | | 浄見山<br>瑞雲寺 | 桧町<br>(安八郡) | 寛永元年<br>若しくは<br>元禄５年 | 臨済宗 | 寛永元(1624)年に利山が成立したとする説と、元禄５(1692)年に足利の浄因寺より利山和尚を招き成立したとする説とがある。 | |
| 40 | 02220 | | 乾龍山<br>圓成寺 | 荒尾町<br>(不破郡) | 延宝２年 | 伝天台宗→<br>臨済宗 | 延宝２(1674)年に、霊峯により成立。聴き取りでは、平安時代に瑞巌老師が成立し、天台宗であったとされる。 | G、H、<br>一石G |
| 41 | 02222 | | 善心山<br>大悲院 | 寺内町<br>(安八郡) | 不明 | 臨済宗 | 寛永元年(1624)年、河地重左衛門が大垣田町に一棟の堂を創立したとする説と、寛文２(1662)年大宗が成立したとする説とがある。元禄5(1692)年の大火による焼失後、南寺内村に移転(移転時期不明)。 | |
| 42 | 02225 | | 壽岳山<br>江月寺 | 馬場町<br>(安八郡) | 大正期 | 臨済宗 | 天和２(1682)年、相馨迎西が開基。竹島町で成立され江月庵と号した。明治に西長町に移り、大正に現在地へ移転。 | |
| 43 | 02227 | | 瑞雲山<br>龍松寺 | 長松町<br>(不破郡) | 17世紀後半 | 曹洞宗 | 成立時期不明。大垣全昌寺の文鏡和尚が戸田氏鉄(寛永12(1635)年に大垣藩に入封、慶安４(1651)年に隠居)の帰依で長松に隠居所成立、龍松庵と号す。明暦３(1657)年に全昌寺月光が成立説あり。明治に龍松寺と改称。 | G、H、I、石仏 |
| 44 | 02228 | | 福寿山<br>神宮寺 | 綾野<br>(不破郡) | 寛永元年 | 曹洞宗 | 寛延元(1748)年に通山が成立して、福寿山神宮庵と称した。報恩寺末寺。近年、神宮寺と改称した。 | G |
| 45 | 02229 | | 薬王寺 | 久瀬川町<br>(安八郡) | 昭和初期 | 曹洞宗 | 元は綾野町の求浄庵。報恩寺の末寺。昭和初めに栃木県安蘇郡田沼町の曹洞宗薬王寺をここに移し、寺号を薬王寺と改めた。 | G |
| 46 | 02230 | | 法性寺 | 荒尾町<br>(不破郡) | 明治35年 | 曹洞宗 | 延宝元(1673)年に全昌寺明山和尚が、戸田自寛のために中曽根村に成立説と安永５(1776)年に明山和尚の弟子逸宗が成立説とあり。安永５(1776)年に荒尾村薬師堂の地へ移転し廃絶、明治35(1902)年現在地に再興。 | G、H、石仏 |
| 47 | 02233 | | 洞海山<br>悟空寺 | 上石津町<br>細野<br>(石津郡) | 文化年間 | 曹洞宗 | 文化年間(1804～1818)に員弁郡藤原町篠立長楽寺の枝雲覚瑞が一宇の坊舎を建立し、観音庵(「安楽寺」との記載もあり)と称した。昭和時代に悟空寺として再建。 | G、H、I、石仏 |
| 48 | 02234 | | 冷水山<br>正覚寺 | 船町<br>(安八郡) | 寛文５年 | 曹洞宗 | 寛永17(1640)年に戸田氏鉄が成立。寛文５(1665)年に現在地に移転。移転前の場所は不明。 | G、H、石仏 |
| 49 | 02239 | | 法光山<br>実相寺 | 伝馬町<br>(安八郡) | 寛文12年 | 日蓮宗 | 元和２(1616)年、尊性院日exampleが辰ノ口(東外側町)に成立。寛文12(1672)年に現在地に移転。 | |
| 50 | 02240 | | 妙経山<br>常隆寺 | 船町<br>(安八郡) | 寛永12年 | 日蓮宗 | 慶長15(1610)年に、三河国僧日祷が江州膳所において成立。元和3(1617)年に尼崎へ移ったが、寛永12(1635)年戸田家に従い現在地へ移転。 | G、H、I |
| 51 | 02252 | | 沼波山<br>本明寺 | 番組町<br>(安八郡) | 享保13年<br>若しくは<br>享和３年 | 真宗 | 元禄元(1688)年に安八郡切石村の沼波永玄により成立。享保13(1728)年又は享和３(1803)年に現在地に移転。 | |
| 52 | 02254 | | 極楽院<br>空也堂<br>大垣別院 | 久瀬川町<br>(安八郡) | 不明 | 単立 | 沿革は不明。なお、極楽院空也堂は京都に所在し空也念仏の道場とされる。 | |
| 53 | 02264 | | 都卒山<br>彌勒寺<br>般若院 | 歩行町<br>(安八郡) | 寛文12年 | 真言宗 | 成立時期不明であるが、尼崎に草創。戸田氏鉄の移封に伴い、寛永12(1635)年頃に般若院秀尊により成立。寛文12(1672)年七軒町に寺地を取得。位置不明。 | |
| 54 | 02265 | | 金蔵院 | 新町<br>(安八郡) | 不明 | 真言宗 | 成立時期不明で、元は北新町(現新町)にあった。享和2(1802)年の記録では、秋葉社と脇宮2箇所が存在した。位置不明。 | |
| 55 | 02266 | | 解脱寺廃寺 | 青野町<br>(不破郡) | 不明 | 不明 | 寛文3(1663)年、山城八幡岩本坊(京都府)の増周の隠居所として建立。その後青野へ移転されたが、移転時期・位置は不明。 | |
| 56 | 02267 | | 専修寺 | 南頬町<br>(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明だが、本尊(木中地蔵尊像)は江戸時代の建立である。単誓が開基。 | G |
| 57 | 02270 | | 東光山<br>薬師寺 | 上石津町<br>牧田荻原<br>(石津郡) | 元禄４年 | 臨済宗 | 前身は薬師堂と思われるが詳細不明。元禄４(1691)年に天喜寺の勧請開山とし心応智闇により成立。 | |
| 58 | 02271 | | 真清庵跡 | 上石津町<br>牧田門前<br>(石津郡) | 江戸時代 | 臨済宗 | 江戸時代に宝聚院末寺として成立されたとされるが、寺院の沿革や位置は不明。 | |
| 59 | 02272 | | 浄泉院 | 上石津町<br>牧田上野<br>(石津郡) | 不明 | 真言宗 | 成立時期不明。真言宗の大和国長谷寺末とされる。牛頭天王祠・基礎大明神祠・神明祠・天神祠・白山祠などが存在したという。位置不明。 | |
| 60 | 02273 | | 祥雲山<br>龍泉寺 | 上石津町<br>牧田上野<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 寛永13(1636)年に天喜寺第17世裕谷が成立。位置不明。 | |
| 61 | 02274 | | 安楽寺 | 上石津町<br>牧田乙坂<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 江戸時代に養老町宇田村の大通寺末として成立。位置や沿革の詳細は不明。明治初期には廃寺名簿に記載。 | |
| 62 | 02276 | | 観音院跡 | 上石津町<br>牧田<br>(石津郡) | 不明 | 不明 | 『養老郡志』によると、宝永7(1710)年五月の村調古文書内に、御本丸の寺院として乾崇寺や常法寺などと共に列記。位置不明。 | |
| 63 | 02279 | | 薬師堂 | 上石津町<br>一之瀬<br>川東<br>(石津郡) | 不明 | 不明 | 延宝9(1681)年の村況に「境内東西十三間、南北三十五間、堂宇二間に三間」と記載。聴き取りでは、天喜寺南東部に薬師畑の地名が残るという。位置不明。 | |
| 64 | 02280 | | 桂昌庵 | 上石津町<br>多良<br>祢宜上<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 成立時期不明。正林寺末であり、享保13(1728)年に奥村正覚院の一坊正林坊が「正林寺」となり、その時に桂昌庵を併せたとされる。位置不明。 | |
| 65 | 02281 | | 定林寺 | 上石津町<br>多良上原<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 成立時期及び沿革不明。正林寺の末寺とされる。位置不明。 | |
| 66 | 02282 | | 息耕寺 | 上石津町<br>三ツ里<br>松之木<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 成立時期及び沿革不明。元禄10(1697)年には本覚寺末となったものと思われる。多良松之木(現三ツ里)に存在したとされるが、位置不明。 | |

## 表13　大垣市参考寺院一覧表（4）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 67 | 02283 | | 明光山<br>浄法寺 | 上石津町<br>三ツ里<br>松之木<br>(石津郡) | 明和４年 | 浄土宗 | **成立時期不明。知恩院末。元は時村大字上(02283b)にあったが、明和４(1767)年に現在地に移転。大正末期に松之木平に移築された（位置不明）。地元の方への聴き取りによると、02283bは、時地区字上の中組鶯谷、延坂へ向かう道路の入口東脇の山裾に存在したといい、平坦面を確認した。** | |
| 68 | 02283b | | 浄法寺旧境内 | 上石津町<br>時<br>(石津郡) | 明和４年以前 | | | |
| 69 | 02284 | | 隠大寺 | 上石津町<br>宮羽ヶ原<br>(石津郡) | 延宝元年以前 | 不明 | **成立時期不明、津島神社の延宝元(1673)年棟札に隠大寺の社僧が加持祈祷の記載あり。元禄３(1690)年、隠大寺境内に正覚院が移転し合併。明治初年まで共存。多良大神神社の神宮寺。** | |

## 表14　海津市寺院一覧表（1）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略図 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 21003 | | 慈眼山<br>瑞應院 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 伝天平15年 | 法相宗→<br>真言宗 | 天平15(743)年、行基により成立と伝わる。元は法相宗であったが、後、真言宗智山派に転宗した。元は千手院と称していたが、元禄5(1692)年に瑞応院と改めた。 | G、H、I、<br>石仏 | | P4 |
| 2 | 21004 | | 臥龍山<br>行基寺 | 南濃町<br>上野河戸<br>(石津郡) | 天明元年 | ？→<br>浄土宗 | 聖武天皇勅願により行基が開基。元禄13(1700)年松平摂津守義行が高須に封ぜられる際に臥龍山菩提寺の再興を望み、宝永2(1705)年に再興、臥龍山行基寺と称した。高須藩主の菩提寺。永和3(1377)年銘の板碑残る。元は本堂裏山の上の七重塔は、建武・元弘の乱(1331～1336)に兵火をまぬがれ天明元(1781)年現在地へ移転。 | G、H、I、<br>石仏、<br>板碑、層塔 | | |
| 3 | 21004b | | 行基寺旧境内<br>(行基寺跡) | 南濃町<br>上野河戸<br>(石津郡) | 14世紀前半以前 | | | | | P3 |
| 4 | **21008** | | 三輪山<br>圓満寺 | 南濃町<br>庭田<br>(石津郡) | 天正元年 | 法相宗→<br>天台宗→<br>浄土宗 | 天智天皇７(668)年に行基が開基した、聖武天皇の勅願寺。現在地より約1.5km北西の三輪に七堂伽藍その他十二神十二の別院を建立。延暦23(804)年、法相宗から天台宗に転宗。南北朝の戦で焼失。天正元(1573)年に現在地に小堂を建て、延宝3(1675)年に堂宇完成。貞享元(1684)年、浄土宗に転宗。 | G、I、石仏 | | P3 |
| 5 | **21009** | | 志津山<br>善教寺 | 南濃町<br>志津<br>(多芸郡) | 元応年間以前 | 天台宗→<br>浄土宗 | 成立時期不明。元は天台宗に属し、勢至山岩井坊善教寺と称した。元応年間(1319～21)、相州正宗の門人志津三郎兼氏が境内に居住。天正年間(1573～92)、信長の兵火により焼失し、元和(1615～24)年間には山伏密蔵院が住職となった。天和年間(1681～84)、慈眼寺住職典南和尚が再建、勢至山善教寺と改称。元禄３(1690)年、大垣円通寺聴誉和尚が浄土宗に転宗し、志津山東向院善教寺と改称。 | G、H、I、<br>板碑型G、<br>石仏 | | P3 |
| 6 | **21013** | | 福聚山<br>慈眼寺 | 南濃町<br>津屋<br>(多芸郡) | 17世紀前半 | 天台宗→<br>浄土宗 | 嘉祥２(849)年成立。多芸七坊の一つで天台宗。福寿山藤内寺と称し等の原にあった。嘉承年間(1106～08)円通寺と改称。慶長10(1605)年に浄土宗に転宗、慈眼寺と改称。高須城主徳永昌重が現在地に堂宇建立、福寿山慈眼寺と称す。 | | | |
| 7 | **21017** | | 西福寺 | 平田町<br>野寺<br>(海西郡) | 永正14年 | 真宗 | 延徳３(1491)年、慶瑞が中島郡堀津村に一宇を成立し慶覚寺と称した。永正14(1517)年、洪水により現在地に移転し、寺号を西福寺に改称。 | | | O4 |
| 8 | **21018** | | 浄圓寺 | 南濃町<br>山崎<br>(石津郡) | 永禄４年 | 真宗 | 永禄４(1561)年、浄国寺の了古が開基。尾張国甲新田正琳寺末。 | | | P3 |
| 9 | **21020** | | 光照山<br>桂林寺 | 南濃町<br>志津<br>(多芸郡) | 大永３年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は天台宗であったが、大永３(1523)年に住職教意が真宗に転宗し、脩蔵坊と称した。慶安2(1649)年に桂林寺と改称。西願寺末寺。 | | | P3 |
| 10 | **21022** | | 空覚山<br>覺琳寺 | 海津町<br>長瀬<br>(海西郡) | 文禄３年 | 真宗 | 文禄３(1594)年、西敬により成立。 | | | P4 |
| 11 | **21023** | | 三国山<br>榮涌寺 | 海津町<br>福江<br>(石津郡) | 応永・正平23年 | 真宗 | 応永元・正平23(1368)年、実恵により成立。 | | | P4 |
| 12 | **21026** | | 龍華山<br>常休寺 | 海津町<br>秋江<br>(海西郡) | 文亀元年 | 真宗 | 文亀元(1501)年、善西により成立。 | | | P4 |
| 13 | **21027** | | 金剛山<br>願信寺 | 海津町<br>萱野<br>(石津郡) | 慶長９年 | 真宗 | 慶長９(1604)年、祐了により成立。天文日記の五年四月廿六日の条に「勢州尾州濃州、此三ヶ国へ、周休を差下並上野状下、申事には、今度願証寺住生言語同断也」とある。 | | | |
| 14 | **21028** | | 坂本山<br>教西寺 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 慶長９年 | 真宗 | 慶長9(1604)年、西教により成立。 | | | |
| 15 | **21029** | | 宝樹山<br>唯善寺 | 海津町<br>平原<br>(安八郡) | 寛正７年 | 真宗 | 成立時期不明であるが、開基は唯善。寛正７(1466)年、草庵で俗道場を開いた。永正11(1514)年唯善寺の寺号を得た。 | | | P4 |
| 16 | **21031** | | 丹後山<br>蓮徳寺 | 海津町<br>西小島<br>(石津郡) | 文安２年 | 真宗 | 文安２(1445)年、徳応により成立。 | | | P3 |
| 17 | **21033** | | 求聞呪山<br>安養坊 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 寛永元年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。天台宗に属し下石津郡上野河戸村にあったが、その後、伊勢国南郷別保村に移転。寛永元(1624)年、正玄が真宗に転宗し現在地へ移転。 | | | |
| 18 | **21036** | | 一乗山<br>浄圓寺 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 明応２年 | 真宗 | 明応２(1493)年、賢法により成立。 | 石仏 | | P4 |
| 19 | **21038** | | 一竹山<br>覺念寺 | 海津町<br>札野<br>(石津郡) | 明応２年 | 真宗 | 明応２(1493)年、明寂により成立。 | | | P4 |

表15　海津市寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 21039 | | 藤白山<br>皆得寺 | 海津町<br>外浜<br>（海西郡） | 天文８年 | 真宗 | 天文８(1539)年、祟俊により成立。 | | | P4 |
| 21 | 21041 | | 松尾山<br>専敬寺 | 海津町<br>大和田<br>（海西郡） | 文明３年 | 真宗 | 文明３(1471)年、常通により成立。 | | | P4 |
| 22 | 21042 | | 大和田山<br>應譽寺 | 海津町<br>大和田<br>（海西郡） | 明応元年 | 真宗 | 明応元(1492)年、祐念により成立。 | | | P4 |
| 23 | 21045 | | 比栄山<br>運蓮寺 | 海津町<br>松木<br>（海西郡） | 慶安５年 | 真宗 | 文明10(1478)年正順が尾張国中島郡大和田郷に成立、蓮台寺と称。天正２(1574)年同国竹腰村へ移転。寛永３(1626)年、美濃国中島郡大須村に慶安５(1652)年に現在地に移転。 | G | | |
| 24 | 21046 | | 慧日山<br>頓了寺 | 海津町<br>平原<br>（安八郡） | 応永24年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。頓了は駒野に法道場開き天台宗恵日院と称。応永24(1417)年、現在地に移転。元は天台宗で寛正元(1460)年に転宗寺号を慧日山頓了寺に改称。 | | | P4 |
| 25 | 21047 | | 多羅乗山<br>良源寺 | 海津町<br>日原<br>（海西郡） | 不明 | 真宗 | 文明３(1471)年、苑源により成立。聴き取りによると、かつては長良川・揖斐川の付近にあり、後現在地に移転したという。移転時期不明。 | | | |
| 26 | 21048 | | 寺尾山<br>徳恩寺 | 南濃町<br>庭田<br>（石津郡） | 元禄２年 | 法相宗→<br>天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明、行基が開基と伝。法相宗で寺尾山元休院と称。延暦23(804)年、天台宗に転宗。文安元(1444)年、空観が同村字堂前に再建し真宗に転宗。慶安２(1649)年徳恩寺と改称。元禄２(1689)年、大字庭田字中道に移転。 | G、石仏 | | |
| 27 | 21049 | | 無量寿山<br>来入寺 | 南濃町<br>庭田<br>（石津郡） | 伝推古天皇７年 | 法相宗→<br>天台宗→<br>真宗 | 推古天皇7(599)年、聖徳太子が創立。元は法相宗であったが、天台宗のち真宗に転宗。慶長５(1600)年、教如が当寺へ入輿。 | | | P3 |
| 28 | 21050 | | 水晶山<br>願超寺 | 南濃町<br>羽沢<br>（石津郡） | 寛永20年 | 真宗 | 天文19(1550)年、願正(忠右衛門)により成立。寛永20(1643)年、勢州桑名郡香取村立勝寺祐念法師を招き一宇を建立。 | | | |
| 29 | 21051 | | 駒野山<br>三台院<br>南明寺 | 南濃町<br>駒野<br>（石津郡） | 永正元年 | 天台宗→<br>真宗 | 永正元(1504)年、竜暁院源正法師が開基。天台宗に属し野寺と称した。南無妙寺と号し、寛政元(1789)年、真宗に転宗し南明寺に改称。 | G、H | | P3 |
| 30 | 21052 | | 信夫山<br>緑林寺 | 海津町<br>鹿野<br>（海西郡） | 天正17年 | 真宗 | 天正17(1589)年、明順により成立。 | | | P4 |
| 31 | 21055 | | 御崎山<br>眞宗寺 | 海津町<br>高須<br>（石津郡） | 寛永３年 | 真宗 | 応仁元(1467)年、祐正が成立。天正年間(1573～1592)、尾張国海西郡早尾村に移転し、寛永３(1626)年現在地へ移転。 | | | |
| 32 | 21056 | | 雲龍山<br>報土寺 | 海津町<br>成戸<br>（海西郡） | 建保５年 | 真宗 | 建保５(1217)年、慶円により成立。 | | | P4 |
| 33 | 21057 | | 弘誓山<br>誓賢寺 | 海津町<br>長久保<br>（海西郡） | 文明12年 | 真宗 | 文明12(1480)年、道願により成立。享保18(1733)年の文書によると、西願寺末の誓玄寺と称した。 | | | P4 |
| 34 | 21059 | | 文明山<br>安立寺 | 海津町<br>大字瀬古<br>（海西郡） | 天正18年 | 真宗 | 天正18(1590)年、法泉により成立。 | | | P4 |
| 35 | 21060 | | 臥龍山<br>随順寺 | 海津町<br>深浜<br>（石津郡） | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 天文３(1534)年、南柳により成立。聴き取りによると、元は天台宗で、愛知県愛西市随順寺からこの地に移転したという。移転時期不明。 | | | |
| 36 | 21061 | | 大悲山<br>願船寺 | 海津町<br>安田<br>（石津郡） | 文明13年 | 真宗 | 文明13(1481)年、恵教により成立。 | | | P4 |
| 37 | 21062 | | 薬王山<br>浄福寺 | 海津町<br>秋江<br>（海西郡） | 文亀４年 | 真宗 | 文亀4(1504)年、福浄により成立。 | | | P4 |
| 38 | 21063 | | 横座山<br>浄嚴寺 | 南濃町<br>徳田<br>（石津郡） | 享保20年 | 真宗 | 享禄４(1531)年に祐証が開基し真宗に属した。寛６(1666)年焼失し、元禄14(1701)年に堂宇を建立。享保20(1735)年に現在地に移転。聴き取りでは、元天台宗で北西の山麓にあり火災後に現在地に移転したという。旧境内の詳細な位置不明。 | | | |
| 39 | 21064 | | 獅子孔山<br>遠久院<br><br>津屋山<br>本慶寺 | 南濃町<br>津屋<br>（多芸郡） | 明応元年 | 天台宗→<br>真宗 | 伝行基成立。獅子孔山遠久寺と称し江州犬上郡河瀬庄にあった。宗念(川瀬源吾左衛門貞信)が志津村に獅子孔山遠久寺禅坊を建立。後、野中に移築。元は天台宗、寛正4年(1463)に真宗に転宗。文正元年(1466)本慶寺と改称。他説では、文明２(1470)年に了専(貞信)が真宗に帰依し志津野中に成立。長享元(1487)年に中屋敷に移り、明応元(1492)年に領主の供養のため現在地(津屋城内)に移す。 | | | O3 |
| 40 | 21065 | | 願海寺 | 南濃町<br>太田<br>（石津郡） | 天文18年 | 真宗 | 天文18(1549)年、太田休順開基。 | | | P4 |
| 41 | 21066 | | 聖福山<br>了圓寺 | 南濃町<br>境<br>（石津郡） | 慶長８年 | 真宗 | 慶長８(1603)年、稲岡円教により成立。 | | | Q4 |
| 42 | 21068 | | 般若山<br>清淨寺 | 南濃町<br>安江<br>（石津郡） | 永禄６年 | 真宗 | 永禄６(1563)年、岡田清兵衛が顕如上人に帰依し釈了教を称した。 | | | P3 |
| 43 | 21070 | | 竜暁山<br>徳永寺 | 南濃町<br>駒野<br>（石津郡） | 安永年間 | 真宗 | 永正元年(1504)、竜暁院源正法師が成立、野寺と称。後に再興し唯仏寺に改、慶長年間(1596～1615)に高須城主の命で徳永寺と改称。寛永12(1635)年に城山麓に堂宇構え、安永年間(1772～81)に城移転のため現在地に移転。 | G、H、石仏 | | |

表16　海津市寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44 | 21071 | | 龍華山 西淨寺 | 南濃町 上野河戸 (石津郡) | 天正元年 | 真宗 | 天正元(1573)年、正林により成立。 | | | P3 |
| 45 | 21072 | | 梅木山大専寺 | 南濃町 羽沢 (石津郡) | 大永５年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。寺石津郡河戸庄山麓伊崎にあり天台宗。大永５(1525)年、善海法師が真宗に転宗し現在地に移転。梅木山大仙寺と称。延宝５(1677)年、大専寺に改称。 | G、H、I、石仏 | | P3 |
| 46 | 21073 | | 瑞雲山 龍芳寺 | 南濃町 上野河戸 (石津郡) | 大永３年 | 伝天台宗→真宗 | 大永3(1523)年、慶順により成立。聴き取りでは、元天台宗であったというが、転宗時期不明。 | G、H、板碑形G、石仏 | | P3 |
| 47 | 21074 | | 蓮華山 存徳寺 | 南濃町 山崎 (石津郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明、天台宗で蓮華寺と称。文安元(1444)年、西蔵坊行空が再興し真宗に転宗。聴取で元は北谷蓮華台・山崎大門にあった。 | | | |
| 48 | 21076 | | 仏照山 順照寺 | 平田町 仏師川 (安八郡) | 大永２年 | 真宗 | 大永２(1522)年成立、開基は貝沼西生。西願寺末寺。享保18(1733)年の文書には順正寺と記載。 | | | 04 |
| 49 | 21077 | | 紫雲山 覚明寺 | 平田町 三郷 (安八郡) | 文明５年以降 | 真言宗→真宗 | 文明５(1473)年成立、法性寺と称した。始め真言宗。信徳者の森八瀬により現在地に移転、浄専坊を請じ開基とした。明応年間(1492～1501)に、覚明寺の寺号を得て真宗に転宗。 | G、石仏 | | 04 |
| 50 | 21078 | | 善導山 龍善寺 | 平田町 仏師川 (安八郡) | 慶長４年 | 真宗 | 慶長４(1599)年、貝沼法円が成立。西願寺末寺。 | | | 04 |
| 51 | 21079 | | 法性山 萬念寺 | 平田町 幡長 (海西郡) | 文明10年 | 真宗 | 文明10(1478)年に円順が開基し、万念寺の寺号を得た(前念寺とする説もある)。 | | | 04 |
| 52 | 21080 | | 極楽山 正休寺 | 平田町 野寺 (海西郡) | 永正３年 | 真宗 | 永正３(1506)年に正休が開基し、正林寺と称した。 | G | | 04 |
| 53 | 21081 | | 式部山 西雲寺 | 平田町 岡 (海西郡) | 永禄７年 | 真宗 | 永禄７(1564)年、尾州藩の八神磐主毛利元盛の子了恵(毛利式部)が成立。 | | | 04 |
| 54 | 21082 | | 正法山 西源寺 | 平田町 今尾 (安八郡) | 慶長15年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。元は天台宗であったが、天文７(1538)年、覚恵(三輪門之丞義正)が真宗に転宗、西源寺の寺号を得た。成戸村報土寺末寺。慶長15(1610)年、今尾村に移転。 | | | |
| 55 | 21083 | | 黄金山 専通寺 | 南濃町 奥条 (石津郡) | 寛永２年頃 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明であるが、元は天台宗に属した。寛永２(1625)年に義道が開基。東本願寺末。 | | | |
| 56 | 21084 | | 宝池山 大乗院 明蓮寺 | 平田町 西島 (安八郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 元は天台宗、文明元(1469)年に心子が転宗、前念寺と称。他説で木村にあり寺門散光輪坊が法相宗真福寺を八幡宮地前に移転、宝池山大乗院妙蓮寺と改称。文明年間(1469～87)報土寺末寺、大永２(1522)年に真宗の道場、慶長９(1604)年に明蓮寺と改称。現在地への移転時期不明。 | | | |
| 57 | 21085 | | 不動山 円超寺 | 平田町 勝賀 (安八郡) | 宝徳３年以前 | 真言宗→真宗 | 成立時期不明。元は真言宗に属し法性坊と称した。宝徳３(1451)年又は延徳２(1490)年に真宗に転宗。第3世了西が円超寺と改称。 | G | | 04 |
| 58 | 21087 | | 紫雲山 中嶋寺 | 南濃町 吉田 (石津郡) | 天正７年 | 真宗 | 天正７(1579)年、水谷祐浄が開基。元和７(1621)年に全正寺の寺号を得たが、延宝３(1675)年に中嶋寺と改称。 | | | P4 |
| 59 | 21089 | | 明照山 妙勝寺 | 平田町 蛇池 (安八郡) | 徳治元年以前 | 真言宗→真宗 | 成立時期不明。開基は真澄(徳治元(1306)年没)。元は真言宗であったが、宗祖大師に帰依した際に真宗に転宗。 | | | 04 |
| 60 | 21090 | | 金色山 円光寺 | 平田町 者結 (海西郡) | 寛文４年 | 真宗 | 慶長２(1597)年、安八郡則安村に浄念が成立。寛永２(1625)年に海西郡野市場村に、さらに寛文4(1627)年に現在地に移る。 | G、H、石仏 | | |
| 61 | 21091 | | 鳳雲山 蓮休寺 | 平田町 三郷 (安八郡) | 文亀元年 | 天台宗→真宗 | 文亀元(1501)年、天台宗の東尋坊(中島西郎左衛門)により成立。寛永14(1637)年、真宗に転宗。成戸報土寺末。 | G、石仏 | | 04 |
| 62 | 21092 | | 三光山 浄圓寺 | 平田町 須賀 (安八郡) | 不明 | 真宗 | 応仁２(1468)年に慶祐が成立。第５代釈浄円の頃に勝村に道場を建て、後に現在地に移転。移転時期不明。 | G、石仏 | | |
| 63 | 21094 | | 今尾山 浄徳寺 | 平田町 今尾 (安八郡) | 文明12年 | 真宗 | 文明12年(1480)、祐勝開基。６世徳浄(元今尾城主)が浄徳寺の寺号を得た。 | | | 04 |
| 64 | 21095 | | 高橋山 浄雲寺 | 平田町 土倉 (安八郡) | 永正16年 | 真宗 | 西仁が承元元(1207)年法然上人を館に招待。高橋左近将真は西仁の意を継ぎ、本願寺三世覚如上人に帰依、浄了が本願寺の徒弟となり永正16(1519)年に寺号賜る。 | | | P3 |
| 65 | 21096 | | 安住山 真光寺 | 平田町 脇野 (安八郡) | 元禄年間 | 天台宗→真宗 | 永正７(1510)年、玄祐が成立。天台宗に属し伊勢国にあった。空正の代に真宗に転宗し美濃国西郷に移住。後に高須町に、さらに元禄年間(1688～1704)に現在地に移転。 | G | | |
| 66 | 21097 | | 紫雲山 安証寺 | 平田町 高田 (安八郡) | 中世か | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。元は天台宗であったが、教如上人(慶長19(1614)年没)に帰依し、宣如上人(万治元(1658)年没)の時、惣道場安証寺の号を得た。東本願寺末。 | | | P4 |
| 67 | 21098 | | 小笠原山 西願寺 | 平田町 今尾 (安八郡) | 伝寛政２年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明であるが、天台宗に属し尾州松山にあった。天福元年(1233)、願心房が真宗に転宗し西願寺に改称。文暦年間(1234～1235)、濃州安八郡脇田村に移り、更に松ノ木村に、再び脇田村に戻り、後現在地に移転(寛政２(1790)年に城郭拡張のため移転)。天正期に16寺、享保18年に24寺の末寺あり、安八・海西・不破3郡の他、尾張国に勢力が及んでいたとされる。 | G | | |

表17　海津市寺院一覧表（4）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略須 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 68 | 21099 | | 寺東山 西林寺 | 海津町高須(石津郡) | 慶長7年 | 真宗 | 慶長7（1602）年、慶祖により成立。 | | | P4 |
| 69 | 21102 | | 普儀山 寒塵寺 | 南濃町上野新戸(石津郡) | 承応3年以降 | 法相宗?→臨済宗 | 天平年間(729～749)、聖武天皇の勅命で行基が成立と伝わる。承応3（1654）年、高須城主小笠原上佐守貞信が鳥獣山普慶寺を再興し、鳥獣山寒塵寺と改めた（21098)。現境内南西側)、その後、越州勝山海禅寺二世何道和尚が再興し、普儀山寒塵寺に改称。成立当初の旧境内は位置不明。 | 6、石仏 | | |
| 70 | 21102b | | 寒塵寺旧境内 | 南濃町上野新戸(石津郡) | 承応3年 | | | | | |
| 71 | 21106 | | 万歳山 廣徳寺 | 海津町高須(石津郡) | 慶長6年 | 臨済宗 | 成立時期は不明。興禅寺と称し安八郡直江村で開基、夢和開山という。慶長6（1601）年に高須村に移転し、広徳寺と改称。 | | | P4 |
| 72 | 21109 | | 瑞祥山 圓成寺 | 南濃町太田(石津郡) | 宝永5年 | 天台宗→普賢宗 | 天平6（734）年、行基が開基、天台宗。天文5（1536）年、智空中興普賢宗に転宗、守護小笹薫城主太田左馬之助頼高の菩提寺、長島一揆で焼失。宝永5（1708）年、小笹妙応寺18世霊山開山、堂基が現在地に再建、享保4（1719）年圓成寺に改称。 | | | |
| 73 | 21110 | | 普井山 最勝寺 | 平田町今尾(安八郡) | 元禄5年以前 | 天台宗→普賢宗 | 成立時期不明。元禄天台宗に属したが、元禄5（1692）年、第17世徹品良英和尚が普賢宗に転宗。開ク原の妙応寺末。 | | | 03 |
| 74 | 21113 | | 華光山 常栄寺 | 平田町今尾(安八郡) | 慶長10年 | 日蓮宗 | 成立時期不明。宇能地付近にあった。慶長10（1605）年、京都妙伝寺日恵聖人が開基となり今尾城主が現在地へ移転、山号を市橋山とした。元和5（1619）年に山号を華光山と改称。 | 6 | | |
| 75 | 21115 | | 春日山 鹿野薬師 真福寺 | 不明 | 不明 | 法相宗→真言宗? | 成立時期不明。09005独林寺とともに土城郷遠の祈祷所。法相宗に属し木村にあり春日山鹿野薬師真福寺と称。度々洪水により堂宇流れ小堂を再建。元延保徴村父子の菩提地に建立。中島郡首堂と称。近国6か国の真言宗の本寺であり番頭も12坊を数えた。位置不明。 | | | |
| 76 | 21116 | | 福林寺 | 平田町今尾(安八郡) | 不明 | 真言宗か | 成立時期不明。大須宝生院所蔵の高野山秘記奥書に「康永四年書州郡戸江内今尾福林寺」と記載。位置不明。等経の種類から真言宗であった可能性がある。 | | | |
| 77 | 21117 | | 高田寺 | 平田町今尾高田(安八郡) | 不明 | 不明 | 天平宝字7（763）年、前監物主典従七位上高田登足人が高田寺の僧を救して駆、封を没収さる。この高田寺と奈良県桜井市高田の高田寺を本寺説あり。位置不明。 | | | |
| 78 | 21118 | | 増福寺 | 平田町蛇池(安八郡) | 不明 | 真言宗 | 成立時期不明であるが、真言宗に属したとされる。一宮市光寺所蔵の泰日版大般若経7巻の裏面に「美濃国墨田郡増福寺」と魚形の墨印が押捺されている。この増福寺は墨田郡落の南方の字増福にあったが慶長8（1603)年の洪水で寺が流亡し、元禄頃今の墨地にあった蛇池宝篋印塔を宝地寺に移したという。位置不明。 | | | |
| 79 | 21119 | | 観音寺 | 平田町勝賀(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。勝村郷内の鳩森神社の神宮寺であり、観応3（1352）年に同神社の称宜が社領の一部を観音寺に寄進したとされる。位置不明。 | | | |
| 80 | 21120 | | 普賢院 超光寺 | 平田町野寺(海西郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。海西郡野寺村にあり、伝教大師成立とされる。位置不明。 | | | |

表18　海津市参考寺院一覧表（1）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 21001 | | 高野山 弘正寺 | 平田町今尾(安八郡) | 不明 | 真言宗 | **成立時期及び沿革不明。** | |
| 2 | 21002 | | 南山東天寺 徴会 | 南濃町駒野(石津郡) | 不明 | 真言宗 | **成立時期不明及び沿革不明。** | |
| 3 | 21005 | | 護国山 宝延寺 | 平田町蛇池(安八郡) | 不明 | 浄土宗 | **成立時期及び詳細な沿革不明。明治維新の際、廃寺となった。境内の板光塔(蛇池宝篋印塔)や石塔婆は、慶長8年(1603)年の洪水で増福寺が流亡したため移転されたという。** | 6、1 |
| 4 | 21006 | | 宝樹院 | 南濃町山崎(石津郡) | 貞享年間 | 浄土宗 | **貞享年間(1684～1688)、高須円心寺の法誉が当地へ隠居の際に、本寺中の院号を移転。** | 1 |
| 5 | 21007 | | 明徳山 薬師寺 | 平田町須賀(安八郡) | 享保元年以前 | 浄土宗 | **成立時期は不明。享保元(1716)年に教法院寺教師が再興。** | 6、石仏 |
| 6 | 21010 | | 稲運庵 | 南濃町志津(多芸郡) | 寛正11年 | 浄土宗 | **寛政11(1799)年、志津山善教寺の稲運社神官上人が念仏道場の私庵として開基、稲運庵と称した。** | |
| 7 | 21011 | | 瓢行山 圓心寺 | 海津町高須(石津郡) | 元和6年 | 浄土宗 | **元和6（1620）年、緑山により成立。庫裏内に文政8（1825）年作の地図あり、本寺の位置に「満福山圓心寺」と記載あり。** | 6、1、石仏 |
| 8 | 21012 | | 臨迎寺 | 南濃町志津(多芸郡) | 不明 | 浄土宗 | **成立時期不明。元は庭田円満寺の塔頭で庭田字三輪にあり、臨迎寺と称した。円満寺は供良舟智海が移転。移転時期不明。** | |

表19　海津市参考寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 21014 | | 提徳院 | 海津町福岡(石津郡) | 正徳２年 | 浄土宗 | **正徳２(1712)年、道心により成立。現在は「福岡多目的集会場」で、半鐘が掛ら「禮徳院」の札を掲げる。札には「円心寺十九世」の記載あり。** | |
| 10 | 21015 | | 高西山地蔵寺 | 海津町高須(石津郡) | 享保11年 | 浄土宗 | **享保11(1726)年、緑山により成立。** | 石仏 |
| 11 | 21016 | | 宝明山増誉光院集勝寺 | 海津町帆引新田(石津郡) | 宝暦10年 | 浄土宗 | 宝暦10(1760)年、尊柔により成立。 | |
| 12 | 21019 | | **宝林山西方寺** | 海津町平原(安八郡) | **慶安元年** | 真宗 | **慶安元(1648)年、西方が成立。蓮如上人真影の裏書に「濃州石津郡河戸庄内成田、内野小堤村」と記載。** | |
| 13 | 21021 | | 如意山安楽寺 | 海津町第一色(海西郡) | 元和７年 | 真宗 | **元和７(1621)年、福尊により成立。** | |
| 14 | 21024 | | 霊雲山道閑寺 | 海津町駒ケ江(海西郡) | 正保３年 | 真宗 | **正保３(1646)年、西敬により成立。** | |
| 15 | 21025 | | 法龍山惇受寺 | 海津町金廻(桑名郡) | 元和元年 | 真宗 | **元和元(1615)年成立。** | |
| 16 | 21030 | | 高須別院二恩寺 | 海津町高須(石津郡) | 文政12年 | 真宗 | **文政12(1829)年、連如開基により桑名御坊掛所として建立。安政年間(1854～1860)に成立し、明治11(1878)年に別院と改称。** | |
| 17 | 21032 | | 水間山弘円寺 | 海津町高須(石津郡) | 正保３年 | 真宗 | **正保３(1646)年、祐心により成立。** | 石仏 |
| 18 | 21034 | | 熊谷山皆善寺 | 南濃町戸田(石津郡) | 17世紀前半頃 | 真宗 | **了伝が養老山中三宝山にて専ら念仏修行し寺基を開く。宜如筆御讃付の宗祖御影から、当寺の開基は宜如(万治元(1658)年没)時代と考えられている。** | |
| 19 | 21035 | | 輝脱山満勝寺 | 海津町福山(石津郡) | 正保元年 | 真宗 | **正保元(1644)年、祐意により成立。** | |
| 20 | 21037 | | 光照山仏寺寺 | 海津町東小島(石津郡) | 延宝２年 | 真宗 | 延宝２(1674)年、宗存により成立。 | |
| 21 | 21040 | | 桑原山蓮念寺 | 海津町立野(海西郡) | 寛文10年 | 真宗 | 寛文10(1670)年、明林により成立。 | |
| 22 | 21043 | | 高津山願立寺 | 海津町高須(石津郡) | 慶長19年 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明であるが、天台宗に属した。慶長19(1614)年、了意が成立。 | |
| 23 | 21044 | | 榮光山龍蓮寺 | 海津町馬目(石津郡) | 慶長19年 | 真宗 | **慶長19(1614)年、証賢により成立。** | |
| 24 | 21053 | | 光輪山圓満寺 | 海津町神郷(海西郡) | 慶長13年 | 真宗 | 慶長13(1608)年、了賢により成立。 | |
| 25 | 21054 | | 最勝山正念寺 | 海津町札野(石津郡) | 延宝元年 | 真宗 | 延宝元(1673)年、正善により成立。 | |
| 26 | 21058 | | 鵜泉山統攝寺 | 海津町帆引新田(石津郡) | 正徳２年 | 真宗 | 正徳２(1712)年、浄泉により成立。 | |
| 27 | 21067 | | 西敬寺 | 南濃町奥(石津郡) | 慶長16年以降 | 真宗 | 慶長16(1611)年、祐珍法師が開基。元伊勢国寺取にあったが、2代祐照法師が現在地に移転。 | |
| 28 | 21069 | | 安田山教覚寺 | 南濃町田鶴(石津郡) | 延宝５年以降 | 真宗 | 慶安４(1651)年、小笠原土佐守貞信公から法泉寺が太田新田に新たな寺屋敷を賜り、延宝５(1677)年に教覚寺の寺号を得た。その後、度重なる水害のため移転(移転時期は不明)。 | |
| 29 | 21075 | | 円通寺 | 平田町松島(安八郡) | 享保元年 | 真宗 | 享保元(1716)年、実応により成立。 | 6 |
| 30 | 21086 | | 顯超寺 | 南濃町松山(石津郡) | 寛永20年 | 真宗 | 寛永20(1643)年、祐念開基。聴き取りによると、祐念は多度町柚井立勝寺の僧であり、初めは温場であったという。 | |
| 31 | 21088 | | 梅松山阿弥陀寺 | 平田町三郷(安八郡) | 寛永２年 | 真宗 | 寛永２(1625)年、願蓮により成立。聴き取りでは、地頭地主であった平川家の菩として建立されたという。 | |
| 32 | 21093 | | 光円寺 | 平田町脇野(安八郡) | 不明 | 真宗 | 成立時期不明であるが開基は顕清。 | |
| 33 | 21100 | | 龍蓮寺 | 南濃町津屋(多賀郡) | 不明 | 真宗 | 詳細不明。現地には神社あり。 | |
| 34 | 21101 | | 貞松山長江院 | 平田町野寺(海西郡) | 安永２年 | 臨済宗 | 安永２(1773)年、安八郡下大博村心岩院天堂が成立。 | 6 |

## 表20　海津市参考寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 21103 | | 大悲山<br>覚法寺 | 南濃町<br>上野河戸<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 宝永２(1705)年、委心により成立。江州伊庭庄法光寺末。 | G、I |
| 36 | 21104 | | 円成寺 | 海津町<br>帆引新田<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 貞享2(1685)年、諦善により成立。位置不明。 | |
| 37 | 21105 | | 三宝山<br>真正寺 | 南濃町<br>奥条<br>(石津郡) | 不明 | 臨済宗 | 成立時期不明及び沿革不明。 | G、H、I、石仏 |
| 38 | 21107 | | 秋江山<br>清光院 | 海津町<br>秋江<br>(海西郡) | 寛文３年 | 曹洞宗 | 寛文３(1663)年、亀春により成立。 | |
| 39 | 21108 | | 石津山<br>昌運寺 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 万治２年 | 曹洞宗 | 万治２(1659)年、巽川により成立。 | G、H、石仏 |
| 40 | 21111 | | 宝珠山<br>春光寺 | 海津町<br>鹿野<br>(海西郡) | 不明 | 曹洞宗 | 成立時期及び沿革不明。 | |
| 41 | 21112 | | 啓運山<br>法華寺 | 海津町<br>高須<br>(石津郡) | 元禄15年 | 日蓮宗 | 元禄15(1702)年、弘誓により成立。境内管理する方によると、高須の殿様が祈願寺として建てたといい、「高須日記」中に法華寺の記載残る。境内北東部に本堂跡地の高台あり。 | G |
| 42 | 21121 | | 偕秀山<br>開善寺 | 平田町<br>高須<br>(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。元禄４(1691年)年に高須藩主小笠原貞信が越前国勝山に移封の際に禅海寺と改。大正時代に廃寺、寒窓寺に合併。圓心寺蔵の文政８(1825)年絵図に「偕秀山開善寺」と記載、本寺は圓心寺の西側にあり。 | |
| 43 | 21122 | | 智通寺 | 平田町<br>今尾元町<br>(安八郡) | 不明 | 真宗 | 成立時期は不明。寛文12(1672)年、今尾元町から大牧新田に移転。位置不明。 | |
| 44 | 21123 | | 長休寺 | 平田町<br>今尾東町<br>(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期は不明である。三州野寺村本証寺末寺。享保９(1724)年、今尾東町から安八郡大吉新田に移転。位置不明。 | |
| 45 | 21124 | | 竜王院 | 海津町<br>馬目<br>(石津郡) | 不明 | 不明 | 元禄15(1702)年、弘誓が開基。昭和36年に廃寺となる。位置不明。 | |
| 46 | 21126 | | 月輪寺 | 南濃町<br>山崎<br>(石津郡) | 不明 | 不明 | **聴き取りによると、愛知県の長福寺別邸という。** | |

## 表21　養老町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略図 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 24001 | | 仏照山<br>玉泉寺 | 金屋<br>(多芸郡) | 応永元年 | 天台宗 | 応永元(1394)年、貞舜の開基といわれている。 | G、H、I、<br>石仏 | | 03 |
| 2 | 24003 | | 護国山<br>久保寺 | 養老<br>(多芸郡) | 昭和２年 | 天台宗 | 昭和２（1927）年に郡上郡長瀧寺山内大日坊を移して久保寺と改称した。 | G、<br>石仏（柏尾廃寺出土） | | |
| 3 | 24010 | | 華光山<br>妙円寺 | 上方<br>(多芸郡) | 文明11年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。文明11（1479）年、真宗本願寺派に転宗。貞享４（1687）年本尊を受け、正徳３（1713）年本堂再建。元は天台宗であったと伝。 | G、I | | 03 |
| 4 | 24011 | | 醍醐山<br>寿量院<br>専了寺 | 栗笠<br>(多芸郡) | 中世 | 天台宗→<br>真宗 | 治承元(1177)年成立。 勢至村にあり勢至千軒寺３か寺の一つ。後、栗笠に移転(移転時期不明)。聴取で元は天台宗、文明17(1485)年に真宗大谷派に転宗。 | G、H、I、<br>板状G、<br>石仏 | | 03 |
| 5 | 24012 | | 満促山<br>覚林寺 | 大野<br>(多芸郡) | 大永２年 | 真宗 | 大永２(1522)年成立。享保６（1721）年に本堂を再建している。 | | | 03 |
| 6 | 24013 | | 寂光山<br>正覚寺 | 安久<br>(多芸郡) | 明治14年以降 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。天台宗であったが、慶長2(1597)年に転宗。明治14(1881)年、牧田川の洪水により堂宇流失。また聴き取りによると、牧田川改修工事により現在地に移転。 | | | |
| 7 | 24014 | | 慈願山<br>徳願寺 | 安久<br>(多芸郡) | 応仁２年 | ？→<br>真宗 | 応仁２(1468)年に伊東彦重郎善光により成立。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。本寺の境内から外の南側には過去に寺院があり、墓地を住職が遺物や墓を安置し直した。 | G、I | | 03 |
| 8 | 24015 | | 藤田山<br>西勝寺 | 宇田<br>(多芸郡) | 鎌倉時代 | 天台宗→<br>禅宗→<br>真宗 | 鎌倉時代の成立で天台宗に属し実相院と称した。貞和６<観応元>・正平５(1350)年に真宗に転宗.応安年間(1368～75)の頃、禅宗に帰依し、最勝寺に改めた.大永６(1526)年、再び真宗大谷派に転宗.元和２(1616)年に西勝寺の寺号を得た。 | G、H、I、<br>石仏、層塔 | | 03 |
| 9 | 24016 | | 椿井山<br>浄誓寺 | 石畑<br>(多芸郡) | 伝古代 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、開基は浄隆(寺伝によると、聖武天皇に随行した行基の弟子という)。天台宗に属し誓願寺と称した。明応４(1495)年に真宗に転宗し浄誓寺と改めた。 | G、H、I、<br>板状G、<br>石仏 | | 03 |
| 10 | 24017 | | 竹林山<br>長願寺 | 室原<br>(不破郡) | 永正10年 | 天台宗→<br>真宗 | 永正10(1513)年僧正応が成立。寺伝によると、元は天台宗であったが、寛永年中(1624～44)真宗大谷派に改宗した。 | | | N3 |
| 11 | 24022 | | 高樹山<br>應順寺 | 中<br>(多芸郡) | 享禄２年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明であるが天台宗に属し、證願寺と称し養老町の上多度村大字小倉にあった.享禄２(1529)年に現在地に移転。真宗大谷派に転宗し応順寺と改めた。 | | | 03 |
| 12 | 24024 | | 永代山<br>称名寺 | 根古地<br>(多芸郡) | 寛永11年 | 天台宗→<br>真宗 | 文永年間(1264～1275)に成立。元は天台宗、永正12(1515)年に転宗.元和年間に今尾町、寛永年間に中郷村に移り、寛永11(1634)年再び当地に戻る。 | | | 03 |
| 13 | 24025 | | 専念寺 | 高田<br>(多芸郡) | 15世紀以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。文化11(1814)年に焼失し由緒不明。蓮如上人(明応8(1499)年没)時に天台宗から転宗。 | G | | 03 |

**表22　養老町寺院一覧表(2)**

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 24026 | | 養流山<br>浄本寺 | 高田<br>(多芸郡) | 明応9年 | ?→<br>真宗 | 明応9(1500)年に成立し浄本寺と称した。同年に真宗大谷派に転宗したとする説もある。 | G、I | | 03 |
| 15 | 24027 | | 了福寺 | 竜泉寺<br>(多芸郡) | 寛正5年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。元は天台宗であったが、寛正5(1464)年に真宗大谷派に転宗し了福寺に改めた。 | G、I、<br>古瀬戸 | | 03 |
| 16 | 24030 | | 三光山<br>明圓寺 | 根古地<br>(多芸郡) | 不明 | 真宗 | 大永3(1523)年に成立。真宗大谷派に転宗、転宗時期不明。聴き取りによると、三河の本循寺から移転したという。移転の時期不明。 | | | |
| 17 | 24031 | | 東耀山<br>林覚寺 | 五日市<br>(多芸郡) | 近代 | 天台宗→<br>真宗 | 寛正2(1461)年、西蔵坊恵現が開山、天台宗に属した。文明16(1484)年真宗に転宗し、寛永16(1639)年に東耀山林覚寺と改めた。元は現在地から500m東にあったが、120年前に現在地に移転したという。 | | | |
| 18 | 24032 | | 柏尾山<br>存徳寺 | 柏尾<br>(多芸郡) | 16世紀 | 天台宗→<br>真宗 | 24086柏尾廃寺跡が織田信長により焼き払われたため、1500年代に現在地に建立。元は天台宗であったが真宗大谷派に転宗し、存徳寺と称した。天文10(1541)年、真宗大谷派に改宗し存徳寺と称した。 | G、H、I、<br>板状G、<br>石仏、<br>宝塔 | | 03 |
| 19 | 24036 | | 多度山<br>正慶寺 | 養老<br>(多芸郡) | 永正7年 | 天台宗→<br>真宗 | 永正7(1510)年に了念が成立し天台宗に属した。時期は不明だが真宗大谷派に転宗した。 | G | | 03 |
| 20 | 24037 | | 法龍山<br>尊光寺 | 船附<br>(多芸郡) | 慶長11年 | 天台宗→<br>真宗 | 長禄2(1458)年、滋賀県の坂本に創建、天台宗。慶長11(1606)年に了教が現在地に再興し、真宗大谷派に転宗。 | | | |
| 21 | 24038 | | 宝珠山<br>浄誓寺 | 下笠<br>(多芸郡) | 文明13年 | 天台宗→<br>真宗 | 久寿2(1155)年に成立。天台宗に属し妙香山宝珠院観音寺と称した。文明11(1479)年、真宗大谷派に転宗し浄誓寺と改めた。観音寺と称した当時は小字構、小字犢の西の地にあったと伝わるが、文明13(1481)年に現在地に移った。 | G、H、I、<br>板状G、<br>石仏 | | 03 |
| 22 | 24039 | | 大悲山<br>願専寺 | 上之郷<br>(多芸郡) | 大同3年 | 天台宗→<br>真宗 | 大同3(808)年に玄賓が開基。応徳2(1085)年に再建されたが荒廃。文治3(1187)年、天台宗の寺院として願照院と称したが、明応6(1497)年に真宗大谷派に転宗し願専寺に改めた。 | G、I、石仏 | | 03 |
| 23 | 24040 | | 雲瑞山<br>蓮光寺 | 直江<br>(多芸郡) | 文明11年 | 天台宗→<br>真宗 | 文明11(1479)年に成立。聴き取りによると、元は天台宗であったが、真宗大谷派に転宗した。転宗時期不明。 | G、H | | 03 |
| 24 | 24041 | | 光雲山<br>楽邦寺 | 祖父江<br>(多芸郡) | 不明 | 真宗 | 文明4(1472)年に浄元が成立し、天正7(1579)年に浄了が再興した。聴き取りでは、現境内の北東部から移転したというが、移転時期は不明。 | G | | 03 |
| 25 | 24042 | | 飛雲山<br>蓮生寺 | 大坪<br>(多芸郡) | 元禄9年 | 真宗 | 慶長2(1597)年に釈賢海が成立し、同じ町内の若宮神社付近にあった。元禄9(1696)年に現在地に移転した。 | | | |
| 26 | 24042b | | 蓮生寺旧境内 | 大坪<br>(多芸郡) | 慶長2年 | | | | | N3 |
| 27 | 24043 | | 瑞華山<br>蓮澤寺 | 色目<br>(多芸郡) | 伝大永4年 | 真宗 | 大永4(1524)年の成立は定かではないが、寺内に文化年間(1804～18)の記録が残っている。正徳2(1712)年と安政3(1856)年に再建した。 | | | N3 |
| 28 | 24044 | | 焼栗山<br>西徳寺 | 宇田<br>(多芸郡) | 寛正6年 | 真宗 | 寛正6(1465)年、京都山科別院を譲り受け成立。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。 | H、G、I、<br>石仏 | | 03 |
| 29 | 24045 | | 小倉山<br>福勝寺 | 小倉<br>(多芸郡) | 元応2年 | 伝天台宗→<br>真宗 | 元応2(1320)年に成立、西勝房と称したが、後に福勝寺と改めた。聴き取りによると、元は天台宗に属したという。 | H、G、I | | 03 |
| 30 | 24046 | | 法性山<br>西福寺 | 押越<br>(多芸郡) | 天正11年 | 伝天台宗→<br>真宗 | 天正11(1583)年に覚専成立。聴き取りによると元は天台宗であったが、永正3(1506)年に真宗大谷派に転宗した | | | 03 |
| 31 | 24047 | | 受誓寺 | 高田<br>(多芸郡) | 文明14年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。天台宗に属し天台宗蓮寺と称したが、文明14(1482)年、真宗大谷派に転宗して受誓寺と改めた。 | G、H、石仏 | | 03 |
| 32 | 24048 | | 石津山<br>善正寺 | 烏江<br>(多芸郡) | 昭和期 | 天台宗→<br>真宗 | 永仁元(1293)年に成立。天台宗で、石津山大悲院と称す。文明16(1484)年に真宗に転宗、大永3(1523)年に善正寺に改。昭和の牧田川改修工事で移転を繰り返す。 | G、石仏 | | |
| 33 | 24049 | | 景陽寺 | 高田<br>(多芸郡) | 天文14年 | 真宗 | 天文14(1545)年に成立。慶安4(1651)年に景陽寺の寺号を得た。 | G、I | | 03 |
| 34 | 24050 | | 弘誓山<br>浄雲寺 | 下笠<br>(多芸郡) | 元亀2年頃 | 真宗 | 建暦2(1212)年に慶雲が開基、天台宗。元亀2(1571)年比叡山の焼き討ちで長野県戸隠から現在の地に移転。転宗の時期不明。 | | | 03 |
| 35 | 24051 | | 光雲山<br>安福寺 | 室原<br>(不破郡) | 文明8年 | 真宗 | 天平年間(729～749)に行基が河内国安福郷に成立の畿内四十九院の一つ。建長6(1254)年再建。文明8(1476)年に当地に移転。 | G、石仏 | | N3 |
| 36 | 24052 | | 金龍山<br>長圓寺 | 飯ノ木<br>(多芸郡) | 大永2年 | 真宗 | 大永2(1522)年に成立。実如上人より弥陀の御絵像の下附を受けた。 | | | 03 |
| 37 | 24053 | | 盧舎那山<br>真泉寺 | 沢田<br>(石津郡) | 天正年間以降 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。天台宗で大威徳山正顧院。当時観世音講堂・弥陀尊金堂・護摩堂・経営堂あり天正年間(1573～92)兵火で焼失。大永3(1523)年、真宗大谷派に転宗。旧境内(24053b)山中に「寺坂」の地名、平坦面・墓地の石積み確認。 | G、H | | 03 |
| 38 | 24053b | | 真泉寺旧境内 | 沢田<br>(石津郡) | 天正年間以前 | | | | | 03 |
| 39 | 24054 | | 了覚寺 | 蛇持<br>(多芸郡) | 長禄元年 | 真宗 | 長禄元(1457)年に開基。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。 | G、H | | 03 |
| 40 | 24055 | | 竹林山<br>相順寺 | 飯田<br>(多芸郡) | 天文5年 | 真宗 | 天文5(1536)年に成立。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。元和6(1620)年に本堂を建立した。 | | | 03 |
| 41 | 24056 | | 象鼻山<br>念長寺 | 橋爪<br>(多芸郡) | 享禄元年以前 | 真宗 | 成立時期は不明。享禄元(1528)年に真宗大谷派に転宗し、象鼻山念長寺と称した。栗原九十九坊の一つといわれている。 | | | 03 |
| 42 | 24057 | | 紫雲山<br>浄蓮寺 | 三神町<br>多岐塡<br>(多芸郡) | 天文5年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明であるが天台宗に属し、青蓮寺と号した。天文5(1536)年、真宗大谷派に転宗し浄蓮寺と改めた。 | G、I | | 03 |
| 43 | 24058 | | 飯積山<br>光敬寺 | 飯積<br>(多芸郡) | 天文3年以前 | 法相宗→<br>天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明である。栗原九十九坊の一寺で法相宗に属した。その後、現在地に移転し天台宗に転宗し、さらに天文3(1534)年、真宗大谷派に転宗した。 | 石仏 | | 03 |

表23　養老町寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44 | 24060 | | 西林寺 | 一色（多芸郡） | 寛正２年 | 真宗 | 寛正２(1461)年成立、西林坊と称した。昭和17(1942)年に西林寺と改めた。 | G、石仏、板碑 | | 03 |
| 45 | 24061 | | 東都山福智院興専寺 | 栗笠（多芸郡） | 明治38年 | 真宗 | 聴き取りによると、文和年間(1352～56)に興専法師が開基。明治38年に現在地に移転したという。なお、文明16(1484)年に真宗大谷派に転宗。 | G、H、I、石仏 | | |
| 46 | 24063 | | 文殊山智通寺 | 大巻（安八郡） | 寛正元年 | 真宗 | 寛正元(1460)年に成立。天和3(1683)年、真宗大谷派に転宗。 | | | 03 |
| 47 | 24064 | | 紫雲山法覚寺 | 船附（多芸郡） | 永禄元年 | 真宗 | 大永６(1526)年、慶了(安田織部)が、養老町大野の米野に安田法覚寺を成立した。永禄元(1558)年に現在地に移転、慶長11(1606)年に真宗大谷派に転宗。 | G | | 03 |
| 48 | 24065 | | 安久山長願寺 | 西岩道（多芸郡） | 永正年間 | 天台宗→真宗 | 永正(1504～1521)頃に法珍が開基。天台宗に属した。寛永年間(1624～1644)に転宗。 | | | 03 |
| 49 | 24066 | | 元正院瀧寿山養老寺 | 養老公園（多芸郡） | 天正18年 | 法相宗→天台宗→真宗 | 多芸七坊の一つ。養老元(717)年又は天平宝字年間(757～765)に源丞内開基が開基、法相宗に属す。元正天皇病気の平癒の勅願所。平安時代に天台宗に転宗。永禄５(1562)年に織田信長の兵火により焼失、天正18(1590)年に小堂建て現在地に養老寺を再建。慶長18(1613)年に真宗大谷派に転宗。 | | | 03 |
| 50 | 24068 | | 光雲山随縁寺 | 大跡（多芸郡） | 文禄３年 | 天台宗→真宗 | 文禄３(1594)年に善慶が開基し、天台宗に属した。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。 | | | 03 |
| 51 | 24069 | | 養老山西源寺 | 大跡（多芸郡） | 慶長年間 | 真宗 | 慶長年間(1596～1615)に成立。聴き取りによると、成立当時から当地に残る。 | | | 03 |
| 52 | 24070 | | 無量山常性寺 | 岩道（多芸郡） | 天文５年 | ？→真宗 | 天文５(1536)年に成立、岩銅山常性寺と称す。時期不明で真宗大谷派に転宗、天保15(1844)年に無量山常性寺と改称。 | G | | 03 |
| 53 | 24071 | | 勢至山専明寺 | 鷲巣（多芸郡） | 寛永年間 | 天台宗→真宗 | 元は天台宗で勢至村にあって勢至山光堂寺と称し、多芸七坊の一つ。寛正５(1464)年に真宗に転宗。寛永年間(1624～1644)に鷲巣村に移転。 | | | |
| 54 | 24071b | 市 | 勢至山光堂寺（光堂寺廃寺跡）（勢至寺跡） | 勢至・石畑（多芸郡） | 天平年間若しくは天平宝字年間 | 天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 66 | 03 |
| 55 | 24072 | | 有保山明楽寺 | 有尾（多芸郡） | 文明年間以前 | 法相宗→真宗 | 成立時期は不明であるが、法相宗に属し薬師寺と称した。文明年間(1469～1487)に真宗に転宗し明楽寺と称した。 | | | 03 |
| 56 | 24073 | | 龍鱗山祐泉寺 | 蛇持（多芸郡） | 大永４年 | 天台宗→真宗 | 大永４(1524)年に開基。聴き取りによると、元は天台宗に属した。時期は不明だが、真宗大谷派に転宗した。 | G | | 03 |
| 57 | 24074 | | 西光院 | 直江（多芸郡） | 不明 | 天台宗→時宗 | 弘仁9(818)年に成立し天台宗に属した。応永17(1410)年に時宗に転宗。元字経堂という地にあったが、洪水のため字村下に移転、移転時期不明。現在は「時宗西光寺」という石碑が残るのみで空地となっている。 | | | |
| 58 | 24077 | | 智源山大通寺 | 宇田（多芸郡） | 文和２年・正平８年若しくは応永32年 | 臨済宗 | 文和２・正平８(1353)年又は応永32(1425)年に成立。土岐悪五郎康貞の開基であり、合戦により亡くなった一族郎党の霊を弔うために建てられた。 | G、H、I、石仏 | | 03 |
| 59 | 24078 | | 禅応山福源寺 | 室原（不破郡） | 文明７年以前 | 臨済宗 | 成立時期は不明であるが、文明７(1475)年の過去帳がある。天正３(1575)に文華が再興するが寛文10(1670)年に焼失し、宝永５(1708)年に復興。熊野神社の宮寺であった。 | G、H、I、石仏 | | N3 |
| 60 | 24079 | | 松嶽山實相寺 | 祖父江（多芸郡） | 天文16年 | 臨済宗 | 天文16(1547)年に段海村の城主祖父江新五左衛門を菩提を弔うため建立。天正年間(1573～92)、兵火のため焼失。慶安３(1650)年に堂宇を建立し、天和元(1681)年に再建。 | G、H、石仏 | | 03 |
| 61 | 24082 | | 荘福寺 | 押越（多芸郡） | 昭和７年 | 臨済宗 | 建久年間(1190～1199)、阿波守小笠原長清が成立。貞治２(1363)・正平18(1363)年に中興したが、元禄12(1699)年に焼失。昭和７(1932)年、牧田川改修工事により大墳城跡から現在地に移転した。 | G、H、I、石仏 | | |
| 62 | 24082b | | 荘福寺旧境内 | 泉町（多芸郡） | 建久年間 | | | | | 03 |
| 63 | 24083 | | 小倉山光明寺 | 鷲巣（多芸郡） | 文禄元年 | 天台宗→曹洞宗 | 天平年間(729～749)に光明皇后の発願で成立され、天台宗に属し小倉山光明寺と称した。多芸七坊の一寺。元亀(1570～1573)の頃織田信長に焼かれた。文禄元(1592)年に鷲巣村に堂を建てたが、安政元(1854)年に焼失し、薬師堂が残る。 | | | 03 |
| 64 | 24085 | | 観音寺 | 鷲巣（多芸郡） | 不明 | 単立 | 成立時期及び沿革不明。位置不明。 | | | |
| 65 | 24086 | 県 | 柏尾寺（柏尾廃寺跡） | 柏尾表山（多芸郡） | 天平年間 | 法相宗→天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 60 | 03 |
| 66 | 24087 | 市 | 大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡） | 竜泉寺（多芸郡） | 伝天平宝字年間 | 天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 64 | 03 |
| 67 | 24093 | | 自立山妙徳院 | 三神町（多芸郡） | 永享５年 | 不明 | 永享５(1433)年に舜永が草創、元和年間(1615～24)に法蔵が中興。多岐神社の別当寺。福祉センター東隣に石碑あり。 | G、H、I、石仏 | | 03 |
| 68 | 24094 | | 光明寺（薬師山遺跡） | 鷲巣・若宮（多芸郡） | 中世以前 | 法相宗→天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 70 | 03 |

### 表24　養老町参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 24002 | | 安養院 | 竜泉寺 (多芸郡) | 明治10年以前 | 天台宗 | 成立時期不明であるが、観音堂と称した。明治10(1877)年に焼失し、昭和6(1931)年、茨城県の安養院と合併して再興。 | G、H、I、板状G、石仏 |
| 2 | 24006 | | 東光山 林照院 | 瑞穂 (多芸郡) | 寛文年間 | 浄土宗 | 寛文年間(1661～73)に成立し柳照庵と称した。明治初(1868)年に廃庵。過去に24008天照寺の住職が隠居をする場として、本寺院が建てられたという。明治期に廃案となったが、現在は再建されている。 | |
| 3 | 24007 | | 高縄山 生蓮寺 | 船附 (多芸郡) | 正徳元年 | 浄土宗 | 正徳元(1711)年に浄念が成立。松寿寺(旧蓮生寺)を捨て、阿弥陀堂として建てられた。何度も中絶と再興を繰り返し、弘化元(1844)年に再興。 | G、石仏 |
| 4 | 24008 | | 八幡山 宝地院 天照寺 | 根古地 (多芸郡) | 明暦３年 | 浄土宗 | 明暦３(1657)年に成立。聴き取りによると、海津市の円心寺住職が引退し当地に寺を建てられた。 | G、I、石仏 |
| 5 | 24009 | | 明光院 | 下笠 (多芸郡) | 不明 | 浄土宗 | 成立時期及び沿革不明。現在は廃寺となっている。 | |
| 6 | 24020 | | 教正寺 | 泉町 (多芸郡) | 不明 | 真宗 | 成立時期及び沿革不明。「道場」と書かれた石碑があり、24090道場のことを指していると思われ、本寺と関係が深いと考えられる。 | |
| 7 | 24021 | | 金龍山 玉洞寺 | 江月 (多芸郡) | 昭和30年 | 天台宗→真宗 | 寛永年間(1624～1644)了春が開基。天台宗で後に真宗大谷派に転宗。栗原九十九坊の四天院玉洞寺。昭和30年代の杭瀬川改修工事で移転。 | |
| 8 | 24023 | | 光流山 真源寺 | 桜井 (多芸郡) | 寛文年間 | 真宗 | 寛文年間(1661～1673)に成立、文政６(1823)年に改築。明治13(1880)年に真源寺と称。 | |
| 9 | 24028 | | 般若山 願海寺 | 鷲巣 (多芸郡) | 明和２年若しくは昭和23年 | 真宗 | 成立時期は、明和2(1765)年又は昭和23(1948)年とされている。現在は駐車場となっている。寺院の形跡を確認することができず、廃寺であると思われる。 | |
| 10 | 24029 | | 徳満寺 | 横屋 (多芸郡) | 文政年間 | 真宗 | 文政年間(1818～1830)に道場で成立、昭和21(1946)年に寺号得。現在は横屋青少年集会場。本堂建物に半鐘が残る。 | |
| 11 | 24033 | | 金龍山 正海寺 | 室原 (不破郡) | 寛永６年 | 真宗 | 元は栗原九十九坊の一寺で福寿海院と称す。西美濃十ヶ寺。寛永６(1629)年に定龍が開基、真宗大谷派に改宗。 | |
| 12 | 24034 | | 宝林山 法音寺 | 京ケ脇 (多芸郡) | 元禄８年若しくは明和２年 | 真宗 | 元禄８(1695)年又は明和２(1765)年に成立。山麓にある集落の入口に寺のものと思われる現代の墓地あり。 | |
| 13 | 24035 | | 佐竹山 西教寺 | 明徳 (多芸郡) | 元和３年 | ?→真宗 | 元和３(1617)年に成立。元禄７(1694)年に西教寺と称す。時期不明で真宗大谷派に転宗。 | |
| 14 | 24059 | | 光明山 長誓寺 | ロケ島 (多芸郡) | 萬治４年 | ?→真宗 | 萬治４(1661)年に成立。時期不明で真宗大谷派に転宗。 | |
| 15 | 24067 | | 光摂山 西運寺 | 大場 (多芸郡) | 寛永14年 | ?→真宗 | 寛永14(1637)年に成立。時期不明で真宗大谷派に転宗。 | |
| 16 | 24075 | | 即心寺 | 高田 (多芸郡) | | ?→臨済宗 | 慶安４(1651)年に成立。時期不明で臨済宗妙心寺派に転宗。平成21(2009)年に養老町高田の乾崇寺と合併。 | |
| 17 | 24076 | | 木月山 薬師禅院 | 大坪 (多芸郡) | 元禄６年 | 真言宗→臨済宗 | 元禄６(1693)年に成立。始め真言宗。時期不明で臨済宗妙心寺派に転宗。 | G、H、板状G、石仏 |
| 18 | 24081 | | 三峰山 観音寺 | 小倉 (多芸郡) | 元禄16年 | 臨済宗 | 元禄16(1703)年に成立。 | G、H、I、板状G、石仏 |
| 19 | 24090 | | 道場 | 泉町 (多芸郡) | 不明 | 真宗 | 安永９(1780)年、美濃国岩手村教正寺住職観乗坊大慎が不況で休息所を建立。昭和5(1930)年に説教場。位置不明。 | |
| 20 | 24092 | | 木立院 | 高田字北浦 (多芸郡) | 宝暦元年 | 不明 | 宝暦元(1751)年に木立院日秀(千秋庄六郎)により成立。位置不明。 | |
| 21 | 24096 | | 下笠薬師堂 | 下笠 (多芸郡) | 伝江戸期 | 不明 | 成立時期は不明。豪族田中嘉平衛が下笠城にいた時期に成立と伝わる。 | G、H、I |

### 表25　垂井町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 25001 | | 大日山 正行院 | 宮代 (不破郡) | 延暦12年 | 天台宗 | 延暦12(793)年、最澄が南宮神社神宮僧侶の滅罪寺として成立。慶長年間以後は社僧を務めたが明治元年に分離。 | G、I | | N3 |
| 2 | 25002 | | 朝倉山 真禅院 | 宮代 (不破郡) | 明治初年 | 天台宗 | 寺伝では行基が開基し、象背山宮処寺と称した(25039c)。延暦年間(782～806)に、最澄により南宮神社と両部習合されて南宮大社地に移転し(25039b)、南神宮寺に改称。明治初年に神仏分離令により堂塔が統廃合されて現在地に移転し、真禅院と称するようなった。 | G、I、石仏 | | |
| 3 | 25002b | | 真禅院旧境内 | (不破郡) | 延暦年間 | | | | | N3 |
| 4 | 25002c | 県 | 真禅院旧境内 (宮処寺跡) | (不破郡) | 飛鳥時代 | | | 本文参照 | 98 | N3 |
| 5 | 25003 | | 一乗山 菩提寺 | 岩手 (不破郡) | 天長元年 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 72 | N3 |
| 6 | 25004 | | 貞讃寺 | 岩手 (不破郡) | 承応２年以前 | 浄土宗 | 成立時期不明、行基が開基し安養院と称した。承応２(1653)年、領主竹中重常の息女の菩提のため大垣市蓮生寺の頓誉休心が開山し貞讃寺に改称、知恩院末。 | G、H、I、板状G、石仏 | | N2 |
| 7 | 25005 | | 明野山 地蔵院 光堂寺 | 綾戸 (不破郡) | 伝８世紀前半 | 天台宗→浄土宗 | 寺伝に行基が開創と伝。天台宗で明野山地蔵院光堂寺と称。本尊は、暦応元・延元３(1338)年の青野ヶ原の戦い、関ケ原合戦の難から逃れ響誉が再興。 | | | |
| 8 | 25006 | | 観音寺 | 敷原 (不破郡) | 承応２年 | 曹洞宗→浄土宗 | 本文参照 | G | 74 | N3 |
| 9 | 25007 | | 普門山 専精寺 | 垂井 (不破郡) | 享保12年 | 天台宗→真宗 | 寺伝では天安２(858)年に円仁が成立。天台宗に属し、普門山善相寺(院)と呼ばれ字日森にあった。康永３・興国５(1344)年前後に真宗に転宗。移転を繰り返し、享保12(1727)年に現在地に再建。 | G、H、I、石仏、蓮如字名号(室町期) | | |

表26　垂井町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 25010 | | 杉谷山<br>永法寺 | 垂井<br>(不破郡) | 文明８年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明であるが、天台宗に属した。文明８(1476)年、空照が真宗に転宗。 | G、H、I、<br>石仏 | | N3 |
| 11 | 25011 | | 一宇山<br>安立寺 | 府中<br>(不破郡) | 仁治元年 | 不明→<br>真宗 | 仁治元(1240)年成立、府中寺。寛正５(1464)年真宗に転宗。寛文４(1664)年安立寺に改める。聴取で美濃国府勤め有志建立の伝承あり。 | G、H、I、 | | N3 |
| 12 | 25012 | | 国府山<br>浄林寺 | 府中<br>(不破郡) | 文明元年 | 天台宗→<br>真宗 | 文明元(1469)年に亮韻が成立。天台宗で宝樹院と称す。明応5(1473)年に真宗に転宗。 | G、H、I、<br>石仏 | | N3 |
| 13 | 25014 | | 佛慧山<br>等運寺 | 綾戸<br>(不破郡) | 大永３年 | 天台宗→<br>真宗 | 応永年間(1394～1428)近江国志賀郡堅田に成立、天台宗。長禄４(1460)年に真宗に転宗、大永３(1523)年現在地に移転。 | | | N3 |
| 14 | 25015 | | 風越山<br>威徳寺 | 平尾<br>(不破郡) | 天文11年 | 真宗 | 本文参照 | | 76 | N3 |
| 15 | 25015b | | 威徳寺旧境内<br>(石組遺跡) | 平尾<br>(不破郡) | 天文10年以前 | | | 本文参照 | | N3 |
| 16 | 25016 | | 飛雲山<br>徳法寺 | 岩手<br>(不破郡) | 不明 | 真宗 | 寛正２(1461)年に善妙が成立したとする説と、同年に善妙が真宗に転宗したとする説とがある(転宗前の宗派は不明)。聴き取りでは、時期不明だが約２km東南東の地点から現在地に移転したという。 | G、H、I、<br>石仏 | | |
| 17 | 25018 | | 城台山<br>長正寺 | 岩手<br>(不破郡) | 享禄年間 | 真宗 | 享禄年間(1528～31)に成立。開基は祥順(西尾谷之進)。明暦4(1658)年に寺号を得た。 | | | N2 |
| 18 | 25020 | | 廣瀬山<br>西念寺 | 栗原<br>(不破郡) | 応永34年 | 真宗 | 応永34(1427)年に行円が真言宗清浄院として成立。文明９(1477)年真宗に転宗し寺号を西念寺に改めた。 | | | N3 |
| 19 | 25021 | | 東光山<br>本龍寺 | 垂井<br>(不破郡) | 文明元年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明であるが、天台宗に属し遍照院と称した。文明元(1469)年、教実は真宗に転宗し寺号を本龍寺に改めた。 | G、H | | N3 |
| 20 | 25022 | | 無量山<br>善行寺 | 表佐<br>(不破郡) | 延徳元年 | 真宗 | 延徳元(1489)年に正善(服部源兵衛、清和天皇の後裔の子孫と称する者)により成立。 | G | | N3 |
| 21 | 25023 | | 藍川山<br>蓮明寺 | 表佐<br>(不破郡) | 不明 | 真宗 | 明応年間(1492～1501)又は寛正６(1465)年に善智により成立。聴き取りでは、真言宗の近江町世継にある浄念寺の末寺30ヶ寺のうちの一つで、当初は大清水にあったという。現在地への移転時期は不明。 | | | |
| 22 | 25024 | | 東光山<br>願林寺 | 宮代<br>(不破郡) | 寛保２年 | 真宗 | 明徳３(1392)年又は明応3(1494)年)、了願が宮代村字天満に成立。寛保２(1742)年に現在地に移転。 | G | | |
| 23 | 25025 | | 中華山<br>西法寺 | 栗原<br>(不破郡) | 康永元・興国３年若しくは明応６年 | 天台宗→<br>真宗 | 康永元・興国３(1342)年に順誓により成立。元は天台宗であったが、天文11(1542)年に真宗に転宗。成立時期は明応6(1497)年とする説もある。 | | | N3 |
| 24 | 25026 | | 伊富貴山<br>浄休寺 | 伊吹<br>(不破郡) | 永享８年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明である。元は天台宗に属したが、永享８(1436)年に明療が真宗に転宗。 | G | | N2 |
| 25 | 25027 | | 天龍山<br>明泉寺 | 岩手<br>(不破郡) | 永禄３年以降 | 真宗 | 永禄３(1560)年成立。法覚(岩手城主竹中重時)が大野郡公郷に成立し岩手に城を構えた際に移転説と竹中重時が父の菩提を弔うために成立説あり。 | G、I、石仏 | | N3 |
| 26 | 25028 | | 寶樹山<br>通玄寺 | 栗原<br>(不破郡) | 大永年間以前 | 天台宗→<br>真宗 | 元は天台宗で阿弥陀寺と称。大永年間(1521～28)に法秀が真宗に転宗、天正13(1585)年に通玄寺に寺号改称。 | | | N3 |
| 27 | 25030 | | 佛國山<br>教正寺 | 岩手<br>(不破郡) | 寛永２年若しくは貞享４年 | 真宗 | 寛永2(1625)年又は貞享4(1687)年、近江国坂田郡本郷村浄休寺の了恵が成立。 | | | |
| 28 | 25031 | | 林宝山<br>宝光寺 | 表佐<br>(不破郡) | 正安２年 | 天台宗→<br>真宗 | 正安２(1300)年に定空(越知徳光)が成立。元は天台宗であったが、大永４(1524)年真宗に転宗。 | | | N3 |
| 29 | 25032 | | 本光山<br>真正寺 | 新井<br>(不破郡) | 宝徳年間 | 天台宗→<br>真宗 | 宝徳年間(1449～52)に成立。天台宗として属したが、明応３(1494)年に真宗に転宗。 | | | N3 |
| 30 | 25033 | | 神護山<br>瑠璃光院<br>金蓮寺 | 垂井<br>(不破郡) | 慶長５年以降 | 伝天台宗→<br>時宗 | 寺伝によると、延暦年間(782～806)に最澄が成立し、南宮神社の神宮寺であった。神護山瑠璃光院御所野道場と称し、境内に33院あったという。応永17(1410)年時宗に転宗。嘉吉元(1441)年、足利持氏の子春王・安王が当寺にて惨殺され、菩提を弔った。この春王安王の墓が旧境内西側に当たり、小字道場野までを寺域(4町)とする伝承がある。関ケ原合戦の際に焼失し、現在地へ再建。 | G、H、I、<br>石仏、層塔 | | |
| 31 | 25033b | | 金蓮寺旧境内 | 垂井<br>(不破郡) | 伝延暦年間 | | | H、三耳壺 | | N3 |
| 32 | 25034 | | 興国山<br>春光院<br>阿弥陀寺 | 表佐<br>(不破郡) | 正応年間 | 伝天台宗→<br>時宗 | 正応年間(1288～93)に成立。京都四条派金蓮寺末であったが、戦後に時宗内の派全てが統一。ただし聴き取りでは、元は天台宗であったという。 | G、H、I、<br>石仏 | | N3 |
| 33 | 25035 | | 天徳山<br>霽松寺 | 宮代<br>(不破郡) | 貞和元年・興国６年以前 | 臨済宗 | 天徳元(957)年、源経基が成立。貞和元・興国６(1345)年に鎌倉円覚寺の不聞契聞が中興し臨済宗円覚寺派となる。宝永4(1707)年に俊山が再興した際に、臨済宗妙心寺派に転派。 | G、H、I、<br>石仏 | | N3 |
| 34 | 25036 | | 大雄山<br>忍勝寺 | 府中<br>(不破郡) | 貞享２年 | 臨済宗 | 成立時期は不明だが、府中字外中にあった。関ケ原合戦の際に焼失したが、貞享２(1685)年に龍山が現在地に再興。 | G、H、I、<br>石仏 | | |
| 35 | 25037 | | 白華山<br>大慈寺 | 宮代<br>(不破郡) | 文和３・正平９(1354)年 | 臨済宗 | 文和３・正平９(1354)年、南宮神社神馬供養のため相州建長寺の無外を開山に道場成立。以後、社僧を務む。元禄11(1698)年に妙心寺末に転じ神仏分離令後に南宮神社から独立。 | G、I、H | | N3 |
| 36 | 25038 | | 威徳山<br>清蔵寺 | 府中<br>(不破郡) | 天正元年 | 臨済宗 | 天正元(1573)年に文翁により成立。関ケ原合戦の際に焼失し、天和元(1681)年に仏堂が再建。 | G、H、I、<br>石仏 | | N3 |
| 37 | 25044 | | 象鼻山<br>清水寺<br>(清水寺跡) | 栗原<br>(不破郡) | 宝治元年以前 | 天台宗→<br>臨済宗 | 多芸七坊のうちの1ヶ寺と伝わり、元は天台宗であった。明応年間(1492～1501)に臨済宗に転宗。万治３(1660)年に再建。梵鐘(愛知県知多市八幡神社所蔵)の銘から、当寺は宝治元(1247)年以前に成立されていたと考えられる。現在は公園。 | G、<br>灰釉陶器、<br>常滑(甕) | | N3 |
| 38 | 25045 | | 松巖山<br>祥光寺 | 岩手<br>(不破郡) | 天文年間以前 | 曹洞宗 | 成立時期は不明であるが、禅幢寺授戒帳の記述より、天文年間(1532～55)以前には存在。禅幢寺末。 | G、H、I | | N3 |

### 表27　垂井町寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 25046 | | 在原山 薬師寺 | 表佐 (不破郡) | 元慶３年 | ？→ 曹洞宗 | 元慶３(879)年、在原業平が成立、在原山業平寺(如来寺・水薬師)と称す。寛文２(1662)年、永平寺の金毛全威禅師開山に請し再興、曹洞宗に転宗。かつて当寺付近に古代瓦が散在。 | 布目瓦 | | N3 |
| 40 | 25048 | | 道徳寺 | 表佐 (不破郡) | 天正８年 | 臨済宗→ 曹洞宗 | 天正８(1580)年、柏堂影森が臨済宗寺院として開山。宝永５(1708)年に曹洞宗に転宗。 | | | N3 |
| 41 | 25050 | | 普賢山 禅幢寺 | 岩手 (不破郡) | 明応３年 | 曹洞宗 | 明応３(1494)年、岩手領主岩手弾正忠典長が岩手氏菩提所として成立。開基は正頓和尚。天正15(1587)年に竹中重門が再興、竹中家菩提所。 | G、H、I、板状G、石仏 | | N2 |
| 42 | 25053 | | 日目庵 | 垂井 (不破郡) | 中世か | 日蓮宗 | 成立時期不明。正慶２(1333)年、西国布教の途で亡くなった日目(日蓮の孫弟子)の遺骸を荼毘に付し、法華塚を作った場所を「荼毘所」と呼び、荼毘所に建つ小寺堂が日目庵。 | G、H、I、石仏 | | N3 |
| 43 | 25054 | | 光明山 明伝寺 | 大滝 (不破郡) | 明応７年以前 | 天台宗→ 真宗 | 成立時期不明、伝徳寺又は天徳寺と称。元は天台宗、明応７(1498)年真宗に転宗、寛永18(1641)年に明伝寺の寺号得。 | | | N3 |
| 44 | 25055 | | 月光山 遊景寺 | 大石 (不破郡) | 文明17年 | 天台宗→ 真宗 | 文明13(1481)年に信州で成立、天台宗。文明17(1485)年、大石に移転遊結寺。明応元(1492)年、真宗に転宗。昭和54(1979)年、東本願寺派となる。 | G、I、石仏 | | N3 |
| 45 | 25056 | | 平尾御坊 願證寺 | 平尾 (不破郡) | 天文年間以前 | 真宗 | 永正年間(1504～21)蓮淳法印が伊勢国長島に開基、長島の一向一揆で焼失。天文年間(1532～55)證栄が平尾真徳寺再建。寛保３(1743)年に平尾御坊、安永２年(1773)願證寺に改称。 | G、H | | N3 |
| 46 | 25057 | 市 | 美濃国分尼寺 (美濃国分尼寺跡) (美濃国分尼寺跡推定地) | 平尾 (不破郡) | 伝天平13年 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 100 | N3 |
| 47 | 25058 | | 民安寺 (民安寺跡) | 府中 (不破郡) | 文和２・正平８年以前 | 不明 | 成立時期不明。文和２・正平８(1353)年、後光厳天皇垂井行在際、大風雨避け民安寺に立寄。寺の位置は府中説と御所野説。 | G、H、石燈籠 | | |
| 48 | 25060 | 県 | (宮代廃寺跡) | 宮代 (不破郡) | 飛鳥時代 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 102 | N3 |
| 49 | 25061 | | (薬師堂跡) | 表佐 (不破郡) | 伝延暦12年 | 真宗 | 本文参照 | 本文参照 | 78 | N3 |
| 50 | 25062 | | (観音堂跡) | 宮代 (不破郡) | 伝天平神護２年 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 80 | N3 |
| 51 | 25063 | | (千手堂跡) | 宮代 (不破郡) | 不明 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 81 | N3 |
| 52 | 25064 | | (南宮山頂経塚) | 宮代 (不破郡) | 中世 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 84 | N3 |
| 53 | 25065 | | (栗原九十九坊跡) | 栗原 (不破郡) | 伝鎌倉時代以前 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 88 | O3 |
| 54 | 25066 | | (栗林庵跡) | 栗原 (不破郡) | 伝鎌倉時代以前 | 不明 | 石垣を伴う平坦面有。地元では「リショウジ」と伝わり、利法寺にあたるか。 | | | O3 |
| 55 | 25071 | | 伊富岐神社奥之院 (伊富岐神社跡) (伊富岐神社経塚群) | 伊吹 (不破郡) | 仁寿２年以前 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 94 | N2 |
| 56 | 25072 | | 南宮大社 (南宮神社神宮跡) | 宮代峯 (不破郡) | 平安時代 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 86 | N3 |
| 57 | 25078 | | (石仏谷遺跡) | 府中 (不破郡) | 古代～中世 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 96 | N3 |
| 58 | 25079 | | (宮代遺跡) | 宮代 (不破郡) | 古代～中世 | 不明 | 弓道場山麓西側には石塔の集積がみられる区域があり、中世～近世にこの付近に所在したとされる礼華寺跡の可能性がある。礼華寺は、明治維新前後に廃寺になったとされる。 | 土師器、須恵器 | | N3 |
| 59 | 25081 | | (最勝寺観音堂跡) | 宮代 (不破郡) | 不明 | 不明 | 詳細不明。幕末頃に作成された『美濃国南宮社之図』などによると、南宮神社北側に位置したとされる。 | | | |

### 表28　垂井町参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 25009 | | 旭照山 明円寺 | 敷原 (不破郡) | 延享元年 | 天台宗→ 真宗 | 延享元(1744)年に円教が成立。天台宗に属した。後に真宗に転宗。慶應元(1865)年に円城が再興し、明治７(1874)年に明円寺の寺号を得た。 | |
| 2 | 25013 | | 梅渓山 真敬寺 | 梅谷 (不破郡) | 寛文13年 | 真宗 | 寛文13(1673)年に円哲が成立。聴き取りによると、元は道場であったという。 | |
| 3 | 25017 | | 宝海山 佛名寺 | 市之尾 (不破郡) | 寛永７年若しくは元禄５年 | 真宗 | 元禄５(1692)年に市之尾村道場として成立され宝永７(1710)年に寺号を得たとする説と、寛永７(1630)年に潭瑞が成立したとする説とがある。 | |
| 4 | 25019 | | 本照寺 | 岩手 (不破郡) | 天保10年 | 真宗 | 天保10(1839)年、徳法寺の桐山泰円の弟智通により成立。10年前に廃寺になり、建物無し。 | |
| 5 | 25029 | | 泉水山 不退寺 | 岩手 (不破郡) | 貞享３年 | 真宗 | 貞享３(1686)年に願心が成立。当屋敷は、永禄年間(1558-70)に沢右京が居住した跡。 | G、H、I |
| 6 | 25039 | | 片岡山 見性寺 | 宮代 (不破郡) | 寛文２年 | 臨済宗 | 寛文２(1662)年に広山により成立。当寺７世が熊耳山小林庵から片岡山見性寺に改称。 | G |

## 表29　垂井町参考寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 25040 | | 不動院 | 大滝(不破郡) | 延享年間以降 | 臨済宗 | 延享年間(1744-48)に成立、道徳寺と称した。明治18年に再興し不動院に改称。近隣住民の聴き取りでは、元は大滝にあったとのことだが、移転時期不明。 | G、H、I |
| 8 | 25041 | | 茂森庵 | 不明(不破郡) | 不明 | 臨済宗 | 元禄16(1703)年、伊勢国正法寺の代官が成立。他の沿革・位置不明。 | |
| 9 | 25042 | | 臥龍山玉泉寺 | 垂井(不破郡) | 寛永５年 | 臨済宗 | 寛永５(1628)年、成立愚同国師を開山に請し吉田作右衛門が成立。 | G、H、I |
| 10 | 25043 | | 龍蟠山藤樹寺 | 宮代(不破郡) | 元禄13年 | 臨済宗 | 元禄13(1700)年、大慈寺の乾叟が龍蟠山藤井寺跡地に藤樹庵を成立。延享元(1744)年に藤樹寺と改めた。藤井寺の沿革は不明。 | G |
| 11 | 25047 | | 即現寺 | 梅谷(不破郡) | 延宝２年 | 曹洞宗 | 延宝２(1674)年に安禅が成立。領主神長左衛門の菩提所。 | G、H、I、石仏 |
| 12 | 25049 | | 覚源寺 | 新井(不破郡) | 延宝７～８年 | 曹洞宗 | 延宝７(1679)～同8年の頃、覚源(高木利右衛門)が庵室を備えて閑居した。天明6(1786)年に不破郡荒川村川柳庵の末寺に編入。 | |
| 13 | 25051 | | 清月院 | 宮代(不破郡) | 文政12～13年 | 曹洞宗 | 文政11(1828)年又は文政12年、松尾の心月庵主源法了禅尼が、卵塔場(＝墓場)を払い鎮め地蔵尊を祀り、翌年自庵と法華塔を建立した。安政３(1856)年に敦賀永建寺の甘雨為霖を開山に請い、開創。 | H |
| 14 | 25067 | | 無量寺 | 不明(不破郡) | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。位置不明。 | |
| 15 | 25068 | | 八尺堂 | 垂井(不破郡) | 近世 | 不明 | 伝承によると、300年前、御所野ヶ原の利生院で覚如法院と盲目の母が、仏のお告げの通り８尺掘ると３体の地蔵が出てきて、そこに８尺四方の堂を建立した。堂が現存。 | G、H、石仏 |
| 16 | 25070 | | 地蔵院 | 表佐(不破郡) | 寛永年間 | 真言宗 | 寛永年間(1624～44)に当村の住僧忝封により成立。明治期に廃寺届が提出されるも、本堂は現存。元尼寺で現在は阿弥陀寺が管理している。 | |
| 17 | 25073 | | 安穏山福寿寺 | 表佐(不破郡) | 寛保３年 | 浄土宗 | 寛保３(1743)年、普現により成立。明治期に廃寺届が提出されるも、本堂は現存。 | G、石仏 |
| 18 | 25074 | | 龍蟠山藤井寺 | 宮代(不破郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。元禄13(1700)年、藤井寺跡地に藤樹庵（現藤樹寺）が成立。 | |
| 19 | 25075 | | 指月寺 | 梅谷(不破郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。近江国坂田郡万末寺末。明治期に廃寺届が提出されている。位置不明。 | |
| 20 | 25076 | | 知恩院東光寺 | 不明(不破郡) | 不明 | 浄土宗 | 成立時期不明。明治期に廃寺届が提出されている。位置不明。 | |

## 表30　関ケ原町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 26003 | | 寂光院 | 今須(不破郡) | 天文元年 | 真言宗 | 当初は近江国坂田郡上野村(現米原市)の弥高九十九坊の内であったようだが、永正９(1512)年の火災により字祖父谷に離散し天文元(1532)年に法印宥盛が現在地に成立した。他の文献によると、祖父谷祖宝寺の一坊で貞享年間(1684～88)に現地門前に移ったとも。 | G、H、I | | N2 |
| 2 | 26004 | | 八幡山聖蓮寺 | 今須(不破郡) | 天正18年以降 | 真言宗→真宗 | 弘仁13(821)年、浄信(三輪秀信)が石津郡牧田村平井に真言宗正蓮寺成立。貞永元(1232)年真宗に転宗。天正13(1587)年に河東の下平井に移転。天正18(1590)年又は17世紀中頃に現在地に移転。元禄14(1701)年以降聖蓮寺に改称し本願寺派に転派。 | | | N2 |
| 3 | 26006 | | 清見山宗徳寺 | 関ケ原(不破郡) | 中世 | 天台宗→真宗 | 天武天皇元(672)年、御陣場御下屋に成立。円成院と称した。長保2(1000)年に天台宗に、さらに貞和3(1347)年又は明応年間(1492～1501)に真宗に転宗。 | I、石仏 | | N2 |
| 4 | 26008b | | 法忍寺旧境内 | 関ケ原(不破郡) | 天正年間 | 真言宗→真宗 | 15世紀代に成立。文明4(1472)年、真宗に転宗。東本願寺末。天正年間(1573～93)に瑞龍西(大門)に移転。文禄3(1594)年に法忍寺の寺号得。聴き取りで天正年間の所在地を特定。 | | | N2 |
| 5 | 26010 | | 神月山三輪寺 | 今須(不破郡) | 天文７年 | 真宗 | 天文７(1538)年、賢順(三輪治郎右衛門)が開基。『不和郡史』他では「三輪寺」。 | | | N2 |
| 6 | 26015 | | 鶏篭山真念寺 | 野上(不破郡) | 享徳３年若しくは文明年間 | 伝天台宗→真宗 | 延喜年間(901～23)比叡山無動寺の相応が南方六坊を建て弟子６人を置く。享徳３(1454)年又は文明年間(1469～87)に円禅が真宗に転宗、成立。天和２(1682)年に山号・寺名を公称。 | | | N2 |
| 7 | 26016 | | 遍照山圓龍寺 | 関ケ原(不破郡) | 江戸時代初頭 | 天台宗→真宗 | 成立時期・位置(伊吹山麓の北山)は不明。大永元(1521)年に真宗に転宗。中山道の整備に伴い現在地に移転。 | G | | |
| 8 | 26017 | | 光雲山円通寺 | 玉(不破郡) | 天正11年以前 | 真言宗→真宗 | 成立時期・位置不明で真言宗、光明寺と称す。天正11(1583)年に真宗に転宗。寛文年間(1661～73)に円通寺に改称。 | | | N2 |
| 9 | 26018 | | 青坂山妙応寺 | 今須(不破郡) | 延文５年 | 曹洞宗 | 延文５(1360)年、長江重景が成立。県内で最古の曹洞宗寺院とされる。応安７(1374)年や至徳元(1384)年には、重景が現境内を中心に伽藍の整備を実施。境内に長江氏墓、背後に今須城跡が所在。 | G、H、I、一石H長江氏墓、妙応寺文書(室町) | | N2 |
| 10 | 26025 | | 撫智山玉養院瑠璃光寺 | 玉(不破郡) | 元禄５年以前 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 104 | N2 |
| 11 | 26027 | | 密蔵院((仮)松尾山麓廃寺跡) | 松尾(不破郡) | 天文５年以前 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 106 | N2 |
| 12 | 26031 | | 医王山光台院薬師寺 | 今須(不破郡) | 不明 | 真言宗 | 文明元(1469)年、光明坊による開基。薬師山→町東→谷山→門前と移転。位置不明。 | | | |
| 13 | 26032 | | 宝幢山不動院今寺 | 今須(不破郡) | 不明 | 真言宗 | 元は法相宗との史料もあり。下土→貝戸と移転。位置不明。 | | | |

## 表31　関ケ原町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 26033 | | 長英山<br>照光寺<br>（照光寺跡） | 今須<br>（不破郡） | 天正年間 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 108 | N2 |
| 15 | 26034 | | 白花山<br>福智院<br>円通寺 | 今須<br>（不破郡） | 不明 | 真言宗 | 天文年間（1532～55）に祖宝寺宝積坊尊宥が草創。弥高寺末寺。梁行弐間半・桁行四間の堂が所在したという。明治11（1878）年の廃寺名簿に記載。位置不明。 | | | |
| 16 | 26035 | | 竟音坊 | 今須<br>（不破郡） | 不明 | 真言宗 | 天文年間（1532～55）に祖宝寺水本坊宥盛が草創。弥高寺末寺。梁行弐間半・桁行四間の堂が所在したという。明治11（1878）年の廃寺名簿に記載。位置不明。 | | | |
| 17 | 26036 | | 照空山<br>蓮浄院<br>祖宝寺 | 今須<br>（不破郡） | 永正９年以降 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 110 | N2 |
| 18 | 26037 | | 小林山<br>久保寺 | 今須<br>（不破郡） | 不明 | 不明 | 慶長２（1597）年の棟札に寺院名が記載。位置不明。 | | | |
| 19 | 26040 | | 野上廃寺跡 | 野上<br>（不破郡） | 伝延喜年間 | 天台宗か | 本文参照 | 本文参照 | 112 | N2 |
| 20 | 26041 | | （堂前遺跡） | 今須<br>（不破郡） | 中世 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 114 | O2 |

## 表32　関ケ原町参考寺院一覧表

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 25005 | | 清泉山<br>玉照寺 | 玉<br>（不破郡） | 正保年間以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。元は天台宗であったが、正保年間（1644-47）に真宗大谷派に転宗。 | G |
| 2 | 26008 | | 幽谷山<br>法忍寺 | 関ケ原<br>（不破郡） | 江戸初期 | 真宗 | 江戸時代に宿場整備の一環として現在地に移転。 | G |
| 3 | 26009 | | 香雲山<br>教楽寺 | 山中<br>（不破郡） | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明であるが、元は天台宗に属し了願寺と称した。寛永７（1630）年、真宗大谷派に転宗。位置不明。 | |
| 4 | 26011 | | 光輪山<br>圓照寺 | 今須<br>（不破郡） | 元和４年 | 真宗 | 元和４（1618）年、祐教が現長浜市の順慶寺末寺の総道場として成立。 | |
| 5 | 26012 | | 金剛山<br>法善寺 | 今須<br>（不破郡） | 延宝２年以前 | 真言宗→<br>真宗 | 成立時期不明。延宝２（1674）年の「今須検地帳」ではかなりの田畑を有する寺院。天和元（1681）年、真宗大谷派に転宗。 | |
| 6 | 26013 | | 大渓山<br>真宗寺 | 今須<br>（不破郡） | 貞享４年以前 | 真宗 | 貞享４（1687）年、道円の成立とされるが、『改訂近江国坂田郡志』の記述によるとそれ以前から土地を所有し存在していた可能性もある。 | |
| 7 | 26014 | | 笹尾山<br>願誓寺 | 関ケ原<br>（不破郡） | 享保元年 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期・位置不明で天台宗。享保元（1716）年、真宗大谷派に転宗し小池・小關村の総道場、文化４（1807）年に寺号得る。 | |
| 8 | 26019 | | 宝有山<br>瑞竜寺 | 関ケ原<br>（不破郡） | 明暦元年以前 | 天台宗→<br>曹洞宗 | 明暦元（1655）年に小沢十郎左衛門が居住、成立時期不明。元禄８（1695）年に現垂井町禅幢寺の一峰単提和尚が再興。本堂の脇に平坦面確認。 | G、H、I |
| 9 | 26020 | | 大慈山<br>観音寺 | 今須<br>（不破郡） | 寛文３年 | 真言宗→<br>曹洞宗 | 寛文３（1663）年、妙応寺第16世遠山呑久を開祖、三輪宗無が成立。元は真言宗で慶雲院と称、延宝８（1680）年に曹洞宗に転宗。妙応寺末寺。 | I、石仏 |
| 10 | 26021 | | 大関山<br>興正寺 | 松尾<br>（不破郡） | 宝暦元年 | 曹洞宗 | 宝暦元（1751）年、妙応寺和尚が開基。妙応寺末の尼寺。 | G |
| 11 | 26022 | | 金堂山<br>宝谷寺 | 今須<br>（不破郡） | 延宝年間以前 | 天台宗 | 延宝年間には寺の基礎はできていたといわれる。明治11（1878）年の廃寺名簿に記載され、現在は「観音寺」と呼ばれる。 | G、I、石仏 |
| 12 | 26023 | | 安楽寺 | 藤下<br>（不破郡） | 享保７年以前 | 真宗 | 享保７（1722）年の「藤下村田畑名寄帳」に所有地が記載。明治11（1878）年の廃寺名簿に記載。 | |
| 13 | 26024 | | 霊泉山<br>龍泉寺 | 野上<br>（不破郡） | 天和２年以前 | 臨済宗 | 成立は天和２（1682）年とされるが、遡る可能性がある。明治11（1878）年には廃寺名簿に記載。位置不明。 | |
| 14 | 26026 | | 松梅院<br>北野寺 | 玉<br>（不破郡） | 延宝８年以前 | 真言宗 | 延宝８（1680）年の玉八幡社棟札には別当として記載あり。位置不明。 | |
| 15 | 26028 | | 自性院 | 松尾<br>（不破郡） | 延宝６年以前 | 真言宗 | 延宝６（1678）年には住僧あり、滋賀県の悉地院末寺と推測されている。文久元（1861）年には無住。位置不明。 | |
| 16 | 26029 | | 心月庵 | 松尾<br>（不破郡） | 明暦元年以前 | 曹洞宗 | 明暦元（1655）年の「岡田将監様御検地名寄帳」に田畑を有することが記載。位置不明。 | |
| 17 | 26030 | | 自観寺 | 今須<br>（不破郡） | 不明 | 臨済宗 | 延宝２（1674）年には竹之尻に所在し、宝永年間（1704-11）に貝戸（皆戸）に移転したが、ともに位置不明。 | |

## 表33　神戸町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 27001 | | 持法山<br>密厳寺 | 下宮<br>（安八郡） | 伝弘仁８年 | 天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 116 | M3 |
| 2 | 27002 | | 影向山<br>神護寺 | 神戸<br>（安八郡） | 伝弘仁８年 | 天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 116 | M3 |
| 3 | 27008 | | 寂静山<br>妙行院<br>正覚寺 | 北一色<br>（安八郡） | 伝弘仁８年 | 天台宗→<br>真宗 | 弘仁８（817）年、最澄が日吉神社を成立時、聖徳太子像を感得し建立。寂静山妙光院と称。貞永元（1232）年に真宗に転宗。聴取で明治時代に池田町の霞間ヶ谷に寺あり焼失。 | G、H、I、<br>無縫塔 | | |
| 4 | 27009 | | 青雲山<br>性顕寺 | 末守<br>（安八郡） | 天文19年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 弘仁元（810）年に最澄が開基。永徳年間（1381～83）に平野庄北方並野部にあり、天文19年（1550）までの間に末守に移転。蓮如の代に真宗に転宗。 | G、H、<br>石仏、<br>無縫塔 | | M3 |
| 5 | 27010 | | 龍寶山<br>常願寺 | 下宮<br>（安八郡） | 不明 | 天台宗→<br>真宗 | 聴き取りによると、元は天台宗に属したが天福元（1233）年に真宗に転宗。寺はかつて野部にあったという。移転時期不明。 | | | |
| 6 | 27011 | | 青光山<br>正願寺 | 西保<br>（安八郡） | 文明３年以前 | 真宗 | 成立時期不明。文明３（1471）年に転宗。 | | | N3 |

## 表34　神戸町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物,遺構 | 調査略原 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 27012 | | 崇道山護国院長久寺 | 川西(安八郡) | 伝弘仁８年 | 天台宗→真宗 | 弘仁8(817)年に最澄が開基。自ら本尊を彫り、崇道山護国院長久寺と称した。文明2(1470)年に真宗に転宗。 | | | M3 |
| 8 | 27013 | | 妙響山信願寺 | 末守(安八郡) | 伝弘仁８年 | 天台宗→真宗 | 弘仁年間(810～824)に最澄が開基。文明年間(1469～1487)に真宗に転宗。天明４(1784)年に転派。 | | | M3 |
| 9 | 27014 | | 醫王山浄誓寺 | 更屋敷(安八郡) | 慶長年間以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。慶長年間(1596～1615)に転宗。本堂南側の薬師堂は天台宗の名残という。 | G | | N3 |
| 10 | 27015 | | 白雲山専修寺 | 柳瀬(安八郡) | 明応９年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。始め天台宗。明応９(1500)年に転宗。寺伝で柳瀬の地域は関ケ原合戦の際に焼き討ちにあった。 | G | | N4 |
| 11 | 27016 | | 紫峰山念教寺 | 南方(安八郡) | 大永３年 | 天台宗→真宗 | 大永３(1523)年に浄円が成立。寺伝によると元は天台宗であったが、江戸時代に真宗大谷派に転宗。 | | | N3 |
| 12 | 27017 | | 横超山誓教寺 | 斉田(安八郡) | 明治末期 | 浄土宗→真宗 | 長久３(1042)年成立。寺伝によると元は浄土宗であったが、長享２(1488)年に真宗に転宗。明治末期に巣南町十七条から現在地に移転。 | | | |
| 13 | 27018 | | 最勝山法泉寺 | 落合(安八郡) | 不明 | ？→真宗 | 成立時期不明。寛正６(1465)年に真宗に転宗。寺伝によると、元は揖斐川付近に寺があったというが、移転時期不明。 | | | |
| 14 | 27019 | | 龍学院正行寺 | 柳瀬(安八郡) | 明応９年 | 真宗 | 明応９(1500)年に円慧が成立。 | | | N4 |
| 15 | 27020 | | 旧御坊明徳寺 | 神戸(安八郡) | 文明年間 | 真宗 | 文明年間(1469～1487)に浄専が成立。旧神戸御坊。 | G | | M3 |
| 16 | 27021 | | 南向山覚養寺 | 柳瀬(安八郡) | 長禄２年 | 天台宗→真宗 | 長禄２(1458)年に深浅により成立。寺伝によると元は天台宗に属したが、寛正５(1464)年真宗に転宗。 | G | | N3 |
| 17 | 27022 | | 香荘山慶円寺 | 落合(安八郡) | 文明11年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明。聴き取りによると元は天台宗に属したが、文明11年(1479)に転宗。 | | | N4 |
| 18 | 27023 | | 東光山善林寺 | 八条(安八郡) | 大永３年 | 真宗 | 大永３(1523)年に正賢により成立。 | G、I | | N3 |
| 19 | 27024 | | 醍醐山願受寺 | 加納(安八郡) | 文明３年 | 真宗 | 文明３(1471)年に浄誓により成立。 | | | N3 |
| 20 | 27026 | | 高田山龍光山永徳寺 | 横井(安八郡) | 文明３年 | 真宗 | 文明３(1471)年に了慶により成立。寛延元(1748)年高田派に転じた。 | | | M3 |
| 21 | 27027 | | 明月山瑠璃光寺 | 神戸(安八郡) | 伝弘仁８年 | 臨済宗 | 弘仁８(817)年、最澄が開基と伝わる。元和２(1616)年に愚堂国師が転宗。 | G、H、板状一石五輪塔 | | M3 |
| 22 | 27028 | | 金龍山瑞雲寺 | 八条(安八郡) | 永正元年以前 | 臨済宗 | 東陽英朝大禅師(永正元(1504)年没)が開山。普山祖幸大禅師が中興開山。 | G、H、I、石仏 | | N3 |
| 23 | 27034 | 町 | (本地堂跡)(日吉八坊寺跡) | 神戸(安八郡) | 平安時代 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 116 | M3 |
| 24 | 30063b | | 即現寺旧境内 | 横井(安八郡) | 不明 | 真宗高田派 | 現在地は揖斐川町の東津汲(30063)。寺伝で平安時代成立で横蔵寺末の了嗣寺と称し、寛延元(1748)年に永徳寺高田派へ改派。大垣地頭からとめ寺となる。高田派信仰継続で、宝暦年間(1751～64)に道場建て速玄寺と改称。聴取で始めは神戸町横井(30063b)にあり移転時期不明。旧境内の位置不明。 | | | |
| 25 | 27037 | | 不動堂 | 丈六道(安八郡) | 伝弘仁８年 | 天台宗 | 弘仁８(817)年に最澄が日吉神社(27035)成立時に鬼門除け堂宇建立と伝。元禄15年(1702)から下宮勧学院の隠居寺。 | G | 116 | M3 |
| 26 | 27038 | | (寶蔵院跡) | 丈六道(安八郡) | 伝弘仁８年 | 天台宗 | 弘仁８(817)年、後安八太夫の依頼を受けて最澄が子安地蔵菩薩を彫刻し堂を建立。寶蔵院と称した。 | | | M3 |

## 表35　神戸町参考寺院一覧表

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 27003 | | 天龍山香林院 | 加納(安八郡) | 不明 | 浄土宗 | **成立時期不明及び沿革不明。** | G、石仏板状一石G |
| 2 | 27005 | | 浄圓寺 | 中沢(安八郡) | 近現代 | 浄土宗 | **僧侶の宿泊所で、明治時代には小屋と炊事場があった。** | H、石仏 |
| 3 | 27006 | | 常蓮院 | 神戸(安八郡) | 不明 | 浄土宗 | **成立時期不明及び沿革不明。** | |
| 4 | 27007 | | 地蔵院 | 柳瀬(安八郡) | 不明 | 浄土宗 | **成立時期不明。聴き取りによると、現在祠の建つ辺りに寺があったという。** | G、I |
| 5 | 27025 | | 三光山廣善寺 | 神戸(安八郡) | 宝暦年間 | 真宗 | **宝暦年間(1751～1764)に成立。** | |
| 6 | 27029 | | 太平山護國寺 | 神戸(安八郡) | 元和年間 | 臨済宗 | **元和年間(1615～1624)に愚堂和尚が開山。寺号は泰平山とする説がある。** | G、H、I、石仏、無縫塔 |
| 7 | 27030 | | 春日山大願寺 | 瀬古(安八郡) | 寛文元年以降 | 臨済宗 | **聴き取りによると、寛文元(1661)年に成立。元は堤防より北に寺はあったという。移転時期不明。** | G、H、I、石仏 |
| 8 | 27031 | | 薬師寺 | 丈六道(安八郡) | 不明 | 曹洞宗 | **成立時期及び沿革不明。** | |
| 9 | 27032 | | 白鳥山光願寺 | 北一色(安八郡) | 18世紀頃 | 曹洞宗 | **寺伝によると、成立時期は18世紀を下らない。元は白鳥神社にあったというが、移転時期不明。** | |
| 10 | 27033 | | 廣大山栄春院 | 北一色(安八郡) | 正保年間以降 | 曹洞宗 | **寺伝によると、正保年間(1644～1648)、安八郡平野村一色の元廣大庵寺跡に当寺を建立。現在への移転時期は不明。** | G、H、I、石仏 |

### 表36　輪之内町寺院一覧表

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 28005 | | 市橋山<br>善明寺 | 大藪<br>(安八郡) | 慶長元年 | 真宗 | 慶長元（1596）年成立。開基は昭念とする説と照念とする説がある。 | G | | 04 |
| 2 | 28006 | | 福束山<br>福満寺 | 福束<br>(安八郡) | 天文年間以降 | 真宗 | 寛正元（1460）、盛綱の開基。その後、天文年間(1532～55)に至り、一山を建立して福満寺と号した。もともとは福束城の近く(28006b、現在の揖斐川の中)にあったが、当地に移転したという。移転時期不明。 | G、H | | |
| 3 | 28006b | | 福満寺旧境内 | 福束<br>(安八郡) | 寛正元年 | | | | | 03 |
| 4 | 28007 | | 正養寺 | 下大榑<br>新田<br>(安八郡) | 文明９年若しくは寛政10年 | 真宗 | 文明９(1477)年、浄観開基。専福寺末寺。寛政10(1798)年成立ともいう。 | | | 04 |
| 5 | 28009 | | 新田山<br>尊南院<br>明養寺 | 塩喰<br>(安八郡) | 明治30年 | 真宗 | 開基は松岡平兵衛で、文明年間(1469～87)、一寺を建立し本願寺宗に属し、住僧には本巣郡鷺巣村中島八右衛門の次男を養子として引取り剃髪し、明養寺住持と為したとの説がある。寺伝では、文安3（1446）年に本巣郡鷺巣村から塩喰村へ引き移ったともいう。明治30年頃、揖斐川河川改修工事により現在地に移転。 | G | | |
| 6 | 28011 | | 龍華山<br>浄光寺 | 福束<br>(安八郡) | 伝承元３年 | 真宗 | 寺伝によると、承元３（1209）年成立、始め天台宗。文亀元（1501）年、浄誓が真宗に転宗した。 | G | | 04 |
| 7 | 28012 | | 竹林山<br>円楽寺 | 大藪<br>(安八郡) | 文明17年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明、始め天台宗。文明17（1485）年に敬伝が真宗に転宗。当村の有力者渡辺家が門徒であり、婚姻関係を結ぶなど、当寺の物心両面の支えとなった。 | G | | 04 |
| 8 | 28013 | | 久池山<br>長然寺 | 中郷新田<br>(安八郡) | 宝暦３年以降 | 真宗 | 明応６（1497）年、成立は了西。尾張国中島郡長岡庄の念仏道場として成立された。その後、安八郡大榑村、大榑村新田へと移り、宝暦３(1753）年以降に現在地へ移転。 | | | |
| 9 | 28015 | | 浄芸山<br>長休寺 | 大吉新田<br>(安八郡) | 元文５年 | 真宗 | 天正２(1574)年、開基は了意。元文５(1740)年に今尾（平田町）にあったものを移転。 | G | | |
| 10 | 28016 | | 正福寺 | 本戸<br>(安八郡) | 明応７年頃 | 天台宗→真宗 | 明治14(1881)年の町村略史に明応７(1498)年坂本祐正開基、明和８(1771)年成立。成立の別説で始め天台宗だが坂本祐正の時に蓮如上人に帰依し、明応７(1498)年に真宗に転じ専光坊と号し、宣如上人時に正福寺の号を免許。 | G | | 04 |
| 11 | 28017 | | 智海山<br>法養寺 | 塩喰<br>(安八郡) | 近代 | 真宗 | 寛正５(1464)年足利政義の開基又は文安3(1446)年成立説あり。元は揖斐川の西側にあり河川工事で現在地に移転。 | | | |
| 12 | 28019 | | 海松山<br>福善寺 | 松内<br>(安八郡) | 元暦元年 | 天台宗→真宗 | 元暦元(1184)年成立、天台宗に属した。永正７(1510)年、真宗に転宗。 | G | | 03 |
| 13 | 28020 | | 大芸山<br>願正寺 | 中郷<br>(安八郡) | 寛永13年 | 真宗 | 天文13(1544)年、了道(河合四郎兵衛利方)が開創.村明細帳には、寛永13(1636)年より当村に安置とあり、以前は他所にお堂があったと推測されている。 | H | | |
| 14 | 28021 | | 光勝山<br>本慶寺 | 四郷<br>(安八郡) | 文明３年 | 真宗 | 文明３(1471)年、祖浄が成立。他の沿革は不明。 | G、石仏 | | 04 |
| 15 | 28022 | | 法性山<br>専徳寺 | 南波<br>(安八郡) | 天文元年 | 天台宗→真宗 | 天文元(1532)年、正浄が開基で天台宗に属した.天正６(1578)年、真宗に転宗し中興開基とされている。 | G | | 04 |
| 16 | 28024 | | 華頂山<br>益法寺 | 里<br>(安八郡) | 大永７年若しくは天正・文禄年間 | 天台宗→真宗 | 大永７(1527)年又は天正・文禄年間(1573～1596)に織田信長の家臣金森兵庫守の男円織坊が一寺を建立した.現在の本尊は、天台宗当時のものが安置されている。 | | | 04 |
| 17 | 28025 | | 報恩山<br>受法寺 | 四郷<br>(安八郡) | 天正２年 | 天台宗→真宗 | 天正２(1574)年、了祐が開基で、天台宗に属した。時期は不明ではあるが、真宗に転宗。 | | | 04 |
| 18 | 28026 | | 護念山<br>慶福寺 | 里<br>(安八郡) | 不明 | 真宗 | 延徳３(1491)年、田中伝吉が一寺を開基.元は大垣にあったが、現在地に移転したという。移転時期不明。 | G、石仏 | | |
| 19 | 28029 | | 得宝山<br>慶正寺 | 輪保<br>(安八郡) | 伝鎌倉時代以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。聴き取りによると、鎌倉時代には天台宗に属し、慶長11(1606)年に玄西が真宗に転宗したという。 | G、H | | 04 |
| 20 | 28032 | | 法輪山<br>傳了寺 | 松内<br>(安八郡) | 明治35年 | 真宗 | 成立時期不明。寺伝で元亀年間(1570～1573)成立。元は天台宗に属したが、永正８(1511)年に真宗に転宗。明治35(1902)年揖斐川改修工事により現在地に移転。 | | | |
| 21 | 28038 | | 永寿寺 | 不明<br>(安八郡) | 不明 | 不明 | 明応元(1492)年大洪水で御堂を流出し移転したとする説と、江戸時代初期まであったが経営困難となり大垣の多芸島に移転したとする説とがある。位置不明。 | | | |
| 22 | 28039 | | 光泉寺 | 不明 | 不明 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明であるが、天台宗に属した。徳治2(1307)年に真宗に転宗。江戸時代初期まであったが、経営困難となり尾張の入戸に移転したとする説とがある。位置不明。 | | | |

### 表37　輪之内町参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 28001 | | 平養山<br>智福寺 | 中郷新田<br>(安八郡) | 17世紀 | 浄土宗 | **成立時期は、明治期に残る寺伝では寛永元（1624）年、昭和期に残る寺伝では元禄年間（1688～1704）とある。高閑により開山。** | |
| 2 | 28002 | | 法縁山<br>了恩寺 | 福束新田<br>(安八郡) | 寛文10年以降 | 真宗 | **寛文10（1670）年、了雲（俗名尾関善兵衛）は大阪から来て当新田を開拓し、その子吉兵衛が寺を建立。** | |
| 3 | 28003 | | 内野山<br>乗顧寺 | 福束新田<br>(安八郡) | 寛文17年以降 | 真宗 | **寛文17（1640）年、成立は道円。もとは安八町にあり、当地に移転した。移転時期不明。** | |
| 4 | 28004 | | 實珠山<br>長延寺 | 下大榑<br>新田<br>(安八郡) | 万治２年 | 真宗 | **万治２（1659）年成立。もと長然寺と号したが、中郷新田の長然寺と同号のため、昭和25（1950）年に長延寺と改めた。** | |
| 5 | 28008 | | 雁松山<br>正光寺 | 下大榑<br>(安八郡) | 寛永19年 | 天台宗→真宗 | **寛永19（1642）年、愛知県冨田（尾西市）の浄念の開基。始め天台宗。寺伝で寺の起源に郡上市安養寺が関わる可能性あり。** | |
| 6 | 28010 | | 法敬山<br>良因寺 | 下大榑<br>新田<br>(安八郡) | 寛文２年若しくは寛文９年 | 真宗 | **寛文２(1662)年（寛文９(1669)年とも）成立。初代住職は義観。** | |

## 表38　輪之内町参考寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 28014 | | 威光山<br>信成寺 | 楡俣<br>(安八郡) | 不明 | 真宗 | 慶長９(1604)年、開基は光休。寺伝によると、滋賀県から当地に移転したという。移転時期は不明。 | |
| 8 | 28018 | | 宇野山<br>西福寺 | 楡俣<br>(安八郡) | 慶長９年 | 真宗 | 慶長９(1604)年、慶of開基。他の沿革は不明。 | |
| 9 | 28023 | | 佐々木山<br>明教寺 | 海松新田<br>(安八郡) | 元和８年 | 真宗 | 元和８(1622)年、三河国佐々木村上宮寺住職二男の宮内が海松新田にて開基。延宝９(1678)年に明教寺の寺号を得た。 | |
| 10 | 28027 | | 佛教山<br>得淨寺 | 四郷<br>(安八郡) | 17世紀前半 | 真宗 | 聴き取りによると、1620年代に道場がつくられ、万治元(1658)年に円入が成立し寺号を得たという。 | |
| 11 | 28028 | | 横超山<br>専祐寺 | 藻池新田<br>(安八郡) | 元和９年 | 真宗 | 元和９(1623)年、石津郡下堀村西光寺の二男の祐圓が開基。他の沿革は不明。 | 石仏 |
| 12 | 28030 | | 棚橋山<br>了常寺 | 楡俣<br>(安八郡) | 慶長９年 | 真宗 | 慶長９(1604)年、常喜が開基。一説には楡俣の寺院の中で最も古く約600～700年前に建立されたともいわれる。 | |
| 13 | 28031 | | 再光山<br>慶安寺 | 楡俣<br>(安八郡) | 慶長９年 | 真宗 | 慶長９(1604)年、直信が開基。他の沿革は不明。 | G、I |
| 14 | 28033 | | 衣斐山<br>太岳寺 | 楡俣<br>(安八郡) | 昭和２年 | 臨済宗 | 成立時期不明。可児郡姫治村雲龍寺第2世の末寺、昭和2年に衣斐義昭が移転・中興。聴取で元は揖斐川町にあり。 | |
| 15 | 28034 | | 平林山<br>心巌院 | 下大榑<br>(安八郡) | 伝慶長年間若しくは寛永年間 | 臨済宗 | 寛永6(1629)年に牧守鉄が開基。聴き取りによると、慶長年間(1596～1615)の成立ともいう。 | G、H、I、石仏 |
| 16 | 28035 | | 大士山<br>江翁寺 | 楡俣新田<br>(安八郡) | 承応４年 | 臨済宗 | 承応4(1655)年に北村可長が建立。他の沿革は不明。 | G、石仏 |
| 17 | 28036 | | 別宗院 | 中郷<br>(安八郡) | 正徳・享保年間 | 黄檗宗 | 正徳(1711～16)・享保(1716～1736)年間頃に成立。現在は御堂のみが残る。以前は山城国宇治郡大和田村万福寺松院と称した。白髭神社の東隣にあるため通称宮寺とも言われている。 | |
| 18 | 28037 | | 善行寺 | 不明<br>(安八郡) | 不明 | 真宗 | 慶長19(1613)年に僧念西が開基。明治20年代に尾西市に移転。位置不明。 | |

## 表39　安八町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号<br>寺院名 | 所在地<br>(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 29002 | | 天王山<br>正明寺 | 東結<br>(安八郡) | 伝９世紀前半 | ？→<br>浄土宗 | 仁明天皇御宇(833～850)の時成立と伝。開祖は願誉西求。慶長16(1611)年浄土宗へ転宗し、天和２(1682)年に東内寺を正明寺と改る。町指定史跡の鎌倉街道が境内の前。 | G | | |
| 2 | 29003 | | 金剛山<br>覚成寺 | 西結<br>(安八郡) | 文明10年 | 真宗 | 文明10(1478)年、開祖は顯了律師。祖師が立寄酬、転宗し御染筆の名号。後、蓮如が立寄、染筆名号「正信偈」御文授。 | G | | N4 |
| 3 | 29004 | | 白龍山<br>圓長寺 | 牧<br>(安八郡) | 文安４年 | 真言宗→<br>真宗 | 文安４(1447)年成立、開基は渡辺春澄、始め真言宗。寛正２(1461)年に真宗大谷派に改宗。寛永３(1626)年に白龍山圓長寺と称。 | | | 04 |
| 4 | 29005 | | 東禅院<br>青渓山<br>蓮徳寺 | 東結<br>(安八郡) | 元弘元年 | 真宗 | 本願寺第三世覚如が元弘元(1331)年に通り時、弥陀の画像十字を賜る。開祖は唯円。古くは青渓山東禅院と号す。明応４(1495)年了円が蓮如自筆の六字の名号、五条袈裟・御珠数・杖・笠をもらい蓮の一字を賜り蓮徳寺と改。 | G、石仏 | | N4 |
| 5 | 29006 | | 金光山<br>智雲寺 | 善光<br>(安八郡) | 不明 | 真言宗→<br>真宗 | 成立時期不明、始め真言宗。文禄元(1592)年智了が真宗に帰す。羽島市足近の西方寺から分れた。慶安２(1649)年に寺号を智雲寺と改称。もとは現在の善光公民館付近にあり。 | | | 04 |
| 6 | 29007 | | 興正山<br>順願寺 | 大森<br>(安八郡) | 近現代か | 真宗 | 成立時期不明、成立は密然、永正８(1511)年真宗に転。元は現在の長良川中にあり、改修工事で当地に移転。 | | | |
| 7 | 02091b | | 養楽寺旧境内 | 中須<br>(安八郡) | 天文５年 | ？→<br>真宗 | 森部村に成立し、正楽寺といったが、永正８(1511)年願西が真宗に帰依。享禄３(1530)年南今ケ渕へ、天文５(1536)年中須へ。天文21(1552)年大垣市平村(02091)へ移ったが、中須には別に通所を置いた。中須にあったころの名称に「展楽寺」という呼び名もある。 | | | |
| 8 | 29009 | | 光遠山<br>受徳寺 | 東結<br>(安八郡) | 明応４年 | 真宗 | 明応４(1495)年成立。開祖は清和天皇十八世の後胤、成頼の五男尊正。 | G | | N4 |
| 9 | 29010 | | 東光山<br>浄満寺 | 北今ケ渕<br>(安八郡) | 寛喜３年 | 天台宗→<br>真宗 | 寛喜３(1231)年成立、始め天台宗。天文８(1539)年に真宗。西方寺末寺。寛文２(1662)年に仏像を安置し、浄専へ寺号浄満寺。江戸末期に西方寺より離末し本山直末。 | G | | N4 |
| 10 | 29011 | | 紫雲山<br>等流寺 | 西結<br>(安八郡) | 天文年間以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明、天台宗の頃は紫雲山と号した。天文年間(1532～55)の頃、顕如より堀治郎兵衛(浄了)が弥陀の絵像を賜り、浄了が中興の祖。寛文年間(1661～1673)等流寺と改めた。 | | | N4 |
| 11 | 29014 | | 南瀧山<br>教順寺 | 南今ケ渕<br>(安八郡) | 永禄７年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明、始め天台宗。永禄７(1564)年に僧大安が真宗に帰依して寺を再興。寛永14(1637)年、寺号を教順寺。 | G、H | | N4 |
| 12 | 29015 | | 横枕山<br>光顯寺 | 森部<br>(安八郡) | 伝８世紀 | 天台宗→<br>真宗 | 最澄の成立と伝わる。長享２(1488)年光顯寺となる。関ヶ原合戦の直前の慶長５(1600)年８月、徳川家康と通じていた教如上人を当寺の須弥壇に匿う。 | G | | N4 |
| 13 | 29017 | | 南光山<br>興久寺 | 南条<br>(安八郡) | 大永７年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。はじめ尾州光明寺末で天台宗。大永７(1527)年に僧浄誓が真宗に転じ興久寺となった。 | G | | 04 |
| 14 | 29018 | | 妙應山<br>通性寺 | 氷取<br>(安八郡) | 明応５年 | 真宗 | 明応５(1496)年、本願寺実如のとき、明誓が真宗に帰依して建立。輝土寺末となる。成立時は寄合所と伝。 | | | 04 |
| 15 | 29019 | | 香雲山<br>歓泉寺 | 中<br>(安八郡) | 不明 | 真宗 | 大永３(1523)年に康怡が真宗に帰し建立。三河本證寺末となる。元は三河にあったが、当地へ移転。移転時期不明。聖徳太子像は古来よりあるが伝来は不詳。 | | | |

表40　安八町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略歴 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 29021 | | 町屋観音堂 | 西結(安八郡) | 永享年間 | 不明 | 永享年間(1429～41)建立か元は結神社東隣にあり。現在は分園に南向きの御堂あり。 | | | N4 |
| 17 | 29023 | | 森部薬師堂 | 森部(安八郡) | 不明 | 浄土宗 | 29015光顕寺の薬師が供水によって今の薬師堂付近へ流れ着いたという。光顕寺より古いといわれている。詳細不明。 | G、H、I | | O4 |
| 18 | 29027 | | (伊久良河宮跡) | 森部(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。中世の社寺跡として遺跡登録されている。 | | | N4 |

表41　安八町参考寺院一覧表

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 29012 | | 円明寺 | 中原(安八郡) | 寛永12年 | 真宗 | 寛永12(1635)年、了玄が真宗に帰依し建立。平成25(2013)年庭寺、赫地移り石碑あり本寺の沿革を記す。 | |
| 2 | 29013 | | 永禄山<br>法融寺 | 大野(安八郡) | 万治４年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。始め天台宗で了法が真宗に転心。万治４(1661)年太子・七高祖ならびに開山の御影を授。もとは永禄堂とも。 | |
| 3 | 29016 | | 道伴寺 | 西結(安八郡) | 寛政５年 | 真宗 | 寛政５年(1793)、開祖は石原放浄。現在は道伴公園となっている。 | |
| 4 | 29020 | | 雲晴寺 | 西結(安八郡) | 宝永年間 | 日蓮宗 | 宝永年間(1704～11)、開祖は久成院清山日遥僧土。結村薗田又吉の先祖、尾張本曽川出遥寺の住職が雲晴寺を建立。結神社再開。 | |
| 5 | 29022 | | 地蔵堂 | 北今ケ洲(安八郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。現在は愛宕神社と呼ばれ、御堂が残る。 | |

表42　揖斐川町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略歴 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 30001 | | 両界山<br>横蔵寺 | 谷汲神原字坂本(大野郡) | 天保３年 | 天台宗 | 本文参照 | G、H、I、板碑状G | 118 | L3 |
| 2 | 30001b | | 横蔵寺旧境内(旧横蔵寺麓) | 谷汲神原(大野郡) | 延喜22年 | | | 本文参照 | | L3 |
| 3 | 30002 | | 瑠璃光山<br>東光寺 | 若松字西薬古(大野郡) | 文明10年 | 天台宗 | 1200年頃まで科領天上寺の薬師如来を奉る堂を文明10(1478)年寺今岡に移し始。承應2(1653)年堂全旋、貞享４(1687)年横蔵寺が持伝修繕、村人が管理建、東光院と称す。 | | | L3 |
| 4 | 30007 | | 谷汲山<br>華厳寺 | 谷汲徳積字芝原(大野郡) | 延暦17年 | 天台宗 | 本文参照 | 本文参照 | 122 | L3 |
| 5 | 30010 | | 横笛山<br>光明寺 | 春日川合字村之内(池田郡) | 弘安３年 | 天台宗→浄土宗 | 元横蔵寺末。弘安3(1280)年に白隆が開基。延宝7(1679)年又は正慶年間(1332～1333)に浄土宗に転宗。 | G、H、I、石仏 | | M2 |
| 6 | 30013 | | 清涼山<br>光蓮寺 | 白根字七屋敷(池田郡) | 慶安３年 | 天台宗→真宗 | 正平10(1355)年に光顕が開山、真宗への転宗時期は不明。慶安3(1650)年、大門屋敷(現白樫内)から移転した。旧境内の位置不明。 | | | |
| 7 | 30014 | | 放光山<br>現施寺 | 清水字村ノ内(大野郡) | 延徳元年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。吉田弾正義久入寺し、延徳元(1489)年に真宗に転宗。 | G | | M3 |
| 8 | 30015 | | 医歳山<br>受念寺 | 島字野田(大野郡) | 貞元２年 | 天台宗→真宗 | 貞元２(977)年に成立、元は天台宗、文明年間(1469～1487)初めに真宗に転宗。 | G、H | | M3 |
| 9 | 30016 | | 瞬雲山<br>等光寺 | 黒田字薬古前(池田郡) | 近代 | 天台宗→真宗 | 本文参照 | 本文参照 | 126 | |
| 10 | 30016b | | 等光寺旧境内 | 春日六合池戸平(池田郡) | 元弘年間 | | | | | M2 |
| 11 | 30018 | | 佛光山<br>善長寺 | 谷汲大岡字中屋敷(大野郡) | 寛政12年 | 天台宗→真宗 | 元横蔵寺末。平安期に最澄により利生院成立、弟子最観が住職の際に現地へ。寛政12(1800)年に重力180m離れた現在地へ移転。転宗時期不明。 | | | |
| 12 | 30018b | | 善長寺旧境内 | 谷汲大岡(大野郡) | 転弘仁年間 | | | | | L3 |
| 13 | 30020 | | 永應山<br>円立寺 | 谷汲深坂字奥ノ城(大野郡) | 貞元３年 | 天台宗→真宗 | 貞元３(978)年、多田満仲が開山し浄光院と称。寛和２(986)年、多田院と改め天台宗に属した。文明３(147)年に真宗に転宗。明暦３(1657)年に円立寺の寺号を得た。戸田伊豆守氏栄公の菩提寺。 | G | | M3 |
| 14 | 30021 | | 鈴智山<br>善明寺 | 朽島字東屋敷(大野郡) | 慶長７年 | 真宗 | 慶長７(1602)年、成立。元確山善明寺(上善明寺)に対して、下善明寺と呼ばれている。 | | | M3 |
| 15 | 30026 | | 曉雲山<br>妙泉寺 | 市場字立丘尼畑(池田郡) | 文禄元年 | 天台宗→真宗 | 文禄元(1592)年に成立、妙泉が開基。江戸期に真宗へ転宗。元は尼寺で、地名にも残る。 | | | M3 |
| 16 | 30027 | | 聖金山<br>長等寺 | 市場字上市場(池田郡) | 文禄年間以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。文禄年間(1592～1596)に真宗に転宗。 | G | | M3 |

## 表43　揖斐川町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 30028 | | 広瀬山<br>妙輪寺 | 坂内広瀬<br>字カスゴ<br>(池田郡) | 文明13年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明、元は横蔵寺末。越中坊(悦預房)と称し地侍の祈祷所。文明13(1481)年に真宗本願寺派に転宗し碧松寺と称、慶長年間(1596～1615)東本願寺派に改派、享保年間(1716～1736年)妙輪寺と改称。 | | | K2 |
| 18 | 30029 | | 紫雲山<br>本照寺 | 坂内坂本<br>字宮上<br>(池田郡) | 文禄元年以前 | 禅宗系→<br>真宗 | 元は元小寺と称する。文禄元(1592)年に真宗(西本願寺派)。慶長年間(1596～1615年)に東本願寺派へ改派。天和3(1683)年に栄心坊、貞享2(1685)年に本照寺と称する。 | H、I | | K2 |
| 19 | 30030 | | 光耀山<br>善明寺 | 房島<br>字南屋敷<br>(大野郡) | 慶長８年 | 真宗 | 弘仁３(812)年、最澄により開山。天上寺と称する横蔵寺末の寺。文明10(1478)年に真宗に転宗。永正14(1517)年に稲葉白雲の夜討ちにより焼失際、房島大町へ移転、善明寺と称す。慶長５(1600)年の治部の乱で再度焼失、慶長８(1603)年に現在の地に再建。上善明寺と呼。天上寺の位置不明。 | | | |
| 20 | 30030b | | 善明寺旧境内 | 房島<br>(大野郡) | 永正14年頃 | 天台宗 | | | | M3 |
| 21 | 30031 | | 宝生山<br>明随寺 | 春日香六<br>字正金地<br>(池田郡) | 慶長５年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。開基は春誓。慶長５(1600)年に真宗に転宗。 | | | |
| 22 | 30032 | | 深谷山<br>圓稱寺 | 樫原<br>字東洞<br>(大野郡) | 文明14年以前<br>若しくは<br>永禄６年 | 天台宗→<br>真宗 | 元は道場であったが、文明14(1481)年に真宗へ転宗し、のちに大谷派へ改派。成立時期は永禄６(1563)年という説もある。 | H、I | | L2 |
| 23 | 30033 | | 白雲山<br>浄輪寺 | 清水<br>字後川<br>(大野郡) | 近代 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。西杉原の村を支配する豪族宮川家菩提所として発足した道場であった。慶長年間(1596～1615)に真宗へ転宗。徳山杉原ダム建設に伴い移転。 | G、H、I | | |
| 24 | 30033b | | 浄輪寺旧境内 | 鶴見<br>(池田郡) | 慶長年間以前 | | | | | K2 |
| 25 | 30034 | | 香流山<br>遍光寺 | 春日六合<br>字下ヶ流<br>(池田郡) | 天正18年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。天正18(1590)年に真宗に転宗、慶長７(1602)年に東本願寺末となる。 | | | M2 |
| 26 | 30035 | | 祐性寺 | 上野<br>字中畑<br>(大野郡) | 慶長２年 | 真宗 | 慶長２(1597)年に成立。 | | | M3 |
| 27 | 30036 | | 金剛山<br>西蔵寺 | 春日美東<br>字中郷<br>(池田郡) | 慶長５年 | 天台宗→<br>真宗 | 元は横蔵寺末、鎌倉時代に竹専庵と称。室町期に折元から現在地へ移転、文安２(1445)年に存如上人に帰依、慶長５(1600)年に真宗へ転宗。寛永16(1633)年に西蔵寺に寺名を改。旧境内位置不明。 | G、H、I | | M2 |
| 28 | 30037 | | 宝泉山<br>発心寺 | 春日美東<br>字向良<br>(池田郡) | 天文10年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明。天文10(1541)年に真宗に転宗。慶長５(1600)年に転派。 | I | | M2 |
| 29 | 30038 | | 岡尾山<br>寂静寺 | 春日六合<br>上ヶ流<br>(池田郡) | 慶長年間以前 | 天台宗→<br>真宗 | 慶長年間(1596～1615年)に真宗へ転宗、慶長7(1602)に東本願寺末となる。 | | | M2 |
| 30 | 30039 | | 王君山<br>法性寺 | 春日美東<br>字尾西<br>(池田郡) | 慶長５年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。元は千足坊清涼院と称していた。慶長５(1600)年に真宗に転宗。 | G | | |
| 31 | 30040 | | 龍登山<br>聞思寺 | 春日美東<br>字豆谷<br>(池田郡) | 慶長５年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。慶長５(1600)年に真宗に転宗。 | G、I | | M2 |
| 32 | 30041 | | 無量山<br>善勝寺 | 東杉原<br>字村内<br>(大野郡) | 天正19年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。元横蔵寺末であったが、天正19(1591)年に真宗へ転宗。享保５(1720)年に寺号を善勝寺とした。 | | | K2 |
| 33 | 30042 | | 朝日山<br>光永寺 | 春日<br>小宮神<br>字村ノ内<br>(池田郡) | 明治14年 | 天台宗→<br>真宗 | 文応元(1260)年に久瀬外津汲字立道に成立した。文明14(1482)年に真宗に転宗。明治14(1881)年、地元住民からの要望で、現在地に移転。 | | | |
| 34 | 30044 | | 光明山<br>専称寺 | 乙原<br>字森内<br>(大野郡) | 嘉永５年頃 | 天台宗→<br>真宗 | 文治４(1188)年～建久６(1195)年、横蔵寺第48世が別院として専昌寺一行坊を建てたことが起源。文明14(1482)年に真宗に転宗、慶長年間(1596～1615年)に大谷派に改派。現在の堂は嘉永５(1852)年に再建されたもの。成立時は乙原寺跡とされている場所にあったという。 | G、H | | |
| 35 | 30044b | | 専称寺旧境内<br>(乙原寺跡) | 乙原<br>字森内<br>(大野郡) | 文治４年～<br>建久６年 | | | | | L3 |
| 36 | 30045 | | 功徳山<br>善重寺 | 日坂<br>字下村<br>(池田郡) | 大永６年 | 天台宗→<br>真宗 | 大永６(1526)年に成立、天台宗に属した。本願寺第８世蓮如の時に真宗に転宗、慶長５(1600)年に大谷派へ改派。 | G、H、I、<br>石仏 | | L2 |
| 37 | 30046 | | 南宮山<br>長光寺 | 春日美東<br>字中瀬<br>(池田郡) | 慶長５年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期は不明。元は天台宗の草庵であったが、慶長５(1600)年に真宗へ転宗。 | | | M2 |
| 38 | 30047 | | 瑠璃光山<br>西向寺 | 西津汲<br>字中武良<br>(池田郡) | 養和元年 | 天台宗→<br>真宗 | 養和元(1181)年、仙範僧都弟子の円澄が成立。元横蔵寺末で薬師寺と号した。文明６(1474)年に真宗に転宗、天文５(1536)年に西向寺と称した。 | G、石仏 | | L3 |
| 39 | 30048 | | 佛教山<br>速行寺 | 市場<br>字七屋敷<br>(池田郡) | 永禄２年 | 真宗 | 長禄元(1457)年成立。永禄２(1559)年に市場字中屋敷から移転したというが、旧境内の位置不明。 | | | M3 |
| 40 | 30049 | | 善龍寺 | 西横山<br>字桂<br>(池田郡) | 文明２年 | 天台宗→<br>真宗 | 文明２(1470)年、慈雲により成立。初めは林光院と称していたが、文明６(1474)年に真宗に転宗した際、善龍寺に改めた。慶長５(1600)年に大谷派に改派。 | G、I、石仏 | | L2 |
| 41 | 30050 | | 大乗山<br>福田寺 | 三倉<br>字寺屋<br>(池田郡) | 伝天文20年 | 真宗 | 天文20(1551)年成立と伝わる。慶長12(1607)年に真宗大谷派に転宗。 | G、I | | L3 |
| 42 | 30051 | | 恵光山<br>福円寺 | 外津汲<br>字立道<br>(池田郡) | 応安８年以前 | 天台宗<br>→真宗 | 成立時期は不明。元横蔵寺末。応安８〈永和元〉・文中４〈天授元〉(1375)年に真宗に転宗。 | | | L3 |

**表44　揖斐川町寺院一覧表（３）**

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 30052 | | 称念寺 | 坂内坂本字中平(池田郡) | 天文年間以前 | ?→真宗 | 成立時期不明。往古は薬師堂で天文年間(1532～55)に阿弥陀仏を本尊。慶長年間(1596～1615)に真宗に転宗。昭和18(1943)年頃に焼失。現在は坂本コミュニティセンター。 | I、石仏 | | K2 |
| 44 | 30053 | | 藤橋山勝善寺 | 東横山字村(大野郡) | 応安８年以前 | 天台宗→真宗 | 応安８〈永和元〉・文中４〈天授元〉(1375)年には横蔵寺の末寺として存在したといわれ、文明14(1482)年に真宗に転宗。慶長５(1600)年に大谷派となり、安八郡横井の永徳寺末の道場となる。寛延年間(1748～1751)に東本願寺直末。 | G | | L2 |
| 45 | 30054 | | 寂光山真教寺 | 三輪字下新町(大野郡) | 永正10年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。永正10(1513)年、蓮如の弟子了因が志津山の寺を現在地に移転と伝。宝暦13(1763)年に本願寺派から大谷派へ改派。聴き取りで元は天台宗。 | | | M3 |
| 46 | 30055 | | 紫光山西蓮寺 | 和田字杁之下(池田郡) | 伝延暦年間若しくは弘仁年間 | 真宗 | 延暦年間(782～806)か弘仁年間(810～823)成立、開基最澄、元横蔵寺末西琳院。康永2(1343)年に普昭阿闍梨再興、慶長14(1609)年真宗に転宗。元和4(1618)年に西蓮寺。 | G | | M3 |
| 47 | 30057 | | 紫雲山長存寺 | 上南方字田中山(大野郡) | 天文年間 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。元は天持寺と称し上南方の御堂ヶ洞か寺小場。文明11(1479)年に真宗に転宗、天文年間(1532～55)現在地へ移転。寛永年間(1624～44)の再興時に寺名を長存寺と改。 | | | M3 |
| 48 | 30058 | | 谷汲山大乗寺 | 三輪字上新町(大野郡) | 慶長２年 | 真宗 | 文亀元(1501)年、国枝正時が字小谷に成立した一宇に始まる。慶長2(1597)年に現在地へ移転。同15(1610)年に寺号を長福寺とし、正徳2(1712)年に大乗寺に改める。字小谷には「大乗寺藪」という私称地（35058b）があり、現在は墓地。 | | | M3 |
| 49 | 30058b | | 大乗寺旧境内 | 小谷(大野郡) | 文亀元年 | | | | | M3 |
| 50 | 30059 | | 湯次山伝明寺 | 坂内坂本字井ノ口(池田郡) | 寛正年間 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明。初めは應譽院と称していたが、寛正年間(1460～66)に真宗本願寺派に転宗した際に、寺号を伝明寺とした。慶長年間(1596～1615)に東本願寺派へ改派。 | G | | K2 |
| 51 | 30060 | | 龍渓山友徳寺 | 坂内広瀬字堂前(池田郡) | 貞応元年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明。元横蔵寺末で、大応院と称する広瀬加賀の菩提所であった。貞応元(1222)年に法善(佐々木治郎光實)が真宗道場を営建すると、門下は道場に帰依するようになり一時荒廃。慶長５(1600)年に東本願寺派、その後大谷派へ改派。正保４(1647)年に友徳寺に改称。 | G | | K2 |
| 52 | 30061 | | 高流山正業寺 | 西津汲字西武良(池田郡) | 永徳2・弘和2(1382)年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明であるが、永徳２・弘和２(1382)年の史料に記載があり、元横蔵寺末。長期間荒廃していたところ、安永３(1774)年に横井永徳寺末高田派に改派し、再興。 | | | |
| 53 | 30062 | | 等覚寺 | 東津汲字市抜(池田郡) | 永正９年 | 天台宗→真宗 | 永正９(1512)年に道場造立。寛文年間(1661～1673)真宗に転宗、永徳寺末光福寺。寛延元(1748)年に永徳寺高田派への改派で大垣地頭からとめ寺。宝暦年間(1751～1764)頃に現神戸町安次の等覚寺(廃寺)を譲受、高田派寺院。 | G | | |
| 54 | 30063 | | 仏光山即現寺 | 東津汲字鎌坂(池田郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | **寺伝で平安時代成立、横蔵寺末了嗣寺、寛延元(1748)年に永徳寺高田派へ改派で大垣地頭からとめ寺。高田派信仰を続け宝暦年間(1751～64)に道場建立、連玄寺と改称。聴取で始め神戸町横井(30063b)にあり。移転時期不明。** | G | | |
| 55 | 30064 | | 雲龍山大興寺 | 大光寺字水上(大野郡) | 伝延暦年間 | 天台宗→臨済宗 | **延暦年間に元横蔵寺末で成立と伝。文和５〈延文元〉・正平11(1356)年に土岐頼雄が滝瀬周沢を請じて開基し天竜寺末、永徳２・弘和２(1382)年南禅寺派、慈聖院の末寺。土岐頼雄の墓あり。** | G、H、I | | M3 |
| 56 | 30067 | | 医王山東光寺 | 小野字北屋敷(大野郡) | 伝大同年間 | 真言宗→臨済宗 | **本文参照** | 本文参照 | 128 | M3 |
| 57 | 30068 | | 尊照山松林寺 | 三輪字北新町(大野郡) | 長禄２年 | ?→天台宗→臨済宗 | **長禄２(1458)年、妙心寺第５代義天が成立、焼失。慶長年間(1596～1615)に西尾城主の西尾光教が菩提寺で再建、天台宗に転宗。西尾氏の改易後大破し慶安４(1651)年に代官岡田義政が菩提寺で禅宗に転宗。** | G、H、I | | M3 |
| 58 | 30070 | | 心華山正受寺 | 谷汲長瀬山田(大野郡) | 弘化４年 | 天台宗→臨済宗 | **延暦15(796)年に横蔵寺末で成立。正徳４(1714)年廃絶、弘化４(1847)年に現在地へ移り再興、禅宗妙心寺派に転宗。前身寺院の場所不明。** | | | |
| 59 | 30072 | | 渓徳山洞泉寺 | 小津字下瀬古(大野郡) | 近世か | 天台宗→臨済宗 | **本文参照** | 本文参照 | 130 | L3 |
| 60 | 30072b | | 洞泉寺旧境内 | 小津字下瀬古(大野郡) | 伝長元元年 | | | | | L3 |
| 61 | 30073 | | 東春山法雲寺 | 谷汲岐礼字宮ノ上(大野郡) | 正徳年間 | 臨済宗 | **天正10(1582)年清水城主稲葉良通(一鉄)が土岐頼芸菩提所として成立し、東春庵と称した。正徳年間(1711～16)に現在地へ移転、法雲寺と改称。土岐頼芸の墓がある。** | G、H | | |
| 62 | 30074 | | 臨済山長山寺 | 谷汲長瀬字上野(大野郡) | 大正期 | 天台宗→臨済宗 | **正慶年間(1332～33)、長瀬城主土岐頼実の養子である藤原冬基が開基となり、長山寺を成立。当初は36坊を有したが、天文元(1548)年に焼失。天保4(1833)年に臨済宗に転宗。大正期に移転。** | G | | |
| 63 | 30074b | | 長山寺旧境内 | 谷汲長瀬(大野郡) | 正慶年間 | | | G、石神堂跡、井戸石組、集石 | | L4 |
| 64 | 30075 | | 萬松山瑞巌寺 | 瑞岩寺字府(池田郡) | 文和２年 | 臨済宗 | **天平年間に行基が地蔵菩薩の小堂を建立と伝、小島城主の土岐頼清土岐氏が堂を再建。建武３・延元元(1336)年に頼清が死去し子の頼康が父の菩提を弔う堂宇建立し京都南禅寺の大林善育大和尚を請じ葬儀を執行。文和２(1353)年、後光厳院が小島頓宮に入り土岐頼康に伽藍建立命ず。土岐頼清・頼康父子の墓あり。** | G、H、I | | M3 |

## 表45　揖斐川町寺院一覧表（４）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略図 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 65 | 30076 | | 光常院 | 小島 字本郷 江川南 (池田郡) | 慶長３年 | 臨済宗 | 慶長３(1598)年、福壽坊が正観音像を背負って当地に至り一堂を建立したが、寛永元(1624)年に死去し寺は荒廃した。寛永５(1628)年に常光庵として再興したが再度荒廃。 | G | | M3 |
| 66 | 30077 | | 薬師寺 | 上南方 字北村 (大野郡) | 天正年間 | 臨済宗 | 天正年間(1573～92)に野原家政が成立、寛文の洪水で流出。元禄年間に一宇を再建、安永８(1779)年に薬師庵、寛政年間(1789～1801)に薬師寺に改称。 | G | | M3 |
| 67 | 30078 | | 徳泉山 中林寺 | 谷汲名礼 字中林 寺前 (大野郡) | 永正14年以降 | 天台宗→臨済宗 | 山県市南泉寺の東嶺和尚が南泉寺(永正14年(1517年)成立)を離末、中林寺を成立。元は宝光院と徳泉庵の２つの天台宗寺院。天保期に修行僧を抱える道場として興る。 | G、石仏 | | L3 |
| 68 | 30079 | | 広厳山 巌泉院 | 坂内広瀬 字篠洞 (池田郡) | 応永16年 | 天台宗→曹洞宗 | 応永16(1409)年に空山が開山し、東泉庵と称した。元は天台宗の寺院であったが万治2(1659)年に曹洞宗に転宗し、岩泉院に改称した。 | G、I | | K2 |
| 69 | 30080 | | 清光山 月桂院 | 長良 字村之内 (大野郡) | 天正10年 | 臨済宗→曹洞宗 | 天正10(1582)年、稲葉一鉄が旧宅を菩提寺として成立。開山は湖南宗学。慶長12(1607)年に曹洞宗に転宗。稲葉一鉄の墓がある。 | G、H、石仏 | | M3 |
| 70 | 18065b | | 法幢山 増徳寺 | 徳山 字村平 (大野郡) | 永享10年 | 真言宗→天台宗→曹洞宗 | 成立時期は不明。永享10(1438)年には徳山城主徳山頼長の菩提寺で存在。後に天台宗、元和元(1615)年に曹洞宗に転宗。徳山ダム建設に際し、昭和６(1931)年に本巣市(18065)へ移転。 | | | J2 |
| 71 | 30082 | | 大貴山 長国寺 | 日坂 字中村 (池田郡) | 応永元年 | 曹洞宗 | 成立時期不明。行基が薬師・釈迦・大日・観音等の像を彫刻し、一宇の堂を建立。寺の荒廃後、土岐頼康が再建、土岐氏没落とともに長国寺は廃絶と伝。応永元(1394)年に天台宗寺院で現在地に再建、応永12(1405)年(慶長年間(1596～1615)の説有)に曹洞宗に転宗。 | G、H、I、石仏 | | L2 |
| 72 | 30082b | | 長国寺旧境内 (長国寺跡) | 春日美束 (池田郡) | 不明 | 不明 | | G、石積 | | L2 |
| 73 | 30083 | | 施無畏山 観音寺 | 春日中山 中山之内 (池田郡) | 享保18年以降 | 天台宗→曹洞宗 | 本文参照 | 本文参照 | 132 | M2 |
| 74 | 30083b | | 観音寺旧境内 | 春日中山 中山之内 (池田郡) | 弘安年間 | | | | | M2 |
| 75 | 30083C | | 観音寺旧境内 | 春日中山 (池田郡) | 養和元年 | | | | | M2 |
| 76 | 30084 | | 金龍山 法幢寺 | 瓶永 字門前 (池田郡) | 明応６年 | 天台宗→曹洞宗 | 成立年代不明、天台宗。清水の蓮法寺火災で焼失し、明応６(1497)年に不破郡今須の妙應寺の章経宰説和尚が現在地へ移し法幢寺と改称。 | G、H、I、石仏 | | M3 |
| 77 | 30088 | | 補陀山 約月院 | 清水 字後川 (大野郡) | 貞和年間 | 曹洞宗 | 本文参照 | 本文参照 | 134 | M3 |
| 78 | 30090 | | 法性山 覚林寺 | 清水 字村之内 (大野郡) | 慶長年間 | 天台宗→日蓮宗 | 慶長年間(1596～1615)に、丹波守身延山日乾を請じて天台宗の寺院跡を日蓮宗に転宗し成立。 | G、石仏 | | M3 |
| 79 | 30092 | | 恵眼山 本覚寺 | 谷汲深坂 字西谷 (大野郡) | 天正５年 | 日蓮宗 | 天正５(1577)年、本国寺日禎の法孫である日譽による成立。 | G、石仏 | | L3 |
| 80 | 30093 | | 観音堂 | 谷汲岐礼 字堂ヶ洞 (大野郡) | 14世紀頃 | 単立 | 成立時期不明、除正光坊が開山し上野山正光寺医王院と称。建武年間(1334～38)に夢窓国師が座禅行い土岐頼貞が里山近くに伽藍を再建、天文21(1552)年に兵乱で焼失。 | G | | L4 |
| 81 | 30095 | | (寺屋敷遺跡) | 山手 字沢焼 (大野郡) | 平安時代後期 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 138 | J2 |
| 82 | 30096 | | (寺平遺跡) | 塚 字寺平 (大野郡) | 10世紀前半 | 天台宗→真宗 | 本文参照 | 本文参照 | 140 | J2 |
| 83 | 30097 | | (仮)小島廃寺 | 小島 字堂後 (池田郡) | 古代 | 不明 | 大正13(1924)年に水田より軒丸瓦が出土したことから、古代寺院の存在が推測されているが、沿革・位置は不明。 | 瓦、G、H、I | | M3 |
| 84 | 30102 | | 極楽寺 | 極楽寺 (大野郡) | 不明 | 天台宗 | 元横蔵寺末。成立時期は不明だが、元極楽寺蔵法華玄儀釋籤の奥書に文永3(1266)年に寺号が確認できる。天文16(1547)年、斉藤道三の兵火により廃頽する。位置不明。 | | | |
| 85 | 30103 | | 天神寺 | 上南方 (大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期は不明だが最澄成立と伝わる。上南方柱御堂ヶ洞の寺小場に寺があったといわれる。位置不明。 | | | |
| 86 | 30104 | | 康永寺 | 上南方 (大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期は不明であるが、夢窓国師（1275～1351年）開基、土岐頼雄（？～1380）成立と伝わる。上南方の柱寺林に寺があったといわれる。位置不明。 | | | |
| 87 | 30105 | | 光耀山 天上寺 | 北方 字天上 (大野郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 元横蔵寺末。弘仁３(812)年、最澄成立と伝。文明10(1478)年に真宗に転宗。永正14(1517)年に稲葉白雲の兵火で廃絶、大永４(1524)年に房島の大町で再建し善明寺と改。位置不明。 | G | | |
| 88 | 30106 | | 白岩山 中蓮寺 | 北方 字天上 (大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期は不明だが最澄成立と伝わる。成立後まもなく無住となり荒廃した。位置不明。 | | | |
| 89 | 30107 | | (仮)木曽屋廃寺 | 谷汲 木曽屋 (大野郡) | 中世か | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 136 | L3 |
| 90 | 30108 | | 棚口庵 | 谷汲名礼 字小洞 (大野郡) | 不明 | 不明 | 天正15(1587)年に中林寺の草庵を結び、往来する人々を接待したといわれる。位置は不明。 | | | |

表46　揖斐川町寺院一覧表（５）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略示 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 91 | 30112 | | 遍法寺 | 坪水字村之内(大野郡) | 不明 | 天台宗→曹洞宗か。 | 成立時期は不明。明応６(1497)年、不破郡今須の妙應寺の末跡寺院和尚が、火災によって類焼した遍法寺を移し、法輪寺として再興した。位置不明。 | | | |
| 92 | 30113 | | 光明寺 | 野永字濃口(池田郡) | 不明 | 不明 | 成立年代は不明だが、揖斐寺の登伸(天正９(1581)年没)によって建立された。位置不明。後に現本巣市政田に移る。 | | | |
| 93 | 30114 | | 地蔵庵 | 市場字女五尼畑(池田郡) | 不明 | 不明 | 龍徳寺末寺。成立年代は不明だが、永正14(1517)年の文書に寺院名の記載がある。地蔵庵はこの紗寒寺の前身となる尼庵であった可能性がある。位置不明。 | | | |
| 94 | 30116 | | 東律院 | 東津汲(池田郡) | 不明 | 不明 | 明治初年に寺跡で仏像は、位置不明。大垣市宗休寺の前身「広瀬寺」に該当する可能性あり。 | | | |
| 95 | 30117 | | 天龍山相応寺 | 池山字門入(大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期は不明。『揖斐郡志』によると、明治維新時の廃仏毀釈により廃絶したとされる。位置不明。 | | | |
| 96 | 30118 | | 三井寺 | 三輪字屋形堂(大野郡) | 永和・天授3年 | 不明 | 永和３・天授３(1377)年、横蔵寺鰐供養の記録に寺院名が記載。天字三輪阿弥堂が三井寺推定地であり、石塔類が散乱する。 | ６、Ⅱ、宝塔、重制六面石幢 | | M3 |
| 97 | 30120 | | 長福寺 | 坂内広瀬(池田郡) | 延慶２年 | 天台宗 | 延慶２(1309)年に成立されたが、中世末期には無住無檀越で、広瀬三ヶ村立会の鎮音堂となった。 | | | K2 |
| 98 | 30121 | | 安養寺 | 若松西垣古(大野郡) | 伝平安時代 | 不明 | 成立時期は不明だが平安時代と伝わる。北側にある八幡神社の神宮寺。明治維新時の廃仏毀釈によって廃絶。現在は田畑。 | 石塔 | | L3 |
| 99 | 30122 | | (仮)尾西千足廃寺 | 春江東栗平尾・尾角(池田郡) | 不明 | 不明 | 成立時期など詳細不明。聴き取り調査によってかつて寺があったという情報を得た。平坦面が４面程連続し、最上段に基礎状の高まりを確認した。 | ６、１、石仏、基壇状の高まり | | |
| 100 | 30125 | | 谷山説教場 | 春日六合字谷山(池田郡) | 不明 | 真宗 | 天正４(1576)年、織田信長の兵火のため本尊を奉じて難を避け、覚林が堂宇を建立した。弘照今(大野町)の遺場。位置不明。 | | | |
| 101 | 30126 | | 瀧不動院 | 春日六合字谷平(池田郡) | 14世紀前半 | 不明 | 行基が不動明王を彫刻し小堂を建て安置したと伝わる。土岐頼清が不動堂を建て、建武３・延元元(1336)年、頼清の子の頼康が不動院と改称し、瑞龍寺子院となる。 | | | M3 |
| 102 | 30127 | | (上原遺跡) | 上原(大野郡) | 古代 | 不明 | 詳細不明 | 本文参照 | 142 | J2 |
| 103 | 30128 | | 伐明寺 | 小津字下瀬古小坂 | 不明 | 不明 | 弘仁年間(810～824)には古坂に存在したといわれる。昭和の始めに30072個泉寺の本堂脇に岩屋観音を移し、個泉寺観音堂と改称して祀られていた。位置不明。 | | | |

表47　揖斐川町参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 30009 | | 無量山長圓寺 | 三輪字北新町(大野郡) | 慶安２年以前 | 浄土宗 | 成立時期不明。等与上人(慶安２(1649)年没)によって開山。 | ６、Ⅱ、Ⅰ |
| 2 | 30011 | | 城台山一心寺 | 三輪字城台山(大野郡) | 天保元年 | 浄土宗 | 揖斐郷主岡田氏の家臣が播隆上人のために阿弥陀堂を成立。明治12(1879)年に寺名を一心寺に改める。 | ６ |
| 3 | 30012 | | 照福山長慶寺 | 北方字寺廻古(大野郡) | 寛文年間 | 真宗 | 寛文７(1667)年に長慶寺と称された。境内に「寛文元年２月」銘の瓦がある。 | ６、１、石仏、瓦 |
| 4 | 30017 | | 白雲山専教寺 | 谷汲神原字谷口(大野郡) | 元禄元年 | 真宗 | 元禄元(1688)年、了順によって成立。 | |
| 5 | 30022 | | 桜竜山善立寺 | 谷汲長瀬河原屋敷(大野郡) | 寛文４年若しくは寛文11年 | 真宗 | 寛文４(1664)年又は寛文11(1671)年、善立が開山。 | ６、１ |
| 6 | 30023 | | 明蓮山顕法寺 | 谷汲名礼林ノ寄道(大野郡) | 延宝元年 | 真宗 | 延宝元(1673)年、三河国勝福寺の舎弟存分がこの地に移住したところ、村人が帰依するようになり成立。 | |
| 7 | 30024 | | 木倉山西宝寺 | 谷汲木倉屋(大野郡) | 貞享２年 | 真宗 | 貞享２(1685)年、了保が成立。 | |
| 8 | 30025 | | 長松山信楽寺 | 上野字段(大野郡) | 元禄元年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期は不明。開基は善西。元禄元(1688)年に真宗に転宗。 | |
| 9 | 30056 | | 衆霊山光明寺 | 野永字中村(池田郡) | 慶応元年 | 真宗 | 慶応元(1865)年、坪井得圓によって開基。 | |
| 10 | 30065 | | 衆遊院 | 岡字村(池田郡) | 寛政６年以前 | 臨済宗 | 成立時期は不明。寛政６(1794)年に廃寺となるが、本尊を現在地へ移し衆遊堂と称した。 | ６、１、石仏 |
| 11 | 30066 | | 志津山円通寺 | 志津山字村ノ内(大野郡) | 安永年間 | 臨済宗 | 安永年間(1772～1781)に小川理右衛門女恵源尼が開基。天保11(1840)年に城音庵から円通庵と改称する。 | |
| 12 | 30069 | | 大覚山自性院 | 小谷字城ヶ峯(大野郡) | 昭和36年 | 臨済宗 | 天保５(1834)年、高橋八十右衛門によって創立。昭和36(1961)年に現在地に移転。 | |

表48　揖斐川町参考寺院一覧表（2）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 30069b | | 大覚山自性院旧境内 | 小谷(大野郡) | 天保５年 | 臨済宗 | **天保５(1834)年、高橋八十右衛門によって創立。谷汲巡礼街道に面し、谷汲山への巡礼者を接待した茶所として栄えた。** | |
| 14 | 30071 | | 弁天寺 | 極楽寺字村中(大野郡) | 元禄年間 | 臨済宗 | **元禄年間(1688～1704)、細野玄正が成立。廃絶していた極楽寺の本尊を安置する堂(辨天庵)を建立した。地元では「庵寺」と呼ばれている。** | G、I |
| 15 | 30085 | | 不動寺 | 北方字北外門(大野郡) | 寛政年間 | 曹洞宗 | **寛政年間(1789～1801)に智香禅尼が成立。文化８(1811年)に不動庵と改称。** | G |
| 16 | 30086 | | 賢徳山蓮華寺 | 脛永字門前(池田郡) | 慶長８年以前 | 曹洞宗 | **成立年代は不明だが、法幢寺の瑞翁和尚が開山。慶長14(1609)年の検地帳に「蓮華寺」が見られる。** | G、H、宝塔 |
| 17 | 30087 | | 心月院 | 上東野字村北(池田郡) | 不明 | 曹洞宗 | **成立時期及び沿革不明。** | |
| 18 | 30089 | | 白龍山長昌寺 | 坂内川上字村ノ内(池田郡) | 不明 | 天台宗→曹洞宗 | **成立時期は不明。初めは常栄院長昌寺と称したが後に今須妙応寺の支配下となり、曹洞宗に転宗した。天保４(1833)年に成立された夜叉龍神社の別当寺となった。** | G、I |
| 19 | 30091 | | 道慶寺 | 福島字石畑(大野郡) | 文化年間 | 日蓮宗 | **文化年間(1804～1818)に日聴が成立。道慶庵とも称されているる** | |
| 20 | 30094 | | 普賢寺(普賢寺跡) | 開田字高(大野郡) | 不明 | 真言宗 | 寺があったという伝承が残るが、徳山ダム建設に際して行われた平成3年の発掘調査では遺構は確認できなかった。縄文・中世・近世の遺物散布地として遺跡登録されている。 | G |
| 21 | 30098 | | 蓮華寺 | 三輪字下町(大野郡) | 享保11年 | 日蓮宗 | 成立時期は不明。清水覚林寺の日賢が、元上新町に法華庵として中興開基。享保11(1726)年に下町に移転し、明治15(1882)年に寺号を蓮花寺に改称。 | |
| 22 | 30099 | | 西光寺 | 春日川合(池田郡) | 寛永17年以前 | 真宗 | 成立時期は不明。寛永17(1640)年に西光寺の寺号を得た。寛政８(1796)年の明細帳に、真宗佛光寺派に属し無住と記載、明治８(1875)年廃絶。 | G、I、石仏 |
| 23 | 01186b | | 真宗寺 | 鶴見字宮貝戸(池田郡) | 天和３年 | 真宗 | **天和３(1683)年成立。揖斐川町大乗寺の別院(道場)で、明治９(1876)年に真宗教務所への届出では長福寺と称す。横山ダム建設に伴い、昭和38(1963)年に岐阜市日光町(01186)に移転。** | |
| 24 | 30101 | | 鬼姫生道場 | 東杉原(大野郡) | 不明 | 真宗 | 文政２(1819)年には存在したと考えられる。横山ダム建設により水没し、位置不明。 | |
| 25 | 30109 | | 常徳寺 | 谷汲深坂字北出畑(大野郡) | 不明 | 日蓮宗 | 成立時期は不明。明治維新時の廃仏毀釈によって廃絶。位置不明。 | |
| 26 | 30110 | | 建塔寺 | 谷汲深坂(大野郡) | 不明 | 日蓮宗 | 享保12(1727)年に元村字建塔寺から新田に移転。明治期に廃絶。位置不明。 | |
| 27 | 30111 | | 正徳寺 | 谷汲長瀬字富田(大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。位置不明。 | |
| 28 | 30119 | | 常栄寺 | 坂内川上(池田郡) | 不明 | 天台宗 | 文政５(1822)年の「長昌寺由緒記」に、長昌寺元屋敷のうちの一つとして常栄院屋敷の名がある。位置不明。 | |
| 29 | 30123 | | 小津白山神社周辺 | 久瀬小津中島(池田郡) | (神社) | 不明 | 白山神社は貞元２(977)年に成立され、境内の薬師堂内に観音立像・懸仏等安置。境内入口に薬師堂があり、神社周辺に平坦面を確認したが性格不明。寺院としての沿革はなく、詳細不明。 | G、石仏 |

表49　大野町寺院一覧表（1）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 31002 | | 中本山実相院(領家実相院跡) | 領家(大野郡) | 伝養老２年 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 148 | M3 |
| 2 | 31003 | | 宝雲山来振寺(来振寺境内遺跡) | 稲富(大野郡) | 霊亀元年 | 真言宗 | 本文参照 | 本文参照 | 144 | M4 |
| 3 | 31007 | | 永勝山西照寺 | 野(大野郡) | 近現代か | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。天台宗に属していたが、大永年間(1521～1528)了空のとき真宗に転宗。初発の地は西方北屋敷墓地の東付近で、野村新開地に伴い現在地に移建か。織田河内守家の菩提寺だったとも伝えるが、詳細不明。 | G | | |
| 4 | 31008 | | 法光山順明寺 | 野(大野郡) | 永正年間頃 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明、竹中宗鑑が成立。大永３(1523)年頃、真宗に改宗し法光山順明寺と改称。一説に天台宗灯明寺と称、永正年間(1504～1521)竹中宗鑑が真宗に改宗、寺号を順明寺と改め柚子之木洞の布賀利神社付近から現在地に移建とも。 | G、H | | M4 |
| 5 | 31008b | | 順明寺旧境内 | 野(大野郡) | 大永３年以前 | | | | | M3 |
| 6 | 31009 | | 古田山徳林寺 | 中之元(大野郡) | 仁安２年 | 真言宗→真宗 | 仁安２(1167)年、明慶により成立、始め真言宗。文明３(1471)年浄専が転宗、開祖で徳林寺と称。古くは山号を大法会山と称。七堂伽藍があり幕末に焼失。 | | | M3 |
| 7 | 31010 | | 東雲山専権寺(専大寺跡) | 上秋(大野郡) | 正平２年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明。正平２(1347)年に天台宗専大寺と称する。享禄3(1530)年に洪水で流出。天文16(1547)年、長屋景満が再建も、兵火で焼失。享保7(1722)年、東海が真宗の東雲山専権寺を成立した。専大寺跡からは右記の遺物が出土した。 | 宝塔(文安４年銘)、金銅仏、懸仏、土師皿、G古瀬戸壺 | | M4 |

## 表50　大野町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略票 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 31011 | | 宝来山 光照寺 | 公郷 (大野郡) | 伝天長元年 | 真言宗→真宗 | 縁起によると、天長元(824)年に弘法大師が一宇を建立、宝来山歓喜院光性寺と号すると伝わる。建武２(1335)年、兵火で焼失。明応３(1494)年、下野祐光が改宗、光照寺と称し成立の開祖。昔は大きな伽藍があったが、焼失、水害等でなくなる。31002実相院の僧坊であったという。 | G | | M3 |
| 9 | 31012 | | 霊鷲山 仏照寺 | 公郷 (大野郡) | 不明 | 天台宗か→真宗 | 延喜3(903)年、豪覚が成立。霊鷲山功徳院仏性寺と号す。寛正２(1461)年、覚恩が蓮如に帰依し真宗に転宗、仏照寺と改称。一説に文明２(1470)年の転宗改称とも。天正４(1576)年、兵火で春日谷山村に難を避け堂宇を建立。寺伝で揖斐川町横蔵寺と関係する寺でかつては久瀬にあり。 | G、H | | |
| 10 | 31013 | | 望亀山 大蔵寺 | 南方 (大野郡) | 天文20年以前 | 真言宗→真宗 | 天明２(1782)年の略縁起によると、昔は31002実相院の寺坊で大蔵坊と称す。天文20(1551)年、真宗に改宗し一宇を建立。明和２(1765)年、河村秀慶が再建。現在は廃寺。 | | | M3 |
| 11 | 31014 | | 仏光山 臨勝寺 | 瀬古 字辻 (大野郡) | 弘治元年以降 | 真宗 | 延喜５(905)年、能登国の良徹の成立。加賀国の行心が開創。蓮如に帰依して転宗。戦火で尾張に移り一宇を建てたが天文元(1532)年流出。弘治元(1555)年、尾張の住人教信が開基。多芸郡多喜嶋村の教西を願主として現在地に臨勝寺を再興。 | G、H、I | | M3 |
| 12 | 31015 | | 光曜山 長宝寺 | 稲富 (大野郡) | 15世紀頃 | 真宗 | 成立時期不明。開祖の教意が蓮如が阿弥名号を授、真言宗から真宗に転宗。本巣のチクマ家の傍流が成立。 | | | M4 |
| 13 | 31016 | | 光雲山 光沢寺 | 寺内 (大野郡) | 延文４年 | 天台宗→真宗 | 延文４(1359)年、武藤伊織義宗が開祖。天文８(1539)年、了西が天台種から転宗し中興の開祖。 | | | M4 |
| 14 | 31017 | | 勝慶山 石田善能寺 | 寺内 (大野郡) | 慶長８年～ | 天台宗→真宗 | 本文参照 | G、層塔 | 150 | M4 |
| 15 | 31017b | | 善能寺旧境内 | 寺内 (大野郡) | 永延元年 | 天台宗 | | | | M4 |
| 16 | 31018 | | 易往山 浄勝寺 | 下方 (大野郡) | 大永４年以前 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明、易往山宝隣院と称した。大永４(1524)年、浄賢が実如宗主に帰依して天台宗から転宗。 | | | |
| 17 | 31019 | | 解脱山 光専寺 | 黒野 (大野郡) | 貞元元年 | 天台宗→真宗 | 貞元元(976)年、良雄が豊木村宇野に一宇成立、後廃寺。元和年間(1615～23)31022香焼寺心了の長子空存、同宇の建立志し幕府許可せず廃寺再興し真宗に転。 | G、H | | |
| 18 | 31020 | | 紫雲山 西光寺 | 公郷 (大野郡) | 建久２年 | 天台宗→真宗 | 建久２(1191)年、教了の開基。始め天台宗。永正９(1512)年、祐了のとき真宗に改宗。 | G | | M3 |
| 19 | 31021 | | 放光山 西光寺 | 大衣斐 (大野郡) | 伝延暦年間 | 真宗 | 延暦年間(782～806)、伝教大師の開祖と伝わる。放光山大隆寺と号す。天文15(1546)年、戦火で焼失。屋好上人が越後より寺跡に入り、慶長２(1597)年に一宇を建立。西光寺号を受け本願寺に転宗。旧境内の大隆寺跡は、美濃国の有数の大伽藍で、この付近一帯に、二重八弁の蓮華紋のある巴瓦や唐草瓦などが散布。出土する瓦が典型的な川原式系の複弁八弁蓮華文鋸歯文縁軒丸瓦・四重弧文軒平瓦であるため、白鳳期成立と考えられる。 | G、H | | M3 |
| 20 | 31021b | | (大隆寺跡) | 小衣斐 字折口 (大野郡) | 白鳳期 | 天台宗 | | 古代瓦、須恵器、灰釉陶器、白磁、山茶碗、G、礎石 | | M3 |
| 21 | 31022 | | 廻向山 成就院 香焼寺 | 黒野 (大野郡) | 中世 | 天台宗→真宗 | 天慶年間(938～947)、賀雅(恵心僧都)の成立開基。廻向山成就院香焼寺と号す。初めは本巣郡早野村(糸貫町)に建立。その後、現在地に移建。文明６(1474)年吉祥坊義円に至り蓮如に帰依し真宗に改宗。 | G、H、I | | M4 |
| 22 | 31023 | | 正法山 妙円寺 | 五之里 (大野郡) | 不明 | 天台宗→真宗 | 成立時期不明、始め天台宗。永禄７(1564)年に真宗に改宗。以前は同町内の郡家にあった。移転時期不明。 | G、H、I | | |
| 23 | 31025 | | 龍谷山 超安寺 | 本庄 (大野郡) | 不明 | 真宗 | 寺伝には永正７(1510)年、了休を開基として成立と伝う。同年、真宗に転宗。慶長７年(1602)、本願寺の成立とともに転派。安八郡東本庄村にあったという記録が残る。 | G | | |
| 24 | 31027 | | 日出山 長念寺 | 牛洞 (大野郡) | 寛元２年 | 天台宗→真宗 | 寛元２(1244)年、同宗の成立。西教坊と称し、始め天台宗。天文11(1542)年、真宗に転宗。第三世西勁が慶安元(1648)年、木仏本尊及び日出山長念寺の寺号を受ける。 | G、I、石仏 | | M3 |
| 25 | 31029 | | 崑崙山 月真寺 | 公郷 (大野郡) | 不明 | 臨済宗 | 成立時期不明、元臨済山改禅寺と号す。天正年間(1573～92)は武将竹中半兵衛尉重治の古城跡中にあった。加藤秦武孫の菩提のため、寛永10(1633)年、空山和尚を勧請して開祖とし、現在の寺号に改称。 | G、I、石仏 | | M3 |
| 26 | 31037 | | 妙海山 本伝寺 | 瀬古 (大野郡) | 慶長元年 | 日蓮宗 | 慶長元(1596)年、開山は慈照院日中、開基は權越上田彦九郎高房。成立当初は、尾張国名古屋小川町・法華寺末だが、現在は本末関係解消。 | G | | M3 |
| 27 | 31038 | | 八幡山 常光寺 | 松山 (大野郡) | 延宝６年 | 日蓮宗 | 元は浄土宗の浄土寺。寛文６(1666)年、本伝寺第四世善照院日達が転宗、開基となり常光寺と改称。延宝６(1678)年、第三世日順が現在地に移建。「31077浄土寺跡」がこの旧跡か。 | G、石仏 | | |
| 28 | 31040 | | 亀山道場 | 上磯 (大野郡) | 文亀２年頃 | 真宗 | 成立時期不明。文亀２(1502)年12月、大谷本願寺実如より本尊を授与。明治6年、小学校を開校し亀丘舎と称す。その後、保育園として使われ、現在は無住。 | G | | M3 |
| 29 | 31041 | | 薬師寺 | 加納 字の坪 (大野郡) | 不明 | 天台宗 | 定松寺とも称し、最澄の創立と伝わるが詳細不明。最澄の東国巡錫の折、叡山坂本から移した山王社(神戸町日吉神社)より見て東北の鬼門に当たるこの地に薬師如来を祀ると言う。位置不明。 | | | |
| 30 | 31042 | | 祇園寺 | 黒野 字六里 (大野郡) | 不明 | 臨済宗 | 南北和尚(慶長９(1604)年寂)開山、仏頂が中興の祖。元文２(1737)年、慈雲のとき字一ノ坪に移建、明治維新の際廃寺。現在は会所だが、小堂が建つ。 | G、H、I、石仏 | | |
| 31 | 31043 | | 観音寺 | 相羽 字小岩 (大野郡) | 不明 | 不明 | 饗場二郎光俊(承久３(1221)年没)在城の時の成立と伝える。寺跡に多数の礎石が列をなして埋もれていたが、今はない。詳細な位置不明。 | | | |

## 表51　大野町寺院一覧表（３）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略報 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 31044 | | 東源寺 | 麻生<br>字東屋敷<br>(大野郡) | 不明 | 伝天台宗→真宗 | 麻生字東屋敷にあり天台宗と伝、慶長年間(1596～1615)以前に廃鎖。享保２年(1717)旧跡から阿弥陀仏木像を発掘。字井ノ上の池に、宝暦10年(1760)6月28日再興、明治６(1873)年廃寺。寺跡の「井ノ上」の地を「東源寺」と称す口碑あり。詳細な位置不明。 | | | |
| 33 | 31046 | | 妙満山<br>東明寺 | 野<br>字堂ヶ洞<br>(大野郡) | 室町時代初期 | 法相宗 | 本文参照 | 本文参照 | 146 | M4 |
| 34 | 31047 | | (植木洞・布賀利神社遺跡) | 野<br>字植木原<br>(大野郡) | 中世 | 不明 | 『美濃國神名帳』所収の「従五位不賀利明神」に比定される古社の旧座地一帯。この辺りに31008b顯明寺旧境内、31019光専寺、31035不動院があったと伝わる。社殿前からは13～15世紀の土師器皿等が、また社殿西の大岩前では、鍍金銅片や須恵器が出土したが、現在地で寺院跡の痕跡を確認することは出来なかった。 | 石仏 | | M3 |
| 35 | 31050 | | 松栄山<br>出光寺 | 瀬古<br>西組屋敷<br>(大野郡) | 文政年間 | 日蓮宗 | 正和４(1315)年、鍛冶阿闍梨日應により成立。もと字出光寺の地(31050b)より西組屋敷に移転。後さらに文政年間(1818～30)林亀右衛門が移築。第二七世花田妙空尼の後廃寺。現在は区の公民館になっている。旧境内は西瀬古の東北にあたり、七堂伽藍があったと伝わる。 | | | |
| 36 | 31050b | | 出光寺旧境内 | 瀬古<br>(大野郡) | 正和４年 | 不明 | | | | M3 |
| 37 | 31053 | | 金剛庵<br>(金剛寺遺跡) | 中之本<br>字金剛寺<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 奈良時代の成立と伝え、寺跡とされる中之元八幡神社とその南側一帯には布目瓦が散布していたという。良純、恵海宇慈、心鏡自円が庵主。現在は中之元区会所となっていて、その隣に十王仏を安置する十王堂が残されている。近世末まで金剛庵があったが、その場所は、現在水田となっている。 | 布目瓦 | | M3 |
| 38 | 31054 | | 不存庵 | 松山<br>字尾洞<br>(大野郡) | 室町時代 | 真宗 | 成立時期不明だが、寺跡に遺存する五輪塔の様式から室町期の寺という。明治6年廃庵。その後、松山・志名村連合の森々学校の校舎となるが後に毀たれる。壊された石垣の一部と五輪塔の部材を確認。 | G | | M3 |
| 39 | 31058 | | 瑞泉寺 | 大衣斐<br>字村ノ内<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期不明。元禄15(1702)年、単伝和尚の再建。明治維新の際に廃寺。大衣斐陣屋跡付近というが位置不明。 | | | |
| 40 | 31059 | | 金光寺 | 公郷<br>四ノ坪<br>(大野郡) | 12世紀初頭頃 | 不明 | 松井隼人正義俊(大治元(1126)年没)の造立という。のちに廃頽。現在は神社の敷地内西側に阿弥陀堂が残っている。 | | | M3 |
| 41 | 31060 | | 妙慶寺 | 宝来<br>(大野郡) | 天正11年 | 不明 | 31012仏照寺の境内に石碑があり、「天正11(1582)年覚乗住職が証如上人の巡化を受けて成立。了宗の時に寺号。仏照寺の門前に一宇を建立。」と記。 | | | M3 |
| 42 | 31069 | | 宝蔵寺 | 五之里<br>字寺前<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。『実相院再建由来書』に天文17(1548)年、31002実相院の末寺。位置不明。 | | | |
| 43 | 31072 | | 七堂坊 | 牛洞<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | | | |
| 44 | 31082 | | (三千仏遺跡) | 領家<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 寺院についての沿革不明。古墳時代の散布地・社寺跡として遺跡登録されている。 | | | M3 |
| 45 | 31083 | | (寺内遺跡) | 寺内<br>(大野郡) | 不明 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 150 | M4 |

## 表52　大野町参考寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 31004 | | 実相庵 | 下方<br>(大野郡) | 不明 | 浄土宗 | 往古は宝樹院と号し京都黒谷光明寺山内にあり、明暦年間(1655～1658)実相庵と改称。現在は公園、五輪塔を確認。 | G |
| 2 | 31005 | | 清林寺 | 西方<br>(大野郡) | 宝永年間 | 臨済宗→浄土宗 | 宝永年間(1704～11)、開祖は性翁見徹首座。徳川天領下の西方村庄屋・所藤五郎慰霊のため、元禄13(1700)年に一宇を建立、久昌院と号。始め臨済宗。昭和２年、第八世山田貞現法尼の時、三重県渡会郡御薗村の清林寺の寺号を移し、浄土宗。 | G、I、石仏 |
| 3 | 31006 | | 金剛山<br>心楽寺 | 稲富<br>(大野郡) | 安政４年 | 浄土宗 | 安政４(1857)年成立。成立は庄屋の本村井深太左衛門重孝。数年前に廃寺。 | |
| 4 | 31026 | | 信重山<br>向源寺 | 下座倉<br>(大野郡) | 明治39年 | 真宗 | 移建再興前の寺歴は不詳。飛鳥時代の向原寺ではないかとともいわれる。明治39(1906)年信重山と称し、和泉国泉北郡中百舌鳥村大字東より移建。 | |
| 5 | 31028 | | 玉壺山<br>慈照寺 | 下磯<br>(大野郡) | 延宝４年以前 | 臨済宗 | 聖徳太子作の薬師如来を安置する霊跡が荒廃。一大松樹の傍に茅庵に住み象外宗徹が来往、石原忠政らが帰依。延宝４(1676)年古峯宗順を招請し開山。玉壺山慈照寺と公称。 | G、石仏 |
| 6 | 31030 | | 延命山<br>地蔵寺 | 古川<br>(大野郡) | 享和２年 | 臨済宗 | 享和２(1802)年、規外祖範尼の創立、覚宗和尚が開山。揖斐川町の東光寺が兼務。 | |
| 7 | 31031 | | 瑞鳳山<br>顯成寺 | 中之元<br>(大野郡) | 天和元年 | 臨済宗 | 大野郡領家村の光月山常照寺(元旧領主西尾豊後守菩提所)天和元(1681)年、西尾八兵衛尉源包教が開基、現在地に移し山号寺号を改め瑞鳳山顯成寺成立。 | G、H、I、石仏 |
| 8 | 31032 | | 竜興寺 | 小衣斐<br>(大野郡) | 伝延宝年間 | 臨済宗 | 延宝(1673～1681)の頃、貞光多吉道秀、道秀庵成立と伝える。現在は「小衣斐公民館」。 | G、H、I、石仏 |
| 9 | 31033 | | 圓應山<br>龍岡院 | 領家<br>(大野郡) | 享保年間 | 臨済宗 | 享保年間(1716～1736)、貫月禅忠の成立。千手院と号、大春和尚を請うて開山、禅忠が開基。明治維新に廃寺。明治36(1903)年5月、山県郡岩野田村の大龍寺末龍岡院の寺号を移し再興。 | |
| 10 | 31034 | | 寿清庵 | 加納<br>(大野郡) | 宝永年間 | 曹洞宗 | 宝永年間(1704～11)、池田郡六之井村(池田町)の妙勝寺寂玄が開山。 | G、H、I、石仏 |

## 表53　大野町参考寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山（院）号<br>寺院名 | 所在地<br>（旧郡名） | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 31035 | | 不動院 | 野<br>（大野郡） | 天和３年 | 曹洞宗 | 寛文２(1662)年、後藤六郎右衛門の成立するが、同年６月大洪水で流出。古墳上に仮堂を建立し、天和３(1683)年現在の乾屋敷古墳上に移す。元禄２(1689)年、尼寺となる。現在は無住。 | |
| 12 | 31036 | | 明光山<br>智量院 | 本庄<br>（大野郡） | 安永８年以前 | 曹洞宗 | 開基は久屋智量(安永８(1779)年示寂)。薬師如来は、約四百年ほど前、本庄超安寺付近の水田より発掘という。 | 6 |
| 13 | 31039 | | 慈光院 | 公郷<br>（大野郡） | 寛文８年 | 臨済宗 | 31029月真寺の境内寺院。寛文8(1668)年、高橋重時が一宇を開創、貞享元(1684)年月真寺鐵水が開山、霊応山慈光院と号す。往古は大伽藍であったが、遺跡は公郷字七ノ坪にある。月真寺本堂の南西側に建てられていたが現在は空地である。 | |
| 14 | 31049 | | 明教坊跡 | 牛洞<br>字大門<br>（大野郡） | 寛永16年 | 真宗 | 寛永16(1639)年、成立及び開基は法順。寛政元(1789)年、義開坊を明教坊と改称、戦後は神風寺。住職は本尊阿弥陀如来とともに京都舞鶴に移り、昭和28(1953)年廃寺。寺跡(現在はゲートボール場)に谷菊枝碑及び神風院釈暢夫碑を残す。 | 1、石仏 |
| 15 | 31051 | | 慶正寺 | 中之本<br>字紙木<br>（大野郡） | 文久２年 | 真宗 | 旧領主西尾主水、文久２(1862)年、田ノ上村の廃寺を移して再興。明治24(1891)年、宮崎県へ移転し廃寺。 | |
| 16 | 31052 | | 浄源庵布教所 | 瀬古<br>西組屋敷<br>（大野郡） | 不明 | 浄土宗 | 阿順了，宝暦２(1752)年、瀬古に隠居して小林庵を建立。私庵として存続。明治42(1909)年、浄源庵と改称。昭和15(1940)年、浄源庵布教所と改め、小林両家に依り維持。昭和56年(1981)廃寺。位置不明。 | |
| 17 | 31055 | | 石仏堂 | 牛洞<br>字南谷<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。洞西北山中、不動堂の門前にあったものを不動堂の廃絶の後に移建すると伝わる。 | |
| 18 | 31061 | | 法花坊 | 南方<br>字法花坊<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。昔この付近一帯に七堂伽藍のあったと伝わる。天保９(1831)年の田畑改帳には「東観音堂・北観音堂」などの地名を記す。詳細な位置不明。 | |
| 19 | 31062 | | 千代寺 | 稲富<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。大字上秋との境に通称地名として残る。位置不明。 | |
| 20 | 31063 | | 修善寺 | 野<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 21 | 31064 | | 明覚寺 | 下方<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 22 | 31065 | | 観音寺 | 上磯<br>西寺脇<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 23 | 31066 | | 法正寺<br>（法正寺・御屋敷遺跡） | 上磯<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。法正寺・御屋敷遺跡付近に、「法正寺」という通称地名が残る。遺跡のやや東方で布目瓦が確認されたことがあるという。 | |
| 24 | 31067 | | 永明寺 | 下磯<br>字川北<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 25 | 31068 | | 真正寺 | 五之里<br>字寺前<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 26 | 31070 | | 大御堂 | 公郷<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。八幡社の２つの社殿には八幡神と大日如来を祀り、この辺りに大日堂があったという。また、地元ではその周辺を「大御堂」と呼ぶ。詳細な位置不明。 | |
| 27 | 31071 | | 金剛寺 | 大衣斐<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期及び沿革不明。口碑に伝わる。位置不明。 | |
| 28 | 31073 | | 願成寺 | 中之元<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。中之元字願成寺は田中部落の裏にあり、ここにもと願成寺という庵があったという。位置不明。31031願成寺とと同一の可能性もある。 | |
| 29 | 31074 | | 加根寺 | 瀬古<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 加根寺は東瀬古部落の東北にあったと伝え、五輪石塔が地中より出る。「上加根寺」「下加根寺」の地名が残るが、詳細不明。 | |
| 30 | 31076 | | 曽根寺 | 瀬古辻<br>字曽根寺<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明、瀬古の内辻字曽根寺にあった。墓地の南で、西に鐘撞堂の地名が残り、七堂伽藍があったと伝える。詳細な位置不明。 | |
| 31 | 31077 | | 浄土寺 | 松山<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。松山の西山中に墓地があり、浄土寺墓といい、その南下の地に浄土寺があったと伝わる。揖斐広域斎場の建設時に大量の五輪塔が見つかっており、この付近に浄土寺があったとの伝聞はあるが、寺跡の痕跡は見つけられなかった。 | |
| 32 | 31078 | | 仁王堂 | 松山<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。松山の内志名字仁王堂にあったというが、地域の方への聴き取りでは、西都神社・常光寺の北東の山裾にあったのではないかともいう。ここにあった仁王像は伊豆国三島神社に移されたと伝わる。西都神社や「31038常光寺」と関係があると考えられる。詳細な位置不明。 | |
| 33 | 31079 | | 観音堂 | 牛洞<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 牛洞字南谷は揖斐へ山越えする坂の登り口で、ここに観音堂があったと伝える。本尊は谷汲へ移し堂は廃絶。位置不明。 | |
| 34 | 31080 | | 不動堂 | 牛洞<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 成立時期不明。牛洞字大谷の地に不動尊を安置付近より五輪石を発見。ここにあった石仏は、字南谷の31055石仏堂に移す。 | 6、石仏 |
| 35 | 31081 | | 妙見堂 | 松山<br>（大野郡） | 不明 | 不明 | 天明年間(1781～89)、多芸郡高田の了雲が尊像を守護して安置すべき地を求めていたが、この地に有志を得て、堂宇を建立。天保２(1831)年に堂を再建。数年前に廃寺となり堂宇は取り壊されたが、跡地が残る。 | |

## 表54　池田町寺院一覧表（１）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号寺院名 | 所在地(旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略測 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 32003 | | 高尾山<br>善南寺 | 片山<br>(池田郡) | 昭和18年 | 天台宗→<br>浄土宗 | 本文参照 | | 152 | |
| 2 | 32003b | | 善南寺旧境内 | 堂ヶ谷<br>(池田郡) | 文和２年 | | | 本文参照 | | M3 |
| 3 | 32003c | | 善南寺旧境内<br>(善南寺跡)<br>(善南寺中世墓) | 片山<br>(池田郡) | 伝弘仁２年 | | | | | M3 |
| 4 | 32006 | | 白鳥山<br>浄妙寺 | 白鳥<br>(安八郡) | 嘉禎元年 | 浄土宗・<br>天台宗→<br>真宗 | 嘉禎元(1235)年、成立開山は明春。第八世までは浄土と天台兼建学、第九世空善の時に真宗に転派して第十二世了順が慶長13(1608)年本尊阿弥陀如来を安置した。 | G、H | | M3 |
| 5 | 32007 | | 八幡山<br>薬師院<br>正円寺 | 八幡<br>(池田郡) | 伝平安時代 | 天台宗→<br>真宗 | 成立は最澄。天台宗当時は薬師院といったが、文明２(1470)年に西信が蓮如上人に帰依し転宗した。この時上人より授与の名号及本尊を安置した。 | G、I | | M3 |
| 6 | 32008 | | 華中山<br>正道寺 | 六之井<br>(池田郡) | 万治元年 | 真言宗→<br>真宗 | 始めは方県郡鶴飼郷で長光寺(岐阜市32008b)と称し真言宗。寛永年間(1624～1644)宗玄が准如上人に帰依し転宗、正道寺と改。万治元(1658)年に六之井に移転。 | | | |
| 7 | 32010 | | 法林山<br>宝光寺 | 八幡<br>(池田郡) | 元禄５年 | 真宗 | 応永２(1395)年、垂井町表佐習井庄に寶光寺を成立。天正３(1575)年に顕如上人に本山直末内陣出仕の扱いを受ける。元禄５(1692)年に当地に堂宇を建立した。 | G | | |
| 8 | 32011 | | 金峰山<br>徳通寺 | 八幡<br>(池田郡) | 16世紀以前 | 天台宗→<br>真宗 | 天台宗当時は八幡宮の別当職を務め明光院といった。織田信長によって焼き払われたが再建し、慶長15(1610)年慶珍の代に教如上人に帰依し転宗した。 | G | | M3 |
| 9 | 32015 | | 宝園山<br>宝地院<br>善福寺 | 萩原<br>(池田郡) | 延宝年間 | 天台宗→<br>浄土宗→<br>真宗 | 承和年間(834～848)成立。成立時は池田山の伽耶洞に成立。始め天台宗で宝地院と称。竜玄律師(建保６(1218)年没)時、法然に帰依し浄土宗に転宗。寺域を草深(32015b、寺域４町５反)に移転。覚従法師（文亀元(1501)年没)代、蓮如に帰依し真宗に転宗。延宝(1673～1681)咽火災で現在置に移転。旧境内詳細不明。 | G、I | | |
| 10 | 32015b | | 善福寺旧境内 | 深草<br>(池田郡) | 13世紀前半頃 | | | | | M3 |
| 11 | 32016 | | 五雲山<br>西法寺 | 般若畑<br>(池田郡) | 伝平安時代 | 天台宗→<br>真宗 | 最澄の弟子円澄律師が当地に一堂を建立し広洞山十如院といった。慶長５(1600)年、教如を西淋が助けてから帰依し、真宗に転派。五雲山西法寺と改めた。 | G、石仏 | | M3 |
| 12 | 32017 | | 遍照山<br>光慶寺 | 本郷<br>(池田郡) | 文久２年 | 天台宗→<br>真宗 | 最澄の成立と伝えられる。元久２(1205)年に天台宗権僧都が中興。揖斐川町谷汲から当地に移転。明応５(1496)年、教貫により真宗に転派。 | G、H、I | | M3 |
| 13 | 32018 | | 仏日山<br>正光寺 | 片山<br>(池田郡) | 永正11年以前 | 天台宗→<br>真宗 | 成立時期不明、始め天台宗。永正11(1514)年の「しゃうこう寺8某書状案」がある。慶長13(1608)年に慶心が教如に帰依して、寛永11(1634)年宣如のとき寺号を許された。 | G | | M3 |
| 14 | 32020 | | 七宝山<br>善性寺 | 片山<br>(池田郡) | 永仁元年 | 真宗 | 永仁元(1293)年、開基は了順。天正11(1583)年了智が本願寺顕如上人に帰依し転宗した。 | G | | M3 |
| 15 | 32021 | | 金地山<br>正林寺 | 片山<br>(池田郡) | 文明４年 | 天台宗→<br>真宗 | 文明４(1472)年、慶順が横蔵寺に入、発心後片山に一寺建立。橋本山正林坊と称。元和６(1620)年慶専代に宣如に帰依し転宗。明暦３(1657)年正林寺と号す。 | G、I、石仏 | | M3 |
| 16 | 32022 | | 金生山<br>浄徳寺 | 市橋<br>(池田郡) | 伝延暦年間 | 真言宗→<br>天台宗→<br>真宗 | 寺伝では延暦年間(782～806)空海が一寺を建立したという。長禄年中(1457～1460)乗祐が寺堂を再興し、輝巌山真光定院といった。後に天台宗に転宗。文明５(1473)年玄祐の代蓮如に帰依し真宗に転派。大垣市明星輪寺の末寺。 | G、I | | |
| 17 | 32023 | | 金剛山<br>長福寺 | 本郷<br>(池田郡) | 不明 | 臨済宗 | 慶長５(1600)年関ヶ原合戦により、32031龍徳寺境内自性庵が焼失廃退したのを、明和年間(1764～1772)に寿仙が再興。自性庵の成立時期不明。 | | | |
| 18 | 32025 | | 霊宝山<br>神護寺 | 杏井<br>(池田郡) | 慶長年間以前 | 臨済宗 | 成立時期不明、開基は野原氏。慶長年間(1596～1615)に野原家政が神護庵再興。元禄10(1697)年に野原家定が再興し神護寺。当地の東部に薬師堂確認。近隣の堤防沿いに石積。 | G、H、I、<br>石仏 | | M3 |
| 19 | 32026 | | 阿梨耶山<br>弓削寺 | 段<br>(池田郡) | 慶長７年 | 臨済宗 | 本文参照 | 本文参照 | 154 | M3 |
| 20 | 32026b | | 弓削寺旧境内<br>(弓削古堂跡)<br>(弓削古堂跡中世墓) | 段<br>(池田郡) | 伝弘仁８年 | | | | | M3 |
| 21 | 32027 | | 浄興山<br>金光寺 | 六之井<br>(池田郡) | 文明年間 | 臨済宗 | 文明年間（1469～1487）、康忠により成立。 | G | | M3 |
| 22 | 32028 | | 仏巌山<br>禅蔵寺 | 願成寺<br>(池田郡) | 伝延文元年 | 臨済宗 | 寺伝で延文元(1356)年成立。美濃守護職土岐頼忠開基、覚源禅師開山。成立時土岐氏寄進の寺領多く本堂伽藍と16の塔頭あり壮大。寺付近に旧跡の平坦面や石積み確認。 | G、H、I、<br>石積 | | M3 |
| 23 | 32029 | | 洞海山<br>平安寺 | 舟子<br>(池田郡) | 応徳年間 | 天台宗→<br>臨済宗 | 本文参照 | 本文参照 | 158 | M3 |
| 24 | 32030 | | 橘岐山<br>安国寺 | 小寺<br>(池田郡) | 暦応２年 | 臨済宗 | 暦応２(1339)年、開基は此山妙在禅師。古寺は七堂伽藍あり寺域広く戦後の農地改革影響。 | G、H、I | | M3 |
| 25 | 32031 | | 雲門山<br>龍徳寺 | 本郷<br>(池田郡) | 伝弘仁年間 | 臨済宗 | 観応２(1351)年成立説開基は池田教依説と国枝氏説。南北朝末に荒廃、文明年間(1469～1486)悟渓国師開祖、西川宗洵和尚成立住持で中興再建、寺域広大。弘仁年中(810～824)最澄成立説も。 | G、H、I、<br>石仏 | | M3 |
| 26 | 32032 | | 現妙山<br>瑞泉寺 | 八幡<br>(池田郡) | 永禄２年 | 臨済宗 | 永禄２（1559）年、開基は稲葉忠通。現在はこども園となっており、寺院としての活動はしていない。 | G、H、I、<br>石仏 | | M3 |
| 27 | 32033 | | 臥竜山<br>凉雲寺 | 片山<br>(池田郡) | 伝平安時代 | 天台宗→<br>臨済宗 | 開創は専心僧都。美濃の高野山。始め天台宗。関ヶ原の戦い時焼失、地蔵堂残る。後に京都妙心寺末寺で冷涼庵と改称、貞享４(1687)年凉雲寺と改。 | G、H、<br>石仏、層塔 | | M3 |

表55　池田町寺院一覧表（２）

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 | 調査略祭 | 分布図 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 32037 | | 宝林山 妙勝寺 | 六之井 (池田郡) | 明治初期 | 真言宗→ 曹洞宗 | 延喜９（909）年、鎮守府将軍正四位上右馬助武器大将内蔵頭六条王が一寺建立、堀型寺、真言宗。文明17(1485)年開久友再興、天正３（1575）年宗旨再建、妙勝寺と改め曹洞宗に転宗。神仏分離で現位置に移転、旧境内位置不明。 | | | M3 |
| 29 | 32041 | | 都荷山 神明院 玉敷寺 | 市橋 (池田郡) | 伝古代 | 真言宗 | 延暦20(801)年（天武３（674）年か）空海成立と伝。持統天皇の勅願所で真言宗の霊場。天正年間（1573～1591）焼失退廃を慶長年中（1596～1614）盛運再建。 | 6 | | |
| 30 | 32042 | | （高畑遺跡） | 片山 (池田郡) | ７世紀末 | 不明 | 本文参照 | 本文参照 | 160 | M3 |

表56　池田町参考寺院一覧表

| 番号 | 寺院番号 | 史跡 | 山(院)号 寺院名 | 所在地 (旧郡名) | 建立時期 | 宗派 | 沿革等 | 遺物、遺構 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 32001 | | 聖国山 金福寺 | 六之井 (池田郡) | 享保４年 | 天台宗 | 享保４(1719)年、多賀又左衛門為植が小庵を建立して春性庵と称したが、延享２（1745）年になって現在の寺号に改めた。 | |
| 2 | 32002 | | 大弘山 浄林院 | 片山 (池田郡) | 元禄９年 | 浄土宗 | 元禄９(1696)年、松岡七郎右衛門先祖菩提のため地蔵造立を志す。足海獄の出家先である海津郡の浄満寺より阿弥陀如来座像を一体貰い、一寺を建て、浄林院といった。海獄を開祖とする。 | 6 |
| 3 | 32004 | | 御勝山 松寿院 | 池野 (池田郡) | 明治21年 | 浄土宗 | 成立時期不明。明治21(1888)年に大垣市より移転。現在は「栄町会館」。 | |
| 4 | 32009 | | 誕常山 正行寺 | 村野 (大野郡) | 不明 | 真宗 | 成立時期及び沿革不明。 | |
| 5 | 32012 | | 東雲山 浄光寺 | 下東野 (池田郡) | 宝暦７年以前 | 真言宗→ 真宗 | 成立時期不明、始め真言宗。宝暦７(1757)年、願浄法師が東本願寺従和上人に帰依して転宗した。 | 6 |
| 6 | 32014 | | 光照山 立善寺 | 山制 (池田郡) | 延享２年 | ?→ 真宗 | 延享２（1745）年、開基は賀浄法師。浄信（寛永14(1637)年没）の時代に教如上人に帰依し真宗に転宗。 | 6 |
| 7 | 32019 | | 暁雲山 東西寺 | 池野 (池田郡) | 元文４年 | 真宗 | 元文４(1739)年、厚見郡加納藩の宮田吉左衛門が池田野新田を開発後一寺を建立、真宗東西両派の道場として阿弥陀寺と号す。明治23(1890)年に東西寺と改称。 | |
| 8 | 32024 | | 護法山 梁外門院 | 池野 (池田郡) | 元文４年 | 臨済宗 | 元文４(1739)年の新田開発の際、泥沙門天の御像が発掘され宮田吉左衛門の菩提寺として安全を建立。真性浄明禅師を開山始祖とした。32031龍池寺と関係の深いという。 | 石仏 |
| 9 | 32034 | | 円通山 龍音庵 | 六之井 (池田郡) | 正徳５年 | 曹洞宗 | 正徳５(1715)年、妙勝寺泰州により成立。三十三体の観音像を安置して観音庵といい、谷汲山参詣道礼拝道沿いにあった。現在は石碑が残る。 | 石仏 |
| 10 | 32035 | | 梅桜山 川神院 | 宮地 (池田郡) | 元禄７年 | 曹洞宗 | 元禄７(1694)年成立。熊野神社の宮寺であったが、後年兵乱、火災などで廃絶し、江戸時代再興。昭和40(1965)年同寺の内陣を宮地会館の中に安置した。 | |
| 11 | 32036 | | 風林山 長興寺 | 上田 (池田郡) | 延宝２年以前 | 臨済宗 →曹洞宗 | 成立時期不明、始め臨済宗。延宝２(1674)年に大垣市の金島寺舟海和尚が隠居したので、大垣城主戸田氏喜が板を長興寺住職とし曹洞宗に改めさせた。 | 6、I |
| 12 | 32038 | | 智正山 善光寺 | 池野 (池田郡) | 不明 | 真言宗 | 成立時期及び沿革不明。 | I |
| 13 | 32040 | | 瑞鴻光山 栄光院 | 萩原 (池田郡) | 嘉永元年 | 曹洞宗 | 揖斐川町脛永の法憧寺十八世成岳忠孝が嘉永元(1848)年に開山。 | 6、H、I、石仏 |

# 第３節　寺院地形観察図
# 遺構図
# 地籍図

大垣市
養老町
垂井町
関ケ原町
神戸町
揖斐川町
大野町
池田町

［大垣市］

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02005b | 県遺跡番号 | 21202-2294 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | しのおさんえんこうじ（もとえんこうじあと） | | | 所在地 | 大垣市青墓町字西谷（字円興寺谷） | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 篠尾山円興寺旧境内（元円興寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良）～ | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山麓（山腹） | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 500m | 南北規模 | 600m | 標高（比高差） | 150（100）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 寺伝によれば、延暦９（790）年にこの地に豪族池田氏が建てた仏堂に、東国への布教活動の折に訪れた天台宗開祖最澄が聖観音像を彫刻して納め伽藍を建立し自らが開基となった。（大垣市 2013）<br>最澄が大谷の里の大炊氏の帰依を得て、円興寺山頂に一寺を創建したとされる。（大垣市 1977）<br>過去帳によれば、源頼朝が寺領寄進をしたとされ、かつては塔頭・末寺など 100 余寺を数えたという。天正２（1574）年に織田信長の兵火にかかり塔頭焼失。その後慶長６（1601）年に雷火によって再び焼失。現在の地に再興されたのは万治元（1658）年。（大垣市 1968、道下淳他 1987） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、湧水地点、推定塔跡、推定鐘堂跡、礎石、源朝長の墓（市指定史跡・平安）、集石 | | | | | | |
| 遺物 | 山茶碗、五輪塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 聖観音立像（国指定、平安） | | | | | | |
| 参考文献 | 大垣市 2013『大垣市史』通史編　自然・原理～近世、大垣市 1968『新修大垣市史』通史編一、大垣市 1977『大垣市史』青墓編、道下淳他 1987『岐阜県百寺』郷土出版社） | | | | | | |
| 備考 | 西美濃三十三霊場第三十二番札所 | | | | | | |

**調査所見**　小字名は主要遺構群が「元円興寺谷」、北遺構群が「切ヶ谷」「梨ヶ谷」、北谷遺構群が「不動谷」「柿木谷」、南谷遺構群が「元円興寺谷」「一之谷」にあたる。なお、現在の円興寺は主要遺構群の金堂跡推定地から南西へ約 650mに位置する。平成２(1990)年大垣市詳細分布調査概要報告の主要遺構群、北遺構群、北谷遺構群、南谷遺構群の４グループ別に記載する。【北遺構群】北側では遺跡範囲の北端にあたる尾根上に長方形の平坦面があり四方は切岸によって基壇状の高まり、北辺及び南辺には低位の土塁がある。南側に尾根西端と南斜面に狭小な平坦面がある。【北谷遺構群】主要遺構群鐘堂跡推定地の北東谷斜面に点在する平坦面群で、谷筋に参道があり、金生山方面や池田町方面へ抜ける道へ繋がる。谷筋上方に大規模な平坦面が棚段状に広がり、西斜面には楕円形の小規模平坦面がある。細長い平坦面を谷北端西斜面と東斜面で７面確認した。北谷の南東丘陵山頂平坦面に塚が築かれ、「延暦９(790)年　白鷺神社創建之地」の石碑がある。【主要遺構群】寺院中心部に金堂、講堂、僧房、鐘堂、推定塔跡とされる平坦面群がある。表面には五輪塔部材や遺物の山茶碗などが散見される。南西方向の尾根に通路状の平坦面がある。【南谷遺構群】表参道から仁王門跡や源朝長公墓所を含み、裏参道の谷筋の両斜面などで確認できる平坦面群がある。裏参道北斜面の谷筋には、南へ開けた段状地形を成す平坦面を 12 面確認した。下位の平坦面では、石垣や石段が残存する。中位の平坦面では直径３m程の小円丘が認められる。上方部は土砂崩落によって急傾斜となる。裏参道の中程には40m程に渡る細長い平坦面があり、いくつかの段差をもち最下面では石積みや五輪塔を確認した。主要遺構群東側谷には、棚状や通路状の小・中規模平坦面が 15 面程確認した。慶長元(1596)年から万治元(1658)年にあったとされる「田之堂」は南谷遺構群に位置すると考える。

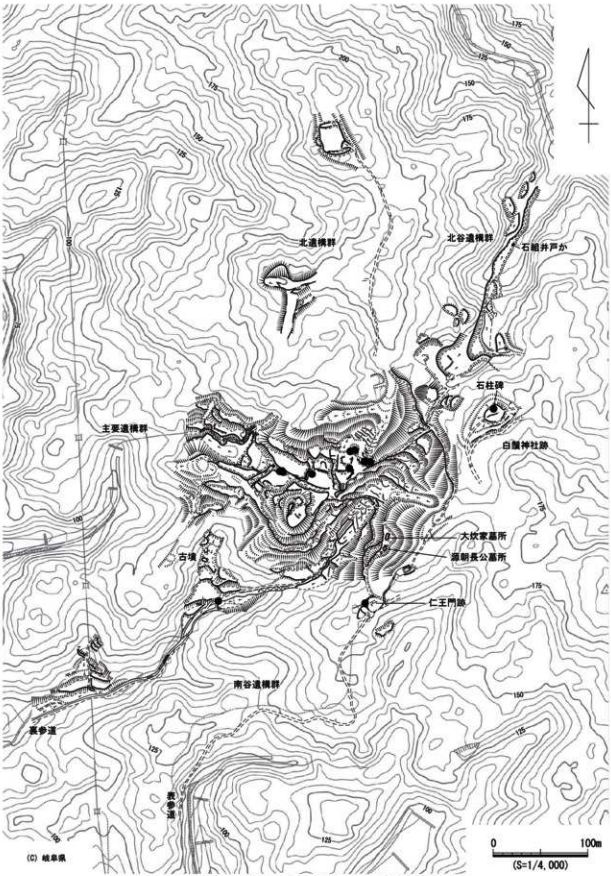



図２　円興寺旧境内（元円興寺跡）　地形観察図（１）

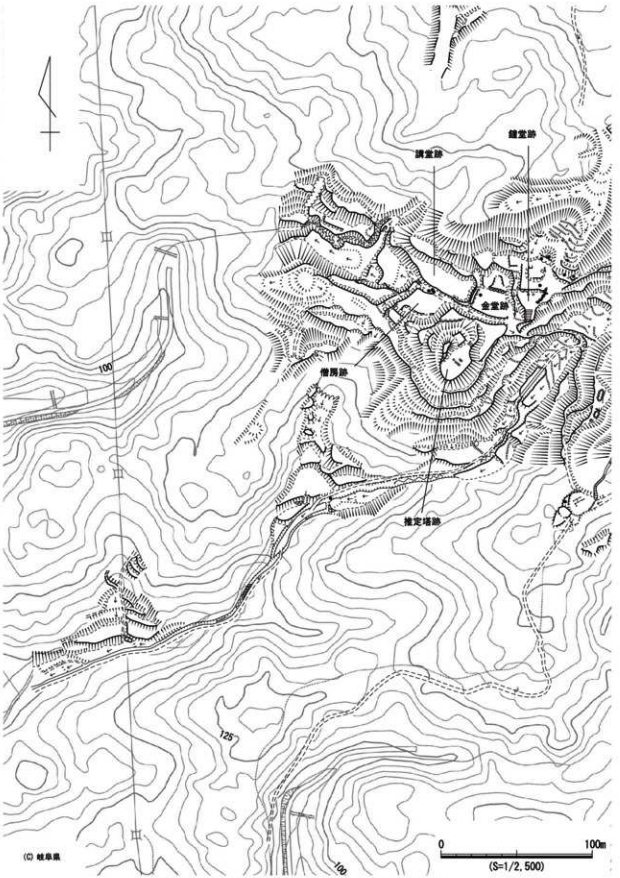



図３　円興寺旧境内（元円興寺跡）　地形観察図（２）

図４　円興寺旧境内（元円興寺跡）　地形観察図（３）

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02107 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | ぜんしょうじきゅういけいだい | | | 所在地 | 大垣市上石津町牧田上野 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 善性寺旧境内 | | | | | | |
| 時代区分 | 中世（室町）～ | | | 宗派 | 真言宗→真宗大谷派 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（コナラ） | | |
| 東西規模 | 150m | 南北規模 | 120m | 標高（比高差） | 89（4）m | 平坦面分類 | D |
| 沿革 | 文明年間（1469-87）、牧田村下平井の青蓮寺（正蓮寺か　関ケ原聖蓮寺の前身）の順知坊が蓮如に帰依し、井口村に草庵を構える。大永３（1523）年に嬪子の西心坊浄巌が開基。慶長14（1609）年に寺号・木仏御免となる。元文元（1736）年、９世浄華の時に現在地に移り、現本堂を建立。天明年間（1781-89）では尾州における本願寺の直参であった（「いろは寺院帖」）。（上石津町役場 1979、上石津町教育委員会 2004、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970）<br>往古は真言宗（岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970） | | | | | | |
| 遺構 | — | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、宝篋印塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 上石津町役場 1979『上石津町史』通史編、上石津町教育委員会 2004『新修　上石津町史』、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970『養老郡志』、岐阜日日新聞社・県郷土資料刊行会 | | | | | | |
| 備考 | 牧田地域の集落景観の核として、大垣市の景観遺産に指定 | | | | | | |

**調査所見**　地元での聴き取りで、旧境内は現存寺院から約 1.2㎞ 西方の今須川北側段丘上にあり「善性寺平」と呼ばれている。北側県道側からの流出土の堆積により上方は段差が不明瞭だが林道の両脇に一連の平坦面が存在しているようである。県道北側は斜面で、マウント状の高まりがある平坦面を最上段として下方に２～３段の段差で平坦面群が広がり、川沿いの平坦面とは３m程の段差がある。マウント状の高まりの頂部は平坦で角礫が多量に散在し、石組の一部であったと思われる。

図５　善性寺旧境内　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02205 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | ずいがんざんてんきじ | | | 所在地 | 大垣市上石津町一之瀬川東 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 瑞巌山天喜寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安）～ | | | 宗派 | 天台宗→臨済宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 境内、山林（スギ、ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 55m | 南北規模 | 80m | 標高（比高差） | 114（32）m | 平坦面分類 | A+D |
| 沿革 | 伝承では、天喜5（1057）年、もと叡山の天台僧玄良開闢とされ、留錫堂宇を創建したとのこと。貞治5（1366）年（貞治3年とも）に近江永源寺の開山寂室元光（圓應禅師）の法嗣定巌唯一が開山（臨済宗妙心寺派）。足利尊氏の弟基氏が帰依し開基とされる。鳳栖庵・龍岡庵・玉鳳院・自徳庵・法喜院の五院の塔頭が建立され、周囲の地名にも残る。永禄7（1564）年火災により堂宇等焼失し、再建されるも検地により寺領の大部分を失う。慶長元（1596）には妙心寺第6世蘭暁の法嗣文革元都を講じ、春沢が妙心寺派に転じて中興した。以降は桑原家を有力な壇越とし、元禄14（1701）年は本堂、翌年には庫裏を建立している。寺内には基氏と定巌の五輪塔が残り、貞治六歳と開山年号が刻まれている。応永22（1415）年の五輪塔基石が残る。（上石津町役場 1979、上石津町教育委員会 1990・2004、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み | | | | | | |
| 遺物 | 宝篋印塔、五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 絹本着色涅槃図（県指定、室町）、絹本着色釈迦三尊図（県指定、室町）、木造雙桂定巌和尚坐像（県指定、室町）、木造彩色地蔵菩薩坐像（町市指定、室町）、木造薬師如来坐像（町市指定、江戸、円空作）、「宝永七年(1707)天喜寺境内書」、「天喜禅寺縁銘並序」〔（享保2（1717））〕、「当山由緒「一之瀬村絵図」〔天保12(1842)【上石津町教育委員会2004付図】〕 | | | | | | |
| 参考文献 | 上石津町役場 1979『上石津町史』通史編、上石津町教育委員会 2004『新修　上石津町史』、上石津町教育委員会 1990『史料にみる上石津のあゆみ』、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970『養老郡志』、岐阜日日新聞社・県郷土資料刊行会 | | | | | | |
| 備考 | 境内南西に「大門通り」「堂谷」などの地名が残り、薬師堂がある | | | | | | |

**調査所見**　現境内地は西方の集落域からは30m以上標高差があり坂道の参道を登って境内に至る。簗約三百年の山門や薬医門がある。現境内の南方に位置する墓地には「卵塔」の地名が残り江戸期以降の無縫塔がある。14世紀のものと思われる宝篋印塔や15・16世紀のものと思われる五輪塔、一石五輪塔など多くの石塔が残る。宝篋印塔と五輪塔の部材は搬入の可能性がある。

現境内の西方、集落域へと向かう斜面に長細い平坦面群が複数残る。上方の平坦面は、方形状で石積が残る箇所が多い。中世の塔頭などの寺院の関連施設がこれらの平坦面に存在していたもの考えられる。現境内北方には「法喜院平」の地名が残り、塔頭の一つ法喜院が存在していたとのことである。その法喜院も文化元(1804) 年に寺地を改め、表参道途中に再建されたようであり、それが現境内西方平坦面群のいずれかにあたると考える。また、現境内北西側の谷には、「龍岡谷」の地名が残り塔頭の一つ龍岡庵が存在していたものと思われる。

図６　瑞巌山天喜寺　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02210 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | かんのんじきゅうけいだい | | | 所在地 | 大垣市上石津町上ノ山（多良三ツ里） | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 観音寺旧境内 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良）～ | | | 宗派 | 天台宗→臨済宗 | | |
| 立地 | 段丘（山麓） | | | 現状（植生） | 山林（スギ、ヒノキ、サワラ） | | |
| 東西規模 | 80m | 南北規模 | 100m | 標高（比高差） | 157m（12） | 平坦面分類 | B+D |
| 沿革 | 伝承では、大同年間（806-10）の創立であり、本堂寺由緒に見える多良建七堂の同社のうちの観音堂が前身と思われる。境内山中の標高170m程の丘の頂には、町内最古の仏教史跡とされる如法経塚が残る。自然石でできた経塚であり、「如法経　文治五季（1189）十月十四日　願主慶覚」の陰刻が記され、如法経護法神出現の霊地とされている（観音寺縁記「三宝鳥来鳴記」）。堂宇頽廃し法灯しばらく衰えたが、寛文5（1665）年、高木北家2代貞元が、北方の慈渓寺3世大春元貞を勧請開山として建立（臨済宗紗心寺派）、菩提所とした。薬師瑠璃光如来を安置した薬師堂も存在したが創立年紀は不詳。昭和45（1970）年火災のため焼失し、寺は宮地区に再建された。旧寺跡は茶畑だが、経塚とその周囲は残される。（上石津町役場 1979、上石津町教育委員会 1990・2004、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、観音寺経塚（県指定、平安末）、旗本北高木家墓石群（町市指定、江戸） | | | | | | |
| 遺物 | — | | | | | | |
| 有形文化財等 | 観音寺縁記「三宝鳥来鳴記」、「金剛山観音寺記」 | | | | | | |
| 参考文献 | 上石津町役場 1979『上石津町史』通史編、上石津町教育委員会 2004『新修　上石津町史』、岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970『養老郡志』、岐阜日日新聞社・県郷土資料刊行会、上石津町教育委員会 1990『史料にみる上石津のあゆみ』 | | | | | | |
| 備考 | 観音寺経塚は遺跡登録されており、観音寺住僧慶覚が戦死者の耳を埋め、供養のために法華経の一部を書写してこれを納め、経塚を築いたとの伝承が残る。 | | | | | | |

**調査所見**　観音寺の旧跡には茶畑が広がり地元の方の話によると、茶畑となる前は本堂の礎石や鐘楼、池などが残っていたとのことである。鐘楼は延焼を免れたため宮地区に移設されたようである。入口と思われる東方の石段は、その東側にも石積みが組まれ、良好な状態で残存している。石段を上がった右手には現在小堂が建つが、寺が移転した後に建てられたものとのことであった。

現境内地の西側背後には、如法塚を含む小丘陵が存在するが、その丘陵麓辺りには墓石が立ち並ぶ。江戸期に観音寺を再興して菩提寺とした北高木家の墓所であり、江戸期を中心とした墓石が約30基以上残る。観音寺経塚は、径25m、高さ3m程の小丘陵の頂部平坦部に、石組や「如法経」の石碑などが残っており、この小丘陵は墓域であったとようである。また、現境内の北東には「城山」と呼ばれる小山が存在する。現況は確認できなかったが、中世城館跡とも言われており、観音寺との関連も考えられる。

図７　観音寺旧境内　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02258 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | きんしょうざんようじょうりんじほうこういん | | | 所在地 | 大垣市赤坂町 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 金生山明星輪寺寶光院 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（飛鳥）～ | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山腹～山頂 | | | 現状（植生） | 境内・山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 70m | 南北規模 | 140m | 標高（比高差） | 147(130)m | 平坦面分類 | A+C1 |
| 沿革 | 寺伝によれば、朱鳥元(686)年、持統天皇の勅命により役小角が開山となって創建されたという。その後、延暦20(801)年に空海が再興し、真言宗に改宗したとされる。久安４(1148)年７月伽藍は残らず焼失した。この時の住僧寛延法師が伽藍の焼失を憂え、本堂を始め諸堂再建。慶長14(1609)年３月、高須城主などが大施主となり本堂並びに仁王門を再建、諸堂、僧坊の修復を図る。その後江戸時代には明暦２(1656)年７月大垣城主戸田氏信より、本堂及び諸堂の再建・修復、万治３(1660)年５月に寺領十石を寄付し領内安穏武運長久の祈願所と定む。大正15(1926)年11月15日に火災のため庫裡客殿など焼失、後再建。（大垣市 2013、赤坂町史編纂委員会 1953、不破郡教育会 1927） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、岩窟 | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 木造地蔵菩薩半跏像（国指定、平安）、木造金剛力士立像(県指定、鎌倉)、梵鐘（銘明徳・癸酉年三月十二日）（県指定、室町）、石造如法経碑石(県指定、平安〔久安４年〕)、算額（県指定、江戸）、明星輪寺本堂(市指定、江戸〔文久〕)、観能額(市指定、江戸〔貞享〕)、近藤知行扇面型絵馬(市指定、江戸〔貞享〕)、金生山御鬮版木(市指定　江戸) | | | | | | |
| 参考文献 | 大垣市 2013『大垣市史』通史編　自然・原始～近世、赤坂町史編纂委員会 1953『赤坂町史』赤坂町役場、不破郡教育会 1927『不破郡史』下巻 | | | | | | |
| 備考 | 西美濃三十三霊場第三十一札場。「明星輪寺の境内地とそこからの眺望」市景観遺産に登録(H22)。 | | | | | | |

**調査所見**　金生山（標高 217m）にあり日本三虚空蔵の一つとして広く知られている。金生山は石灰岩や大理石の有数の産地であり岩石の露出も多く、本尊の虚空蔵菩薩では、洞窟（岩屋）の中にある彫刻である。明治期に神仏分離令により分離独立した蔵王権現宮（金生山神社）や、虚空蔵さんの伝承も残る蛇王権現など、周辺地域に寺院に縁点する施設や場所も多い。現境内地がある断崖上の山腹平坦地に、本堂、鐘楼、書院・庫裏、子安地蔵堂、仁王門などが屈曲した参道沿いに並ぶ。その北東の山腹から山頂にかけて石灰岩が露出した斜面が広がり、現在では市名勝「金生山岩巣公園」とされ巨石の側面に観音を描いた「権現岩（観音岩）」とその下に蔵王権現堂がある。他に不動明王を描いた「不動岩」や「行場岩」「星厳岩」「加持水岩」などがある。露岩地帯の西側山麓には愛宕神社や吃枳尼天堂などが残り、神社西には小規模ながら墳墓状の高まりとその中央に岩窟が存在する。この露岩地帯も寺院や神社の活動に関連した場所であった可能性がある。「星厳岩」の上方には、５×３m程の石組を確認したが、小規模で性格は不明であり、山頂まで広がる露岩帯を確認したが他に遺構や遺物は確認できなかった。西方の斜面には、露岩が少なくなだらかな斜面が続き、平坦な箇所も残り、経塚状の小丘陵も存在している。下方には近現代の墓地が広がり、寺院の一部又はその関連施設などが存在した可能性も考えられる。

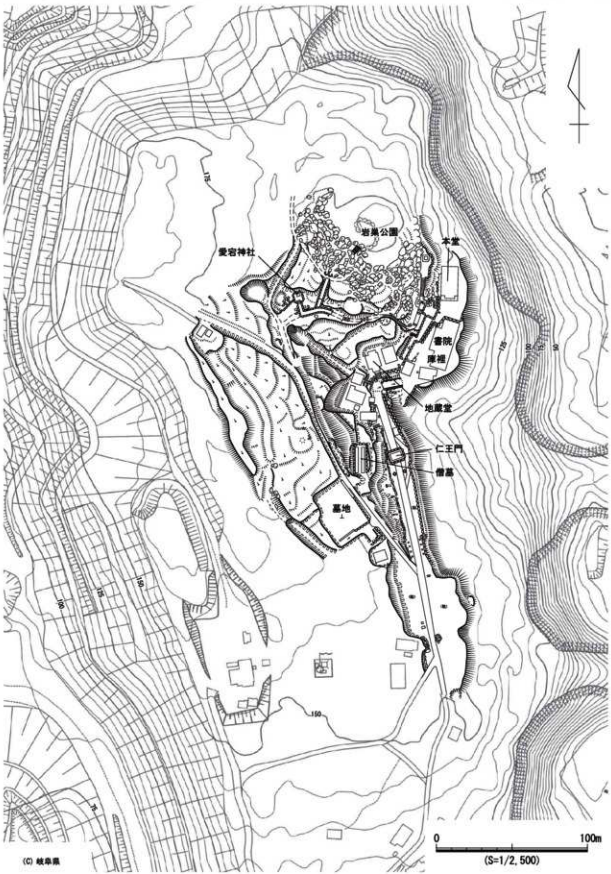



**図８　金生山明星輪寺寶光院　地形観察図**

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 02285 | 県遺跡番号 | 21202-5840 | 分布図番号 | N2 |
| ふりがな | そこうじ（そこうじあといせき） | | | 所在地 | 大垣市上石津町細野 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 祖光寺<br>（祖光寺跡遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代～ | | | 宗派 | 天台宗→臨済宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 境内・山林（スギ、ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 150m | 南北規模 | 300m | 標高（比高差） | 23（17）m | 平坦面分類 | D |
| 沿革 | 伝承によると聖徳太子仏法有縁の地として一坊舎が建立された。壬申の乱（672年）の際には大海人皇子が仮行在所とし、大宝2（702）年には持統天皇が頓宮とされたとのこと。天平11（739）年には行基が諸国巡教の際に巡錫され造営したとも伝わる（七堂伽藍の設備）。泰澄大師も巡錫の際に仏像を刻まれたと口碑残る。最澄の伝道により天台宗に転じ、その後道元禅師によって臨済宗に改宗。元亀2（1571）年織田軍の兵火で焼失。仏像を地蔵ヶ谷に隠した伝わり同地内より仏像四百余体が出土し、一部は悟空寺に安置されている。「大門」「寺畑」などの地名も残る。　元禄年中（1688～1704）には高木家の庄屋馬場十郎治によって再興したが、また廃頽に帰し、仏像と位牌が存するのみとなった。妙心寺派の本堂寺末で元禄10（1697）年の本堂寺に関する史料に記載あり。（上石津町役場 1979、上石津町教育委員会 2004、中西淳一 1931） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 宝篋印塔、五輪塔、一石五輪塔、祖光寺跡石仏像群（町指定、室町） | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 上石津町役場 1979『上石津町史』通史編、上石津町教育委員会 2004『新修　上石津町史』、中西淳一 1931『時村史』 | | | | | | |
| 備考 | ― | | | | | | |

**調査所見**　石積み上の中腹平坦面には、祖光寺跡に文化年間（1804～1818）に創建された悟空寺が現存し、その南に周辺域から集めた石塔・石仏群が「祖光寺跡石仏像群」としてある。西～南側の山中には平坦面が存在し、さらにその南方には十剣神社や平坦面群が存在する。地元での聞き取りで石仏群は山中から出土したものを集めたもので「大門」「寺畑」などの地名も残るとのこと。寺域は広範囲に広がる可能性があると判断した。悟空寺は、祖光寺の庭だった場所に江戸期に建てられたとのことで、粗光寺の本堂の位置は不明である。現境内の東～南側の山麓斜面では平坦面や段差、通路状の窪みを確認した。石積みは現貯水池に近い南方の平坦面で確認した。西方の尾根を越えた反対側の斜面には近・現代の墓地があり悟空寺住職の無縫塔がある。貯水池の南方山麓に十剣神社があり、その南方には明瞭な平坦面群がある。下方には方形状の広い平坦面、両脇に小規模な平坦面とそれらをつなぐ参道があり廃寺跡であった可能性がある。悟空寺の東方には「大門」「門前」という地名が残り、現在の林道の入口脇には「寺畑」という地名が残り礎石があったが、北方の本誓寺の土台に使われているとのこと。

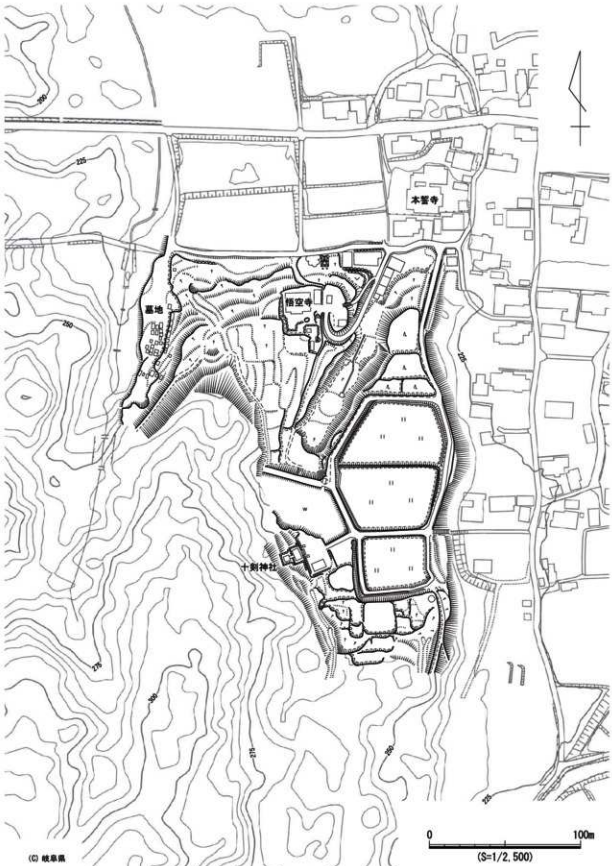



図９　祖光寺（祖光寺跡遺跡）　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 2009b | 県遺跡番号 | 21202-08548 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | みのこくぶんじ（みのこくぶんじあと、こくぶんじいせき） | 所在地 | 大垣市青野町 | | | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 美濃国分寺（美濃国分寺跡、国分寺遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良・平安）、中世、近世 | 宗派 | 不明 | | | | |
| 立地 | 扇状地 | 現状（植生） | 公園・水田 | | | | |
| 東西規模 | 約530m | 南北規模 | 約570m | 標高（比高差） | 21（0）m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 天平13（741）年、聖武天皇より発せられた国分寺建立の詔により創建。『続日本紀』には宝亀6（775）年に大風による被害を受けたと記され、寺伝には天平9（737）年に聖武天皇の詔を拝した行基が当地にて薬師如来を彫り七堂伽藍を建立寺を開いた。『日本三代実録』には、仁和3（887）年に火災で堂宇全焼、寺務を席田郡定額尼寺（現本巣市）に移したと記す。その後再建され12世紀末頃に衰退していたが、元和元（1615）年に阿闍梨真教が寺院跡から薬師如来座像を掘り出し再興。 | | | | | | |
| 遺構 | 七重塔跡、金堂跡、講堂跡、鐘楼跡、僧坊跡、中門跡、南門跡、回廊内建物跡、掘立柱建物跡、参道、道、幡竿支柱遺構、井戸、土坑、溝、柵、自然流路 | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、黒色土器、製塩土器、輸入陶磁器、山茶碗、かわらけ、中近世陶磁器、墨書土器、土製品（瓦・塼・陶馬・土錘・陶錘・輪羽口・土製百万塔）、石器・石製品、金属製品（釣金具・銅銭・鋲・帯金具巡方）、木製品（人形代・斎串・下駄・櫛・糸巻・糸枠・箸・曲物・礎盤）現・國分寺に五輪塔、一石五輪塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 薬師如来座像（国指定、平安）、土製百万塔（市指定、奈良）、土製露盤状鉢（市指定、奈良） | | | | | | |
| 参考文献 | 大垣市1977『大垣市史』青葛編、須田勉「ここまでわかってきた国分寺」2001『～千年の時流れて～遠江国分寺発掘50周年記念シンポジウム資料集』磐田市・磐田市教育委員会、大垣市教育委員会2005a『史跡美濃国分寺跡』、大垣市教育委員会2005b『美濃国分寺跡―国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）―』、岐阜県文化財保護センター2021『国分寺遺跡』 | | | | | | |
| 備考 | 塔跡周辺に「塔の下」金堂北側に「鐘堂・後当殿・古堂・十王堂」等の小字名あり（大垣市2005a）大垣市教委範囲確認調査：昭和43～45、49～51、53・54年（伽藍地）平成8～14年度（南面隣接）当センターの県道拡幅工事に伴う発掘調査：平成28・29年度（伽藍周辺地域）美濃国分寺跡歴史公園として整備されている。 | | | | | | |

**小結**　国分寺の変遷（大垣市教育委員会2005、岐阜県文化財保護センター2021）

Ⅰ期：国分寺前身寺院が建立される以前

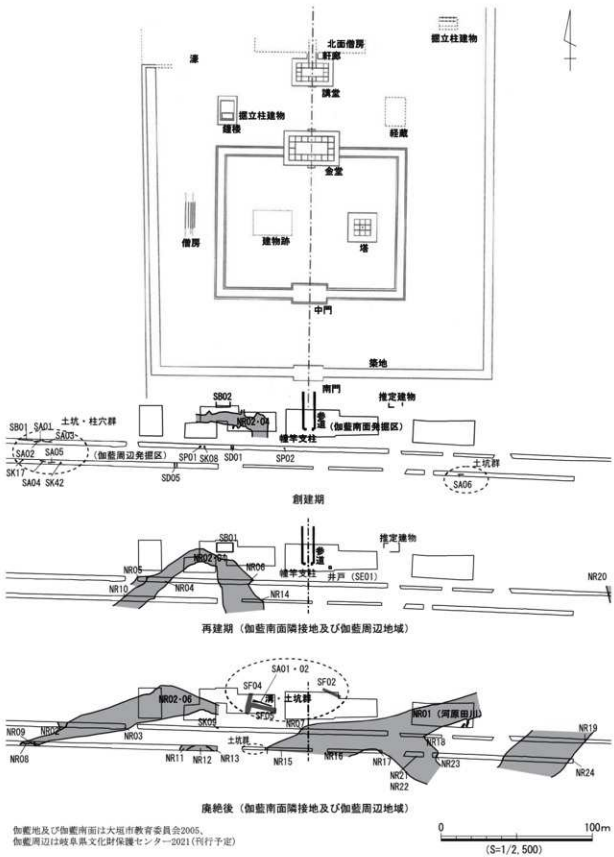
Ⅱ期：国分寺前身寺院建立以降から国分寺創建（古墳末期～奈良前半）遺構無いが遺物あり

Ⅲa期：創建期（奈良後半～平安末期）遺物量増の美濃須衛第Ⅳ期第2小期755年までには成立

Ⅲb・c期：再建期（10世紀前半～12世紀）出土遺物から仁和3年に焼失後直ぐに再建開始

Ⅳa・b期：廃絶後（鎌倉～江戸初）伽藍の軸線とは異なる道・柵の存在13世紀に廃絶水田化

寺域東西231m、南北250m以上。中心伽藍東西120.6m、南北93.9m伽藍配置は大官大寺式。塔跡は三間四面塼積基壇花崗岩製の塔心礎（出柄径0.64m）を持つ。金堂跡は塼積基壇礎石建物7×4間（五間四面）、講堂跡は石積基壇礎石建物（5×4間（三間四面）。塔・金堂跡基壇から7世紀末～8世紀初頭の川原寺系の複弁八葉蓮華文軒丸瓦・三重弧文軒平瓦が出土し豪族氏寺基調に造営説と前身寺院遺構は仮公堂説とがある。




伽藍地及び伽藍南面は大垣市教育委員会2005、
伽藍周辺は岐阜県文化財保護センター2021(刊行予定)

図10　美濃国分寺跡　遺構図

［養老町］

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 24086 | 県遺跡番号 | 21341-5880 | 分布図番号 | 03 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | かしわおでら（かしわおはいじあと） | | | 所在地 | 養老郡養老町柏尾 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 柏尾寺<br>（柏尾廃寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良）・中世 | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 境内・山林（コナラ・アカマツ） | | |
| 東西規模 | 800m | 南北規模 | 400m | 標高（比高差） | 165（40）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 天平年間（729～749）に建立。その後、７百年に及んで破滅すとある。また、廃頽時期は不明である９が、存徳寺記録には天正５年４月中旬織田信長の焼討ちによって焼失した。（岐阜県養老郡養老町1978）当初法相宗であったが、後に天台宗に転宗。なお、信長記によると永禄５（1562）年に焼き払われた。（養老町教育委員会2007） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、土塁、溝、洞穴、礎石、基壇、金堂跡、墓域 | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、灰釉陶器、中世土師器、山茶碗、古瀬戸、瓷器系陶器、中国製陶磁器、瓦質土器、瓦、瀬戸美濃、近世陶磁器、五輪塔（明応九（1500）年～天文十六（1547）年）、石仏（應永九（1402）年～弘治年間（1555～1557）、宝篋印塔、一石五輪塔、五輪塔、板状五輪塔、石塔類未成品 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 岐阜県養老郡養老町1978『養老町史』通史編上巻、養老町教育委員会2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』、岐阜県教育委員会1998『岐阜県文化財図録』 | | | | | | |
| 備考 | 多芸七坊のうちの１つで、柏尾山に24坊が所在したとされる。（養老町教育委員会2007） | | | | | | |

**調査所見**　多芸七坊の一つで天平期成立の寺院である。北側の勢至南谷を挟んで光堂寺廃寺跡、南側の柏尾谷を挟んで南の滝谷には養老寺と、養老山脈の山麓に多芸七坊が並んでいる。神明神社より一段下の平坦面に、金堂跡と考えられる礎石群が現観音堂周辺に、金堂跡の北には塔跡と考えられる基壇跡が残り、金堂跡からは東へ一直線状に参道が伊勢街道まで伸びている。これらの西側斜面上には墓域、北西の斜面には行場と思われる巨岩・洞穴・平坦面があり、参道の南北両側に坊院跡と考えられる平坦面が展開する。塔跡のそばには千体仏と呼ばれる石仏群がある。坊院跡は、勢至南谷に近い方は、川に沿いの一段低い所に展開している。直線参道両側に広がる南側坊院群とは比高差が５mほどあり、南側北端の切岸沿いにも参道が形成されている。南側坊院群の参道より南端には土塁をともなった道が東西に続き、中央部には水路と考えられる溝が東西に続いている。北側坊院群の東半分は、川沿いの地形に合わせて複雑に平坦面が展開しているが、西半分は直線参道南側の平坦面列に面を合わせて展開している。川に近い平坦面には土塁状の高まりや石積が残っている。洞穴への通路としては、本道から北西へ折れて西側に分布する平坦面を通り、北側の谷沿いに上がるルートが考えられる。平坦面西側の斜面は急で通路は確認できなかった。洞穴の奥行きは現状で２～３mである。また、谷沿いの巨岩北側に石積みを確認した。

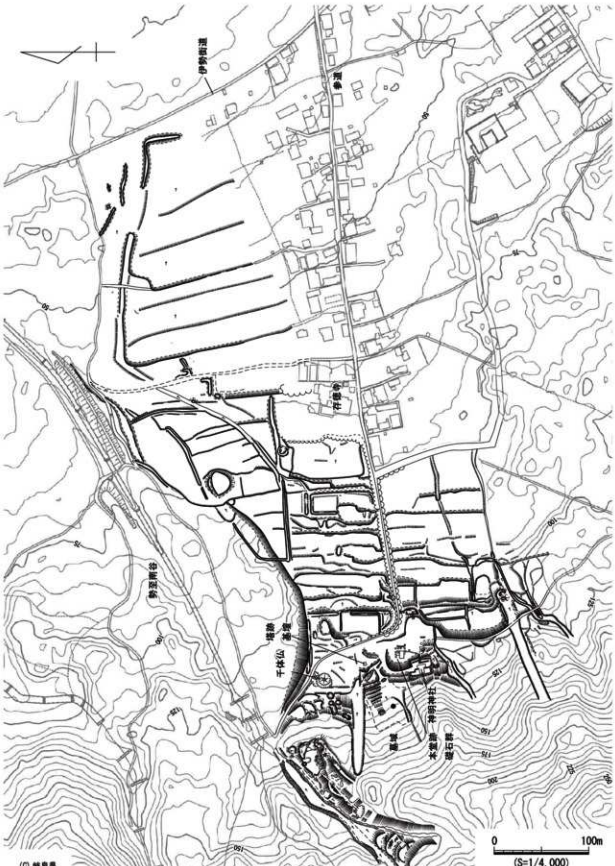



図11　柏尾寺（柏尾廃寺跡）地形観察図（１）

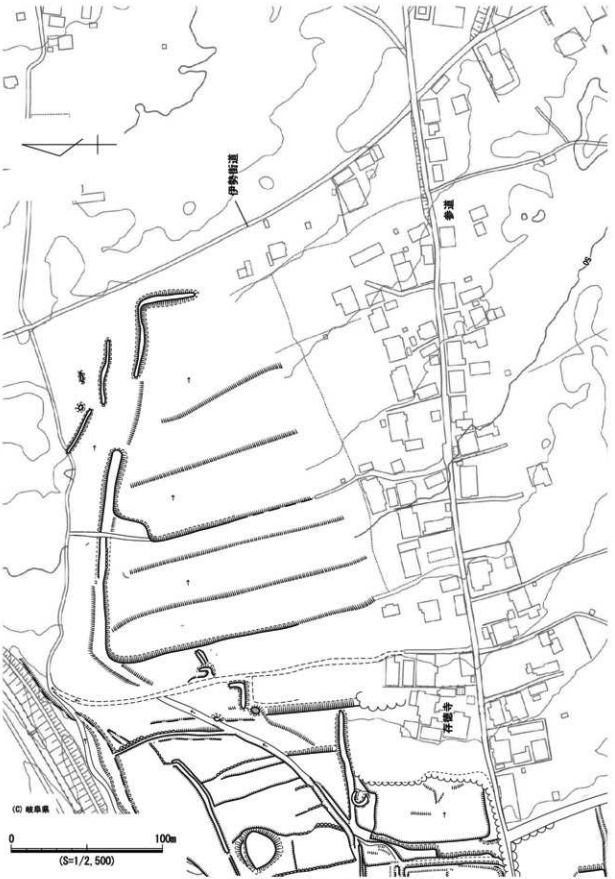



図 12　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図（２）

図 13　柏尾寺（柏尾廃寺跡）　地形観察図（３）

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 24087 | 県遺跡番号 | 21341-5867 | 分布図番号 | 03 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | だいいとくさんりゅうせんじ（りゅうせんじはいじあと） | | | 所在地 | 養老郡養老町竜泉寺 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 大威徳山竜泉寺<br>（竜泉寺廃寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町） | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 山林（コナラ） | | |
| 東西規模 | 625m | 南北規模 | 350m | 標高（比高差） | 200（130）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 当初は法相宗であったが、後に天台宗に改宗した。（養老町教育委員会 2007）文化年間（1804～1818）の記録に「天平宝字に建立、其後三百年を過ぎて破滅す。西山七坊の縁起この寺に在りて比叡山に納まる。七坊の内に大伽藍也。寺家四十八本有之。今に基跡あり」と記している。また、建立後３百年を過ぎて破滅したが、その後再建され織田信長の兵火にかかるまで創建以来約８百年続いた。（岐阜県養老郡養老町 1978） | | | | | | |
| 遺構 | 礎石（塔跡か鐘堂跡） | | | | | | |
| 遺物 | 泉恵器、中世土師器、山茶碗、古瀬戸、瓷器系陶器、瓦、石仏、宝篋印塔、五輪塔、一石五輪塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 岐阜県養老郡養老町 1978『養老町史』通史編上巻、養老町教育委員会 2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』 | | | | | | |
| 備考 | 多芸七坊のうちの１つで、大威徳山に 48 坊が所在したとされる。遺跡の最高所の一部は町史跡。 | | | | | | |

**調査所見**　北の威徳谷と南の行平谷に挟まれた扇状地上に坊院が展開する寺院跡である。行平谷を挟んで南には光堂寺廃寺跡がある。扇状地の奥に墓域と礎石を伴う本堂跡や鐘楼跡等の中心施設を設け、山裾に向かってほぼ一直線に参道が伸びる。坊院は参道の両脇に階段状に平坦面を配置する。特に参道の北沿いの平坦面群は、平坦面中央部に土塁状の高まりがあって複雑に形成され、平坦面に比高差があり残存状況が良い。直線通路（表参道）は比高差２m程の切岸によって形成されている。また、表参道の北には阿弥陀堂跡を起点とした、比高差５m程の切岸によって通路（裏参道）を形成している。裏参道は流路の両側に形成され、平坦面の斜面には石積みが残る。裏参道は現存の安養院南脇に続いている。鐘楼跡から威徳谷に沿って時期は不明であるが、幅２m奥行 1.2mで１mに１段の石段がある。石段は途中で途切れ、凹地状の道に変わる。この道には土塁状の高まりが伴っている。鐘楼跡の北西には墓域と思われる、五輪塔の部材が散在する５m×10m程の平坦面がある。この平坦面から西は急斜面の岩盤になる。表参道の南側に展開する平坦面群は北側に展開する平坦面列に対応して展開している。寺院跡南端には溝を伴う東西方向の土塁がある。阿弥陀堂跡の東には近年のものと思われる石積みを伴う平坦面がある。

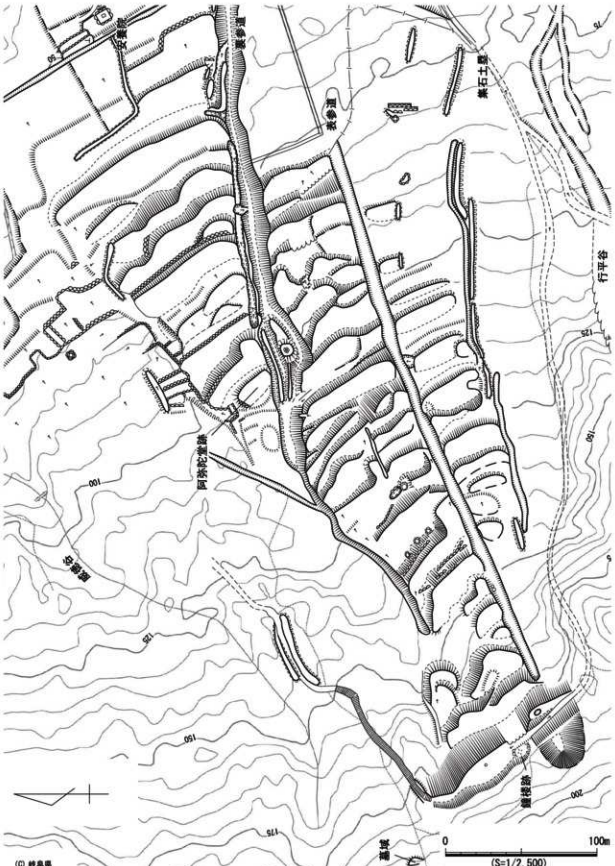



図14　大威徳山竜泉寺（竜泉寺廃寺跡）　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 2407Ib | 県遺跡番号 | 21341-5869 | 分布図番号 | 03 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | せいしんざんこうどうじ（こうどうじはいしあと（せいしじあと）） | | | 所在地 | 養老郡養老町勢至、石畑 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 勢至山光堂寺<br>（光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世 | | | 宗派 | 法相宗→天台宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（コナラ・アカマツ） | | |
| 東西規模 | 430m | 南北規模 | 290m | 標高（比高差） | 145（95）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 文化年間（1804～1818）の記録に「勢至村、支署に勢至山光堂寺、天平宝字年中の建立。その後三百年を経て破滅す。」とある。応永７（1400）年には足利義満の御判物を給失したと寺が申し出たので、寺域を従前通りとするため証文を渡している。それによれば寺域は、東境・伊勢街道、西境・一瀬山の峰、南境・鵜尾口□（南谷力）、北境・立岩の下大谷水落ち境である。また、光堂寺は寛正５（1464）年２月、住僧顕誓の時、旅壽に帰依して本願寺の末寺となり、勢至山専明寺と改めた。その後、寛永年中鷲巣へ移転して現在に至る。（岐阜県養老郡養老町 1978）当初法相宗であったが、後に天台宗に改宗。なお、信長記によると永禄５（1562）年に焼き払われた。（養老町教育委員会 2007） | | | | | | |
| 遺構 | 土塁、岩窟 | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、中世土師器、山茶碗、古瀬戸、瓷器系陶器、中国製陶磁器、近世陶磁器、五輪塔、石仏、五輪塔、一石五輪塔、板碑五輪塔、石仏、石臼 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 古瀬戸瓶子（県指定重文、古瀬戸前Ⅲ～中Ⅰ期）：喜勢遺跡、「土岐善弘書状案」（応永 27（1420）年） | | | | | | |
| 参考文献 | 岐阜県養老郡養老町 1978『養老町史』通史編上巻、養老町教育委員会 2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』 | | | | | | |
| 備考 | 多芸七坊のうちの１つで、勢至山に 24 坊が所在した。「土岐善弘書状案」（応永二七（1420）年）に「勢至寺」の境域が記載され、日吉神社の周辺で中世の遺物を採集しており町教委は、勢至寺跡としている。 | | | | | | |

**調査所見**　光堂寺廃寺跡は、北の勢至北谷と南の勢至南谷に挟まれた尾根上部から現在の住宅地までの範囲にあり、東に勢至鉄座跡がある。勢至南谷を挟んで南に柏尾廃寺跡が、勢至北谷を挟んで北に竜泉寺廃寺跡がある。日吉神社周辺に礎石が残る平坦面があり、中心堂宇跡と考えられる。日吉神社の北西の勢至北谷の東斜面に巨岩・岩窟・集石が所在し、高台から本堂を望む行場の様相を呈している。日吉神社南側の平坦面群の東半分には近年の石積みが残り、北端の急斜面に北谷の水を引き入れている。勢至南谷の北側に沿った尾根上部の湧水地点と滝周辺には、川を挟んで南北斜面に小規模な平坦面群があり尾根上には防御施設がなく平野部の眺望が良好な行場で、中世陶器１点が採集されている。また、この尾根上には、斜面が急であるため残りは悪いが平坦面があり石仏・石塔が散在している。礎石の残る平坦面の入口と、鉄座跡に向かって伸びる参道の周辺に土塁状の高まりがみられる。行場は巨岩と岩盤が切り立った断崖を形成しており、岩窟はその裾部に位置する。岩窟の内部は幅約５×奥行約４m程の空間があり、その中央の基壇状高まりには五輪塔部材を確認した。古代の行場跡を、中世に入ってやぐらとして利用されていたのではないかと推察される。本堂からの連絡は、勢至北谷の谷川を渡る必要がある。谷川に近くに散見される集石は山林砂防整備のものと考えられる。

図 15　光堂寺庵寺跡（勢至寺跡）　地形観察図（１）

図16　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）　地形観察図（2）

図 17　光堂寺廃寺跡（勢至寺跡）　地形観察図（３）

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 24094 | 県遺跡番号 | 21341-11218 | 分布図番号 | 03 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | こうみょうじ（やくしやまいせき） | | | 所在地 | 養老郡養老町鷲巣、若宮 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 光明寺<br>（薬師山遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世 | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（スギ、ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 470m | 南北規模 | 130m | 標高（比高差） | 170（55）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 天平宝字年間の創建。当初法相宗であったが、後に天台宗に転宗。なお、信長記によると永禄五（1562）年に焼き払われた。（養老町教育委員会 2007） | | | | | | |
| 遺構 | 溝、土塁 | | | | | | |
| 遺物 | 中世土師器、山茶碗、古瀬戸、瓷器系陶器、五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 養老町教育委員会 2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』 | | | | | | |
| 備考 | 多芸七坊のうちの1つで、小倉山に36坊が所在したとされる。遺跡の最高部付近に五輪塔・石仏がある。（養老町教育委員会 2007） | | | | | | |

**調査所見**　養老山東麓で養老寺がある滝谷の南、小倉谷南側扇状地上に坊院が展開する。坊院の南を西から東へ流れる沢に沿って奥へ登ると、沢の奥に本堂跡があり、参道沿いに坊院の平坦面、小倉谷の河岸段丘北端部に土塁が残る。中流から上流は沢沿いに参道が伸びるが、東の坊院では段丘崖に沿って土塁を伴う参道が東へと伸びている。主要遺構となりそうな平坦面は、本堂跡周辺にある。坊院は土塁状の高まりや溝・段丘崖で囲まれた区画内にあったと考えられ、小倉谷南の扇状地上に坊院が展開していたようであるが、残存状況が悪く北東端に7段分が残っている。坊院の平坦面は奥行約10m南北方向幅約30mで、これらの南端と中央に、幅約1m程の道状の高まりが残っている。

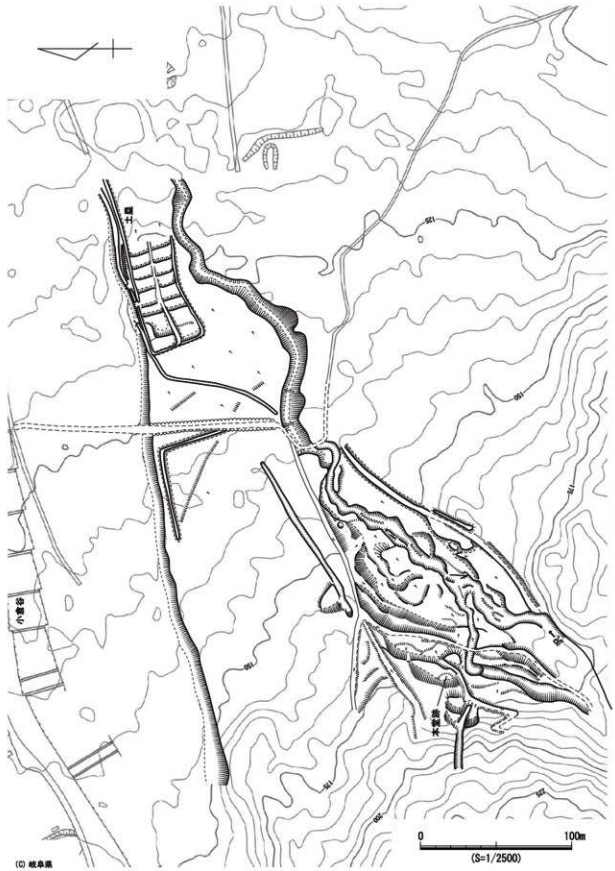



図 18　光明寺（薬師山遺跡）　地形観察図

**［垂井町］**

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25003 | 県遺跡番号 | － | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | いちじょうさんぼだいじ | | | 所在地 | 不破郡垂井町岩出 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 一乗山菩提寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代～ | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 境内・山林（アカマツ、スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 198m | 南北規模 | 421m | 標高（比高差） | 145（35）m | 平坦面分類 | A+C2+D |
| 沿革 | 真言宗の布教のために当地に来た空海に対し、豪族の伊福氏が請い開基された。『類聚国史』には、「天長五（828）年十月美濃国菩提寺預定額」とあり、準官寺である定額寺に列せられたことがわかる。（垂井町史編さん委員会 1969）その後兵火に遭い、中世の事は不詳である。創建当初は山上にあったが、天文８（1539）年に僧祐運が山麓に移して中興し、寛永年間（1624～1644）に領主竹中氏によって本堂が再建されたとある。（垂井町 1996）定額寺に列せられたことについて、始めは伊福氏の菩提寺として創建されたが、当時伊福氏は朝廷に対して功績が多くあったため、定額寺に列せられたと説明している。（不破郡教育會 1927） | | | | | | |
| 遺構 | 池、石積み | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 菩提寺鰐口（町指定、室町） | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編、岐阜県不破郡垂井町役場、垂井町 1996『新修垂井町史』通史編、不破郡教育會 1927『不破郡史』上巻 | | | | | | |
| 備考 | 菩提山城の登城口に位置する。 | | | | | | |

**調査所見**　現存寺院本堂周辺に石積みを伴う平坦面があり、本堂東側の尾根上や山麓に複数の平坦面、白山神社が存在する。『新修垂井町史』の記述内容も含め、菩提寺の旧境内の可能性が高いと判断した。

尾根の最奥部の平坦面中央に、明和６（1769）年と享和元（1801）年銘の墓石、１段下の基壇上に無縫塔、五輪塔、宝篋印塔が多数あり、墓域であると考えられる。その南側には１段高くやや広い平坦面があり、礎石や基壇は確認できなかったが、この平坦面からの眺望を考えると、本堂や塔等の主要堂宇があった可能性がある。墓域の北側には尾根に直交して幅３mの高まり（土塁の可能性）があり、平坦面の南西隅が出入口となる。墓域の西側の平坦面には、石積みで囲まれた２×３mの湧水池があり、南東の池に注ぐ。墓域の東側の斜面には、小規模な平坦面が３段あるが性格不明である。

現本堂と墓域の間にある尾根上には参道があり、参道の途中には仏堂、最奥部の平坦面に白山神社が所在する。白山神社の西から、菩提山城へ向かう登城路が伸びる。

現本堂周辺には、庫裡・山門・石積みを伴う大小様々な平坦面があり、山門の南側にも規模の類似する平坦面がある。また、現本堂の南東部には、谷を挟んだ山麓部に水天宮が祀られている。

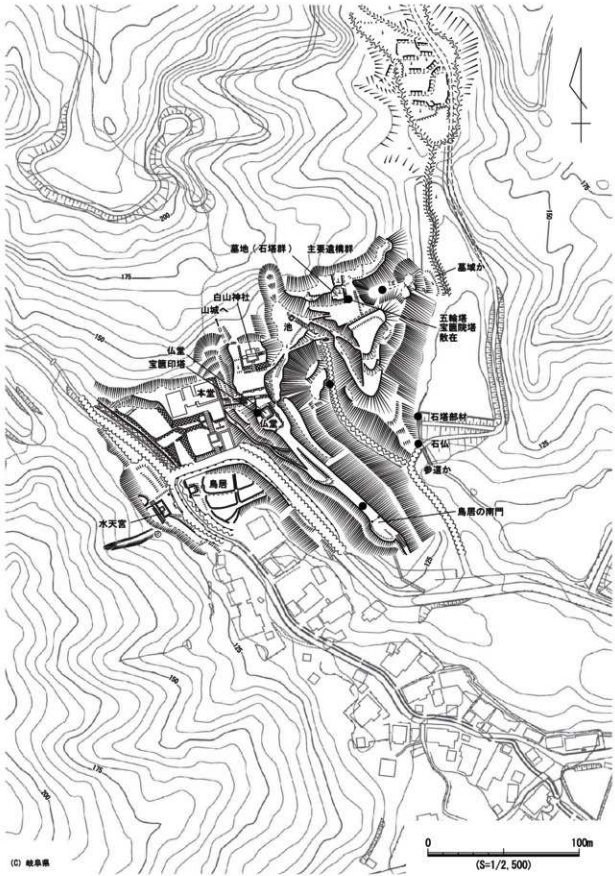



図 19　一乗山菩提寺　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25006 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | かんのんじ | | | 所在地 | 不破郡垂井町敷原 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 観音寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安）～ | | | 宗派 | 曹洞宗→浄土宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 境内・宅地（スギ・ヒノキ、アカマツ） | | |
| 東西規模 | 140m | 南北規模 | 275m | 標高（比高差） | 114.5（12）m | 平坦面分類 | A+C1 |
| 沿革 | 往古は、如意山妙勝寺と称した。本尊の観世音菩薩は、最澄が宇佐八幡宮で彫刻した木像７躰のうちの１躰であると伝わる。元亀・天正（1570ー1592）頃、堂宇が破壊され本尊仏が雨露に侵されたため、承応２（1653）年草堂を建てて安置した。貞享元（1684）年に堂宇を再建し、曹洞宗観音堂と称するようになる。明治５（1872）年に廃寺となるも、同13（1880）年に信徒などが再興を請い、その許可を得て観音寺と公称し、浄土宗に改宗した。（垂井町 1996）<br>平安のころ国府の北の敷原村の山麓にちょっと有名な神社や仏閣があったという。927年に中央で編集した延喜式の美濃神名帳に、正二位敷原大明神とある。いま西屋敷にある熊野神社の前身にあたるのではないかといわれているが、その位置、規模など見当もつかない。祭神は伊邪那美神、速玉男神、豫母津事解神である。また、江戸時代に刊行された『濃陽志略』や『新撰美濃志』という本には、東屋敷の谷田のあたり東林坊に、古代、天台宗の如意山名勝寺の堂塔伽藍があって、中昔廃寺になっていると記している。この廃寺の仏像がのちの浄土宗観音寺の本尊となって文化財に指定されている十一面観世音立像であるという。寺伝によるとこの敷原観音は、伝教大師の作となっている。有名社寺や国府高官の屋敷原か湿気原が敷原の語源とか。（敷原村 1980） | | | | | | |
| 遺構 | — | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、無縫塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 木造不動明王立像（町指定、平安）、木造十一面観音立像（町指定、平安） | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町 1996『新修垂井町史』通史編　敷原村 1980『愛そう敷原』、郷土史研究会 1960「敷原を語る座談会」、垂井町教育委員会 1984『垂井のむかし話』 | | | | | | |
| 備考 | 敷原を語る座談会の敷原暮図には、山麓から谷中心を南北方向に直線道路が描かれ、道路沿いに南流する「寺川」、道路の東に「東屋敷」、道路の西に「西屋敷」と記載あり。（郷土史研究会 1960）<br>不破の滝・養老の滝にはそれぞれ滝を守護するお不動様がおりましたがいつも喧嘩をしており、それを見かねた偉いお不動様が天から降りてきて説教をされ、お互いの良さを認め合い、不破の滝は男滝、養老の滝は女滝というようになったと伝えられている。（垂井町教育委員会 1984） | | | | | | |

**調査所見**　南向き本堂（標高 114.2m）、庫裡、境内西に墓地を確認した。160m南西にもと天台宗の明円寺（標高 95.8m）、250m南西に熊野神社（94.1m）がある。観音寺を北端とする南北方向の直線道路沿いには美濃国府跡があり、南端には美濃国一宮の南宮大社がある。本堂から明円寺前に続く直線道路沿いには水路と水路沿いの石積みがある。

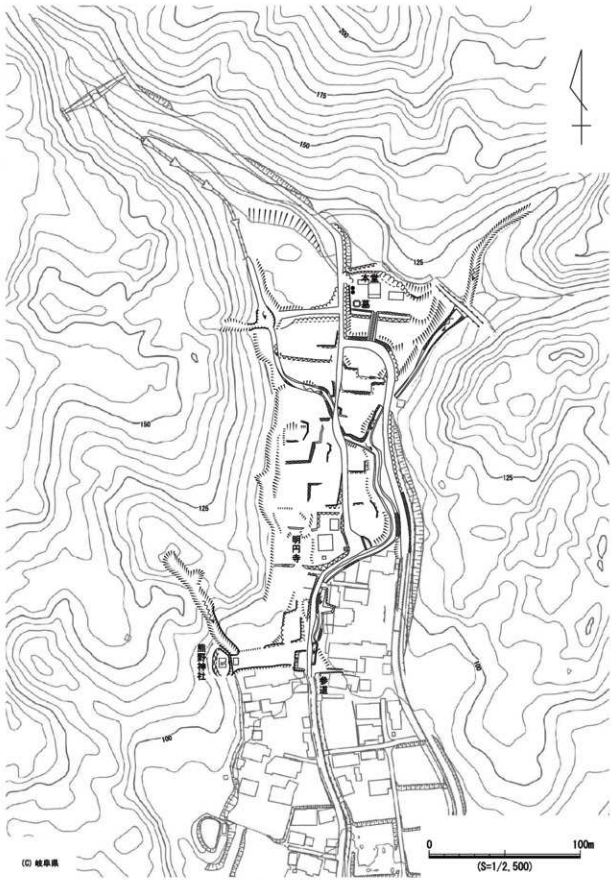



図 20　観音寺　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25015b | 県遺跡番号 | 21361-11741 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | いとくじきゅういけいだい（いしこしいせき） | | | 所在地 | 不破郡垂井町平尾 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 威徳寺旧境内<br>（石越遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 中世～ | | | 宗派 | 天台宗→真宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 200m | 南北規模 | 160m | 標高（比高差） | 100（40）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 創建時期については天文年間（1532～55）とあるが、天文10（1582）年に真宗に改宗しているため、天文元～10年までに創建されていると考えられる。（林周教1961）<br>応永14（1407）年頃創建され、天台宗円興寺末、威徳坊と称していたが、天文11（1542）年に当寺第５世円純が真宗の証如に帰依したことで改宗し、名を了道、寺を現在地に移して寺号を威徳寺に改めたとある。慶長７（1602）年の本願寺東西分派の際、浄土真宗大谷派に属す。（垂井町1996）<br>元は平尾東北山中の風越にあったが、住民が集団移住したのに伴い、現在地へ移転したという。（垂井町史編さん委員会1969）<br>風越の旧跡は、平尾地区北東部の石越遺跡と考えられており、開墾などにより改変を受けるが、現在も多数の石塔が集積し、明治36（1903）年には壺に入った古銭が8,388枚（和同開珎～宋・明銭）が出土した（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017） | | | | | | |
| 遺構 | 礎石、石積み | | | | | | |
| 遺物 | 一石五輪塔、五輪塔部材、山茶碗、古瀬戸（四（三）耳壺） | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町史編さん委員会1969『垂井町史』通史編 岐阜県不破郡垂井町役場、林周教1961『岐阜県真宗史』美濃文化研究所、垂井町1996『新修垂井町史』通史編、垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』、不破郡教育會1927『不破郡史』下巻 | | | | | | |
| 備考 | ― | | | | | | |

**調査所見**　石越遺跡は、威徳寺旧境内と考えられており、谷筋に多数の平坦面と五輪塔部材を確認した。２つの大きな谷地形が尾根を挟んで平行に並び、その谷に平坦面が階段に並ぶ。北側の谷は、さらに１つの小さな尾根と２つの小さな谷に分かれており、平坦面群が３列で形成されている。３列の平坦面の西端は、垂井町と大垣市の境の辺りで最も大きな平坦面を形成している。その西側の谷筋で多くの石塔類が散乱していることから、この最も大きな平坦面が本堂跡であり、その西側を墓域と推測する。また３列の平坦面群のうち、真ん中の平坦面群には北端に道があり、一部石積みを伴っており、これを参道と推測する。推定本堂跡の平坦面から尾根沿いに道が南側の谷へ続いており、南の平坦面群へと接続している。推定本堂跡以外の平坦面群は、幅が狭く小規模のものが多いことから坊院と考える。

図 21　威徳寺旧境内（石越遺跡）　地形観察図

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25061 | 県遺跡番号 | 21361-1115<br>21361-11751 | 分布図番号 | N3 |
| ふりがな | （やくしどうあと、やくしどういせき） | | | 所在地 | 不破郡垂井町表佐 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | （薬師堂跡、薬師堂遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世・近世 | | | 宗派 | 真宗大谷派 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 100m | 南北規模 | 300m | 標高（比高差） | 125（45）m | 平坦面分類 | B+C1+D |
| 沿革 | 延暦12（792）年開基と伝えられる。江戸期までこの場所に薬師堂が建てられていた。（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）　現在は真禅院に移転されている。（垂井町 1996） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 山茶碗、古瀬戸、常滑甕等 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 美濃国南宮社之図（江戸） | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』、垂井町 1996『新修垂井町史』通史編 | | | | | | |
| 備考 | 分布調査では、薬師堂から北側に向かって山麓までの範囲（薬師堂遺跡）で山茶碗・古瀬戸・常滑甕等が確認されており、近世の薬師堂に伴う遺物ではないとされているが、中世南宮神社や南宮山信仰にかかわる遺跡の可能性もあるとされている。美濃国南宮社之図に「薬師堂」の記載がある。 | | | | | | |

**調査所見**　本遺跡は、南宮山山麓の北西側に位置し、中腹の観音堂跡に向かう参道西側の北に傾斜する緩やかな斜面上にある。東と西の谷の間の尾根上に本堂跡と坊院が展開する。東の谷は、南宮大社北を東流する谷と合流する。坊院は北と南に分かれ、北側は現代の改変を受けている。南奥に本堂跡と思われる平坦面があり、本堂跡の北の緩やかな斜面に５段の坊院が展開する。南の坊院の北端に湧水地点があり、北にある池を通じて谷へと流れるが、池の周辺から現代の改変を受けている。南の坊院からはやや離れるが、参道沿いの尾根北端部にも３段ほどの平坦面があり、参道沿いに石積みが部分的に残存する。

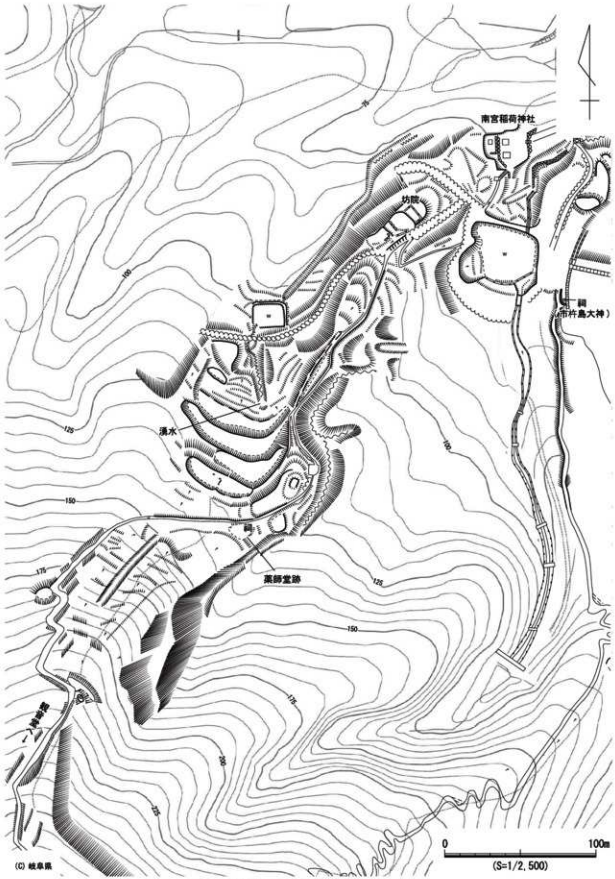



図 22　薬師堂跡・薬師堂遺跡　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25062 | 県遺跡番号 | 21361-11116 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （かんのんどうあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町宮代 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | （観音堂跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世・近世 | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 34m | 南北規模 | 64m | 標高（比高差） | 265（197）m | 平坦面分類 | A |
| 沿革 | 天平神護２（766）年創建と伝わり、かつては宝珠院、宝珠観音堂と称し、南宮山山頂の奥院高山社近くに所在していた（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。昭和 46（1971）年名城大学による調査（名城大学理工学部住宅研究会古建築班 1971）で測量調査が行われており、礎石及び石垣が確認されている。また、垂井町教育委員会の分布調査（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）では、観音堂に関係する可能性のある遺物が採取されている。 | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、礎石、基壇 | | | | | | |
| 遺物 | 山茶碗、蔵骨器（瓶器、近世陶器） | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』、名城大学理工学部住宅研究会古建築班 1971『南宮神社建造物総合調査報告書』第１部 | | | | | | |
| 備考 | 『木曽路名所図会』に観音堂の記載がある。（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）<br>幕末頃に作成された「美濃国南宮社之図」には、「宝珠院」として記載されている。 | | | | | | |

**調査所見**　本遺跡は、南宮山北斜面中腹の尾根上に位置する。山麓から続く現参道沿いの尾根上に、広い平坦面が１面あり、基壇状の高まり３か所と石積み、礎石などの遺構が見られた。平坦面の中央にあるものを「基壇①」、南側にあるものを「基壇②」、北側にあるものを「基壇③」とする。基壇①は、参道からの出入口正面にあたる基壇で、出入口と基壇の間には、幅約 12m の帯状の空間がある。基壇は 10×15m の大きさで、部分的に石積みを確認できる。基壇の中央部分には近代の瓦が散在している。北東面の石積は、基壇の北側にある小規模な平坦面へとつながっている。基壇②は、基壇①の東辺の法尻と一致することから、基壇①と基壇②は同時期のものと考えられる。基壇③は 10m 四方で縁に石列があり、基壇上に礎石がある。広い平坦面の北側と南西の尾根上に、山頂方向への旧参道が残っている。平坦面への出入口は、東側と南側の２か所にあり、石積みが部分的に残っている。観音堂跡から南宮大社へと下る参道の北脇には、東向きの平坦面や緩斜面を確認できる。

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25063 | 県遺跡番号 | 21361-11117 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （せんじゅどうあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町宮代 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （千手堂跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世・近世 | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 30m | 南北規模 | 43m | 標高（比高差） | 265（202）m | 平坦面分類 | A+D |
| 沿革 | 成立時期などの詳細は不明であるが、かつて小堂があり、南宮神社関係の堂宇であった可能性がある。明治期の神仏分離令で真禅院に移されたのち、昭和８（1933）年に正行院へ移築された。山中には平坦面が残り、「奉　読誦法華経三千部回向」の石柱と、堂宇跡の可能性がある高まりを確認できる。（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、基壇、集石 | | | | | | |
| 遺物 | — | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』 | | | | | | |
| 備考 | 幕末頃に作成された「美濃国南宮社之図」には、「千手堂」という記載がある。「一ツ松の旧跡」は町の看板に、「「人来の松」と言われ、新古今集(1205 年)に「おもひいづや　みのの国山の　ひとつ松　契りしことは　いつも忘れず　伊勢」と詠まれ、「伊勢は 1000 年前、小野小町とと共にその双璧と言われた女流詩人で、以来この一ツ松は、多くの有名歌人の歌枕にされてきた銘木の旧跡」とある。 | | | | | | |

**調査所見**　25062 観音堂とほぼ同じ標高に平坦面がある。平坦面中央部には、南北に分ける段があり、平坦面北半では、北西隅で約 10m四方の基壇状の高まりと、南東隅で集石を１か所確認した。平坦面の北東隅にある出入口に「奉　読誦法華経三千部回向」の石柱を確認した。この石柱の後方に、Ｌ字状に石積が残存している。参道は約 70m手前で分岐し、一方は千手堂跡へ、もう一方は山頂方面へと続く。千手堂跡への出入口はこの１か所である。平坦面南半にも道のようなものがあるが、平坦面から約 15mで収束する。この平坦面の東側の斜面を見ると、北から南に向かって緩やかに傾斜する幅の狭い平坦面が確認できるが、用途は不明である。

千手堂跡の北西斜面の上には、「一ツ松の旧跡」がある。３×３mの基壇上に「中山一ツ松」と刻まれた石碑がある。基壇から北西に 30m進むと、尾根に沿って平坦面がある。尾根の中央部付近には小規模な高まりを確認したが性格不明である。

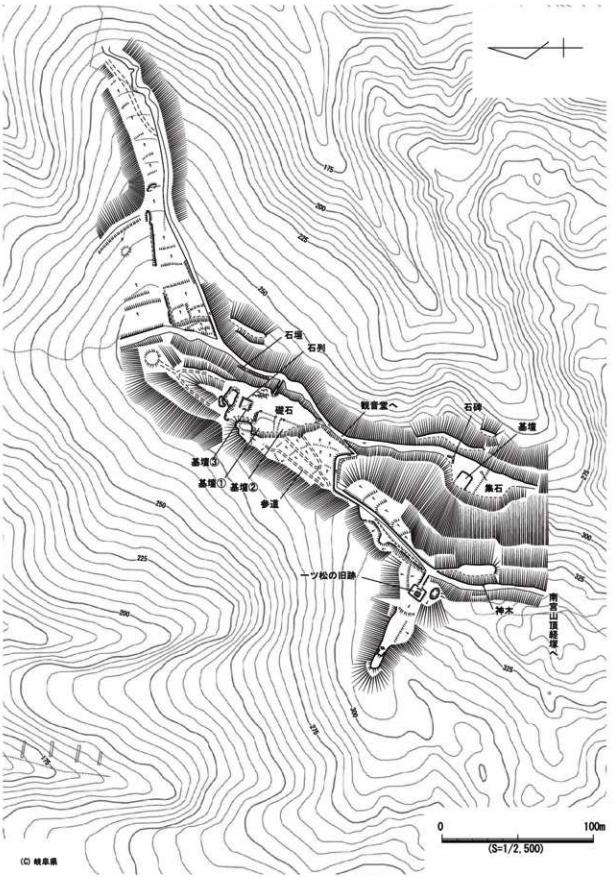



図 23　観音堂跡・千手堂跡　地形観察図

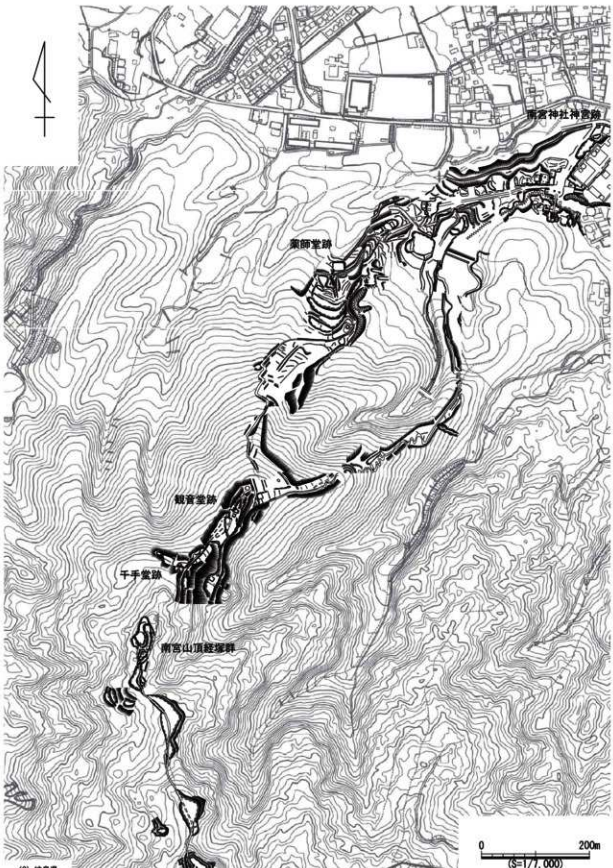



図 24　南宮山全体　地形観察図位置図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25064 | 県遺跡番号 | 21361-2052 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （なんぐうさんちょうきょうづかぐん） | | | 所在地 | 不破郡垂井町宮代 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （南宮山頂経塚群） | | | | | | |
| 時代区分 | 中世 | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 40m | 南北規模 | 45m | 標高（比高差） | 390（340）m | 平坦面分類 | C2+D |
| 沿革 | 昭和34（1959）年に伊勢湾台風の影響で樹木が多数倒れた際、南宮山頂の高山神社境内にあった如法経石塔（如法経とは、法華経などの経典を「如法作法」によって書写したという意味）下より、鎌倉初期のものと思われる素焼きの経甕が発見された。甕は割れており、経典類はなかった。この経塚は単独ではなく、13の経塚のうちの1つである。如法経石塔には、「如法経」以外に銘等はなく、造営時期や願主は不明であるが、南宮神社の社僧が願主であると思われる。（垂井町史編さん委員会1969、岐阜県教育委員会1998） | | | | | | |
| 遺構 | 経塚、石組、石積み | | | | | | |
| 遺物 | 如法経石塔、経甕（垂井町史編さん委員会1969）、山茶碗、古瀬戸（卸皿か・鉢か）、経筒破片（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017） | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町史編さん委員会1969『垂井町史』通史編、岐阜県不破郡垂井町役場、垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（1）』、岐阜県教育委員会1998『岐阜県文化財図録』 | | | | | | |
| 備考 | 「美濃国南宮社之図」には「高山社」の記載あり。 | | | | | | |

**調査所見**　現在の南宮大社本殿から南西 1.2 ㎞、標高差 315mの山腹には、南宮神社末社である高山神社が祀られており、その北側に経塚群が立地している。経塚群から南方 500mにわたって複数の平坦面があり、経塚群と関連する可能性がある。南北 20m×東西 20mの平坦面に南宮山頂経塚群があり、一帯に石材が散乱し一部が石組になっている。平坦面の中央より少し南の地点には自然石に「妙法経」と彫られた石塔がある。石材の散乱する平坦面の南側に隣接する南北 15m×東西 10mの平坦面に、高山神社と子安神社が並んで建っている。神社の祠は共に東向きで、境内の周りは石積みが巡らされている。経塚群・高山神社の東側に山麓から続く道があり、この道は南の山頂へと続いている。経塚群から南方 500 メートルの地点には、枡形状の虎口を伴った南北 35m×東西 25mの平坦面があり、さらに南へ行くと標高 404mの峰に関ケ原合戦の毛利秀元陣跡がある。

昭和38（1963）年に経筒の破片、常滑の外容器及び古瀬戸の片口鉢の蓋が出土している。また垂井町の遺跡詳細分布調査では、経筒の破片や古瀬戸を確認している（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。

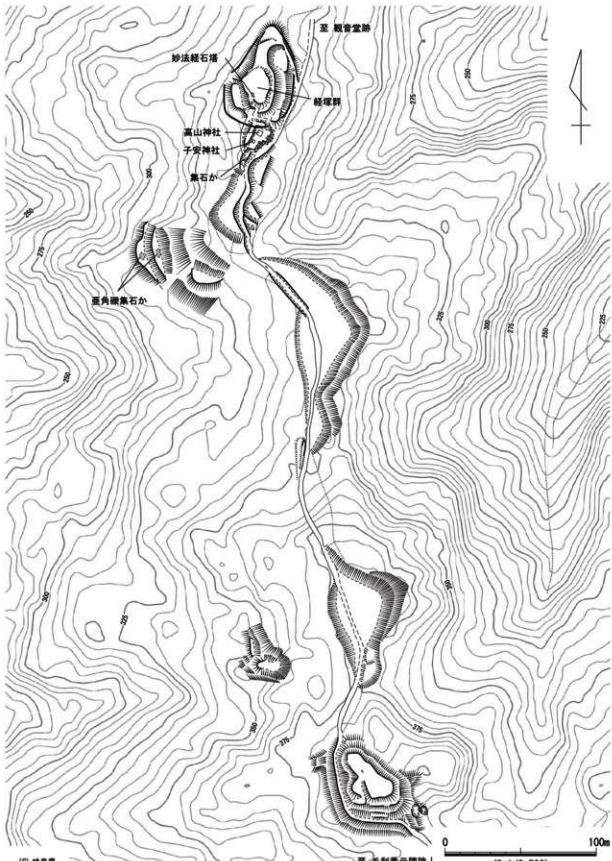



図 25　南宮山頂経塚群　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25072 | 県遺跡番号 | 21361-2039 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | なんぐうたいしゃ<br>（なんぐうじんじゃじんぐうあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町宮代 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 南宮大社（南宮神社神宮跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代～ | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 境内地（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 250m | 南北規模 | 150m | 標高（比高差） | 75（25）m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 町教委の分布調査で元山大師堂跡・弁天堂跡を確認し山茶碗片等を採取（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。金山彦神祭神の式内社で続日本後紀の承和3（836）年8月条が初出「美濃国不破郡仲山金山彦神に、従五位下を授け奉り、即ち名神に預かる」と記載。「南宮社」の初出は『今昔物語』で12世紀前半には社名成立。続日本後紀や三代実録によると承和3年～貞観15（873）年間に従五位下から正二位まで加階、律令政府から重要視される。天慶の乱後、朱雀天皇は延暦寺僧明達に命じ将門調伏の祈祷を行わせ十禅師社を造営し明達の弟子10人を置く（社僧拾坊）。その効験で勲一等に進み康平年中（1058～1065）奥州の乱の祈祷神験で正一位に加階される。承久の乱で京方に味方し幕府に社領を没収され鎌倉期初期に衰微。慶長5（1600）年関ヶ原の戦いで焼失し1642年に徳川家光が再建。神仏習合の時期等は不明、神仏分離で神宮寺は朝倉山真禅院に移転（垂井町史編さん委員会1969）。 | | | | | | |
| 遺構 | 土塁、石積み、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 灰釉陶器、山茶碗、土師器皿（中世） | | | | | | |
| 有形文化財等 | 刀剣（県指定、室町・江戸）、紅糸中白威胴丸（県指定、室町）、南宮大社神事芸能諸資料（町指定、江戸）、神輿附剣鉾3対（町指定、江戸）、太刀（銘、藤原永貞）（町指定、江戸）、不破惟益の墓（町指定、江戸） | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（1）』、垂井町史編さん委員会1969『垂井町史』通史編　岐阜県不破郡垂井町役場、垂井町1996『新修垂井町史』通史編 | | | | | | |
| 備考 | 扶桑略記に「美濃国仲山南神宮寺」と記載。宮処寺が南神宮寺の前身と推定。「南宮社」の呼び方は国府の南にあって国守が奉幣使として参詣した社に由来（垂井町史編さん委員会1969）<br>弘安期の梵鐘は、現在大垣市青野の徳勝寺に保管。南宮神社の周辺には、真禅院・知足院・十如院・利生院・円乗院などあり。聖武帝行幸の「宮處寺」と「曳常泉」の「曳常泉」は南宮大社境内社湖千海社のそばにある「如法水」。『濃飛両国通史』に「南神宮寺、不破郡宮代、南宮社神宮寺にて、聖武天皇行幸ありし、宮処寺是ならん（以下略）」また『不破郡史』に「宮処寺は思うに、南宮神社の宮寺たりし、神宮寺、即ち現在の朝倉なる真禅院の前身たりしなるべく…」とある（垂井町1996） | | | | | | |

**調査所見**　南宮山北山麓に位置し平安時代中期に現在地に移り、三重塔、本地堂、鐘楼等も同時期に建立。南宮大社の北と南を東流する谷で挟まれた範囲の北谷沿いに20～25m四方の石積の方形の区画が並ぶ。「美濃国南宮社之図」に「氏神・荒王社・東照宮・池・錬塔・胡害社・如法水」があり西から「袖神」「氏神社旧跡」「荒魂社」「東照宮」「往古本殿奉斎地」「往古宮処寺境内」「三重塔旧跡」「曳常泉旧跡」の平坦面、参道沿いに石積み、区画境に土塁あり。現南門から現南宮稲荷神社まで一直線に参道が伸び稲神社前で二つに分かれ東側の参道は観音堂跡へ続き西側の参道は薬師堂跡へ続く。

図 26　南宮大社（南宮神社神宮跡）　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25065 | 県遺跡番号 | 21361-2065 | 分布図番号 | 03 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （くりはらくじゅうくぼうあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町栗原 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （栗原九十九坊跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良・平安）・中世（鎌倉・室町） | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ、スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 460m | 南北規模 | 320m | 標高（比高差） | 160（145）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 栗原山上に、往古から「九十九坊」と称する寺があったと伝わり、象鼻山別所寺とも言う寺がありこれらが同一の寺を指すのか定かではない（安福彦七 1976）。天文 14（1545）年に書き留められた文書の写し（南北朝初期の戦火で焼失した九十九坊の再建を足利義輝に願い出たものの許されなかったため、九十九坊の管理者であった久保寺次郎衛門源時が子孫のために書き残したもの。）によると、「天台山正学院末美濃国不破郡栗原村久保寺双寺寺中百余坊騒動ヲ起ス」とあり、鎌倉初期には「久保寺双寺」と呼ばれ、100 以上の僧坊があったということになる。久保寺双寺については、建武 2（1335）年足利・新田両氏の戦いで足利勢兵火により焼失、または織田信長の兵火にかかって焼失という説がある（垂井町 1996）。垂井町教委の分布調査により山頂～東山麓の広い部分に平坦面が確認され、山頂部に集石墓による墓域、山麓まで広がる大規模な古代・中世寺院群の姿が想定される。 | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、方形土塁、中世墓 | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、古代瓦、灰釉陶器、山茶碗、古瀬戸、常滑、五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編、岐阜県不破郡垂井町役場、垂井町 1996『新修垂井町史』通史編　垂井町 1996『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（1）』安福彦七 1976『栗原山九十九坊象鼻山別所寺の歴史を尋ねて』、岐阜県文化財保護センター2020『栗原九十九坊跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 147 集 | | | | | | |
| 備考 | 山頂の五輪塔・石仏群は全山に営まれていた僧坊にあったものを明治 9（1920）年頃に集めた（垂井町史編さん委員会 1969、垂井町 1996）。<br>山頂付近は関ケ原合戦時に長宗我部盛親の陣となり、土塁で囲まれた方形区画や削平地、象鼻山に続く尾根上に堀切や土塁と思われる遺構が確認されている。（垂井町 1996） | | | | | | |

**調査所見**　本遺跡は大垣市上石津町・養老町との境に接する栗原山の中腹及び山麓に存在したと伝わる。平成 24～28 年の垂井町の分布調査で、清水寺跡を含む東山麓の広範囲で平坦面が多く確認された。平成 30 年度に当センターが清水寺跡に近接しその前身寺院の可能性がある平坦面に隣接し発掘調査を実施している。聴き取り調査で、栗原山麓遺跡の範囲にかかる字丸山に門跡（仁王門跡の礎石があったとされる）が存在したという伝承が残る。栗原山中世墓群や栗原城跡のある山頂付近から山腹にかけての範囲には、方形基壇や塚状高まりがある最も広い平坦面がある。栗棘庵跡から白山神社、御嶽神社、丸山神社のある山腹から山麓にかけての範囲では、山頂からこれらの神社等を連絡し山麓へ下る参道がある。下段の平坦面ほど古代と中世の遺物が散布する。白山神社の北側斜面にも石塔や石仏がある。清水寺跡の西山腹と北東山麓に、墓地に伴う平坦面が存在し、「リショウジ」と呼ばれる寺があったと伝わり、かつて往来できる通路が谷上方にも存在していたという。平坦面の構成配置から、山にある「上寺」と麓にある「下寺」の存在が考えられる。

図27　栗原九十九坊跡　地形観察図（１）

図28　栗原九十九坊跡　地形観察図(2)

図29　栗原九十九坊跡　地形観察図（３）

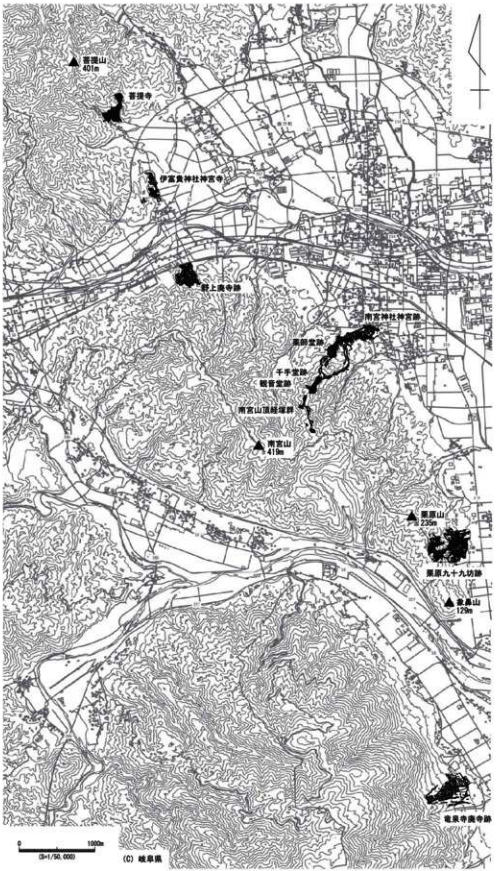



図 30　菩提山・南宮山　地形観察図位置図

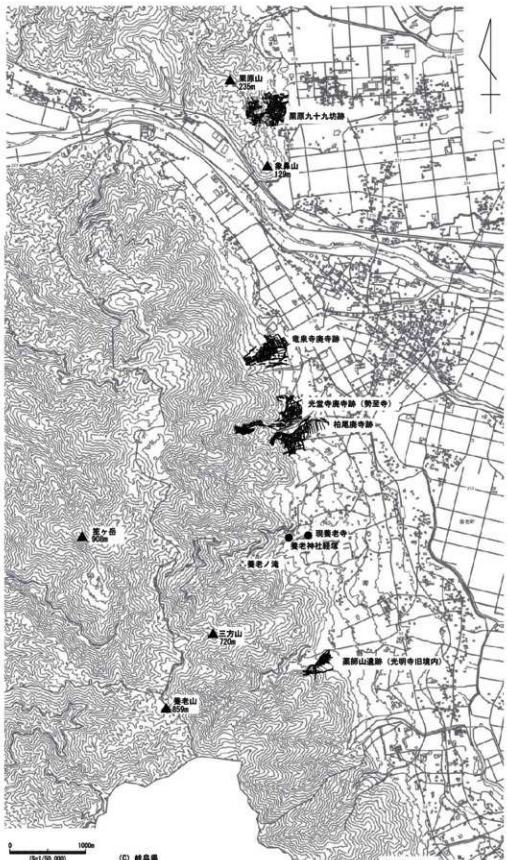



図 31　多芸七坊跡　地形観察図位置図

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25071 | 県遺跡番号 | 21361-1964<br>21361-11123 | 分布図番号 | N2 | |
| ふりがな | いぶきじんじゃおくのいん<br>（いぶきじんじゃあと、いぶきじんじゃきょうづかぐん） | | | 所在地 | 不破郡垂井町伊吹 | | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 伊富岐神社奥之院<br>（伊富岐神社跡、伊富岐神社経塚群） | | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安） | | | 宗派 | 不明 | | | |
| 立地 | 山麓～山頂 | | | 現状（植生） | 境内、山林（アカマツ） | | | |
| 東西規模 | 110m | 南北規模 | 330m | 標高（比高差） | 101.8(34)m | 平坦面分類 | A+C2+D | |
| 沿革 | 伊富岐神社は式内社であり、美濃国二ノ宮とされる。当社の史料上の初出は『日本文徳天皇実録』（平安期）で、仁寿２（852）年12月癸亥条に「美濃国伊富岐神社を以て官社に列す」とある。以降、貞観７（865）年に従四位下に、元慶元（877）年に従四位上に加階される。慶長５（1600）年の関ケ原の戦いで焼失、寛永13（1636）年に再建された。伊福氏は伊富岐神社付近の地に居住し、壬申の乱には尾張氏とともに天武天皇の御為に行宮（あんぐう）を奉仕し、更に元明天皇の和同６年(713)には伊福部君荒田（いぶきべのきみあらた）が美濃守笠朝臣麻呂とともに木曽山道を開き、その功績により荒田は田二町を賜わった。氏寺として創建した菩提寺は淳和天皇の天長５年10月、伊予の弥勒寺・肥後の浄水寺とともに定額寺に列せられた。この後その一族が伊富岐神社境内の山頂に経塚を作ったか、大正十五年本殿再建場内拡張の際にその経塚が破壊されて経筒三個と鎌倉前期の和鏡３面が出土している。伊富岐神社は伊福氏の祖神を祭り野上、伊吹両村の古き氏神で、故に野上の住環側に一の鳥居を建て、更に古図によれば現在野上の中央南墓地の付近に社寺屋敷があったようである。（不破郡教育会 1927） | | | | | | | |
| 遺構 | 経塚、池 | | | | | | | |
| 遺物 | 灰釉陶器、和鏡３面 | | | | | | | |
| 有形文化財等 | 伊富岐神社経塚遺物（町指定、平安）、伊富岐神社棟札（町指定、江戸）、伊富岐神社古絵図（町指定、江戸） | | | | | | | |
| 参考文献 | 不破郡教育会 1926『不破郡史』上巻、不破郡教育會 1927『不破郡史』下巻、垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編 | | | | | | | |
| 備考 | 不破郡史にある「伊富岐神社古図」（天平二十年の古図を慶長十三年にうつす）に「奥之院跡」あり。天然記念物伊富岐神社の大杉 | | | | | | | |

**調査所見**　伊富岐神社本殿の北 180mの位置にある谷地形に数段にわたり平坦面が残る。その中で一番広い平坦面に、石積みを伴う４m四方の段とその北に幅３m長さ 16mの土塁状の高まりがある。この平坦面には本殿の北東から参道が伸び、北にある山頂へは平坦面東尾根上に参道が続く。南東の山麓に池がある。山頂の経塚には現在も川原石を積み上げた集石が南北に長い 25m×15mの方形平坦面上に残る。この平坦面は南と東端部を削り出し、南東にテラス状の平坦面を作り出している。経塚のある南北に長い尾根上には 10m×5mほどの平坦な地形が２カ所あるが、礎石などの顕著な遺構は確認できなかった。本殿の西には湧水のある谷があり、谷向の尾根上に数段の平坦面が確認でき、尾根の南東端に島を伴う池が２カ所ある。本殿から 270m離れた地点にある北向きの谷にも数段平坦面を確認したが用途は不明である。

図 32　伊富岐神社奥之院　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25078 | 県遺跡番号 | 21361-11742 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （せきぶつだにいせき） | | | 所在地 | 不破郡垂井町平尾石仏谷 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | （石仏谷遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世 | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（アカマツ） | | |
| 東西規模 | 162m | 南北規模 | 101m | 標高（比高差） | 88（31）m | 平坦面分類 | B+D |
| 沿革 | 谷部には耕作された痕跡（水田の畦畔・石垣）が残り、大正年間に石仏谷東側に溜め池が造られた。石越付近にあったとされる平尾の旧集落は、当遺跡まで広がっていたとの伝承がある。（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017） | | | | | | |
| 遺構 | 基壇、石積み | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、灰釉陶器、山茶碗 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（1）』 | | | | | | |
| 備考 | — | | | | | | |

**調査所見**　本遺跡は、谷間の緩斜面にあり、地名の由来となった石仏である千手観音が、谷の合流地点北東の基壇上に南向きで1体祀られている。谷の合流地点南側には、谷川に沿った不定形の平坦面が広がる。谷奥部や尾根端部に扇状の小規模な平坦面があり、それらのうち、谷奥部の平坦面にのみ石積みが崩れたような集石が残る。石仏谷南側の尾根上にも、不明瞭であるが平坦面があり、そこへの参道を確認した。千手観音の西と、西側谷の尾根先端部分の2か所に湧水点を確認した。

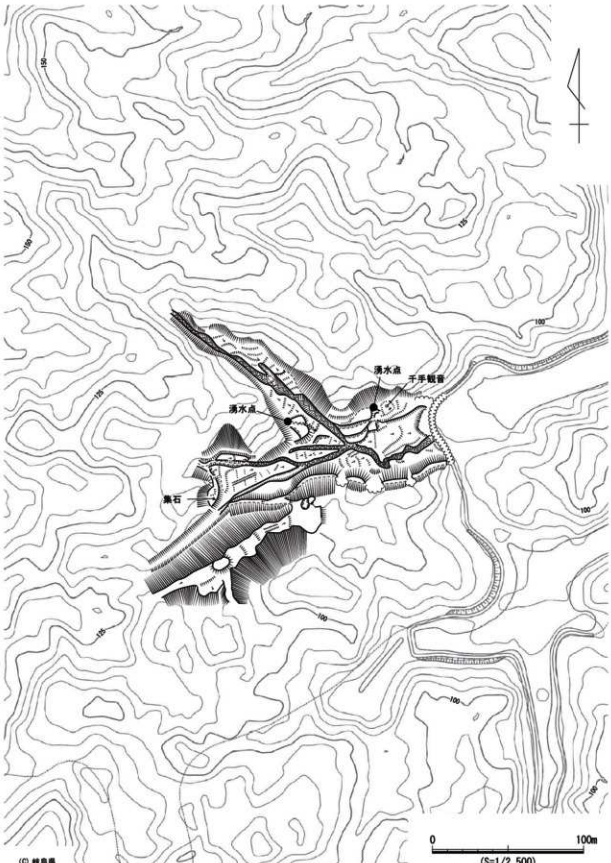
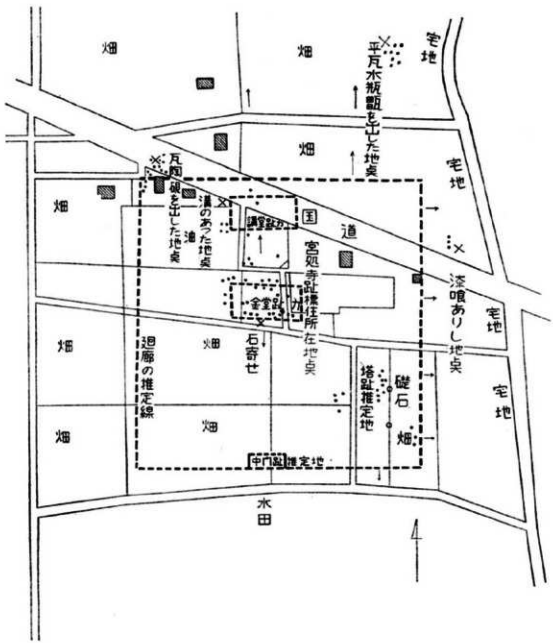



図33　石仏谷遺跡　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25002c | 県遺跡番号 | 21361-02020 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | ぞうせやまぐうしょじ（ぐうしょじあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 象瀬山宮処寺<br>（宮処寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（飛鳥・奈良） | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 台地 | | | 現状（植生） | 宅地 | | |
| 東西規模 | 約 150m | 南北規模 | 約 190m | 標高（比高差） | 42m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 朝倉山真禅院の寺伝によれば、行基開基とされ、自国の阿弥陀如来を本尊とし、象瀬山宮処寺と称したという。『続日本紀』天平 12（740）年 12 月条には、「十二月一日不破郡不破頓宮に到る。二日宮処寺及曳常泉に幸す。」とあり、宮処寺が当寺院と解釈されている（垂井町史編さん委員会 1969）。宮処寺は延暦年間の動令によって最澄により南宮神社と両部習合されて南神宮寺と改め、明治初年の神仏分離令により、堂宇が統廃合された（垂井町 1996）。 | | | | | | |
| 遺構 | 礎石、基壇、石積み | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、灰釉陶器、古代瓦 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 小川榮一 1940「宮處寺趾」『岐阜縣史蹟・名勝・天然紀念物調査報告書』第 9 輯岐阜県、垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編、岐阜県不破郡垂井町役場、土山公仁 1992「宮処寺跡」『第 9 回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集Ⅰ「古代仏教東へ―寺と窯」・寺院』、東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会、土山公仁 1997「14 宮処寺跡」『第 42 回埋蔵文化財研究集会　古代寺院の出現とその背景』埋蔵文化財研究集会第 42 回研究集会実行委員会、垂井町教育委員会タルイピアセンター 2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（1）』 | | | | | | |
| 備考 | 西側の御所野遺跡では須恵器・灰釉陶器、東側の神明屋遺跡では須恵器・灰釉陶器・古代瓦が確認され、当遺跡と関連する可能性がある（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。<br>出土した瓦から 7 世紀後半に創建された、美濃地域最古の寺院と位置付けられている。 | | | | | | |

**遺構の概要**　地形の状況や遺物の分布範囲などから、伽藍は 1 町 3 段あるいは 2 町歩以上の面積に広がると想定されている。大理石の礎石、基壇状の高まり、石積み、漆喰の出土状況から塔・金堂・講堂・中門・回廊の位置が推測され、また伽藍地の北東部（「平瓦水瓶甑を出土した地点」）には僧坊が想定されている。（小川 1940、垂井町史編さん委員会 1969）。

**遺物の概要**　出土した瓦には、単弁八弁蓮華文軒丸瓦、複弁八弁蓮華文軒丸瓦、複弁六弁蓮華文軒丸瓦、単弁十二弁蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦があり（土山 1992）、単弁八弁蓮華文軒丸瓦は宮代廃寺跡出土と、唐草文縁複弁蓮華文軒丸瓦は不破関出土と各々同笵である（土山 1997）。遺物分布調査では、古代瓦の分布は小川氏が想定した範囲に収まることが確認された（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。




・は瓦の散布地点
↑は土地の傾斜する方向

縮尺不同

垂井町史編さん委員会1969を改変

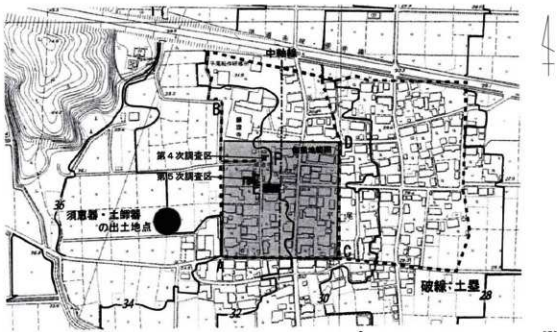
図34　宮処寺跡　遺構図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25057 | 県遺跡番号 | 21361-02000 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （みのこくぶんにじあと、みのこくぶんにじあとすいていち） | | | 所在地 | 不破郡垂井町平尾 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （美濃国分尼寺跡、美濃国分尼寺跡推定地） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（奈良・平安） | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 扇状地 | | | 現状（植生） | 墳内地・宅地等 | | |
| 東西規模 | 約 210m | 南北規模 | 約 210m | 標高（比高差） | 32m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 天平 13（741）年、聖武天皇の発願により創建されたが、寺院の沿革は不明である。 | | | | | | |
| 遺構 | 基壇を伴う建物、掘立柱建物跡、土塁、溝、土坑 | | | | | | |
| 遺物 | 須恵器、灰釉陶器、土師器、古代瓦 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編岐阜県不破郡垂井町役場、土山公仁 1992「美濃国分尼寺跡」『第９回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集Ⅰ「古代仏教東へ―寺と窯」・寺院』東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会、高田康成 2004「美濃国分尼寺の研究　その伽藍地の範囲について」『「かにかくに」八賀晋先生先生古稀記念論文集』三星出版、垂井町教育委員会 2010『美濃国分尼寺跡発掘調査報告』、垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』 | | | | | | |
| 備考 | 当寺院の推定地としては、ほかに本巣郡定額尼寺や垂井町の宮処寺がある（垂井町史編さん委員会 1969）。平成 17～20 年度に、垂井町教育員会が範囲確認調査を実施した。 | | | | | | |

**遺構の概要**　範囲確認調査により、基壇を伴う建物１棟（SB4101）、掘立柱建物跡（SB5101）、土塁、溝（SD4102 他）、土坑、中世以降の遺構が確認された。SB4101（東西 11m以上、南北 3.5m以上）は、掘込地業を伴う基壇（高さ 0.85m）の上に建立された瓦葺建物で、出土した瓦が美濃国分寺と同型であるため尼寺に関係するものと考えられている。SD4102 は石列南側が基壇外装の最下段とし石列北側が犬走りとみるか、異なる時期の基壇外装とみるかの２通りの解釈が提示されている。SB5101 は SB4101 の北側に位置し、南北軸の方位はＮ－５°－W、桁行２間以上・梁間２間以上（６m以上×5.4m以上）である。柱穴出土遺物から９世紀以降の建物とされている。現・願證寺周辺の土塁は、中世末の居館又は寺内町のもの（土山 1992）あるいは願證寺に伴うもの（高田 2004）と指摘されている。

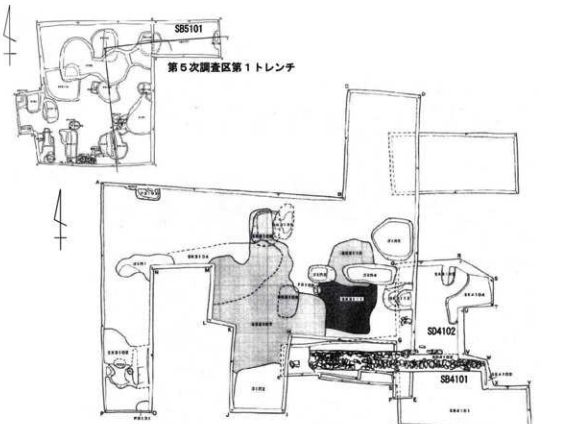
調査の結果、当遺跡が美濃国分尼寺跡の推定地として有力となった。SB4101（図 35 上－Ｆ付近）については講堂又は金堂、SB5101（図 35 上－Ｆ付近）は尼房の可能性が指摘され、伽藍地は 500 尺四方に近い規模でありその周辺に寺地が広がると推測されている（高田 2004）。

**遺物の概要**　８世紀中頃から９世紀末にかけての須恵器、灰釉陶器、土師器、瓦、戦国期以降の遺物が出土した。美濃国分寺跡創建期と同笵の単弁十六葉蓮華文軒丸瓦も確認されている。




高田2004に加筆

図35　美濃国分尼寺跡　遺跡位置図




垂井町教育委員会タルイピアセンター
2017を改変

図36　美濃国分尼寺跡　遺構図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 25060 | 県遺跡番号 | 21361-02047 | 分布図番号 | N3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （みやしろはいじあと） | | | 所在地 | 不破郡垂井町 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （宮代廃寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安） | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 台地 | | | 現状（植生） | 境内地・宅地等 | | |
| 東西規模 | 約 230m | 南北規模 | 約 110m | 標高（比高差） | 33m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 現・藤樹寺の周辺に所在する。沿革は不明である。 | | | | | | |
| 遺構 | 塔跡（瓦積み基壇・塔心礎・階段・雨落溝）、築地跡 | | | | | | |
| 遺物 | 古代瓦 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 岐阜県教育委員会 1971『岐阜県文化財調査報告書』第 14 巻、垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編岐阜県不破郡垂井町役場、垂井町教育委員会 1973『史跡宮代廃寺跡発掘調査報告』、土山公仁 1992「宮代廃寺」『第９回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集Ⅰ「古代仏教東へ―寺と窯」・寺院』東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会、垂井町教育委員会タルイピアセンター2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書（１）』 | | | | | | |
| 備考 | 昭和 42・47 年に、道路拡幅工事等に伴い垂井町教育委員会が発掘調査を実施した。<br>当寺院は宮勝氏の氏寺として建立されたと考えられている（垂井町史編さん委員会 1969）。<br>当寺院は白鳳期初期（７世紀末）に創建され平安時代初期まで存続していたと考えられており、寺域は約 150m四方と推定されていたが、遺物分布調査では寺域の東側にも古代瓦が分布することが確認された（垂井町教育委員会タルイピアセンター2017）。 | | | | | | |

**遺構の概要**　部分的な発掘調査ではあったが、塔基壇の規模と構造が明らかにされている。基壇は瓦積み基壇で、旧地表面に直接瓦を置いて基底部とし、その上に半截した瓦を積み上げたものである。基壇の中軸線はＮ－２°－Ｗ、規模 12m四方・高さ 1.2mと推測されているが、基壇北面の幅が狭く基壇全体の平面形は整っていない。基壇上に花崗岩製の塔心礎（2.4×1.6m）が露出し、塔心礎の上面には円形の柱座（直径 0.65m）が穿たれている。また、基壇北辺では基壇端部から約 0.8m外に雨落溝の可能性がある溝、東辺では階段跡の一部を検出し、築地状の高まりは北面築地跡（南北幅３m）であることが明確になった。

**遺物の概要**　出土した瓦には、単弁蓮華文軒丸瓦、単弁八弁蓮華文軒丸瓦、複弁蓮華文軒丸瓦、細弁十六弁蓮華文軒丸瓦、単弁十二弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦、均整唐草文軒平瓦がある（土屋 1992）。白鳳期初期から平安時代初期にかけての時期幅があるが、基壇基底部から出土した瓦から、塔は奈良時代末以降に再建されたと推測されている。なお、階段跡から開元通宝１枚が出土した。

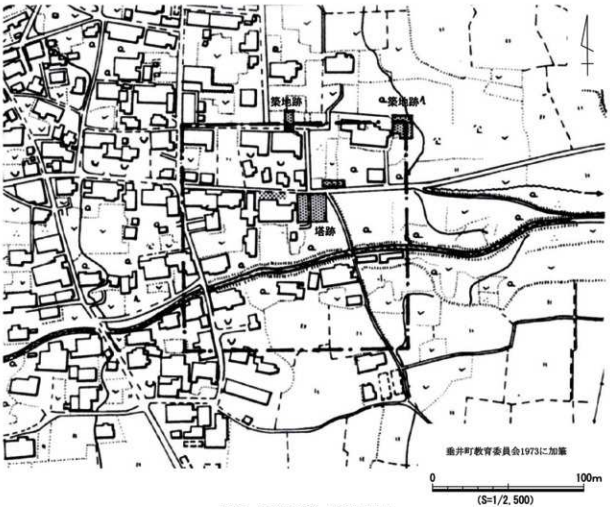



図37　宮代廃寺跡　遺跡位置図

図38　宮代廃寺跡　塔跡遺構図

## ［関ケ原町］

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26025 | 県遺跡番号 | ― | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | きょうちざんぎょくよういんるりこうじ | | | 所在地 | 不破郡関ケ原町玉字堂之前 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 鏡智山玉養院瑠璃光寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 中世・近世 | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 45m | 南北規模 | 30m | 標高（比高差） | 179（10）m | 平坦面分類 | A+D |
| 沿革 | 成立時期不明。元禄５（1692）年の住持由篤の奉行所宛届け出によると、近江国弥高護国寺を本寺とし、鏡智山玉養院瑠璃光寺と称するとある。遷宮前の五社明神の奥（字堂ノ前か）に存在し、玉村の城主奥平越前守の祈祷所として栄えたが、落城後衰退し、元禄の頃は堂と庫裡を残すのみとなった。元文５（1740）年の玉八幡社棟札に遷宮導師として現れ、明治４（1871）年の「美濃国不破郡玉村差出明細帳」には記録が残るため、廃絶はそれ以降と考えられる。（関ケ原町 1993） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、基壇、池 | | | | | | |
| 遺物 | 土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、陶器、五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 関ケ原町 1993『関ケ原町史』通史編別巻 | | | | | | |
| 備考 | 堂ノ前遺跡（21362-1530）縄文時代散布地で登録範囲内にある。昭和 57（1982）年及び平成 22（2010）年に関ケ原町が当該地及び周辺地域において分布調査を実施 | | | | | | |

**調査所見**　玉堂之前の小丘陵（標高 190m）中腹にある。玉養院瑠璃光寺は、元禄５（1692）年に記録が残るのみであるが、町史には「玉村城主の祈祷所」とある。寺跡の約 400m南の城山にある玉村城は南北朝の築城と推定されているため、玉養院の創建が中世である可能性が考えられる。玉養院の位置は不明であったが、昭和 57 年の町分布調査では当該地の丘陵上で五輪塔を確認しているため、現地確認を行ったところ、基壇状の高まりや石積み、石段、石囲いの池などを確認した。町分布調査では「神社跡」としているが、基壇状の高まりは、町史に記された玉養院の堂跡の大きさとほぼ同じで、方形状に切り出し土塁状に囲まれた平坦面に基壇状の高まりが残る。石積の間を降りた下段、さらに石段を下りた下段も平坦面であり、石囲いの小池（井戸か）が残り、下方からの通路も残存する。小規模な建物が存在した社寺跡と思われ、南西脇の平坦面には、五輪塔（水輪 36・火輪 18・風空輪８）や石仏３体が置かれている。町史では、玉養院は「遷宮前の五社明神の奥に存在」「元禄の頃は堂（2.5×３間）と庫裡（３×５間）を残す」とある。五社明神は字堂之前に存在したとされ、この社寺跡が玉養院又は五社明神であった可能性が考えられる。当該丘陵の西半分は調査後の開発により削平され、五輪塔はその際に移設した可能性もある。五社明神は大正２（1913）年に字上羅の玉神社に合併・移転しており、玉養院と共に江戸前期に存在の記録が残るものの創建年代は不明である。また、町の分布調査では、丘陵内やその周辺、丘陵北側の水田地帯などにおいて、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、土師器、陶磁器などを採集しており、幅広い時期の複合遺跡が存在する可能性があると推定されている。

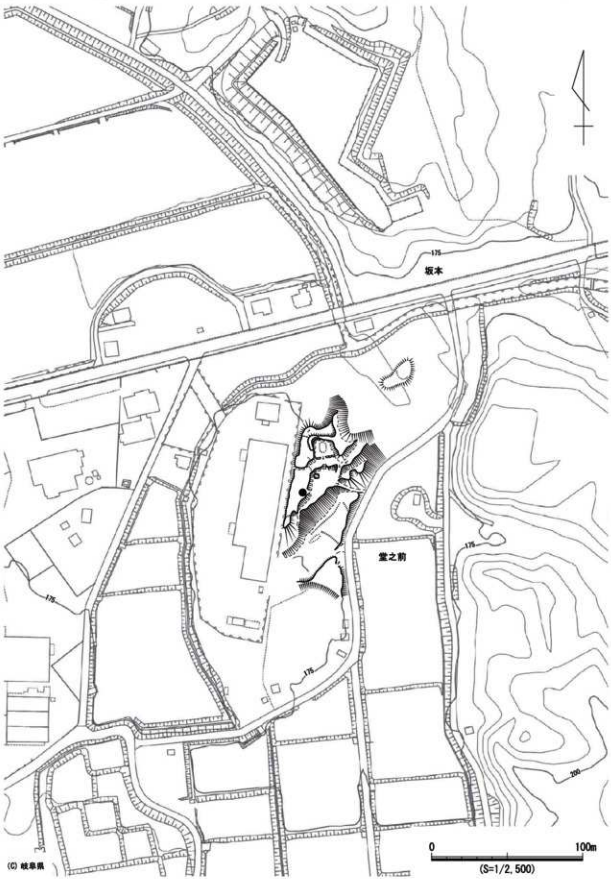



図 39　鏡智山玉養院瑠璃光寺　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26027 | 県遺跡番号 | ― | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | みつぞういん | | | 所在地 | 不破郡関ケ原町松尾字西松尾・細尾 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 密蔵院 | | | | | | |
| 時代区分 | 中世（室町）・近世 | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山腹 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 30m | 南北規模 | 30m | 標高（比高差） | 130（20）m | 平坦面分類 | B+D |
| 沿革 | 成立時期は不明だが、松尾の井上神社の天文５（1536）年の棟札に「密蔵院」の名がある。また、天保９（1838）年の「村差出明細書上帳」には江州坂田郡上野村悉地院末寺と記載されている。天保～文久頃（19 世紀中頃）の「竹中図書助領分関ケ原宿より今須宿まで間之村々絵図」（関ケ原町 1988）にも松尾山山麓に表示がある。天保７（1836）年には「松尾村密蔵院大石除去方願書」を密蔵院名で願い出ている。文久元（1861）年の「家数人別書上帳」（関ケ原町 1984）に「自性院無住」とあるのに対し密蔵院には無住の付記がないことから、無住ではないと思われるものの、他に史料はなく存続時期は不明。ただし、明治 11（1878）年の「廃寺名簿」（岐阜県郷土資料研究協議会 2006）には廃寺として記載されている。（関ケ原町 1993） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、基壇、土塁、溝、池、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 土師器、陶磁器、瓦質土器、瓦片、五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 関ケ原町 1993『関ケ原町史』通史編別巻　関ケ原町 1984『関ケ原町史』史料編一、関ケ原町 1988『関ケ原町史』史料編二、岐阜県郷土資料研究協議会 2006『廃寺名簿（明治十一年七月抄録）』 | | | | | | |
| 備考 | 「密蔵院跡」と銘記の五輪塔が記載されている（関ケ原町 1993）が場所は不明。町の分布調査（2010）では松尾山麓で中・近世の五輪塔などを確認しており、「松尾山麓廃寺跡」と仮称。 | | | | | | |

**調査所見**　松尾山（標高 293m）の北側山麓に位置する廃寺跡で、貞享３（1686）年の松尾村絵図面によると、松尾山の麓に「密蔵院」と「自性院」の２つの寺が描かれ『関ケ原町史』には 26018 自性院は江戸期に記録が残るが成立時期不明、密蔵院は室町時代成立とされる。平成 22（2010）年の関ケ原町の分布調査では、小早川秀秋陣跡に向かう松尾山登山道入口から 250m程西に入った場所に廃寺跡を確認しており、密蔵院・自性院のどちらかであると推定されている。現地確認調査を行ったところ、石積みを伴う平坦面群や参道、五輪塔などを確認した。神社付近には、池と参道沿いに石積みが残る平坦面があり、基壇の石積みや中・近世と思われる五輪塔部材などを確認した。背後の山の山腹には金刀比羅神社があり、山頂には近世の墓碑や石龕に納められた中世の一石五輪塔（笏谷石製）などを含む墓地が残る。神社より北東にも土塁や溝で囲まれた区画があり、南西には「法華堂」の字名が残る。「密蔵院」と「自性院」の関連は確認できず、図化範囲の一部が「自性院」跡である可能性も考えられる。また、26011 法忍寺も室町中期に松尾山麓に寺院を成立したようである。

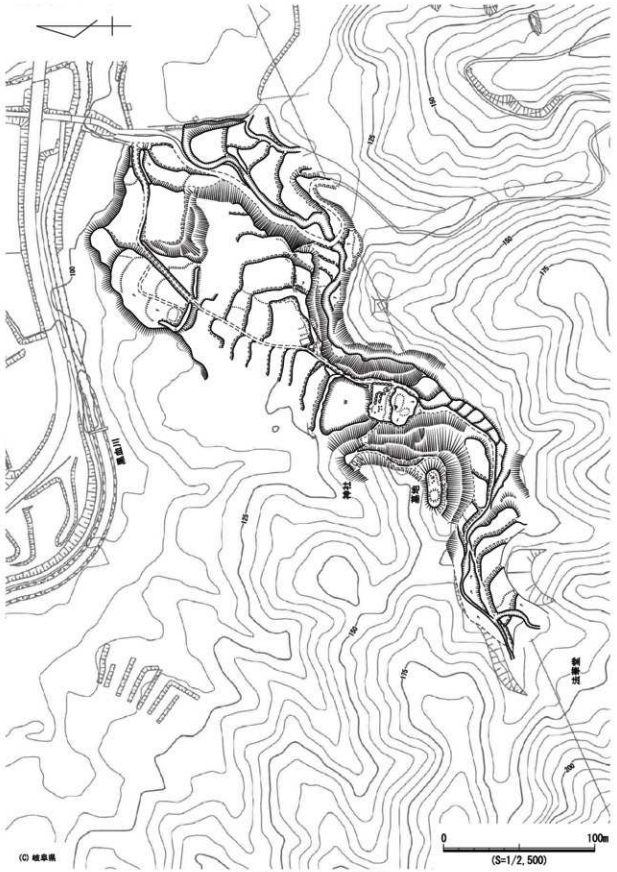



図 40　密蔵院　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26033 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | しょうえいさんしょうこうじ（しょうこうじあと） | | | 所在地 | 不破郡関ケ原町今須字谷山 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 長英山宝蔵院照光寺<br>（照光寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 中世・近世 | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 120m | 南北規模 | 60m | 標高（比高差） | 195（46）m | 平坦面分類 | Ⅱ+D |
| 沿革 | 宝暦２（1752）年の「今度寺院号願書留書」（町歴史民俗資料館蔵）では、「天正年中大鐘房開基凡当年迄百七十九年」とあり、天正年間（1573～1592）に大鐘房による開基と思われる。無住の期間が長く、木田喜兵衛が世話人であったようで「古暦雑記」（若山氏蔵）の谷山寺と同一の可能性も考えられる。「山寺院号願一件留書」（町歴史民俗資料館蔵）では、同じ甘露王寺末寺の薬師寺・今寺とともに宗門改帳に僧号のみの記載で、山寺院号の記載を元禄５（1692）～安永６（1777）年に渡り願い出ている旨が記載されている。明治８（1875）年の「不破郡今須村廃寺境内並控地原由取調帳」（町歴史民俗資料館蔵）では廃寺として記録されている。（関ケ原町 1993） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、基壇、溝 | | | | | | |
| 遺物 | 土師器、陶磁器、瓦質土器、砥石、一石五輪塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 「今度寺院号願書留書」「不破郡今須村廃寺境内並控地原由取調帳」 | | | | | | |
| 参考文献 | 関ケ原町 1993『関ケ原町史』通史編別巻 | | | | | | |
| 備考 | 町の分布調査 H22（2010）年で江戸時代の五輪塔、陶器・磁器片など 300 点を確認。 | | | | | | |

**調査所見**　本堂跡と思われる平坦面に基壇、石積み、区画溝などが残り、本堂の北西谷部に墓域がある。町の分布調査では山茶碗と江戸時代以降の遺物が多量に出土し、「天正年中大鐘房開基」の史料、「慶長」銘の墓石があることから安土桃山時代の成立で江戸時代まで続いたと推定する。谷山川沿いと、川の対岸にも平坦面がある。本堂跡の東の平坦面群近辺は「本屋敷」と呼ばれていたとのことである。26031 薬師寺は、草創期である室町中期には字谷山に存在したとされ、その所在地が今回の調査範囲に含まれている可能性も考えられる。また、「古暦雑記」に記された「谷山寺」が「照光寺」とは別の寺であり、それがこの近辺に存在した可能性も考えられるが、いずれも特定はできていない。

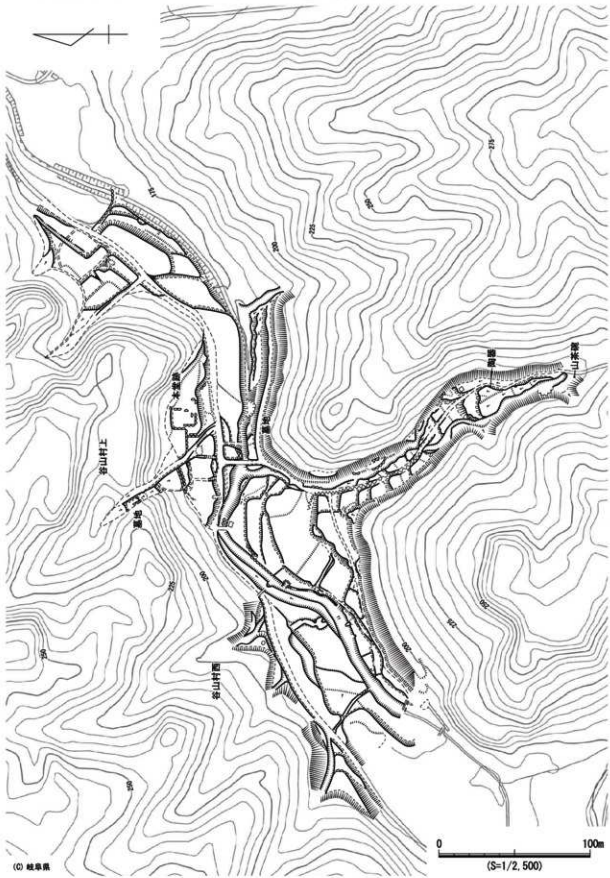



図 41　長英山宝蔵院照光寺（照光寺跡）　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26036 | 県遺跡番号 | ― | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | しょうくうざんれんじょういんそほうじ | | | 所在地 | 関ケ原町今須宇祖父谷・口足谷 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 照空山蓮浄院祖宝寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 中世（室町）・近世 | | | 宗派 | 真言宗 | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 70m | 南北規模 | 180m | 標高（比高差） | 167（14）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 「古暦雑記」（岩山氏蔵）では、永正９（1512）年に江州弥高寺が兵火にかかり、一部の坊が長久寺に落ち、さらに祖父谷に移ったと記載されている。その後坊舎が発展し「祖父谷十五坊」と称され、延宝２（1674）年にはそれぞれ田畑・屋敷を有する（関ケ原町 1984「今須検地帳」）。その後坊跡ばかりになったが、元禄６（1693）年には寺の再建許可を得ている〔「拾十五坊一件手形之事」（町歴史民俗資料館蔵）〕。18･19 世紀には本寺ともめ事を重ね、宗門改等に山寺院号が書かれないこともあったが、経済講など布施以外の収入も多く、資力は豊かであったようである（弥高寺文書など）。（関ケ原町 1993）明治３（1870）年には近江密蔵院弟子盛俊が入寺した瀧本坊以外は無住で〔「今須村社寺戸籍」（町歴史民俗資料館蔵）〕明治 11（1878）年の「廃寺名簿」（岐阜県郷土資料研究協議会 2006）では瀧本坊も含めすべて廃寺となっている。 | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、墓壇、礎石 | | | | | | |
| 遺物 | 陶磁器、瓦質土器片、瓦片、石製品、五輪塔、一石五輪塔、宝篋印塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | ― | | | | | | |
| 参考文献 | 関ケ原町 1993『関ケ原町史』通史編別巻　関ケ原町 1984『関ケ原町史』史料編一、岐阜県郷土資料研究協議会 2006『廃寺名簿〔明治十一年七月抄録〕』 | | | | | | |
| 備考 | 関ケ原町の分布調査で 200 点以上の江戸時代以降の陶磁器片等が出土 | | | | | | |

**調査所見**　祖父谷川の東岸には、石積みが伴う南北方向に長い平坦面が広範囲に広がる。本堂跡近くには社があり、石積みの階段や池と思われる窪みもある。室町～江戸時代に存在した廃寺跡と思われる。本堂跡の背後には、現在も祠が残る平坦面、さらにその上方にも平坦面が山腹に残る。最上の平坦面は近・現代の貯水槽となっているが、石積みを伴う平坦面は以前からのものを利用したと思われる。本堂跡の北には、五輪塔が集積されていた墓地周辺に平坦面群があり、墓域と坊院である可能性が考えられる。祖父側の対岸にも平坦面群が北と南の２か所にある。石積みを伴う参道に沿う入口・石積みを伴う平坦面群が連続する。対岸北の平坦面群では室町から江戸時代の石塔群、礎石を確認した。

図 42　照空山蓮浄院祖宝寺　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26040 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | のがみはいじあと | | | 所在地 | 不破郡関ケ原町野上字堂ヶ谷・南方 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 野上廃寺跡 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代・中世・近世 | | | 宗派 | 天台宗か | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 山林・墓地・畑地<br>（スギ・ヒノキ、アカマツ） | | |
| 東西規模 | 100m | 南北規模 | 50m | 標高（比高差） | 127（37）m | 平坦面分類 | A+C+D |
| 沿革 | 野上行宮跡（推定地）の北側の墓地（参道入口）及び西側山中に五輪塔や宝篋印塔、基壇状の高まりを含む平坦面が確認されている。延喜年間（901～923）に比叡山無動寺の相応和尚が南方六坊を建て、弟子６人を置いたという（奈良時代に行基が行ったとの伝承もあり）地元の伝承が残り、その廃寺跡の可能性が考えられる。なお、野上行宮跡（推定地）は、壬申の乱の際に、大海人皇子（天武天皇）が吉野宮からこの地に来て尾治宿祢大隅の私邸を掃き清めて行宮としたといわれているが、その場所は明らかではなく、桃配山（関ケ原合戦の際には徳川家康陣地）に行宮があったという説もある。<br>（関ケ原町 1990・1993） | | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、基壇、礎石、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、土師質土器、陶磁器、瓦質土器、近世陶器、瓦、砥石、宝篋印塔、五輪塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | 関ケ原町 1990『関ケ原町史』通史編上巻、関ケ原町 1993『関ケ原町史』通史編別巻 | | | | | | |
| 備考 | 関ヶ原町の分布調査（2010）で、北側墓地周辺や西側山中などで遺物を採集。<br>地元での聴き取りで、「南方六坊の一つで最後に残った観音寺で、班女伝説の残る池もある」とのこと。班女の伝説（平安期、当地に来た中将と契りを結んだ遊女が、その間に生まれ亡くなった子供のため狂気のごとく踊り観音に念じ続けた。池は「班女の化粧水」とされる）が残る観音堂は、明治12(1879)年に26012 真念寺境内に遷されたとの記録がある。真念寺は享保元(1716)年に現在地に建替えており移転前の位置は不明。野上地内で所在地不明の 26014 龍泉寺などの可能性も考えられる。 | | | | | | | |

**調査所見**　北東向きの緩斜面奥に基壇が残り、本堂跡の可能性が考えられる。この緩斜面には本堂跡以外に南脇に池のような窪地、本堂跡に続く参道と参道両側に平坦面がある。緩斜面は３方を山に囲われ、伊吹おろしが直接当たらず冬でも暖かい。基壇周辺には近代の瓦が散乱し最近までお堂があった可能性がある。関ケ原町の分布調査では、平坦面群において灰釉陶器、中世土器片、近世陶磁器が確認されている。字名は「堂ヶ谷」で、北麓墓地に集積されている石塔類は、山中に存在したもので室町～江戸時代のものである。堂谷川沿い北麓や、本堂跡東の山麓にも石積みを伴う平坦面群が存在し、最南は池の脇に一段高い平坦面が存在する。これらは本堂跡とは方向が異なるため時期差がある可能性も考えられる。北方の現在真念寺があるあたりに「大門」の字名がある。東の平木川沿いにも石積みを伴う平坦面群が存在するが畑地のため詳細は不明である。

図 43　野上廃寺跡　地形観察図

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 26041 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | N2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （どうまえいせき） | | | 所在地 | 不破郡関ケ原町今須字堂前・大河内 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | （堂前遺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 不明 | | | 宗派 | 不明 | | |
| 立地 | 山麓 | | | 現状（植生） | 山林（スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 70m | 南北規模 | 90m | 標高（比高差） | 282（46）m | 平坦面分類 | B＋D |
| 沿革 | 史料無し。 | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、参道 | | | | | | |
| 遺物 | 中近世陶磁器、五輪塔、一石五輪塔、石仏（小形板碑） | | | | | | |
| 有形文化財等 | — | | | | | | |
| 参考文献 | — | | | | | | |
| 備考 | 平成 22（2010）年に関ケ原町が分布調査を実施し、室町～江戸時代前期の五輪塔・石仏を多数確認。仮称「堂前遺跡」。地元での聞き取りで祠は「観音堂」と呼ばれている。 | | | | | | |

**調査所見**　字名「堂前」に祠がありその周辺に石塔が集められている。字名からこの地に寺院跡があったことが推定され、祠に集められた石塔（一石五輪塔約 20 基、石仏３体、五輪塔・宝篋印塔部材 50 点以上）から墓域がそばにあったと考える。字名「堂前」の今須川西対岸にも、石積みを伴う平坦面、石積みを伴う参道、墓石が残る。五輪塔や石仏は室町から江戸時代のもので、中世陶器片などが採集されている。若宮八幡宮そばの祠にも小形板碑の石仏２体があり、２つの祠周辺が現在でも信仰の対象として参拝・整備されている。

図 44　堂前遺跡　地形観察図

## ［神戸町］

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 27034 | 県遺跡番号 | 21381−7052<br>21381−2282 | 分布図番号 | M3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | （ほんじどうあと、ひよしじんじゃはちぼうあと） | | | 所在地 | 安八郡神戸町神戸 | | |
| （史跡・遺跡名） | （本地堂跡、日吉神社八坊跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安）～ | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 低地 | | | 現状（植生） | 墳内地 | | |
| 東西規模 | 110m | 南北規模 | 270m | 標高（比高差） | 16（2）m | 平坦面分類 | — |
| 沿革 | 墳内の三重塔跡と共に日吉神社内に本地堂跡を物語る史跡。この堂は明治５年頃まであり、神仏分離令が出された本地堂は廃寺となり取り壊すに至る。塔は天正 13 年（1585）稲葉一鉄修造の棟札が善学院に遺るが約 70 年前に斉藤伊豆守利綱が建立。室町時代様式の塔は天正の修造を経て貞享年間に大修理実施。文部省が解体修理時に礎石の位置を調べ今の塔以前の塔発見。八坊は日吉神社参道両側で東西約 30m、南北約 130mの範囲に東西各四坊ずつ。西側は南から福泉坊（一反一歩）常落坊（八畝十五歩）蓮華院（一反三畝三歩）十輪院（不明）。東側は南より法光坊（一反二畝五歩）中ノ坊（八畝七歩）十光坊（一反二畝十五歩）浄法坊（不明）と並。現日吉神社社務所は中ノ坊と十光坊の中間に位置。蓮華院が奥行６間、間口４間、その他奥行５間、間口３間。正保２年（1645 年）二坊（十輪院と浄法坊）廃止で跡を六坊に配分記録。（石原文書）惣門の西側に南より常楽坊、蓮華院、法光坊、東側に南より中ノ坊、十光坊、福泉坊と左右三坊ずつ六坊相対並。明治維新前に五坊荒廃、蓮華院が残り廃仏毀釈時になくなる。（神戸町教育委員会 1993）天正検地では八坊あり「安八郡神戸村寺社領御除地書上帳」には福泉坊・蓮華院・法光坊・常楽坊・十光坊・中之坊・浄法坊・十輪院の八坊あり。（神戸町 1980） | | | | | | |
| 遺構 | 本地堂跡、八坊跡、三重塔（国指定重文） | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 日吉神社八坊跡（町指定重文）、日吉神社三重塔（国指定重文、室町）、十一面観音菩薩像・地蔵菩薩像・石造狛犬（国指定重文）、日吉神社本殿（県指定重文、江戸）、三重塔婆（国指定重文、室町）日吉神社蔵　室町時代の様式、本地堂跡（町指定重文）、木造十一面観音菩薩像（国指定重文、平安）日吉神社蔵、木造地蔵菩薩座像（国指定重文、鎌倉）、大日如来像（町指定重文　日吉神社蔵）（神戸町教育委員会 1993、神戸町 1980）安八郡神戸村寺社領御除地書上帳（元禄 11 年（1698））、日吉社由緒録写。 | | | | | | |
| 参考文献 | 神戸町教育委員会 1993『神戸町の文化財』、神戸町 1980『郷土の歴史ごうど』 | | | | | | |
| 備考 | 比叡山延暦寺の荘園として栄えてきた神戸町は、日吉神社を中心に貴重な文化財が数多く残る。<br>27001 密厳寺（勧学院）、27002 神護寺（善学院）に関連する。 | | | | | | |

**調査所見**　池田山東の揖斐川右岸に広がる低地上にあり、西に養老線が南北に走る。平安期創建の神宮寺で北は日吉神社境内、南は鳥居までの参道両側に八坊跡がある。現地表面では遺構が確認できないため地籍図で検討。昭和初期の公図字上ノ宮と日吉新宮境内図から推定すると鳥居までの参道両側に坊院あり。公図の参道西は坊院の規模がほぼ等間隔で位置特定するが、参道東は細かい区画があり坊院の位置不明。字上ノ宮東は字井田で更に東に字川田が北東方向に伸びる。字上ノ宮以東は川と水田で、西に字高塚、南に馬場町が参道の東西に広がる。参道から高塚の方角にＬ字に曲がる街道がある。

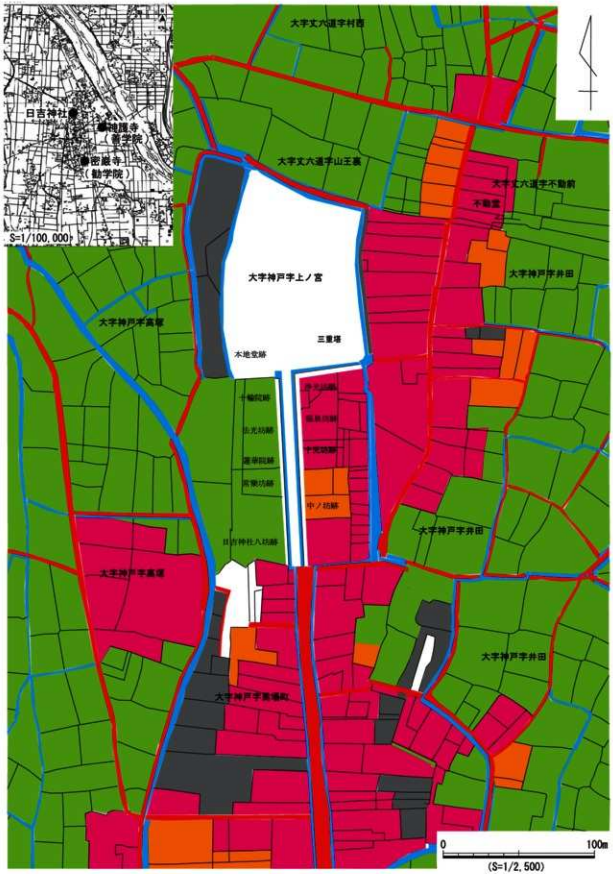



図 45　本地堂跡・日吉神社八坊跡　地籍図

［揖斐川町］

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 30001、30001b | 県遺跡番号 | 21401-1094 | 分布図番号 | L3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | よこくらじきゅういけいだい（きゅうよこくらじあと） | | | 所在地 | 揖斐郡揖斐川町谷汲神原字坂本 | | |
| 寺院名（史跡・遺跡名） | 横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡） | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安）～ | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山麓（山腹） | | | 現状（植生） | 山林（コナラ、スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 230m | 南北規模 | 150m | 標高（比高差） | 450（273）m | 平坦面分類 | A+D |
| 沿革 | 延暦 22（803）年、最澄が山の持ち主であった藤原助元とともに、現本堂から谷を隔てた山の頂上近くに草堂を建て、薬師如来を祀ったことに始まる。本堂は天長 5（828）年に 4 世澄円の時に建立。19 世慶山の時、村上天皇からの勅許で開始された会式・無差会により広く民衆が集まるようになったが、保元元（1156）年、45 世唯蔵の時に源平の争乱によって無差会が中絶された。天文年間（1532～1555）までは七堂伽藍と一千貫の寺領（小津・揖原・津汲・横山・神原・乙原の 38 坊）を有したが、将軍足利義晴の時にその半分を没収されて 12 坊となる。永禄 8（1565）年に織田信長が寺領を没収したため伽藍が荒廃し、寛永元（1624）年に舜祐によって古堂の閉鎖と山麓への仮堂設置が行われる。寛永 14（1640）年の二月門前の大災により過半が焼失、正保 3（1646）年に定祐が現在の場所に境内を設ける。（谷汲村 1977、揖斐川町 1971、揖斐郡教育會 1924、岐阜県 1971） | | | | | | |
| 遺構 | 礎石建物跡、集石遺構、石積み、本堂跡、推定塔跡、講堂跡、仁王門跡、池、墓域、馬場 | | | | | | |
| 遺物 | 陶磁器、五輪塔（部材 350 点）、宝篋印塔（平安末～鎌倉初期：武将熊谷直実の墓）、一石五輪塔 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 金銅造薬師如来像（貞元 21（802）年）、板彫法華曼荼羅（平安）・木造深沙大将像（平安）・木造大日如来像（平安末）・十二神将像（平安末～鎌倉初）・木造薬師如来像［現本尊］（鎌倉中）・四天王像（鎌倉後）・木造金剛力士像（国指定、鎌倉）、両界曼荼羅図（室町）、伝教大師像（室町）、本堂・三重塔・仁王門（県指定、中世・江戸）「美濃国両界山横倉寺縁起」「横蔵寺歴世恩高録」「横蔵寺常念仏縁起」「古玉実録集」 | | | | | | |
| 参考文献 | 谷汲村 1977『谷汲村史』、揖斐川町 1971『揖斐川町史』通史編、揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』、岐阜県 1971『岐阜県史』通史編古代 | | | | | | |
| 備考 | 西美濃三十三霊場第一番札所。元本尊の大日如来は、その由緑から比叡山延暦寺再興に際して移され、その代わり山城国御菩薩池から薬師如来像が移された。旧跡東方の白山神社も横蔵寺と同時期に山麓へ移された。（谷汲村 1977） | | | | | | |

**調査所見**　旧横蔵寺跡は現横蔵寺から約 800m北東の丸山山頂付近にある。９世紀の創建以来、江戸初期に現在地に移転するまでは山上に七堂伽藍を備えていたとされ、現在も本堂跡や仁王門跡には礎石が残る。平成 30 年度に遺物分布調査及び地形観察図作成、令和元年度に地形測量を実施した（第６分冊参照）。本堂を要として谷上に扇形に多数の平坦面が形成され、丸山を挟んで西に墓域が、本堂の東に登ると白山神社がある。本堂跡より西の斜面には、下からの参道上に仁王門跡、馬場、講堂跡が、東斜面には推定塔跡と性格不明の多くの平坦面を確認し、中には石積みを伴う基壇と礎石のある平坦面がある。これら東側斜面下方の平坦面群は、本堂跡などが存在する上段からは 20m近く比高差があり、崩落・堆積土も多いが、小規模ながら多くの平坦面があり石積を伴うため、坊院など寺院関連の施設が存在していた可能性が考えられる。丸山の山頂や山腹には巨石の露岩等が存在する。

図 46　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）　地形観察図（１）

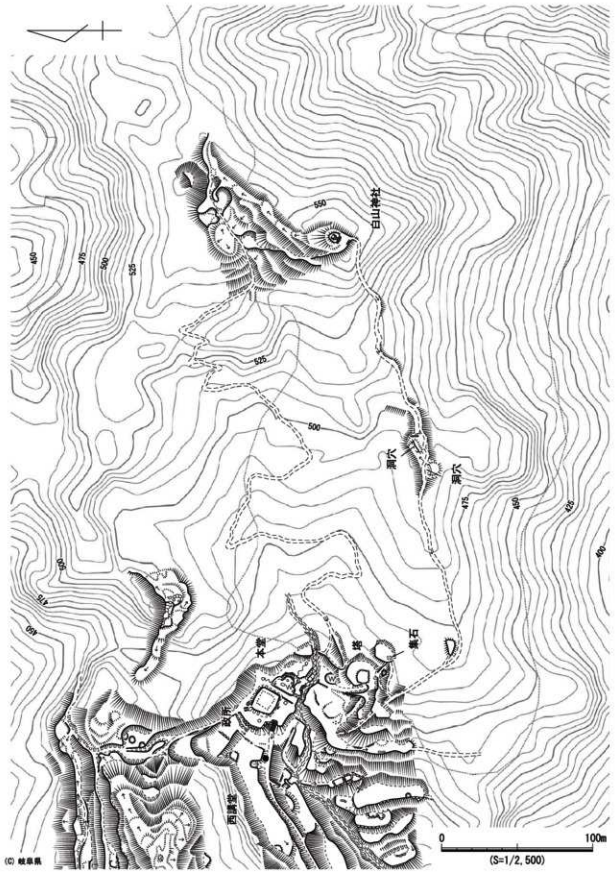



図 47　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）　地形観察図（２）

図 48　横蔵寺旧境内（旧横蔵寺跡）　地形観察図（３）

| 地区 | 西濃 | 寺院番号 | 30007 | 県遺跡番号 | — | 分布図番号 | L3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ふりがな | たにぐみさんけごんじ | | | 所在地 | 揖斐郡揖斐川町谷汲穂積字芝間 | | |
| 寺院名<br>（史跡・遺跡名） | 谷汲山華厳寺 | | | | | | |
| 時代区分 | 古代（平安）～ | | | 宗派 | 天台宗 | | |
| 立地 | 山腹～山麓 | | | 現状（植生） | 山林・境内地（アカマツ、スギ・ヒノキ） | | |
| 東西規模 | 480m | 南北規模 | 248m | 標高（比高差） | 141（51）m | 平坦面分類 | A+C1+D |
| 沿革 | 願主は、奥州会津郡黒川合富岡の住人大口大領で、京都で作らせた観音像を奥州へ持ち帰る途中、童夢により観音像を現在の地に留めたことが創建の由来。「美濃明細記」ではこの尊像が奥州への帰路を自ら歩き華厳寺南の丸山で足を止め、豊然と大領が現在の地に華厳寺を建立し尊像を移したという。観音像に華厳経が掛かれていたことが寺名由来。延喜17（917）年には勅願を受け、天慶７（944）年には勅願所となる。承久３（1221）年兵乱により寺領没収。建武元（1334）年11月新田・足利合戦の折、新田一族の堀口美濃守貞満が９年間当山の峯に立てこもり房舎焼失するが、永和年間（1375～1379）年土岐頼康が修造。文明11（1479）年２月26日に本堂が全焼、文明14（1482）年に薩摩国谷山福本慈現寺住僧の道破が本堂を建立。（谷汲村 1977、揖斐川町 1971、揖斐郡教育會 1924） | | | | | | |
| 遺構 | 石積み、池、本堂、門、 | | | | | | |
| 遺物 | 五輪塔、宝篋印塔、一石五輪塔、石仏 | | | | | | |
| 有形文化財等 | 木造十一面観世音菩薩（平安初）、木造毘沙門天立像（国指定、平安初、菩原道真作・道真筆経文三十巻胎納）、絹本著色三十三所観音像（国指定、鎌倉）、大黒（道破作）、谷汲山根元由来記（室町、定賢著、旧記５本から抜粋編集） | | | | | | |
| 参考文献 | 谷汲村 1977『谷汲村史』、揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』、揖斐川町 1971『揖斐川町史』通史編 | | | | | | |
| 備考 | 西国三十三所第三十三番札所。大口大領が当寺を建立した際、岩を穿ったところ石の中から油が湧き出し、それを汲んで常夜灯に使っていたことから山号を「谷汲」とした【美濃明細記】。明治・昭和の絵図あり。 | | | | | | |

**調査所見**　妙法ケ岳南側の谷地に境内が位置する。現本堂から 900m北西の奥之院から山門までを調査対象とした。谷地の奥に本堂等の中心施設があり山裾に向かって一直線に参道が伸びる。総門から約 1km 南に仁王門があり本堂まで石畳が続く。仁王門以北の参道両脇には一乗院、地蔵院（跡地）、法輪院、明王院の塔頭のほか、地蔵堂、十王堂、羅漢堂、英霊堂、三十三所観音堂、一切経堂などが並び、本坊の一画に大師堂、内仏客殿、庫裏が建つ。参道突き当りの石段を上ると本堂、周辺に鐘楼堂、阿弥陀堂、笈摺堂、子安堂、満願堂が建つ。奥之院は満願堂から徒歩約１時間に位置し、拝殿および岩窟（「菩原道真参籠の岩屋」）を確認した。「東光坊」という字が残り、谷幅前面に坊院が広がっていた可能性もある。標高 365m付近の尾根裾に堂一宇が建つ広さの平坦面があり奥之院と称されている。その西部から山中に続く小道は標高 415m付近の谷地形に造成された平坦面に達し、祠と拝殿が建つ。祠の裏側に約７mの自然礫が覆いかぶさるような岩窟がある。窟内は奥行き狭いが横幅は広く、湧水があり窟内には不動明王の石仏が７体祀られている。奥之院までの参道沿いには西国三十三所の観音像を奉った小規模な祠が建つ。寺での聴き取りで、一時は門前より約 350m南の丸山に堂宇があった時期もあるとのこと。

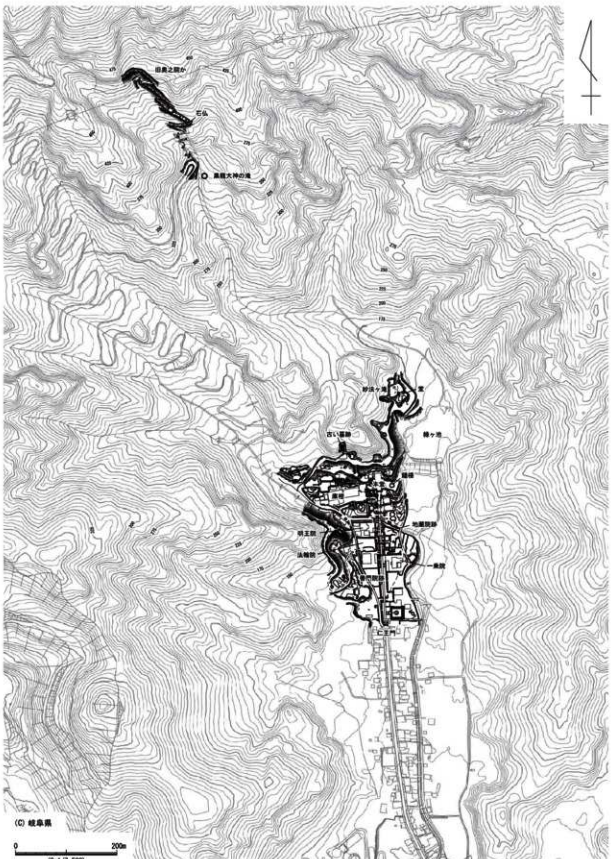



図 49　谷汲山華厳寺　地形観察図（１）

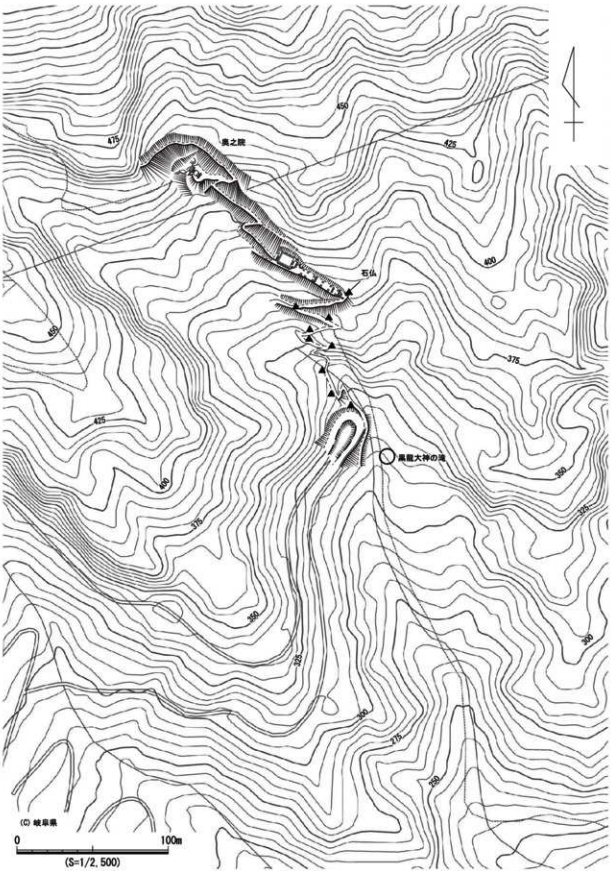



図 50　谷汲山華厳寺　地形観察図（２）

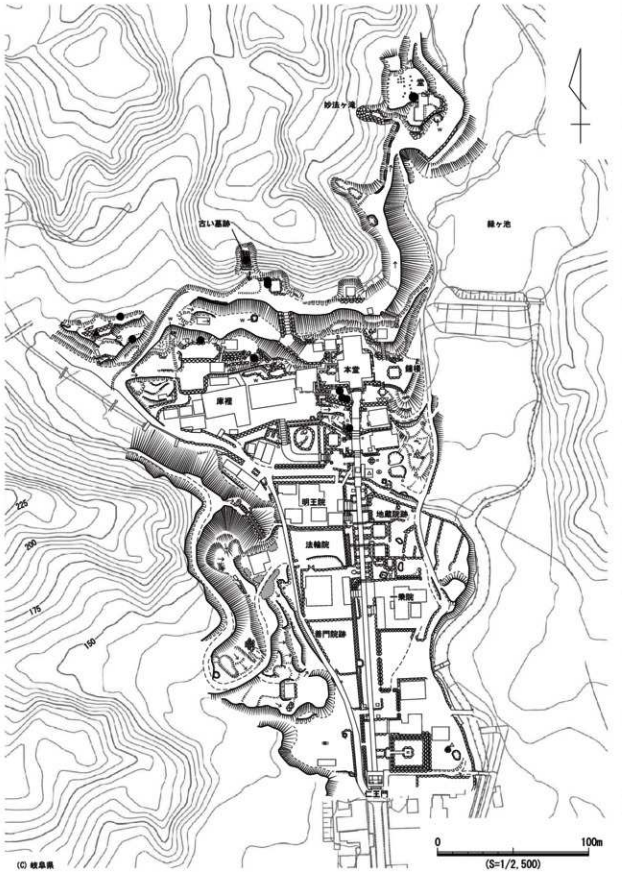



図 51　谷汲山華厳寺　地形観察図（３）